

教員養成に意を注ぎ一七七七年ハルレ大學内に教員練習所を設立せり。一七七三年法王が令を以てイエスイタ派を排斥せるときに當りても大王は同派の教育上に於ける功績を認めて之を保護せり。大學に關しては其の自由を保障し、軍人・學者・政事家等國民の中樞たるべき人士の養成に注意し、之がために特別の機關を設けたり。斯く大王の教育上の趣味は初等中等高等の各教育に互り、普魯西將來の教育は凡て大王によりて其の基礎を置かれたりといふも不可なし。

フリック、オットー

Otto Frick (1832—1891)

獨逸の教育家。マゲテアルヒの近傍シュニッツドルフに生まる。ヘルリンの文科中學校を経て、ベルリン及びハルレの大學に語學・歴史・神學・哲學等を學び、卒業の後一八五五—一八五七年の間コンスタンチノーブルに在る普魯西大使の家庭教師となる。後永く普魯西の諸所の文科中學校教師及び校長となり、一八八〇年ハルレのフランクケ學院(フランクケの條参照)長となる。於是かフランクケによりて創設せられ、一七九五年頃以來長く中絶せし、師範學校 Seminarium Paeophorum を再興し、大に中學學校教員に對する教育練習の必要を唱導し、各地の師範學校に其の範を垂れたり。一八八四年以來雜誌「アプローベン、ワント、レーアゲンゲ Lehr pro-

ban und Lehrgänge を發行して教授の方法に關する諸般の研究を公にせり。氏は教育上の學說に於てヘルバルト派に屬せり。

ブリッヂマンとケラー

Brigman, Laura and Keller, Helen

盲にして且啞なるも教育によりて一定の學術を得得せる有名なる米國の二女史。盲啞教育の條を見よ。

Kaldwin, Dictionary of Philosophy and Psychology.

プリンスリ、ジョン

John Brinsley

英國の教育著述家。生死の年月不明なり。ケブリッヂ大學、クライスト、カレッジに學び一五八八年卒業。レスターシャーのアシユビ、トドワ、ツイッシュの學校長たりしことあり。其の著「文典學校」Indus Literarius (The Grammar School) (1612) は十七世紀前半に於ける英國の文典學校の組織・設備・内容・教授法等を詳説し、特に拉丁語・英語の教授法につき創見あるものとして推せらる。外に「文典學校の慰藉」A Consolation for our Grammar School (1622) の著あり。

ブルーム、ヘンリ、ピータ

Henry Peter Brongham

(1778—1868)



パッサに生まる、牧師の子なり。生まれて九個月母を失ひ、一家婢の手に養はる。後數年

父の繼母を娶るに及び、氏は家庭の冷酷なるに堪へず、出て、チュリンゲン地方の森林を逍遙し、自ら慰めたり。十歳、スタツテルムに住せる外叔父の家に寄寓し止まる事五年、一七九七年ノイハウスに於ける一林務官の徒弟となり、餘暇を以て、數學・植物學を學び、且常に自然に親しみて、自然に對する趣味を養へり。一七九九年自然科學研究の目的を以てイェーナ大學に入りしも、學資缺乏の爲め中途にて退學し、後バムベルヒ・メクレムアルヒ等にて書記となり、一八〇五年フランクフルトに赴き建築技師たらんとせしが、同氏の模範學校長クルーネルは氏が教育的天才あるを見て説いて己が學校に教師たらしむ。是に於てか氏は漸くにして自己の天職を發見せり。曰く「余は無限の幸福を得たり。恰も魚の水を得たるが如し」と。

クルーネルの學校にてベスタロッチの教育法を知り、之を研究せんと志を抱き、一八〇

英國の有名なる教育改良家。エティンバラ大學卒業の後、一八〇五年倫敦に來り法律を學ぶ。一八一〇年始めて下院議員となり、同一六年再選せられ、同時に教育調査委員に選ばれる。爾來強き勢力と能辯とを傾け盡くして、教員特に初等教育の改良、教員養成の急務を論じ、一八一六年以後同三五年に至る期間に於て英國教育改良家の巨頭と目せらる。著書に「國民教育に對する考察」Observations upon the Education of the People (1825) あり、發行後一年ならずして、二十版を重ねたりといふ。

ブルシエンシャフト

Burschenschaft

獨逸諸大學に行はる、學生の結社。當時存在せるランドマンシャフト及びコーア等の團體が奢侈と腐敗とに傾けるに反對して起りしものにして一八一五年始めてイェーナ大學に於て之を組織し漸次他の諸大學に及びり。大學内に基督教的國民的理想を鼓吹し、學生の奢侈と腐敗を防ぐを目的とし、一八一八年には全獨逸ブルシエンシャフト Allgemeine deutschen Burschenschaft 組織するに至れり。されど其の或者は往々政治的運動をなせしを以て、政府は一八一九年之を禁止せり。爾來秘密に結社を續行し、一八四〇年代以後再び公然之を行ひ、其の内にも種々の分派を生じ、今尙盛に活動せり。

プルトアルコス

Plutarchos (469—125B)

古代に於ける著名なる歴史家・道德哲學者にして且教育家。希臘のケイロネアに生まる。幼にしてアテネに至り高等の教育を受け、後羅馬にて倫理學を講じ又ハドリアマス帝の教師となる。希臘に歸りて以來郷里ケイロネアに學校を開き子弟を教育し、傍著述に従事す。其の著英雄傳は後世に大なる影響を與へたり。哲學說にてはプラトーンを奉じ、教育上の意見は之を其の著「兒童教育論」に見ることを得。

氏は教育の目的を以て道德の完成にありとして、其の要件として天性・教授・習慣の三者を擧げ、遺傳と両親の示範とを重視せり。斯くて同じく羅馬の教育家たるクインティリアヌスが家庭教育よりも學校教育を重んぜるに反して、大に家庭教育を推奨し、之が爲には女子に高等教育を施し、能く兒子を教育し得るに至らしめざるべからずと主張せり。氏は又教育上大に哲學の價値を認め、哲學の精神に於ける猶醫學の身體に於けるが如きものなれば、なるべく早くより哲學的考察に慣れしむべしと唱へたり。

フリーベル、フリードリッヒ

Friedrich Froebel (1782—1852)

「傳記」獨逸著名の教育家にして幼稚園の創設者。チュリンゲン地方のオーベルヴァイス

年には已に十個の幼稚園を見るに至り、一八四九年氏はリーベンシュタインに保母養成所を置き、されど其の事業は政府の喜ぶ所とならず、一八五一年時の文部大臣フォン、ラウメル von Raumer は命を發して幼稚園の設立を禁止せり。爾來極力其の禁を解かんことを力めたれども、未だ效を奏するに至らずして歿せり。其の後一八六一年上の禁令は解かれ、一八七六年更に幼稚園を以て國民學校の初等の階級となすことを許されたり。

「フレイベルと先行思想」 フレイベルは其の哲學說に於てロマンチック時代の唯心論、特にシェリング及びフイヒテの影響を受けたリ。氏は其の青年時代に於て(特にベムヘルヒに於て)シェリングの著書を愛讀し、親友ミツツァンデルフ・ランゲタール及び氏の夫人は共にフイヒテの意見に従ふ所多し。又其の教育說が師ベスタロッチに負ふ所多きは固より其の所なれども、種々の點に於て師の説を變更せり。今其の一二の點を擧ぐればベスタロッチは體育上の價值と職業に對する準備との二方面よりして手工を重んじたれどもフレイベルは其の精神作用に及ぼす影響をも考へ、ベスタロッチの直觀の原理はフレイベルに至つて自己活動の原理に改められベスタロッチが家庭教育を以て教育の中心とせるに對し、フレイベルはさまで家庭教育を重ん

ぜざりしが如し。  
「教育哲學」 フレイベルの思想は已に述べたる如く、シェリング及びフイヒテに負ふ所多きも同時の哲學者中最も大なる影響を及ぼせるは氏の友人クラウゼ Krause K. G. F. (1781—1829)にして、クラウゼの大著「人道の理想」は或意味に於てフレイベルの「人類の教育」の模型とも見らるべし。思へらくは一切の事物は凡て一貫の原理によりて支配せらる。一貫の原理とは是れ即ち神にして、萬物は神より來り、神によりてのみ動かさる。自然界の事物は一本一草に至る迄一として神靈の表現にあらざるはなく、自然は死せる個々の事物の集合にあらざりて、神の生命は其の中に躍動す。故に萬有の目的は其の中に存する神性を發展せしむるにあり、人の使命は此の神性を意識的に實現するにあり。此の見地より見るときは教育は本來善良なる人性を誘導し、之を「神的統一」の意識的にして且純粹自由なる代表者たらしめ、及び此の代表者たり得る手段と方法を教ふるにあり。と言はさるべからず。

教育の第一任務は生命の内部的發展を阻害する事情を遠ざくるにあり、其第二にして且最も主要なる任務は内部よりの發展を助長するにあり。而して内部よりの發展は兒童の自己活動に表るゝものなれば、教育は此の自己活動に注意

し、自己活動の指導に力めざるべからず。神性の發展は自己活動を外にして之を求めむべからず。  
「教育の方法」 幼兒の自己活動は最も能く遊戯に現はる。「兒童の遊戯は將來一切の生活の萌芽なり。」故に幼兒の教育は遊戯(運動遊戯及び作業的遊戯)による活動を指導するにありて存す。氏が幼稚園に於て始めたる教育は實に此の原理を實際に應用せるものに外ならず。(以上幼稚園の條参照)

學校の任務は「生徒をして、物及び人の内部的生命を充分に意識せしめ、事物相互及び物と人との内部的關係を知らしめ、引いて凡ての事物の根原即ち神と自然及び人との關係を知らしむるにあり。」其の教科としては(一)宗教教授によりて神と人との關係を悟らしめ、(二)理科及び數學を授け、自然界を神的統一の發現として理解せしむるを要す。自然と人とは共に神より出づ、故に自然を知るは即ち神を知るの道なり、人の生命を見るによりて吾人は單に個人の生命の發現を見るのみならず又種族の生命の發現を見る。蓋し個人の發展と種族の發展とは相並行するものなればなり。理科の任務は個々の自然現象を切れ切れに授くるにあらずして、是等の現象を貫流する生命を見之を生命ある一大全體と觀するにあり。(三)言語を授けて、人と人との交通に資し、(四)技術(音樂圖畫手工等)に

よりて、内部的生命を表現せしむ。而して是等諸教科の最終目的は要するに入をして明瞭なる自覺に達し、自然と和し神と一致せしむるにありとす。

フレイベルの自然觀はシェリングの哲學より來り、頗る神秘的色彩を有すれども、其の自己活動の説は其の後、多くの教育家によりて次第に高潮せられ、今や教育上の一大原理として確認せらる。フレイベルはベスタロッチと共に、最も近代の意義を有する大教育家なり。

マールレンホルツビュロー夫人・幼稚園  
園・恩物・象徴主義(教育上の)

Bowen, H. C. *Freibei and Education by Self-activity*

MacVannell J. A. *Educational Theory of Herbart and Froebel*

White J. *Educational Ideas of Froebel*

大瀬甚太郎 續歐洲教育史

プロギムナジウム Progymsium

Project Method

兒童の實際生活に密接なる關係を有し、且一定の目的・計畫の下に有機的に結合せられたる

事實・問題を提供し、兒童をして之を解決せしむるを以て教授の根本原則となさんとす。教授法。プロジェクト、メソッドは近時米國の教育學者の間に喧傳せらるゝ一の新教授法にして、實用主義を以て其の根據となす。實用主義は凡て知識を以て、人をして、現象に順應せしむる道具なりと解し、教育の目的は、順應にありとなすを以て、教授の材料は自ら之を兒童の實生活と交渉を有する現象より選ばざるべからざる事とならざるを得ず。しかもこの順應は一定の作業を替むるによりて成るものなれば、兒童の生活と相交渉せる生活上の問題を捉へたるとき、兒童は最も熱心に興味を以て之を解決せんとする意志を起すべし。兒童は全自我を現象の中に投出 Project し、環境に於ける問題を解くことによりて益々自我の生活範圍を擴大す。從來の教育が兒童の要求及び兒童の實生活に何等の顧慮をなすことなく、斷片的の事實を外より強制的に授けたる弊を避くるの道はプロジェクト、メソッドの外に之を求むるを得ずとは其の主張の大意なり。故にプロジェクト、メソッドはモチエグエイションと最も密接の關係を有し、此の二者は其の實分かちて考ふるを得ざるなり。

同じくプロジェクト、メソッドを主張する人の内にも、プロジェクトとしての問題を複雑なる計畫的問題と解し、大單位のプロジェクト(道

路の設計、家居の建築、想像的旅行等の如き)を説き、問答・練習の如きをば之に従屬せしめ、單一の事實の教授とプロジェクトを區別せんとするもの(例へばマックマリー、デニス等)と、問答・練習等一切の事項を之に含め、頗る廣義に解せんとするもの(例へばプラナム)とあり。プラナムは、人と動物との差をば、動物は本能によりて境遇に順應するに止まるも、人は理智的活動により計畫的に順應す。而して此の計畫的順應は即ちプロジェクト、メソッドにして、動物のインスティンクタイプ(本能的)メソッドに對するものなりとし、此の思想よりの演繹として、下は問題より、練習を経て、上は一生涯の事業の計畫まで、凡て之を一のプロジェクトと見、學校に於けるプロジェクトを物的のもの(手工に於ける如き)と心的のもの(地理・歴史に於ける如き)に二分せり。又他方に於ては仕事・計畫の遂行といふ客觀的方面を重んずるものと、之により得らるる精神的側面を重んずるものとあり。未だ一定の見解には達せざるもの、如し。されど之をあまりに廣義に解し、且主觀的方面をあまりに重んずるときは、プロジェクト、メソッドの特色は次第に失はれ、從來の教授法と大なる差異なきに至るべし。要するに此の方法は(一)實用主義に立脚し、(二)米國の職業主義の教育の流に掉し、(三)且教授

の論理的系統を過重視する思想に反対し、(四)生徒の興味と要求を方法の中心に置く米國式の一教育法なりとす。

▶▶▶ Ramon, Project Method

McMurry, Teaching by Project

Stockton, Project Work in Education

### プロタゴラス

Protagoras (B. C. 482-411)

希臘の哲學者、デモクリトウスに就きて學び、後、アテネに於て、哲學及び修辭學を教ふ。報酬を得て教授せるは彼に始まる。彼は自らソフィスト(物知りの義)と呼び、ソフィストの祖と稱せらる。論理學・言語學・文法等に於て創見に富めり。

### プロフエツツ

「教授」の條を見よ。

### 文化(教化)

(獨) Kultur (英) Culture

● Culture は本來「耕す」といふ意義を有し、自然の中に存する素質を、一定の目的に従つて改良發展せしむる働き及び其の結果を指す。即ち Culture は人以外の自然物をば人の目的に應じて形成し、人の自然性をば人の有すべき理想に従つて純化し、人の諸性能を最も完全に理想的に發展せしめ、其の生活を完全に構成する作用及び結果(文化財)を總稱す。文化の理想は、文

化の各部分(科學的文化、道德的文化、藝術的文化、技術的文化等)が調和的に統一し、最高完全の域に達するにあり。此の意味に於て、文化は所與にあらずして課題なり、絶えず實現せんとして努力せらるべきものなり。文化の理想・本質・原理、文化發展の要素・條件及び文化の形式と其の意義を批評的に攻究する學を文化哲學といふ。

● 教育上 Culture は系統的にして且繼續的なる精神的影響に基づきて起る社會的又は個人的變化を包括し、「教育」と同義なり。此の場合には教化と稱するを當れりとす。

● 教育上 又時に人文的の修養、即ち古來の文學・美術に關する修養と同一義に用ゐらる。マツシュエ、アノルドが教化を定義して「世界に於て考へられ又は語られたる最良のもの(文學及び美術を意味す)の知識」と言へるは是に當る。

### 分化

Differentiation

環象の影響及び其の他種々の事情により有機體の性質・機能・機關等の區別の生起すること。スペンサーは世界に於ける一切の發展(有機的、精神的、社會的)は分化と結合(Interaction)との交互作用によりて成ると説けり。

### 文化科學

Kulturwissenschaften

一回限りに起る個別的、具體的事實を、文化價

値に關係せしめ、歴史的因果(過程の一回的結合)により統一する科學。ヴァンアルバント・リッケルト等は從來多くの學者が科學を其の研究の對象よりして自然科學と精神科學とに二大別せるに反対し、之を自然科學と文化科學又は歴史科學とに區分せり。所謂自然科學は、多くの具體的事實に共通なる方面を抽象し、其の一般的法則を求め、同様の事實を幾回も繰返し得るものとして考察し、之を分量的に決定するを目的となし、(一)それが一般的法則を求むものなること及び(二)事實を價值に關係せしむることなく、即ち一切の價值より離れて考察することの二重の意義に於て自然的なり。然るに文化科學は(一)具體的事實を、一回限りに生起し、繰返さざるものとして考察し、其の個性を明らかにし、(二)且之を文化價值(選擇原理としての)に關係せしめ、價值の見地より之を統一す。但し價值に關係せしむるとは固より、主觀的に、歴史的事實の評価をなすの意にあらず。又文化科學にても一般的概念を求むることあれども、それは、唯、研究上の方便たるに止まり、目的とする所にあらず。凡そ一切の事實は之を自然科學的に及び歴史的の二方面より研究するを得べく、自然の過程を發達史的に見ることを得ると共に精神過程をも自然科學的に考察することを得。自然科學と文化科學との別は故に對象の差によ

るにあらずして、研究の目的と方法の差より來る。この意味に於て心理學は一般的方法を求むる學として一の自然科學なり。されど精神に關する學は特に其本質上主として文化科學に屬すべきものとす。

### 自然科學

自由教育の異譯、其の條を見よ。

### 文雅教育

自由教育の異譯、其の條を見よ。

### 文科中學校

ギムナジウムの條を見よ。

### 文藝復興

Renaissance

第十四世紀より十六世紀に至る間、歐洲に於て古代の學問・藝術を復興せる運動を文藝復興といふ。時としては此の中第十四、五世紀に於ける伊太利の文藝復興をリゾ・ジ・メント(Risorgimento) (新に起るといふ義)と呼び、十六世紀西歐及び北歐に於ける復興のみを Renaissance と呼ぶことあり。

### 人文主義

人文主義。

### 分時計

Part-time Attendance (Half-time System)

義務教育期間にある兒童に、就學時数を半減して、工場其の他の勤務に服することを許可する制。英蘭及びウェールズに於て特に廣く行はる。英蘭及びウェールズの半就學制は一八三三

年及び一八四四年制定の工場法に起原を有し、一八七〇年の教育令によりて確立せられ、後數度の改正を経たれども、其の精神に於ては多く異なる所なし。即ち十一歳乃至十三歳の兒童にして、勞働試験(Labor examination)に合格せるもの、又は從來の出席歩合の一定度に達せるものは半日又は半週就學を免除せらる。されど半就學を許可するや否やは地方主權之を決定す。

從つてロンドン・パーミンガム・プリマス等にては半就學者なきも、北方の工業地にては其の數甚だ多く、ランカシャ・ヨークシャ等にては五分の四の多數に達せりといふ。

之を教育上より見るときは半就學者(Half-timer)は當に、學力に於て全就學の生徒に劣るものあり二者を合同するときは教授上大なる不便を來すのみならず、道德上・身體上又大に患ふべき結果を來すも、又反面には家計を補助し、半就學者の獨立心を高め、殊に十二歳乃至十三歳の兒童は手指の職業的練習を始むるに最も適すとの長所を擧ぐるものなきにあらず。されど教育の見地よりは到底良制と目すべきにあらず。

多くの方面より攻撃を加へられ、今や一種の習慣として、惰性的に行はるゝにすぎず。されば一九一三年半就學の年齢を十二歳乃至十三歳に制限するの案議會を通過し、一九一八年の法令にて之を全廢せり。

半就學制は米國にも行はるれど、それは唯僅少の市に限られ、大局より見て特に注意するに足らず。

### イングラントの教育

Division

### 分類

「分類」の條を見よ。

### 分析

(獨) Analyse

ナルレルの定めたる教授の形式的段階の一。ナルレルはヘルベルトの形式的段階の中間階段(形式的段階の條參照)を分析と綜合の二段に分かち、分析を新に提示せらるゝ教材を類化(Helbertの用ひたる意義に於て)するに必要な觀念を、兒童の已に、經驗及び交際より得たる舊觀念中より喚び起す段階、綜合を、新教材を直觀(廣義の)又はヘルベルトの所謂模寫的教授によりて提示し、類化せしむる段階とせり。後ラインは分析を豫備、綜合を提示の名に改め、此の新しき名稱は爾來廣くヘルベルト派の教授學者の間に行はる。

### 分析的教授

(英) Analytic Instruction

(獨) Analytischer Unterricht

ヘルベルトは教授の進行を分析的・總合的・模寫的の三種に區分せり。中にも、分析的教授は「一の境遇を、之を構成せる一々の事物に、事物を其の要素に、要素を其の性質に分析するもの」

にして、是に二種あり。其の一は兒童已有の經驗を吟味し、之を修正し、完成する場合に施さるるものにして、ペスタロッチが「直観練習」と名づけたるものに相似たり。蓋し、兒童が自然に取得したる知識は多くの場合秩序を缺き、不條理なるを免れず。兒童は「見るに鈍けれど、未だ能く觀察するを得ず。」従つて教授は此の混沌たる經驗を整理するを以て其の第一歩となさざるべからず。第二に分析的教授は、又一且學習せるものを練習する場合、若しくは兒童の作文を修正する場合等にも用ひらる。要するに分析的教授は兒童の已に有するものを一層有効確實ならしむるを以て其の任務となす。

**分析と総合** Analysis and Synthesis.

與へられたる事物又は概念を其の構成的要素に分かつて分析と言ひ、之に反して要素を集めて全體を成すを総合といふ。換言すれば分析は普通より特殊に進み、総合は特殊より普通に進む。グントの分類に従へば分析及び総合には左の種類あり。

**〔分析〕**

● 要素的分析 全體を單に其の部分に機械的に分かつものにして、例へば一植物を根・莖・葉・花等に分かちて觀察するが如し。多く博物學・地理學の如き記載的科學に適用せらる。

● 因果的分析 一の現象を因果の關係に基

づきて、其の要素に分かつものにして、物理學の如き説明科學に利用せらる。

● 論理的分析 複雑なる事實を、論理的關係に基づきて分析するものにして、多く數學に用ひらる。平行四邊形より、對角の相等しき事を抽出したるが如し。

**〔総合〕**

● 再生的総合 一旦分析せるものを元の姿に還元するものにして、光線を七色に分解せる後、七色を集めて白色を成すが如し。

● 構成的総合 分析の結果よりして得たる要素を集め、新なる事物を構成するものにして、凡て發見・發明は此の作用に因る。

分析及び総合は思考作用の根本的機能にして凡て推理作用は其の單純なるを複雑なるを問はず、將た歸納法たるを演繹法たるに論なく、此の兩者の助けによらざるはなし。されど此の兩者は本來或目的を達する爲に用ひらるゝ方便にして、兩者共の物を以て目的と考ふべからず。従つて研究當面の目的を達するに必要な限りに於て、分析及び総合を施し、又此の目的に照らし、之に應じ得るが如き、即ち必要の分析・綜合ならざるべからず。妄りに分析の爲に分析をなし、遊戲的に綜合するが如き事なからんを要す。

次に分析及び総合とは相對應せる作用にして

**分團式編制法** Group system.

「學級編制及進級」の條を見よ。

**憤怒** Anger.

情緒の一種。恐怖と密接に關係し、恐怖より防禦に、防禦は容易に憤怒に轉ず。されど憤怒は攻撃的態度を取るに於て、恐怖の退嬰的なるに異なり、其の身體的表出の特徴は、目及び口邊の筋肉に著しく、顔面紅潮を呈し、四肢の激動を起すに至る。

文法教授 The Teaching of Grammar.

〔沿革〕 小學校に於ける文法教授の必要はラトケ・コメニウス等已に之を認めたるも未だ實行するに至らざりしが、フェルヒゲル及びロヒョウ等始めて之を教授し、獨逸語を正しく語り且書かしむるを以て其の目的と定めたり。されど其の方法に至りては、先づ文法上の法則を授け、次に之を例證するに過ぎざりき。下つて十八世紀の前半に入るやベツケル・ツルスト出で、思考の法則と文法の法則を同一視し、言語の教授によりて、同時に思考の法則を知らしむべしと唱へ、言語の論理的關係を重んじたりき。されど如此はあまりに形式的なるのみならず、又兒童に取りてはあまりに困難なる課業たりしかば忽ちにして、反動を喚起し、ヤコブ・グリンの如きは言語は凡て、無意識の間に自然に取得せしむべく、文法の教授は無用なるのみならず却つて有害なりと唱へ、此の説一時大に勢力を得たり。次いでケルネル及びフリードリッヒ・オットー Friedrich Otto (1806—1876)等は凡て

國語教授は讀本中の模範文を以て其の中核となすべく、従つて文法教授亦模範文に附帶して授くべしと説き、文法を以て獨立の教科とせず、單に附帶的に授くべしとの意見を提出せり。然るにチルレル派はケルネルと等しく附帶教授を主張しながら、之を緩方の訂正に附帶して授くべしとなし、凡て「文法は實際上の必要に應

じ、此の必要を充たす範圍に限らるべし」と説けり。斯くて現時に於ては附帶教授の説を取るもの甚だ多きも、又特別の教科として之を系統的に授けんとするものなきにあらず。

〔目的及び教材の配列〕 文法教授は兒童をして、標準語を正しく語り、正しく綴らしむる爲に必要な言語上の法則を授くるを以て目的となす。故に小學校に於ける文法は必ずしも系統的なるを要せず、實際上の必要に應じて授くべく、附帶教授を以て本體となすべし。但所謂附帶教授はチルレル派の唱ふる如く緩方にのみ附帶するにあらずして、話を始め、讀方にも附帶し、始めは兒童の實際的誤謬を訂正する消極的方面に止め、漸次積極的に其の理法を知らしめ、言語の正確なる理會に導くべし。されど高學年にありては斯く附帶的に教授せるものを、稍系統的に纏め、從來の教授を總括するの必要あり。而して此の場合に於ける教材排列の方法に次ぎの三種あり。

- (一) 總合的教程 先づ個々の語に關する品詞論より始めて、次第に文章論に及ぶもの。
- (二) 分解的教程 (一)と反對に文章論より始め、之を分析して次第に個々の品詞に及ぶもの。
- (三) 圓周的教程 大體に於て分解的教程を取りながら、次第に教材の範圍を擴張しつゝ反復

するもの。

此の中(一)は論理的、(二)は心理的自然なれども、共に一方に偏するときは教授は形式的器械的となるの患あるを以て、現今(三)によるもの最も多し。

〔教授の方法〕 教授の方法には、先づ法則を授け、次に其の應用に及ぶ演繹的方法と、實例より入りて法則に及ぶ歸納的方法とあり。附帶教授を主眼とする立場にありては固より歸納的方法によるを本體とす。但總括的系統的に授くる場合に於て演繹的方法を併せ用ふるあるのみ。

**フンボルト兄弟**

兄、カール、ゲイルヘルム、フオン。  
 Karl Wilhelm von Humboldt (1767—1835)  
 弟、フリードリッヒ、ハインリッヒ、アレクサンデル、フオン。  
 Friedrich Heinrich Alexander von H. (1769—1859)

フンボルト兄弟として著はる。兄、フンボルトは獨逸有数の言語學者・文藝批評家にして且政治家なり。フランクフルト、アム、オーデル、グツテンゲン、イエーナの諸大學に學び、一七九〇年柏林高等法院判事補となり。翌年之を辭し、越えて一八〇八年—一八一〇年普魯西の宗教教育局大臣となる。氏が教育の職にありしは

僅に十八個月に過ぎざれども、其の間に伯林大學の創設を始め、教育上幾多の事業を成せり。即ち大學にては大學の自由を主張し、中等教育にありては新人文主義を擴め、及び中等教員の試験法を定め、初等教育にありては青年教師をイフェルテンに派して、ベスタロツチの方法を學ばしめ、よりて以てメスタロツチの教育主義を移入し、又自ら圖書及び音楽の教授に興味を有したりき。氏は又言語學者として第一流に位置せり。

弟フンボルトは自然科學者・旅行家として其の名高く、南米を旅行してオリノコ河の流域を探りて旅行記を出せり。又自然研究の結果を集成して、「宇宙」Kosmos (1845—46) なる大著述を公にし、教育上實科的學風の發達に貢獻する所大なり。

分類

Classification

〔分類と分釋〕 分類と分釋とは、時に同義に用ひらるゝ事あれども、之を區別するときは、分釋は類概念を一定の原理に従つて種概念に分かつをいひ、分類は分釋を加へて、外延に於ける完全なる系統を組織するをいふ。

〔分釋〕 或類概念を種概念(分釋肢)に分釋するには、一定の屬性を以て其の標準となさざるべからず。之を分釋原理 Fundamentum divisionis とす。されば同一の類概念も分釋原理

の異なるに従ひ、種々に分釋せらる。例へば人なる同一概念も皮膚の色によりて分かれて、黄色人種・白色人種等となり、文明の度によりて分かれて、開明人種・半開人種等となるが如し。分釋は其の分釋肢の數に應じ、之を二分釋 Dichotomy・三分釋 Trichotomy・多分釋 Polyotomy 等に區分す。二分釋とは、分釋肢が互に矛盾的關係を有するものにして、例へば三角形を直角三角形・非直角三角形となし、非直角三角形を更に銳角三角形と非銳角三角形とに分つが如し。これは排中律に基づく最も嚴密なる方法なれども、其の一分釋肢が消極的にして、實用に適せざるの缺點を有す。反之三分釋以上の分類にありては、各分釋肢共に積極的なるの長所を有すれども、動もすれば外延の一部を遺却し、又は交錯分類に陥るの缺點を有す。

〔自然分類と人為分類〕 分類は又分類原理が内部の本質的の屬性なるか、又は外部的偶然的の屬性なるかにより、之を自然分類 Natural Classification と人為分類 Artificial Classification とに區分す。凡ての植物を、雄蕊と雌蕊との數・位置等によりて分類せるリンネの植物分類法の如きは、人為的分類の最も代表的なるものにして、實用上の便宜少からざれども、科學としての價値に乏し。故になるべく自然的分類によるを可とす。是れ植物學に於て、リンネの分類法に代ふるに、エンゲ

レル氏等の自然分類法を以てするに至れる所以なりとす。

〔分類の法則〕 分類をなすに當り守るべき法則は左の如し。

(イ) 一度選ばれたる分釋原理は、一の分釋の終る迄は保持せらるべし。例へば人を區分するに、皮膚の色、文明の狀態の二原理を混用して、黄色人種・白色人種・開明人種の如く分かつは、此の規則を犯すものにして、名づけて交錯分釋(十字分釋) Cross division といふ。

(ロ) 分釋肢、即ち分釋せられなる種概念は、互に相拒斥せざる可からず。三角形を分釋して、等邊三角形・等角三角形・二角邊三角形等となすが如きは、此の規則を犯すものなり。第一の規則を犯すものは、必然に此の第二則に抵觸す。

(ハ) 分釋したる種概念を合すれば、元の類概念と其の外延を等しくすべし。

(ニ) 分釋は漸進的なるべし。換言すれば、順次に其の類の直下に來るべき種を擧ぐべし。

ヘーゲル

ヘーゲル、ゲオルグ、ヴィルヘルム、フリードリッヒ

Georg Wilhelm Friedrich Hegel (1770—1831)



獨逸著名の哲學者。シュツットガルトに生まる。チュービンゲン大學に神學を修め、一七九〇年哲學博士の學位を受く。一七九三年以後七年間瑞西及びフランクフルトにて家庭教師たり。一八〇一年イェーナ大學講師となり、後員外教授に上りしも、イェーナ戰爭の爲講義を中止し、後ペンブルヒにて新聞記者となり、尋て一八〇八年ニュルンベルヒの哲學の教授兼中學校長となり、在職八年。一八一六年ハイデルベル

列拉病にて歿する迄其の職を奉ぜり。ヘーゲルは精神の本質を以て自由でありとし、萬有の發展を宇宙の原理たる理性が漸次により大なる自由に至る過程と見、しかも此の過程は正・反・合の三段の順序を反復するに成るとして、彼の有名なる辨證法を立てたり。此の見地に立つときは、教育の目的亦人をして自由ならしむる外に之を求むるを得ず。而して自由は精神が感覺・衝動等の自然生活に打勝ち、理性と合致するときに獲らる。換言すれば道徳的の人のみ眞に自由にして、しかも自由は精神の本質なれば、道徳的向上は自ら教育の第一任務に掲げられざるべからず。

教育の初期に於ては兒童は父母・教師等外部の權威によりて律せられ、外部よりの要求に服従するに止まれども稍長するに及び徐々に兒童の内部的勢力は覺醒し、自覺の曙光に覺む。こは中等教育の時代にして、此の時代に於ては主として古語と歴史とを學び、言はゞ自己を忘れ自己を離脱して Selbst-Entfremdung 古代(希臘・羅馬)の精神の中に沈潜し、其の精神を理解し、然る後再び自己に歸つて茲に眞正の自由と自覺を獲得す。古語の研究は實にヘーゲルの最も重きを置ける所にして、知識の陶冶も品性の向上も之によりて得らるべく、人は想像によりて古語といふ異郷に旅行し、此の旅行に於ける見聞

より自己といふ本國に歸るによりて始めて狭き自己を離れて客觀を一致し自由の域に達するを得。訓練に於ては、嚴格なる訓練法を取り、學校の空氣を道徳的ならしめ、且哲學と宗教により道徳的教授と施すべしとなせり。

ヘーゲル派の教育學者として最も有名なるはローゼンクランツなり。フリーベルの教育思想亦氏に負ふ所尠からず。

Mackenzie M. Hegel's Educational Theory and Practice

Thunlow G. Hegel's Ansichten über Erziehung und Unterricht

ベーコン、フランシス

Francis Bacon (1561—1626)

〔傳記〕 英國有名の哲學者・政事家にして且文學者。ロンドンに生まれ、十二歳にしてトリニティー、カレッジに入學し、居る事三年、當時已にアリストテレスの哲學に對して不滿を抱きたりといふ。尋て佛國に赴き法律を學び、一五八二年辯護士となり、同八十四年選ばれて下院議員となり、一六一四年迄常に議席を占めたり。一五百九〇年以來女王顧問官、檢事副總長・檢事總長・軍醫大臣・高等法院院長等の榮職に歴任し、ヴェイロラム男爵に叙せられ、尋てセント、ア



ルパンス子爵に昇叙せられしも、偶下院より收賄の彈劾を受け、其が事實たりしを故を以て、官を剥がる。在官時代よりして學術の研究に専心し、學問の進歩 Advancement of Learning (1605) 新機關 Novum Organum (1620) 等の大著ありしが、退官後六年間死に至る迄専ら文筆に従事せり。

〔歸納法〕 ベーコンの人文史上に於ける位置は、アリストテレスの「機關」Organum に對して、「新機關」を著し、従来の演繹法を排し、歸納法を確立し、學問研究法に一新生面を開きたるの點にありとす。思へらく、凡そ學問の研究法には、(一)先づ最も一般的なる公理より、推理の法則に従つて、次第に特殊的、間接的な公理(ベーコンは「公理」原則)の二語を全く同一の意義に用ひたり)に下るものと、(二)特

殊的なる個々の感覺的事實より、次第に一般的なるもの上り、終に最も一般的なる公理に達するものとの二方法あり。前者は演繹法にして、書齋に於ける思索に成れども、後者は大自然を觀察して、其の中に存する新事實・新法則を發見するの道なり。アリストテレス以來の演繹法に没頭するは、例へば「僧庵に閉ぢ込められたる尼僧の如し、妊まざるは固より其の所なり」。吾人は須らく心眼を大自然に一轉し、古語及び古學の桎梏を脱し、新法則の發見によりて人生の福祉を増進せざるべからず。

大自然を研究するには、其の條件として一切の偏見豫想を去り、一切の傳統的思辨を棄て、虚心に之を觀察することを要す。自然は從順によりてのみ認識せらる。而して、此の種の偏見豫想、即ちベーコンの所謂偶像 *Idola* Idol に四種あり。

一、種族偶像(俗像) *Idola tribus* 人類に固有なる偏見。例へば人類の行動が常に一定の目的に支配せらるゝよりして、自然界の現象亦何等かの目的を追うて生起する如く臆測するが如きはなり。  
二、洞窟偶像(洞像) *Idola Specus* 各個人固有の性癖に基づく偏見なり。洞窟に座して、自己の小天地を以て天地となし、他を顧みざるに比すべければ、此の名あり。

三、市場偶像(談像) *Idola Fori* 人々の交際によりて起るものにして、其の最も重要なものは思想交換の具に過ぎざる言語を實物・實際と混同する傾向なり。  
四、劇場偶像(傳像) *Idola theatri* 古來の傳説を何等の吟味を加ふることもなく、さながらに信奉すること、例へば演劇が脚本を其の儘に演ずるが如きを言ふ。

偶像の破壊は眞理研究の破邪的消極的方面にして、其の積極的方面は即ち歸納法なり。歸納法に於ては、先づ研究の對象たるべき現象の存する多くの事實を集めて、是等の事實に共通なる要素を求め、第二に是の現象の存せざる事實を集め(消極的事實の蒐集はベーコンの特に注意を拂ひし所なり)。第三、是の現象の種々の程度に表はるゝ事實を集めて、現象間に存する比例を求む。以上三種の方法相持つて、次第に共通の要素即ち原則に達すること、例へば法廷に於て原被兩造の口述を比較し、誤りなき判決を下すに至るが如し。斯くて發見し得たる原則は之を人生に應用し、實用の手段に供す。自然に從順なるは自然界の法則を知る所以にして、自然界の法則を知るは因りて以て自然を征服し、人生に利用せんが爲なり。此の意味に於て「知識は力なり」

ベーコンは歸納法の創唱者にあらず、凡そ經

驗的學風は文藝復興期以來の一大風潮にして、此の方法を學術に應用せるものには彼の前にコペルニクス・ダ・ビンチ等あり、彼と同時にガリレオ・ケプレル・ホイール等あり。又其の大成者にもあらず、歸納法の大成は其の後ヤコン、ステュアート、ミルの如き學者の手を待たざるを得ざりき。されど氏が從來斷片的、偶然的に行はれたるものを、方法的に整齊し之を學術的のものとなし、學術の研究に一轉機を劃せるの效は頗る大なるものあり。唯彼が自然研究上最も必要なる數學の價值を認めざりしは、同時代の自然科學者に對し、一籌を輸する所なりとす。

〔教育說〕 ベーコンは教育に關しては唯斷片的の意見を述べたるに止まれども、其の歸納的研究法は後の教育界に大なる影響を及ぼし、コメニウス一度起つて氏の意見を教育に應用するや、所謂感覺的實主義なる教育上の一大傾向を生じ、教授の方法を根本的に刷新せり。尙氏が教育的意見の「二斷片」を左に録すべし。

「教授の進行は簡約、過急に失すべからず」  
「練習には(一)易より難に進むものと、(二)難より易に進むものとの二方法あり。前者は浮囊を抱いて游泳を始むるが如く、後者は重き靴を穿ちて舞踏を學ぶが如し。」  
「精神の偏向は教科の適當なる選擇によりて、或度迄之を矯正する事を得、例へば不注意な

る兒童の矯正に數學の有效なるが如し。」

ベーコンは亦他面に於てイェスイタ派の教育法を稱揚し、之を推舉せるが、こは氏の學說上の立脚地とは兩立し難き所なりとす。

### ベーコンの方法

*Baconian Method*

「ベーコン」の條を見よ。

### ペーシ、デーヴィッド、パーキンス

*David Perkins Page (1810-1848)*

米國の教育家。ニューハンブシャーのユピングに生まる。ハンプトン、アカデミーに學びたる後、十九歳にして、マサチューセッツ州ニューベリーに教師となる。一八三八年「兩親及び教師の義務」と題する演説によりて、ホーレスマンに知られ、爾來マンの組織せる種々の教育會に活動せり。一八四四年オールバニー師範學校の紐育に設けらるゝや、マン及びバーナードの熱心なる推薦により其の校長に選ばれる。然るにペーシの任命に慍らざる人々は種々の事實を捏造して攻撃せらざる所なく學校をすら閉鎖せんとすること屢なりき。幸にペーシの熱心なる主張は次第に認められ、師範教育の使命の一般に理解せられんとする氣運に向ひしが、此の奮闘の爲に彼は痛く健康を損じ、僅に三十八歳にて夭折せり。著書としては上の「兩親及び教師の義務」なる演説筆記の外に「教育の理論と實際」

*Theory and Practice of Teaching (1847)* (邦譯「ベーシ教授論」)一冊のみなれども、稀有の歡迎を受け、一八八九年版權喪失迄に已に十萬部を賣り盡し、其の後更に三種の續刊を出せり。米國にて斯く多數の讀者を得たる教育書は他に其の例を見ずと言ふ。

### ベース、ボール

*Baseball*

米國の國技にして下は小學より上は大學に至る迄最も盛に行はるゝ遊戯なり。米國に於けるベースボールは一八四〇年頃フィラデルフィア及び紐育にて創められ、對校競技は一八五九年マサチューセッツ州ピットフィールドに行はれたるものを嚆矢となす。

近時狹隘なる學校運動場に於て行はんが爲にベースボールを多少變化せるプレー、グラウンドボール *Playground Ball* なるもの諸方に擴まれり。こは普通の球の代りに、稍大にして軟かなる球と、小なるバットを用ひ、ベース、ラインを短かくせるものにして、特に女子の競技に利用せらる。

### ペーダゴギウム

*Pedagogium*

特に上流の子弟の爲に設けられたる、寄宿舎制の學校。宗教改革時代に於て已に大學にペーダゴギウムを附設し、青年學生に高等教育の準備を與ふるの方法行はれたりしが(例へばヴィイツテンベルヒ・マールブルヒ等に於ける如く)

ペーダゴギラム中特に著名なるはフランケがハルレに設けしものにして、こは一九九五年の創立にして、一八七三年迄繼續し、現今にては文科中學校及び實科中學校學生の寄宿舎に用ひらる。其の後フランケに倣ひマケテアルヒ(一七二一年)チーリカウ(一七六六年)、を始めペーダゴギウムを設くるもの多し。

ペイトン、ジョン、ブラウン

John Brown Paton (1830-1911)

英國の教育家。エーヤシャーのゴーストンに生まる。倫敦大學卒業後シェフィールドのウイツカー寺院の牧師となり、一八六三年ノッチンガムの修道院長に任ぜらる。教會の社會に及ぼす影響の極めて大なるものあるを信じ、學會の力を借りて社會の害惡を救はんと決心し、終世此の決心の實行に努めたり。或はウェームズ、ステアート、Stewartと共に大學擴張運動に盡し、或は十三歳乃至十七歳の青年に對する夜學校を起し、或は家庭讀書會を創めて、讀書の指導をなし、或は低能兒の教育に注意し、諸般の社會教育に心を用ひ貢獻する所大なりき。

ペーン、アレクサンダー

Alexander Bain (1818-1893)

蘇格蘭の哲學者。一八六〇年以來二十年間アマディーン大學論理學の教授たり。多くの著書中「感官と知力」(Senses and Intellect (1875))

「感情と意志」The Emotions and the Will (1859)「論理學」Logic, Deductive and Inductive (1870)等廣く行はる。別に教育に關する著述として「科學としての教育」Education as a Science (1874)あり。

氏の教育說中特に注意すべきは(一)體智を教育なる概念の中に含ましめず、(二)職業的教育を教育なる科學の範圍以外にありとし、(三)兒童の記憶を強むるを以て教育の最大任務なりとせる三點にありとす。其の心理學は聯想派(聯想の條參照)に屬す。

ペーン、ウイリアム、ハロルド

William Harold Payne (1836-1907)

米國の教育家。紐州州フアミントンに生まる。一八五八年以後ミシガン州の各種の學校に奉職し、一八六九年同州エードリアン市の視學官となり、教員養成に關し、特に力を注ぐ。一八七九年ミシガン大學の新設教育學講座を擔當し、一八八八年より一九〇一年に至る迄ナッシュウイール大學總長たりしが後再びミシガン大學教育學教授に轉ず。特に佛國の教育思潮に興味を有し。コンベレーの二三の著書を英譯し、又ルソーのエミールをも英譯出版せり。

ペーン、ジョセフ

Joseph Payne (1808-1876)

英國知名の教育家。ペリー、セント、エドマントに生まる。學校教育としては、十四歳の頃僅に之を受けしのみなるも、學に志すこと深く、職業の傍ら英文學の研究に熱中せり。一八二八年、偶々ジャコトの著書を見、大に感ずる所あり、直にジャコトの教育法に關する一書を公にす、此の書デーヴィッド、フレッチャー David Fletcher 夫人の認むる所となり、其の家庭教師に聘せらる。其の後或は私立學校を起し、或は種々の教育的會合を組織し、専心教育に心を用ひしが、一八七二年、倫敦中等教員養成所 College of Preceptors に始めて教育學講座を置くや、其の教授に任ぜらる。是を英國に於ける最初の教育學講座とす。一八七四年北獨逸に旅行して、其の教育法を研究す。ペーンは教育の外、又言語學に深く、言語學會の會長たりしことあり。教育につきてはペスタロッチ、フレレーベル、ジャコト等の思想に共鳴し、殊にジャコトの説を英國に移入せる第一人者なりき。

平衡感覺

Static Sensation

身體の位置に關して起る感覺、位置の如何が視覺及び觸覺より起ることは言ふ迄もなければ、内耳の三半規管及び前庭も亦之に(特に頭部の位置)に關して重要な機關なり。眩暈の感覺が内耳によりて生起せらるゝは今日に於て之を疑ふ者なし。内耳は斯く位置の感覺を司ど

る重要な機關なれども、それが如何にして位置の感覺に關するかの説明法に至りては未だ一定の結論に達せず。

平行説

Parallelism

心理學上、凡て精神過程は同時に神經活動の過程を伴ひ、一のある所必ず他は共存すとなす説。多數の心理學者の承認する所にして、神經過程を以て精神の原因となし、又は精神過程を生理過程の原因と見る説に反對し、又斯く見ることの困難を免れんが爲に起りしものなり。

平行説を更に發生學的に擴張し、動物及び人間の發達の各段階に於て(即ち現在の段階にあるものに止まらず)神經過程と精神過程とは常に相伴ふと見るものあり。特に之を系統發生的的平行説 Phylogenetic parallelism とす。

以上心理學上の平行説即ち精神物理的平行説又は心身平行説の外、別に哲學上の普遍的平行説 Universal parallelism 又は物心平行説と稱するものあり。こは系統發生的平行説を更に擴張せるものにして、凡て物質過程の裏には必ず精神過程あり、二者の序列は全然相並行すとなすものにして、スピノーザが神の有する無限の性質中、吾人の認め得るは、物と心との二者にして、しかも此の二者共に神の顯現なるが故に一の一定の序列の裏には必ず他の一定の序列ありて平行すとなせるは其の好個の代表なり。

ヘグウス、アレクサンデル

Alexander Hegius (1439-1498)

北歐の人文學者。ヴェストフアレスに生まる。ゲツツホル・エムメルリツヒ等に於て教師たりし後一四六五年テヴエンテルに到り、聖レフインの寺院に附屬せる一學校長となり大に名聲を擧ぐ。年四十歳にして始めてアグリコラに(きて希臘語を學び、遂に「吾人は一切を希臘に負ふ」と迄呼稱するに至れり。

辟雍

支那周時代の天子の學校。大射の禮を行ふ所なり。辟は明、雍は和にして明達諧和の義に取る。雍或は離に作る。一説に辟は壁なり、離は澤なり、水、學校の周圍をめぐるが故に名づく。禮記に「大學在郊、天子曰辟雍、諸侯曰頡頏」と。後世の學制に於ける國子監に當る。

ペスタロッチ、ヨハン、ハイナリツ

Johann Heinrich Pestalozzi (1746-1827)

「傳記」世界最大教育家の一人、瑞西のチューリッヒに生まる。父は同市の醫師にして母は奧國一將軍の姪なり。六歳にして母を失ひ、母と忠實なる一家婢バベリ Babeli の手に教育せらる。小學校、拉丁學校を経て、チューリッヒの公立カレッジに學べり。されど何れの學校に



でも優秀なる成績を擧げ得ざりき。カレッジにて特にホードメル Bodmer 教授

の感化を受け、同教授の組織せる一團體に加入せり。同團體はもと農民の保護を目的となせるものにして共和的思想を帯びたるがため、政府の忌む所となり氏も亦一時逮捕せられしが、やがて放免せられたり。幼より屢近郊に牧師たりし祖父を訪ひ、敬虔博愛なる祖父の感化を受け、同時に又其の地の貧民に對し、同情を寄せ、其の結果牧師たらんとして神學を學びしが間もなく之を廢し、次いで、ルソーのエミールに刺激せられ、國家に盡くす目的を以て法律を學びしも、過度の勉強と親友の死に遇へる悲みの餘、健康を損し醫師の勸告により、修學の念を絶ち、悉く書を燒きて、一七六七年農夫としての單純なる生活に入り、一商人の補助によりピル村の近傍に土地を購ひ、之をノイホーフ Neuhof と名づく。越えて一七六九年新夫人アンナ、シュルテス Anna

Stuhling を迎ふ。

ノイホーフに於ける七年間の農業生活に、彼が全く事業家の材にあらざるを裏切り、同時に又彼が教育者として天才なるを現示せり。ノイホーフに於て、長男ヤコブリ Jacobli の生まるるや、彼は直に其の教育に大なる注意を拂ひ、ヤコブリに對する觀察・實驗及び實地教育は、實に兒童研究・實驗教育學等の先驅とも言ふべく、同時にヤコブリの三歳半に達するときより始めたる教育日誌は已に之を後に發展すべき彼の教育説の縮圖とも見るを得べし。一七七四年農業より轉じて紡績業を始めしが、此の事業の爲に近傍貧民の子女を雇ひ、之にパンを與ふると共に又之を教育せんと志し、一七七五年五十人の子女の爲に貧民學校を開けり。被雇者の教育は師主の責任なりとは彼の平生の主張なりき。されど紡績業亦失敗し、財政窮乏の極に達せしが偶、イゼリンに會し、同氏の助言により、貧民學校の爲に廣く資を募らんと決心し、一七七六年之をイゼリンの雜誌に廣告せり。斯くて得たる資金により、男兒は出で、野に耕し、女兒は紡績・裁縫に従事し、傍ら讀書・算術・書方及び宗教教育を受く。ベスタロッチは出資者に對し、其の教育報告をイゼリンの雜誌に載せしが、之によれば一七七八年に於て、貧民學校は十七人の男兒と、二十人の女兒を收容したりき。されど

財政の窮乏日に迫り一七八〇年に至るや、到底收拾すべからざるの窮地に陥り、やむを得ず、學校を閉鎖せり。

今やベスタロッチを救ふものは一管の筆のみ。イゼリン及びフェスリ Fessli の勤めにょり、著者として立てる彼は先づ一七八〇年「隱者の夕隱」 Abendkünde eines Einsiedlers を出し、翌八十一年有名なる教育小説「リオンハルト及びゲルトルト」 Lionhard und Gertrud 第一巻を出せり。こは下層人民の爲に書かれたるものにして、ゲルトルトを主人公となし、教育の源泉は家庭にあり、家庭教育・學校教育及び共和的政府の組織により、社會の改良なさんとの氏の教育思想を潤色せるものにして、頗る世の注意を引き、相次いで第二巻(一七八二年)、第三巻(一七八五年)、第四巻(一七八七年)、第五巻(一八二六年)を出せり。一七八二年には「クリストフとエルク」 Christoph und Elke を出し、又フイヒテの、暗示に基づき、其の教育説の科學的基礎を明らかにせんが爲に、三年の力作の後一七九七年「人間種族發展の自然の道に關する考察」 Nachforschung über den Gang der Natur in der Entwicklung des Menschengeschlechts を公にせり。頗る難解のものなれども、ベスタロッチの研究には缺くべからざる。重要な文獻なり。

一七九八年瑞西は佛軍の侵入する所となり、從來の制度を破壊し、共和政府を立つるに當り、招かれて、當時兵禍の最も甚しきスマンツスマンの孤兒教育を托せらる。乃ち一寺院を借り、八十の孤兒を收容し、毎日午前六時より十時、午後四時より八時に至る間學科の教授をなし、其の他は種々の作業に従事せしめ、以て教授と作業とを結合し、又ベル・ランカスター等が英國にて主張せる助教法の如きものを始め、多く齊唱をなさしめ、直觀教授を重んじ、書籍は一切之を使用せしめざりき。孤兒の多くは諸種の惡習及び傳染的疾患を有し、政府に反對の人士は氏を政府の間諜と誤解し、加ふるに校舎としての設備極めて不完全なる等困難言語に絶せしも、其の至純なる愛と犠牲的精神とは、一切を醇化し、開校僅かに半歳(一七九九年一月四日より同年七月の始に至る)にして世の驚嘆に價する成功を見たり。然るに佛兵再び來つて、校舎を陸軍病院に收容するに及び、止むなく校舎を閉ぢ、ベスタロッチは其の著しく害はれたる健康を恢復せんが爲に一時山間に靜養せり。スマンツの教育狀況は氏がゲスネルに宛てたる書簡にて之を知ることを得。

數週の後ブルアドルフ Burgdorf の一學校の補助教師となり、教育の實驗的研究をなさんとしけるが、校長及び父兄の反對に遇ひ、同地の

幼兒學校(五歳より八歳の幼兒を收容す)に移さる。やがて、ブルアドルフ城内教員養成所長にして嘗てベルン大學哲學及び教育學教授たり、且ザルツマンの弟子たりしフイツェル Fischer に會し、又フイツェルの紹介により、クワイエジと相識る。一八〇〇年フイツェルの歿するや、教員養成所はベスタロッチとクワイエジとの管理に移され、同時に又市民學校・孤兒院等をも開けり、次いでブツス Buss とブネル Boner、ニーデル等の來り會するあり、ベスタロッチを中心とする是等諸教育家の努力によりブルアドルフは一時教育的實驗の中心となり、各地より來り學ぶもの甚だ多し。一八〇一年ブルアドルフの經驗を基礎として「ゲルトルト幼子教育法」 Wie Gertrud ihre Kinder lehrt. を公にする。こは教育の原理及び方法を、凡ての母が理解し實行し得る程度に記載せんと試みたるものにして、ベスタロッチの教育法を理解するに最も適當なる書にして、教育史上時代を劃するに足るべき大著なり。次「母の書」 Buch der Mutter (1803)「直觀のさるは」 ABC der Anschauung (1803)「數關係の直觀教授」 Anschauungslehre der Zahlverhältnisse (1803) を出せり。ベスタロッチの著書中最も價值あるものは多くブルアドルフ時代に於て成れりとも言ふを得べし。

新政體となし、ミュンヘンブクゼー München-Buchsee の僧庵を貸與せしかば、七人の教師及び六十餘の兒童を伴ひて移住せり。同地はフェレンベルヒの學舎に近く、暫くフェレンベルヒと共同し、フェレンベルヒは新學校の財政及び管理をなし、ベスタロッチは校主として教育の實務に當れるが、二人の性格の相違は遂に救ひ難き不和を將來せり。偶、イフェルテン Herren (イヅヘンダッ Yerdun) 市より招かれたるを機としてクワイエジ・ニーデル等と共に一八〇五年同地に至り、二十年間滞在せり。當時教育家としての氏の技倆は圓熟の極に達し、諸國の貴族・學者・教育家の學校を參觀し、又は其の教授法を學ばんとするもの跡を絶たず、新教育の聲全歐洲を動かせり。されど多數の參觀人は職員を忙殺し、各國より集まれる生徒の國語の不統一は著しく教授を困難ならしめ、且氏自ら統御の才に缺けたるが爲職員の不和を調致し一八一〇年頃より校運次第に衰ふ。一八一五年ベスタロッチ夫人逝くや職員特にシュニットと他の教師との軋轢は其の極に達し復た收拾すべからず。ベスタロッチは此の間にありて尙一八一八年クリンダイ Kindy に貧民學校を起しスマンツ・ブルアドルフに於ける當時の熱情を以て之を教育し、忽ちにして全歐洲の耳目を聳てたり。シュニットの勳に従ひ翌年之をイフェルテンの

學校に合併せしも學校の類勢最早支ふべからず一八二五年失望の中にイフェルテンの學舎を閉ぢて、ノイホーフに退隱せり、時に年七十有九。餘生を文筆に托し「白鷗の歌」 Schwärzungs「運命」 Lebensgeschichte の二書を公にせしが一八二七年二月十七日ブルックに逝く。ノイホーフの近傍ベルの一寺院に葬り、其の後一八四六年一百年祭に當り、更にベルの新築學校門前に改葬し大なる墓表を立てたり。碑銘に曰く「茲にハインリッヒ、ベスタロッチ眠る。一七四六年一月十二日チューリッヒに生まれ、一八二七年ブルックに逝く、ノイホーフに於ける貧民の救濟者、リオンハルト及びゲルトルトに於ける國民の宣教師、スマンツに於ける孤兒の父、ブルアドルフ及びミュンヘンブクゼーに於ける新國民學校の創設者、イフェルテンに於ける人類の教育者。眞の人、眞の基督教徒、眞の市民、凡て人の爲に計り、自らを省みず。彼の名に祝福あれ。」

「教育説」現代に於けるベスタロッチ主義の宣傳者たるナトルプはベスタロッチの教育主義を左の五項に區分し、而して其の一切を貫ぬく根本原理を、ルーソーと等しく「自然に従ふ」にありとせり。即ち氏の説は約すれば「自然的」の一語となり、開けば五種の原理となる。

● 自發性の原理 教育の要は兒童の能力を内部より發展せしむるにありとなす原理にして



一定の形式を外部より附與せんとする從來の意見に反対せるものなり。教育は固より教授の材料を必要とす。されど、それは唯兒童の自發性を刺激し、内部的發展を助長する方便として、價値を有するにすぎず。教育の事なる開發にして注入にあらず。故に教育者たるもの、先づ兒童の精神状態を觀察し、其の向ふ所を究め、然る後に従つて教育の方法を決定せざるべからず。是れペスタロツチの自然主義をコメニウスの自然と區別して、主觀的自然主義と言ふ所以なり。

● 方法の原理 自發性の原理は凡て教育は心性發展の法則に従ふべき事を要求す。されど此の法則の何たるかにつきては未だ言及する所なし。於是か方法の原理あり。方法の原理は凡て知的道徳的發展は其の根本的要素より出發して、連續的に間斷なく進むべしとなす者にして、教育の一般に準據すべき法則として三個の段階を定立す。即ち(一)根本的要素を以て出發點となし、(二)次に一の要素より他の要素に「間斷なく」進みて順次に之を連結し、(三)最後に之を全體として綜合す。例へば言語の教授に於て先づ一々の音を授け、次に是等の音と音とを結合し、最後に之を一語に纏むるが如し。而して、斯く構成せられたる語は次ぎの教授に於ては再び一の要素となり、語と語とは更に結合せられて文章となり、追つて斯くの如く三個の段

階を経つゝ無限に發展す。この三段はペスタロツチの定めたる教授段階にしてヘルバルトの段階中、明瞭・聯合・系統の三段に略ぼ相當す。

● 直觀の原理 上の方法を具體的に實行する場合に當り準據すべき唯一の基礎を直觀の原理となす。直觀は凡ての認識の絶對的基礎にして、一々の認識は必ず直觀より出發せざるべからず。されど謂ふ所直觀とは受動的に事物の印象を得るの謂にあらずして、寧ろ精神の自發性に基づき、進んで事物を構成する作用なり。受動的に事物を映すにあらずして、能動的に事物の各要素を結合する作用なり。此の點に於てペスタロツチの直觀はラトケ及びコメニウス等と全く其の意義を異にす。彼は「凡ての線、凡ての量は悟性の結果なり。」とすら主張せり。

直觀の根本的三要素を數・形及び語となす。是等三要素は凡ての認識の基礎をなし自餘一切の知識の結合すべき中核なれば直觀教授は特に此の三點に注意し、(一)各個體を他の個體と區別して確實に知覺せしめ、(二)其の形狀輪郭を學びて形の觀念を得しめ、且(三)語によりて明瞭に之を表現せしめざるべからず。ペスタロツチが上の三者を根本要素となせるは現時數學と國語とを以て基本的教科となすの意見に合致せり。

● 調和的發展の原理 兒童の能力を開發す

る方法は上の三原理によりて指示せらる。然らば斯く陶冶せらるゝ諸能力相互の關係は如何是れ調和的發展の原理ある所以なり。ペスタロツチは兒童の能力を知力(Head)、道徳的(Hearth)、技術的(Hand)の三者に區分し、中にも最も道徳の方面を重んじ、道徳を中心とせる三能力の調和的發展を以て教育の理想と定めたり。此の點に於て彼はルソーの自然的發展と人文主義の調和的陶冶の理想を綜合して、一種特得の見地を開けるものと言ふべく、世人の氏を目して新人文主義となすの意に存す。

次にペスタロツチが諸種の能力中に、技術的能力を加へ、精神の陶冶と身體の陶冶とを結合し、作業の教育的價値を認め、ノイホフ及びスタンツの學校にて之を實行せるは特に注意すべき點にして、作業主義的教育は氏によりて始めて明らかに主張せられたり。

● 社會の原理 ペスタロツチの教育思想は大體に於て個人主義なり。されど氏は他面に於て、又教育上社會生活の必要を説き、中にも、家庭生活を最も重視し、母子の愛を以て教育の根柢となせり。母の子に對する犧牲的愛情は自ら兒童の心中に愛・信頼・感謝・從順の情を喚起し、是等の精神は之を擴充すれば自ら市民及び人類の主宰者たる神に對する愛・信頼・感謝及び從順の諸徳を成すに至るものにして、學校教育亦此

の母子的關係を理想として行はれざるべからず。

「ペスタロツチ學徒」ペスタロツチの教育法の最も早く行はれしは固より郷國瑞西にしてクリュージ・ラムザウエル・トブレ・ニーデレル・ジユミット・チユルク・ネーグラー等は何れも彼の學徒として、彼の教育法を宣傳し、其の他フエンベルヒ・ヴェーラー・ジラール等の事業もペスタロツチに負ふ所少からず。

獨逸にては、ナポレオンに蹂躪せられたる國力の恢復は教育特にペスタロツチの教育法によるの外なしとし、フイヒテ・フレ・ベル・リツテル・ハルニツシユ・ブライマン・ティンテル・ティーステル・ツェル・ヘルバルト・デンツェル等相次いで、ペスタロツチの學校を視察して其の教育法を研究し、殊にフイヒテの大演説以後、其の主義は大に行はるゝに至れり。

英國にては、助教法盛行はれたるの結果、ペスタロツチ運動は僅かにメーヨー・グリーヴス等二三の人士及び學會の力により、多少の宣傳を見たるに止まりしが、米國にては、マックレーアが始めてペスタロツチの主義を移入し、ニーフを招聘して、フィラデルフィヤに同主義の學校を設立してより、次第に全國に擴まり、ホーレンスマン及びバーナード・ハリスによりて其の最も有力なる鼓吹者を得たり。オスウィーゴ運

動がペスタロツチ主義宣傳の中心たりしことは周く人の知る所の如し。

佛國にては、イフェルテンの學會にて親しくペスタロツチに學びしジュリアンあり、大にペスタロツチ主義の宣傳に力めしも、勢力未だ微々たりしが、クーザンが一八三五年普國教育狀況に關する報告を出し、ペスタロツチ主義を國內擴め、次いでギゾーも亦之を推賞してより、廣く行はるゝに至れり。

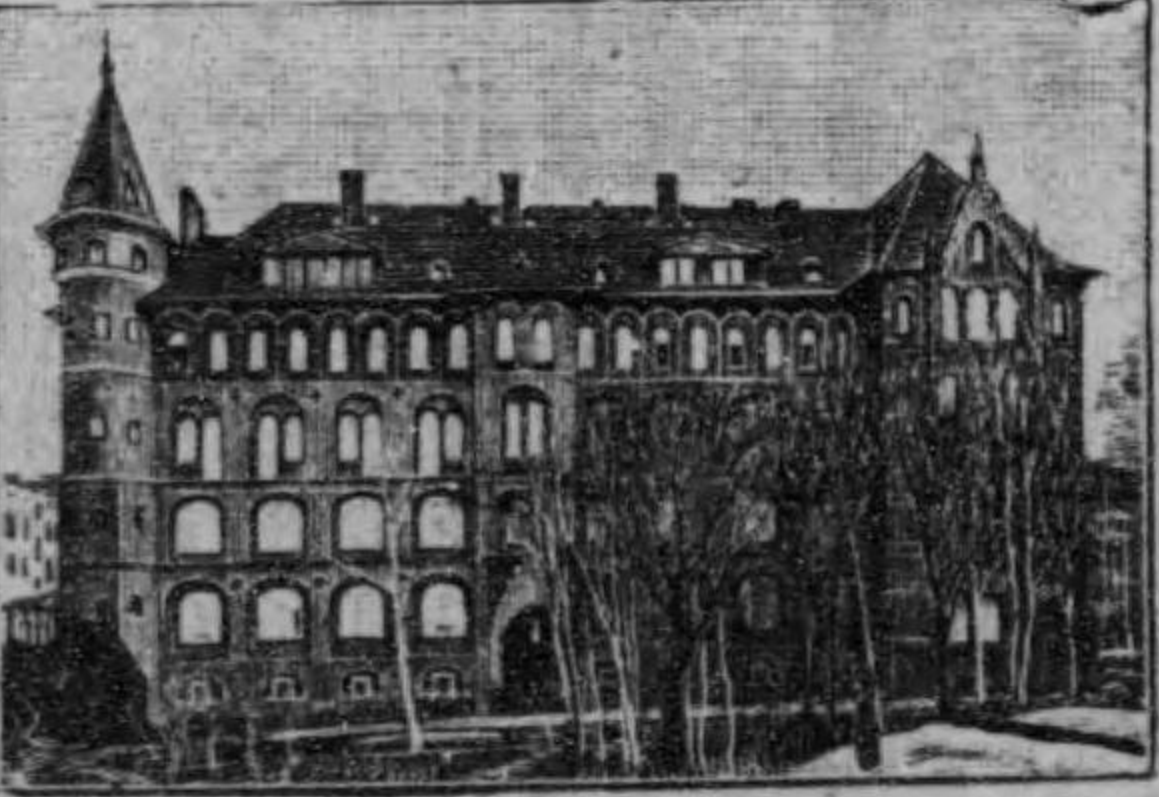
我國に於けるペスタロツチ主義は米國オスウィーゴ運動より傳はれるものにして、明治十一年の頃高嶺秀夫をオスウィーゴ師範學校に卒へて歸朝してより以來始めて其の宣傳を見る。

- 以上の人々につきては各其の條を見よ。
- Barnard, Pestalozzi and Pestalozzianism.
  - Compayré, Pestalozzi and Elementary Education.
  - De Guinps, Pestalozzi, his Life and Works
  - Green, Educational Ideas of Pestalozzi
  - Heubann, Johann Heinrich Pestalozzi
  - Natorp, " "
  - Natorp, Idealismus Pestalozzi's
  - 小川正行, ペスタロツチの生涯及事業。

ペスタロツチ協會  
(獨) Pestalozzi Verein

獨逸小學教師により組織せられたる慈善團體。ペスタロツチ生誕の一百年祭を祝する爲め孤兒院設立、教師の孤兒及寡婦の扶助を目的とし、主としてディーステルツェヒの力に成れり。ペスタロツチ協會は先づドレスデンに起り、後獨逸各地に組織せらる。後教師の特遇加はり、恩給・遺族扶助料等の制も備はり來れるを之に伴なひて會の事業も漸次擴張し、今や其の基金を以て、廣く(一)十四、五歳に至る孤兒(二)十五歳以上の孤兒 (三)寡婦、(四)盲人、(五)貧困なる教師等の扶助に當つるに至れり。

ペスタロツチ、フレ・ベルハウス  
Pestalozzi-Freibahn



ペスタロツチ及びフレ・ベルの教育法の宣傳と幼稚園保母養成との目的を以てフレ・ベルの姪ニラ・デル婦人 Schindler がベルリンに設置せる

學會。(一)二歳半乃至六歳の兒童の幼稚園、(二)六歳乃至六歳半の兒童の中間學校、(三)六歳乃至七歳半の兒童の初等級(四)十四歳に至る男女の手工學校、(五)割烹學校及び(六)保姆養成所を其の中を含む。

ベツケル、カルル、フェルディナン

Karl Ferdinand Becker (1775—1814)

獨逸の醫師にして、言語教授上所謂哲學派(演繹的方法を重んず)の代表者。ライン地方のライゼルに生まる。年十九にしてヨゼフイヌムの文科中學校教師となりしが、一七九九年更にゲッティンゲン大學に入りて、醫學を研究せり。一八〇三年醫師となり、一八一四年フランクフルト、アム、マインの陸軍病院長となり、同一五年オーフェンバッハに開業し、一八二三年同地に一私立學校を起し、死に至る迄其の教育に任ぜり。學校の創立と共に言語學の研究に身を委ね創見甚だ多し。氏は言語は思考の自然的表出なれば言語の法則即ち文法は思考の一般的法則よりして演繹的に研究せらるべきものなることを唱へ、此の意見はヴルストを始め多くの實際家の賛成により、文法教授の一方法として大なる勢力を得たり。然るに其の方法のあまりに形式的なるよりディイステルヴェヒを始めガリ

ム・ポツプ・ヘルテル等所謂歴史派(歸納的方法を重んず)の反對を喚起し、やがて多く顧みられざるに至れり。

ヘツケル、ヨハン、ユリウス

Johann Julius Hecker (1707—1788)

獨逸の教育家にして、實科學校の創始者。ルールの河畔ヴェルデンに生まれ、十四歳にしてエッセンの中學校に入りしが、同校の校長はランケの弟子なりしかば氏亦一七二六年ハルレ大學に入り、フランクの感化を受けた。一七二九年同大學内のベータゴキウム(貴族の子弟教育所)の教師となり、居ること六年、一七三五年ポツダム陸軍孤兒院の牧師兼學校監督となる。氏は此の地に於て王フリードリッヒ、グイルヘルム一世の知遇を得、一七三九年擢んでられてベルリンの三位一體教會の牧師となり、死に至る迄其の職にあり。

氏の事業中特に記すべきは實科學校の開始にして、實業に従事せんとするもの爲に、ゼムレルがハルレに開ける學校に倣ひ、一七四七年「經濟・數學・實科學校」と稱する學校を起し、又之に附屬して一七四八年小學教師の爲に師範學校を起せり。是を獨逸の實科學校及び高等實科學校の源泉となす。氏は又フリードリッヒ二世の求めに應じ、小學校令を編し、一七六三年之を發布せり。是れ普魯西に於ける最初の小學校令

にして、現今教育の基礎をなす。

ヘツチ、スクール Hedge Schools

アイルランドに於て一七〇四年—二八年

に互り、舊教授は教育を受け又は留學するを許さずと言ふ嚴峻なる法律ありき。於是か舊教徒は或は山の影に或は籬の陰に、或は溝の中に、或は廢寺の中に秘密に學校を起し、子女の教育を施せり。かゝる學校を總稱してヘツチ、スクールと言ふ。

後世にては其の意義を廣め、貧民學校をば凡てヘツチ、スクールと言ふことあり。

ゲインケルシュニール

ペッテイ、サー、ウィリアム

Sir William Petty (1623—1687)

英國の統計及び經濟學者。ハンブシャのロムジに生まる。幼時商船の給仕たりしが、脚部を負傷せるが爲、佛蘭西に遣され、茲に數學、語學等を學び、後ワトトレクト・アムステルダム、ライデン、パリ等に學び、又オックスフォード大學に醫學を修め、一六五一年同大學解剖學教授に任ぜらる。翌年軍醫としてアイルランドに赴き、クロンウェルの信任頗る厚し。執政政府倒るるに及び其の職を免ぜられ、倫敦に退き、専ら學術の研究に従ひ、王立協會の設立に與り、之が委員たり。後政事に參與しながら經濟學上に關する多くの著書を出せり。

教育に關しては「或種の學問の進歩に關し、サムエル、ハートトリブに與ふる助言」Advise of W. Petty to Mr. Samuel Hartlib, for the Advancement of some particular Parts of Learning (1647—1648)あり。此の書に於て、氏は科學研究の爲に諸般の設備を完ふすべきを説き、又良好なる教員養成の必要、兒童研究の必要、手工の兒童の興味に合せる作業なる事等につき、詳細に論述せり。ロックの「教育思想」及びミルトンの「教育論」と相並びて英國に於ける重要な教育的文獻の一に數へらる。

ペッテイ、スクール Petty School

文藝學校に入學する兒童の豫備教育を施す爲に英國に設けられたる學校。五歳より文藝學校に入學する迄、凡そ三年間、讀方・書方・算術等の初歩を授く。ヘッテイ、スクールの名は十七世紀以後に行はれたる所なれども、夫れ以前に於ても、幼少の兒童を、年長生の手に教育する學校又は學級は存在したり。

ペトラルカ、フランチェスコ

Petrarca (Petrarch) Francesco (1304—1374)

伊太利の詩人にして、著名の人文學者。アレツゾーに生まる。十歳にして家族と共にアグイーニオンに移住し、一三一九年モンテッリエーの學校に入り父の希望により法律を學びたりし

が、意に滿たざるを以て、父の死(一三二七年)と共にアグイーニオンに退き、やがて僧侶となる。是より先き二三の詩を公にせしが、ラウラ女史の熱心に之を推奨するあり、文名忽ち高く、一三三七年アグイーニオンの近傍ヴォーキリニ退き、アフリカに關する叙事詩を出して、伊太利の桂冠詩人に擧げらる。一三四五年ケケロの書簡集を發見して以來熱心なるケケロの研究家となり、同五〇年ゾツカチオに會して、親交を結び相携へて古典の復興に力む。一三五三年ミラノに移住し、後再びバドヴァに轉じ、此地にて希臘語を學びたれども熟達するに至らざりき。一三六九年居をアルクエーと稱する一閑村に求め、爾來全く古典の研究と蒐集とに没頭せり。

ペトラルカは伊太利の最大人文學者にして、其の位置は北歐人文學者中のエラスムスに似たり。最も力を古典の蒐集と研究とに用ひ、學校又は寺院の一隅より發見せる古書を淨書して之を後世に傳へ、同僚學友間に古典の研究を鼓吹し、終生怠る所なし。されど氏は古典の研究其の者を以て目的となすが如き十六世紀の人文學者の弊に陥らず、唯、古典を介して以て、人の自由なる發展を圖らんと企てたり。即ち中世の偏狭なる學風に反抗し、覺めたる近代人を作らんこと是れ彼の理想とせる所なりき。ペトラル

カの著書は其の内容に於て、直接に教育に關係せるものなれども、人の自由なる、自己發展を主張し近代理想を掲げたるの點に於て、間接に教育に影響する所大なり。

ベネケ、フリードリッヒ、エヂュアルト

Friedrich Eduard Beneke (1798—1865)

「傳説」獨逸の哲學者にして且教育學者。ベルリンに生まる。フリードリッヒヴェルデル中學校卒業の後志願兵として、自由戰爭に出陣し、戰終るの後ハルレ及びベルリンの兩大學に神學及び哲學を修めしが、當時の思辨的學風に倦らず、心をフリースの心理説に傾け、又英國經驗學派の影響を受ける事大なり。一八二〇年ベルリン大學の私講師となりしが、「道德物理學の基礎」Grundlegung zur Physik der Sittenなる講義がカント



の先驗的研究法に反對して心理的研究法を取り、且ヘーゲルの思辨哲學を痛擊せるの故を

以て、遂に講演を禁止せられたり。於是か一八二四年以來ゲッテンゲン大學の私講師となり三年の後伯林に復歸して私講師となり、ヘーゲル歿後、一八三二年漸く員外教授に擧げられたるも、薄給にして、家を成すに至らず。一八五四年忽然其の姿を隠し、越えて同五六年死骸をシャルロッテンベルヒの運河中に見せり、死因詳らかならず。多くの著書中「自然科学としての心理學教科書」Lehrbuch der Psychologie als Naturwissenschaft (1833) 特に重要なり。教育學に關しては「教育學及び教授學」二卷 Erziehungs und Unterrichtslchre, (1835—36)あり。

【心理説】ベネケは上に述べたる如く、極力當時の思辨的學風に反對して經驗的方法を取り、心理學を以て倫理學・論理學・形而上學・宗教哲學等の唯一の基礎となし、而して、心理學の研究は凡て内的知覺に基くものとなせり。従つて、彼に従へば内的知覺は一切の知識の基礎なり。史家ユールヴェルツェヒの言へる如く、彼は専ら内的經驗に因れる心理哲學的學説を建設せるものなり。

心は全く非物質的なる幾多の根本的勢力(vormögen=原能力)の系統にして、原能力は本來發動的のものなるが、外來の刺激を待ちて活動と解發し、其の成果として茲に感覺を生ず。而して一度感覺となれるものは意識に其の「痕跡」

形式的陶冶とは之を分かつを得ず。

(五)形式的陶冶は常に一定の特別の範圍にのみ限られ所謂一般的形式陶冶なるものあることなし。例へば歴史に對する記憶の強きものにて、言語に對する記憶力鈍く、數學的思考に秀でて、しかも社會的的關係について何等の判斷をなし得ざるものがあるが如し。

ベネケ派に屬する教育學者として、特に有名なるはディーステルツェヒ、ドレスレル、アイツタスの三氏なりとす。

Brandt, Bencke, the Man and his Philosophy by  
Hummel, Die Unterrichtslehre Benekes in Vergleich zur Didaktik Herbars

大瀧甚太郎 最近世歐米教育史  
ベネディクト派 Benedictines

伊太利のマルシアの僧ベネディクト Benedict of Nursia (480—543) が紀元五二九年モンテ・カシノなる山上に創めし僧團。モンテカシノの僧庵は歐洲最初の僧庵にして、同年嚴密なる規律を設け、僧庵に入るものは還俗を許さざる事の外、貧困に安んずること、妻帯せざること、長上に從順なることを誓はしめたり。後アウグスティヌスは此の規律を英吉利に、ボンニアテイウス Bonifacius は獨逸及び佛蘭西に傳へた

Sturzaを止め、將來同様の心的作用を生ずべき傾向として殘存するを以て、一事物に對する痕跡愈多ければ其の印象愈々明瞭を致さざるを得ず。又各痕跡は類似の度に應じて互に牽引し互に結合するを以て(同類牽引の法則)、觀念は次第に概念に練成せられ、精神現象の系列を形成す。次に感情は原能力と刺激の關係によりて生ずるものにして、刺激が原能力に對し、弱少又は過大なるときは不快となり、適度なるときは快感を惹起す。最後に欲望は原能力が一定の目的に向ひ發動する場合を指すものにして、之に、實現し得る心證を伴へば別ち意志となる。

ベネケは斯くて其の原能力の説によりて古來の能力説を破り、例へば記憶と言ふ如きも、實は原能力の把持力を指せるものにして、別に記憶なる獨立の能力あらずとせり。要するに氏は一切の精神現象を原能力と刺激と痕跡との關係より發生的に説明せるものにして、之を一種の聯想的心理學と稱するを得べく、又原能力の發動を中心として凡ての心象を説ける點より見れば主意説に屬し、内的知覺により歸納的研究法を取れる點より見れば之を経験派と稱するを得べし。最後に彼は道德現象をも刺激と心的勢力との關係に歸し、若し刺激(事物及び作爲)が心理的勢力を發揚 steigern するときは、それは吾人に取りて價值あるもの、従つて善にして反對に

り。加ふるに法士グレゴリ一世の大に之を保護するあり。西歐諸國に擴まれり。後種々の迫害を受けつゝ宗教改革時代迄存し、イエヌイタ派の反對により、一度殆んど衰滅せしが、十七世紀再興して、現今に至り、現今にては塊太利に於て最も盛に活動す。一九〇五年此の派に屬する僧庵一四四箇所、僧徒約六、〇〇〇人あり。

ベネケ派と教育の關係については僧庵學校の條を見よ。  
「ボシ、ジェームズ、カーティス」  
James Curtis Hepburn  
(1815—1911)

米國の傳道師、ペンシルヴァニア州ミルトンに生まる。プトンストン、カレッジを経て、ペンシルヴァニア大學醫科に入学し、一八三六年卒業。夙に東洋の傳道布教を志し、一八四〇年傳道醫師として支那に來りしが健康を損し一時歸國せしも、一八五九年傳道醫師として我國に渡來し、同九二年に至る迄三十有餘年間我國にて活動せり。始め神奈川の成佛寺に寓せしが、三年の後横浜に移り、傳道の傍ら醫を以て人を劑ひ特に眼病の治療に秀づ。同時に氏は辭書の編纂に着手し、元治元年和英英和對譯辭書第一卷を脱稿す。此の時始めて日本語を綴るにローマ字を以てす。今日我國にて普通に用ひらるゝ

降沈 Herabstimmung せしむるときは無價值となり、惡となるとなせり。  
【教育説】ベネケが精神現象に對する發生的説明は精神發達の過程に多大の光りを投じ、精神の發達に關與すべき教育に向つて有力なる指導を與へたり。氏の教育學が獨逸に於てヘルベルト以外最も多くの勢力を有するに至れる理由は主として、其の心理學の發生的説明に基づけられたるものならずんばならず。尙左に氏の教育說中特に注意すべきもの二三を摘出せん。  
(一) 教育學は應用心理學にして、一の技術的科學なり。こはこの心理學に對する態度よりして、直に推定せらるべきことなり。  
(二) 精神の發達に對しては有力なる「痕跡」を印すること最も必要なり。正しき直觀により、強く印象せしめ、又「痕跡」を系統化する爲には正しき言語により確實に固定すること必要なり。故に諸種の教科中言語教授は最大の價值を有し、數學は之に次ぐ。  
(三) 精神能力の發揚及び降沈による價值判定は道德の基礎なり。下等の發揚による價值判定を抑え、徐々に之を高等なる發揚による價值判定に導くことを要す。  
(四) 原能力は刺激を待ち始めて發展の機會を附與せらる。故に純粹に實質を離れたる形式的陶冶なるもの存することなし。實質的陶冶と

ローマ字綴方即ち平文式綴方と稱せらるゝものこれなり。此の辭書はベボンが我國を去る數年前改訂し、以て今日に至る。版成るや彼は之を丸善商會に賣却し、得たる所を明治學院に寄附して平文講堂を建築せしむ。又文久元年頃よりブラウン博士 Dr. R. Brown 及びクリン Greib と協力して新約全書を、又ファイソン Fyson フェルベック Verbeek 等と協力して舊約聖書を、邦人を補助として翻譯し、明治二十年此の大事業を完成す。教育の方面にてはベボン夫人夙に女子教育に注意して、現今の横濱フェリス和英女學校の基を開き、氏自身亦東京明治學院の基礎を立て、其の最初の總理兼生理學教授として、明治二十四年に及ぶ。明治二十五年第 一 の故郷たる横濱を去り、歸國の後紐育市外イーストオレンジに移り、一九一一年九十七歳の高齡を以て逝く。是より先き一九〇五年我國文化に貢獻せること大なりし故を以て勳三等に叙し、旭日章を授けらる。

ベル、アンドルー  
Andrew Bell (1753—1832)

助教法の創案者。蘇格蘭のセント、アンドルーズに生まる。アシドルズ大學卒業の後一時米國ヴァージニアに於て教師たりしが、後本國に歸り、一七八九年印度のマドラスにて教師となり、傍ら兵士孤兒院の監督となる。當時氏は偶



然にも、児童が砂上に文字を描き相互に教授する様を見たり、悟る所あり、所謂マドラス組織 Madras System

systemなるものを設定し、部下の教員の反対あるにも拘らず、児童数名を助教に Monitor 任用し、一七九一年始めて之を氏の學校に實施せり。一七九六年英國に歸るや、此の新教授法を一般に普及せんが爲に、「マドラス孤兒院にて行へる教育上の「實驗」An Experiment in Education made in the Male Asylum at Madras (1798) なる一書を公にす。一八〇五年、同じく「助教法」を獨立に工夫せりと稱するランカスターに會し暫く相協和せしも、間もなく兩者の間に激しき紛争を生ぜり。先是ベルの方法はカントーベリ大僧正の補助を得て、多くの學校に採用せられしが、一八〇八年ランカスターが貧民教育の目的を以て、「英國及び外國學校協會」を設立し、助教法を擴むるや、ベル亦之に對抗して一八一一年「國民協會」を組織し、兩者の絶えざる競争は英國の初等教育に貢獻する所頗る

大なりき。ベルは助教法に對する信仰頗る強く、是を小學校に應用せんが爲に畢生の努力を惜まざり、爲に英國に於ける名聲はランカスターに比して一層高く、一八三二年名譽の光に包まれて病歿す。莫大なる遺産は擧げて之を蘇格蘭の教育費に捧げたり。ベルの歿後氏の方法は主として愛蘭及びカナダ地方に行はれ、ランカスターの方法は米國に勢を得たり。

白耳義の教育 Education in Belgium

【教育行政】一八三〇年白耳義獨立を宣するや、翌年憲法を制定し、其の第十七條に「教育は自由なるべし……國家の經費によりて施さるべし」と定めて、教育の自由を確立せり。教育は始め内務大臣の管掌の下にありしが、一八七八年文部大臣を置く。文部大臣の下に初等教育局長、中等教育及高等教育局長を置き、視學官は中等教育に三人、初等教育には各州(九州に分かる)に一人若しくは一人以上を置き、郡には又視學を置く。外に教育會議ありて之を助く。

永き紛争ありき。同國に於て初めて發布せる一八四二年の初等教育令にては僧侶の教育に干渉するを認め、教育は國家と僧侶との二重の監督の下にありしが、一八七九年教育を全く國家の手に收め學校に於ける宗教教授を廢し、宗教の教育は之を家庭又は寺院の手に委ね、唯學校課業以外の時間に於て、特別の一室に於て宗教教授を施すべき事とせり。かくて一時自由派の勝利に歸せしも、こは却つて宗教家の反感を激發し、一八八四年再び宗教教授を施すと否とは郡の自由に一任することとし、一八九〇年の法令に於て、宗教をば必修科となし、再び宗教家の勝利に歸す。而して是れ即ち現行小學校令なり。國家は郡の小學教育につきては其の設備、教科・課程等につき視察するに止まり、直接に之に干渉することなく、凡て郡教育局に一任す。又各郡には就學委員なるものを置けども、未だ同國にては強制教育の制を布かざるを以て、其の任務は單に郡内の六歳乃至十四歳の児童の数を調査し、之に應じたる設備を定むるに止まる。小學校の教科は宗教及修身科、讀方、算術、度量衡、佛蘭西語(又は獨逸語、又はフランス語)土地の狀況により其の一を課す。地理・歴史・唱歌・體操・裁縫(女兒)、農業地方にては農業(男兒)にして外に土地の狀況により多くの選擇科目を加ふ。試験を重んずること佛國に

等しく、之によりて生徒の競争心を刺激せり。月謝を徴收すると否とは郡の自由に一任すれども、現今多くの地方にては無月謝制を取る。小學校には郡立のもの、外に又私立にして國の補助を受くるもの(之をエコール、アドプティブ・スクールと呼ぶ)あり。エコール、アドプティブは全く宗教的の學校にして、教科書の選擇、教育の方法、教師の任命共に全く自由にして、唯一八八四年及び一八九五年の法令に従ひ、且施設につき郡の認可を受けば足る。初等教育未だ多く普及せず、一九〇九年に於て、八歳以上にして文盲なるもの全人口の一九パーセント以上なりきといふ。されど自由主義の行はる、大都市にては教育頗る進歩し、殊にブルッセルの如きは其の施設に於て世界に誇るに足るものあり。一九二〇年に於ける小學校數計七、九五九校、児童數九六〇、八一九人、幼兒小學校三、三三六校、幼兒二〇五、四一八人、師範學校七五校あり。

【中等教育】中學校に關する法令は一八五〇年之を制定し、後一八八一年、一八八三年及び一八八七年、一八八八年の改正を経て今日に至る。中學校に上級中學と下級中學とあり。上級中學即ちアテネー Athénées (又は地方によりてはカレッジと呼ぶ所あり)は、一八八八年の制によれば修業年限七個年之を(一)拉丁・希臘

部(二)拉丁部(三)現代部に三分し、拉丁部にては希臘語を缺き、現代部にては拉丁・希臘の古語を全廢す。而して現代部は更に之を下級(四年程)と上級(三年程)とに分ち、上級を科學組と商工部に區分す。アテネーの教員養成の爲に一八四七年リエージュ及びガンに教員養成所を設け、一八五二年之を師範學校に改造せしが、一八九〇年各之をリエージュ及びガンの大學の一部となせり。下級中學校即ちエコール、モアイヤン Ecoles moyennes は商・工業に従事すべきものに高等普通教育を施すを以て目的となすものにして、修業年限三個年、十二歳より十五歳に至る。一八九七年の法令により、其の第二級以上を農業部・商業部・工業部に區分することを許す。エコール、モアイヤンの卒業生はアテネーの現代部に入ることを得、又拉丁語を加へたるときはアテネーの拉丁部に入學することを得。下級中學校教員はガン及びリエージュの男子師範學校、ブルッセル及びリエージュの女子師範學校にて之を養成す。一九〇八年に於てアテネー及びカレッジ合をて三三五校、生徒數七、七七三人、男子下級中學校八八校生徒數一八、一五七人、女子下級中學校四〇校、生徒數八、三三九人なり。

【高等教育】大學には、ガン(ダント)・リエー

を以て其の聖典となす。ゾロアスター教は宇宙の現象を以て善神即ち光明の神たるオルマツド(アフラ、マツド) Ormazd, Ahura-Mazda と悪神即ち暗界の神たるアーン、Anhriman との絶えざる争闘と見、光明と暗黒、善と悪との二元の葛藤により萬有を説明し、しかもオルマツドは己を助けんが爲に人間を創造せるものなれば人は善神を助け道徳を實行し、善神の勝利を期せざるべからずと説く。ゾロアスター教は紀元六五〇年波斯が回教徒の爲に亡ぼさるゝに至る迄繼續し、其の以後に於ける宗教は回教徒の教義に支配せらるゝ。されど其の後と雖も波斯人の思想の自由は妨げらるゝことなく、ササン朝(西紀二二六―六五〇年)以後徐々に發達せる世俗的教化は其の高所に達し、其の世俗的教化は亞刺比亞人に傳はりて紀元七、八世紀の亞刺比亞の黄金時代を現出せり。故に中世に於て、亞刺比亞の文化と言はるゝものは、多くは其の起原を波斯に有す。

〔教育の方法〕 教育の目的は古代の他の國民と等しく、個人を團體の有用なる一員に養成するにあり。而してこの目的を達する爲に最も必要なるは宗教教育なることアヴェスタの明記する所。従つて教育上僧侶が重要な地位を有せること古代の他の諸國と等しく、宗教上の知識を得、正義と誠實の徳を養ひ、本國の習慣に熟

通するに至らしむるは波斯の教育の一面なり。されど、波斯は古代に於ける職團國民なるを以て他の反面に於て軍隊的教養を最も重んじ身體の鍛練に注意せるは其の教育の他の一面なり。即ち波斯にては宗教的・道徳的・身體的教育を主とし、知育は從屬的なるを免れざりき。兒童生まれて五歳に至る迄専ら母の手によりて教育せられ、五歳以後一定の場所に至り、同年輩のものと競走・石投げ等をなし、父の監督の下にあり、七歳にして始めて系統的的教育を施し、十五歳に至る。教育上特に注意せらるゝは、前に述べたる如く、宗教教育と體育、中にも騎馬にして、馬上にて弓を射、槍を投ずること等を練習し、粗衣粗食により、缺乏と忍耐との習慣を養ふ。史家ヘロドトスが「波斯人は其の子弟に、唯、乗ること、射ること、誠を語ることの三者を教ふ」と言へるは能く其の眞を穿てるものなり。

實に「健康なる身體に於ける健全なる精神」は波斯人の一貫せる教育主義たりき。又クセノフオンの述ぶる所によれば、波斯人は特に示例を重んじ、長者の模範によりて教化するに力む。年長者・年少者共に一定の場所に集合し、此の場所を兒童組・青年組・成人組・長者組の四組に分ち、各組を又十二人宛の組に小分し、各組には自己の上組にある(兒童組にては青年組にあるもの、如く)もの一人監督者として之を指導

し、こゝに兒童は正義・服従・忍耐・克己等の諸徳と騎馬・弓術・槍投を練習し、十五六歳青年組に入り、更に軍隊的鍛練を施して、二十五六歳にして成人となり軍務に服す。長者とは五十歳以上にして已に軍務を了へしものにして國の内政に與るものなり。かく長幼の別明らかに秩序能く整ひ、以て國家の幸福と繁榮に力めたり。女子の教育は多く顧みられず、唯多少の宗教的教授と家庭の母として缺くべからざる修養を受けるに止まる。

回教徒の教育

ヘルム、ヨハン、ゴットフリート Johann Gottfried Herder (1744-1803)

獨逸の詩人・批評家。教育家として亦名あり。東普魯西のモールンゲンに生まる。郷里の拉丁學校在學中已に當時の機械的教育法に對して反感を有したりき。一七六二年醫學を學ばんとしてケーニヒスベルヒ大學に入りしが、まもなく神學及び哲學に轉じ、カントの感化を受く。一七六四―一七六九年リガの寺院學校に教師たりしが、退職の後、佛・英・獨の各地の學校を視察して教育上の見聞を擴む。後家庭教師として生徒と共にシュトラスブルヒに赴き、ゲーテと交を結び、ゲーテの勧めにより、一七七六年以後死に至る迄ヴァイマル公國の牧師及び學校

監督として活動せり。

ヘルムルの事業は各方面に亘れり。彼は各民族の民論を研究して民衆文學に大なる勳激を與へ、又言語・神話・宗教等の比較研究をなし、其の最大著述たる「人類の歴史の哲學に對する考察」に於て、歴史を神の精神が、人類に啓示せる連續的過程と見て、歴史哲學に一新紀元を開き、教育者としてはヴァイマルの學校を改善し、教員養成機關を設け、教師の俸給を高め、教科書を編し、宗教・國語・歴史・地理等の教授を振興せり。殊に中等教育に貢獻する所多く、新人文主義の最も有名なる主張者たり。教育上の意見を集めたるソフロン Sophron (一八一〇年出版)は氏の教育説を見るに足る。

ヘルバルト、フリードリッヒ

Friedrich Herbart (1776-1841)

〔傳記〕 獨逸著名の教育學者にして、且哲學者。幼にして賢良なる母と家庭教師の手に教育せらる。ヘルバルトは頗る早熟にして、幼より數學を好み、且音樂の才を有す。郷里の中學校を経て、一七九四年イエーナ大學に入學す。一七九七年瑞西の貴族フォン、シュタイゲル家の家庭教師となり居ること三年、此の間に於て一七九九年ベスタロツチをブルゲトルフに訪ふ。一八〇〇年辭して歸國、暫時プレーメンに止まりて研究をなし、一八〇二年論文をゲッテンゲ



大學に提出して學位を得、同大學の講師に補せらる。一八〇九年ケーニヒスベルヒ大學に轉じ、哲學及び教育學を講じ、名聲大に揚がる。同時に氏は教育演習所を設け學生をして、教育の學理を實地に應用せしめたり。在職廿五年にして一八三三年毎びゲッテンゲン大學に歸り、一八四一年急病によりて歿す。多くの教育的著述中氏の説を窺ふに於て缺くべからざるは「一般教育學」 Allgemeine Pädagogik (1806) 及び「教育學講義綱要」 Umrisse der Pädagogischer Vorlesungen (1835) の二書なり。

〔倫理學〕 氏は倫理學に於てはカントの如く形式説を取り、善惡如何は利益幸福の如き内容に關係なく、單に意志相互の形式的關係によりて決定せらるべく、而して此の形式關係の何れを善とし何れを惡となすかは、宛も美醜に對する判斷の如く直覺的になさるべきものなりとせり。而してヘルバルトは道徳的たるべき意志

關係を左の五個の觀念にまとめ、之を五道念と名づけ、意志が完全に此の道念に合するものを有徳の士と呼べり。

- (イ) 内心自由 知見と意志との相一致する状態にして、其の相一致し、自己の確信に忠實なるものは善なり。
- (ロ) 完全 意志の力の強く、又固く集中し、其の活動方面の多様なること。
- (ハ) 好意 自己の意志を以て、他人が實際に有し若しくは有すと思はるゝ意志を助けること。
- (ニ) 正義 二個以上の意志が同一物に向へるとき各其の分を守りて紛争せざること。
- (ホ) 衡平 有意的に加へられたる利も害も必ず之に報ゆること。

ヘルバルトは更に此の五道念を社會制度に適用し、内心自由の觀念は國家組織に、完全は教育制度に、好意は行政制度に、正義は司法制度に、衡平は賞罰の制度に相當すとなせり。

〔心理學〕 ヘルバルトは始めフイヒテの説を奉ぜしも、次第に其の絶對的唯心論に不満を抱き、終に一種の實在論を唱導し、世界の根本實在は無數に存在する元子 Die Realen にして、一切の現象は是等多數の元子の相互關係より生ずるものとなせり。吾人の心の「我」亦一の元子にして、本來不可分にして且何等の性質を有せ

ざれども、他の元子との交渉により、茲に自己保存の作用を起して表象 *Vorstellung* を生ず。而して吾人の精神 *Mind* は斯くして生じたる多くの表象の統合體に外ならず。然るに一度生起せる表象は決して消失することなく、夫れ夫れ一定の力を有し、力の法則に従つて或は相助け、或は相妨礙し、意識に於て互に競争し、勝てるものは意識下に現れ、敗るものは意識下に沈む。而して意識下に沈めるものも他に後援たるべき表象を得るときは従つて又意識に現る。高等なる諸種の觀念も感情も欲望も共に斯かる表象相互の關係より派生せるものにして、若し A なる一表象に A が助けらるゝときは快となり、反對に妨げらるゝときは不快となり、又 A が B の妨害を排し、他の表象の力を假りて自己を意識上に保持せんとするときは茲に欲望を生ず。感情及び欲望は表象と全く異なる作用にあらずして實は表象の關係より生ぜる第二次的現象なり。

ヘルベルトは斯くして一切の精神現象を表象の一元に歸して以て、從來の能力心理学（能力の條参照）を根柢より破壊し、又表象相互の關係に教學を適用して實驗心理学の端緒を開き、心理学の發達に貢獻する所大なりしが、此の心理説は同時に又彼が教授（即ち思想界の陶冶）を以て、教育の中心任務となし、類化（其餘参照）を重んずる教育説に對し、最も適當なる根據を與ふるものにして、彼の教育説は之を其の心理学の必然なる歸結として見るを得べし。

據を與ふるものにして、彼の教育説は之を其の心理学の必然なる歸結として見るを得べし。

〔教育説〕 ヘルベルトは教育の目的を倫理學に求め、其の方法を心理学に求め、此の二大科學を基礎として、始めて教育學を一個獨立の科學として建設せるの人なりと稱せらる。氏は教育の目的を以て鞏固なる道德的品性の陶冶にありとし、此の目的を達する教育作用を管理、教授及び訓練の三者に區分せり。

（一）管理 管理は兒童の身體的覺官的欲望を抑へ静肅にして秩序を守るに至らしむるを以て其の目的となし、單に外部的の作用にして、兒童の心情に迄影響せんとするものにあらず（心情に影響する作用は訓練なり）。其の方法として威嚇・監視・課業・懲罰等あり。其の何れの場合を問はず、管理は簡單にして且鋭く、愛と威嚴とを以て一貫せざるべからず。

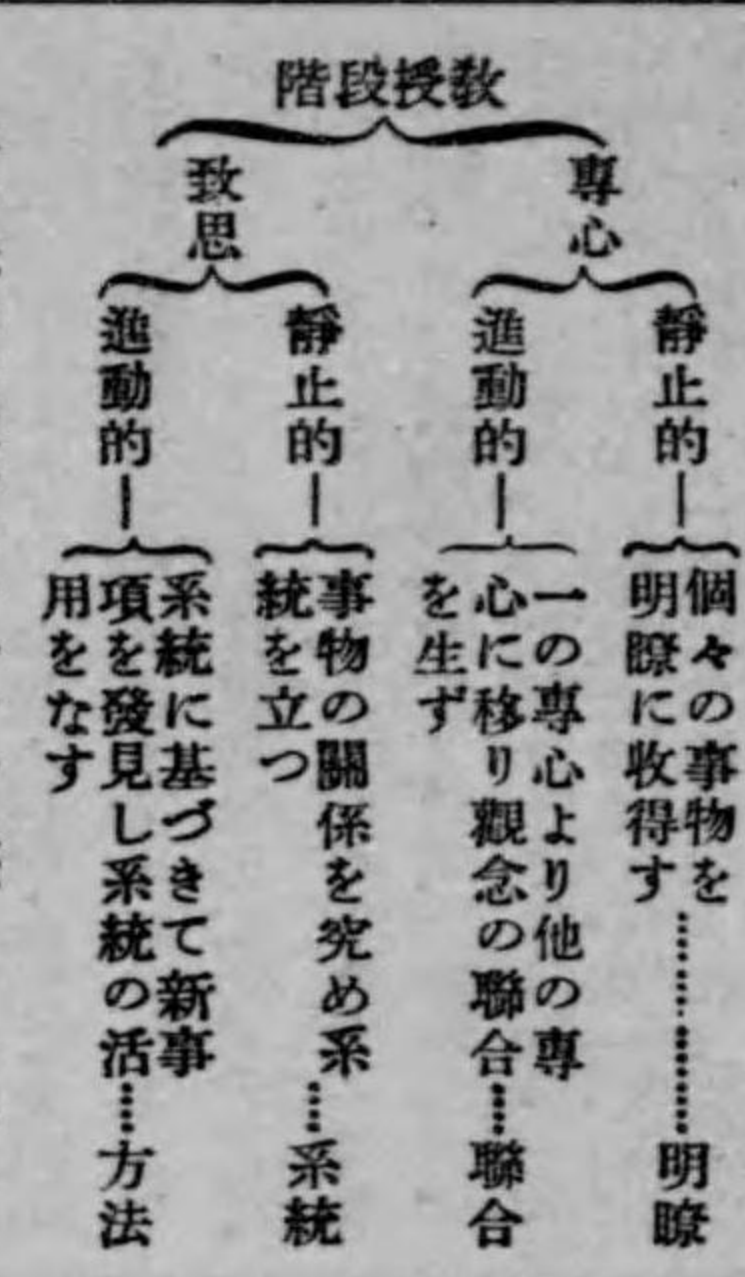
（二）教授 ヘルベルトの心理学より見れば意志は表象相互の關係より生ず。故に善良なる意志の陶冶は教育の終局目的なれども、此の目的に達するの道は思想界の陶冶を措いて他に之を求むべからず。意志の陶冶に關係し得る教授は之を教育的教授と言ひ、單に知識の授與を事とするものは之を非教育的教授と言ふ。然るに思想が意志に關し得るに至ること、換言すれば思想をして意志活動を惹起するに至らしむるものにして統一を有せざれども、同一意志の反復に従ひ次第に意志の記憶を生じ、一様の意志状態を保持するに至る。而して長じて知識の發達し、自己の意志に反省を加へ、一定の原則に基づきて判斷するに至れば、此の意志の記憶によりて生じたる統一を一層鞏固ならしむ。主觀的品性徐々に發展し、兒童が能く自己決定をなし、自律的に「明瞭鞏固にして且斷乎」たる判斷に基づき行動するに至りて訓練の事業は始めて完成せらる。

は興味なれば、興味を起さしむることは是れ正に教授の直接の目的として掲げらるべきなり。

興味はヘルベルトの教育學に於て最も必要な中心概念にして、單に面白しと感ずるのみならず進んで發動的に知識を増進し、擴張せんとする心の状態なり。興味は第一に直接的ならざるべからず。直接的とは事物其の物に興味を有することにして、事物より生ずる結果に誘はれて、此の結果を得んが爲に事物に興味を覺ゆるは間接的興味なり。第二に單に一時的の興味ならずして、永久的ならざるべからず。第三に、凡て教授は經驗と交際とによりて得たる自然界及び人事界に關する表象を整理し、且之を補充するものなれば、興味も亦過ぐ經驗及び交際の際の範圍に互りて多量ならざるべからず。多量興味には（一）多様な事物の經驗によりて生ずる經驗的興味（二）事物間の法則を究むる推想的興味（三）善惡・美醜の評價に關する審美的興味（四）個人の快苦に關する同情的興味（五）社會の幸不幸に對する社會的興味（六）最高實在としての神に對する宗教的興味（六）の六種あり。此の中前の三者は經驗に關し得るの三者は交際に關する。

興味は心理上より見るときは兒童既有的の舊觀念群が新觀念を類化するとき起る無意注意にして専心と致思とは其の二大要件なり。専心とは心を個々の事物に專にする作用にして、致思

とは是等の事物を連結する作用なり。ヘルベルトは此の専心致思の二者を更に靜動の兩方面より見て、左の教授段階を立てたり。



其の後此の段階はチルレル及びライオンにより多少の修正を経て、今日行はるゝ豫備・提示・比較・總括及び應用の五段となれり。

ヘルベルトは又教授の進程を、個々の部分より始めて全體に進む綜合的教授と、先づ全體あり然る後之を部分に分ちて吟味する分析的教授との二種に區別し、材料と兒童の状態により必要に應じて適當に之を應用すべしとせり。

（三）訓練 訓練は直接に兒童の心情に影響し、知見と一致せる意志を養成するを以て其の目的となす。意志には吾人が自己反省をなし得るに至る以前に於て已に存する者と、反省によりて新に成立する者とあり、已存の者は之を品性の客觀的部分となし、新に生ずる者を其の主觀的部分となす。兒童の行動は其の始め氣隨的

にして統一を有せざれども、同一意志の反復に従ひ次第に意志の記憶を生じ、一様の意志状態を保持するに至る。而して長じて知識の發達し、自己の意志に反省を加へ、一定の原則に基づきて判斷するに至れば、此の意志の記憶によりて生じたる統一を一層鞏固ならしむ。主觀的品性徐々に發展し、兒童が能く自己決定をなし、自律的に「明瞭鞏固にして且斷乎」たる判斷に基づき行動するに至りて訓練の事業は始めて完成せらる。

訓練の方法には（一）保持的訓練、（二）決定的訓練（三）規正的訓練及び（四）助成的訓練の四種あり。此の中（一）は兒童をして簡單一様なる生活を行爲自然の結果に照らして正しき選擇決定をなさせしめ、（二）は兒童の行動中不確實にして一貫せざる點に注意せしめ、一定の主義に基づきて行動せしめ、（三）は價值ある原則に従はんとする兒童の努力を助成する爲に行はるゝ訓練なり。

〔ヘルベルト派〕 ヘルベルトの學説は強ひて管理と訓練とを區別し、又其の心理説は今日に於ては陳腐に屬するものなれども、極めて系統的にして、實際に應用し易きを以て、其の發後教育學の發達は宛も衆星の北辰に共ぶが如く一に氏の説を中心として起り、所謂ヘルベルト派なるものを形成せり。今ラインの分類により、ヘル

ベルト派に屬する人々を擧ぐれば左の如し。

舊派 なるべく忠實に師の説を維持せるもの—ヴァイツ・シュトリュンベル・ケルン・シトイ・アンドレー・フオン・ザルゲルグ。

補成派 師説を改良し、なるべく之を完成せんと企てたるもの—チルレル・ヴィルマ・フオゲト。

實際派 師説を實際に應用せんと務めたるもの—アルベルト・ロイツ・ヘルム・フリツク。

獨逸以外にてヘルベルト派と目すべき教育學者には英にフェルキン Felkin アダムス Adams あり、佛にコンパニエリ Compagny あり、米にデ、ガルモ De Garmo パックワージー McKim 兄弟あり。殊に米國にては一八九五年ヘルベルト會 Herbart Society（詳しくは、教育の科學的研究の爲の全國ヘルベルト會）組織せられ、デ、ガルモ其の最初の會長となる。同會は一九〇二年組織を變更し、會名を「教育の科學的研究の爲の全國會」と改め特別の學派に屬せず、廣く教育を科學的に研究することとなし、毎年年報を出す。我國にては明治二十二年獨人ハウスカネヒト Hasekaneh 東京帝國大學にヘルベルトの教育學を講じてより翕然として之に赴き、谷本富氏最も強く之を主張し、ヘルベルト學風は明治三十年代後半に至る迄我教育界を

風評せり。

De Garmos, Herbart and Herbartians.

Lang, O. H. Outline of Herbart Pedagogy

Felkin, H. H. Introduction to the Pedagogy of Herbart.

大瀬甚太郎 最近世歐米教育史

伯林大學 University of Berlin

普魯西文部大臣ヴィルヘルム、フォン、フンボルトの努力により一八〇九年創立、翌年開放せらる。ボン・ミュンヘン・ハンブルヒ大學等につぎて新らしき獨逸大學にして創立當時は僅かに五十八人の教授と二百五十六人の學生を有するに過ぎざりしが、現今にては獨逸最大の大學にして、世界に於ても巴里大學を除けば能く之に匹敵するものなし。神學・法學・醫學・哲學の四學部と農學校・藥學校・齒科學校とを含む。有名なる學者ヴィルヘルム、フォン、フンボルト、フイヒテ、ヘーゲル、ポップ、トレンデルンブルヒ、パウレン、ランケ、モムゼン、フィロコウ、ヘルムホルツ、キルヒホフ、ツ、ポア、レーモン等は何れも此の大學の教授たりき。一九一〇年に於ける學生數九、二四二人(神學三六七、法學二、五二二、醫學一、六四六哲學四、七七一)内女子六三二人、外に聴講生一〇七七人を數ふ。

伯林大學

University of Berlin

普魯西文部大臣ヴィルヘルム、フォン、フンボルトの努力により一八〇九年創立、翌年開放せらる。ボン・ミュンヘン・ハンブルヒ大學等につぎて新らしき獨逸大學にして創立當時は僅かに五十八人の教授と二百五十六人の學生を有するに過ぎざりしが、現今にては獨逸最大の大學にして、世界に於ても巴里大學を除けば能く之に匹敵するものなし。神學・法學・醫學・哲學の四學部と農學校・藥學校・齒科學校とを含む。有名なる學者ヴィルヘルム、フォン、フンボルト、フイヒテ、ヘーゲル、ポップ、トレンデルンブルヒ、パウレン、ランケ、モムゼン、フィロコウ、ヘルムホルツ、キルヒホフ、ツ、ポア、レーモン等は何れも此の大學の教授たりき。一九一〇年に於ける學生數九、二四二人(神學三六七、法學二、五二二、醫學一、六四六哲學四、七七一)内女子六三二人、外に聴講生一〇七七人を數ふ。

瑞西の首府ベルンにある大學。一五二八年宗教改革の影響により已に大學級の學校を設立し、哲學及び神學を教授し、十八世紀に於て法律・醫學・自然科學をも加ふ。後大革命の期間一時中絶せしも一八〇五年再興し、一八三四年公的に大學となる。一八四六一一八五四年間の期間再び衰へしも、爾來徐々に發展して今日に至る。神學(新教及舊教)醫學・哲學の各學部を有し、學生の數(一九一〇年)男子一、六二六人、女子三四五人、内多くの露西亞の留學生あり。外に聴講生五三六人を數ふ。

變異

「變異」に同じ、其の條を見よ。

偏言之仁

專言之仁、偏言之仁の條を見よ。

辨書

昌平榮及び諸藩の學校に行はれたる試験法の一。今昌平榮につきて之を言へば、同校に於て最も重んぜられし學問吟味(昌平坂學問所の條参照)は凡て五場より成り、第一場より第三場に至る迄は凡て經書の辨書、第四場は歴史の和解(史書の記事を解すること)及び問目(歴史的事實の間に答ふること)、第五場は論策(時務等につき自己の意見を述べしむ)にして、其の内辨書は最も重んぜらる。辨書とは經書の文につきて、(一)章意(二)章の大意(三)字訓(字義の

法)の一種の適用に外ならず。

變態

「異常」に同じ。其の條を見よ。

變態心理學

Abnormal Psychology

正常ならざる(多少の度に於て)精神狀態を研究する心理學の一分科。其の範圍頗る廣し。米のテイチナーは之を(一)個人的變態心理學と(二)團體的變態心理學とに二分し、前者を更に(イ)缺陷あるもの又は除外的なるもの(研究(盲・啞・感覺異常の如きもの)、又は天才・低能の如きもの)(ロ)精神作用の一時的障害の研究(睡眠・夢・催眠狀態・幻覺・錯覺・酩酊現象の如き)(ハ)其の永久的障害の研究(即ち精神病學)に區分せり。後者は群集に於て現はる、精神の異常即ち暴動一揆等を其の對象となす。

ベンナム

Jeremy Bentham (1748-1832)

英國の法律學者にして倫理學者。一七八九年「道德及び法律の原理序論」Introduction to the Principles of Morals and Legislation なる書を著して、功利主義を唱道せり。氏は又教育につきても種々の意見を公にし、英國の教育行政につきて論策する所多く、特に一八一六年クレスト

解(三)解義(全文の解釋)(四)餘論(自己の意見の陳述の四者を爲すこと)にして、頗る嚴格なる監視の下に行はれたり。

辨證法

Dialectic

Dialectic なる語は本来「Dialogue (問答)」と同一の語義を有し、廣く問答によりて議論することを指せしが、學術的の用語として種々の歴史的發展を経、終に特殊の意義(例へば後に説くヘーゲルの用法の如き)を有するに至れり。

ツェノーンの辨證法 或觀念を分析して其の中に存する矛盾を指摘し、かゝる觀念の不可能なる事を示す消極的論法なり。ツェノーンはこれによりて、例へば「運動」といふ觀念の如きは成立する能はずとなせり。

ソクラテースの辨證法 辨論應答の手段により人をして自ら事實(特に道德的事實)に關する一定不變の眞理を得しむるを言ふ。此の意味に於て辨證法は開發法と同義なり。

プラトーンは或は之を「分析によりて眞理を研究する方法」の意義に用ひ、或は之を「事物の性質及び其の法則に關する學」即ち形而上學と同一の意義に用ひ、アリストテレスは之を以て「與へられたる問題を多分然るべしと論じ、又は矛盾なく之を辨護する方法」なりとし、下つてストア學派は之を論理學の一部分にして、眞偽に對する論辨の學とせり。然るに

マンア Charakomaha (有用なる學問といふ義)なる一書を公にし、中等教育に於ける古語の學習を輕減し、理科を以て中心教科となすべきことを唱へ、功利主義を教育に應用せんと試みた

ヘンチェル、エルンスト

Ernst Henschel (1804-1875)

獨逸の教育家。ゲリーツの近傍ツォーデヤに生る。プンツララの師範學校に學び一八二二年當時ハルニツシの校長たりしツァイセンフェルスの師範學校に助教師となり、一八二六年首席教師に進み、爾來死に至る迄、他より招聘を卻け同校に職を奉ぜり。特に數學及び音樂の教授法に熟達し、教授法に關する著書頗る多し。

辨別

Discrimination

二個又は二個以上の經驗的要素を區別する心作用。こは或は感覺機關の構造に依存し、例へば音の辨別、色の辨別等の如く)或は高等なる精神作用に依存す。事物を精密に辨別するの能力を養ふは教授の重要な一目的なり。

勉勵

Diligence

活動を喜び進んで自ら活動すること。最も重要な徳の一にして、怠惰に對す。勉勵の習慣は間接には兒童の身體を強健ならしめ、直接には(一)父母・教師及び學友の勉勵により自然に感化すること(二)課業を適度に且興味あらしめ、

④ カント は辨證法を以て「假相の論理」即ら一見眞なる如く見ゆるも實は誤解に基づく論理なりとして、輕蔑の意を以て之に對せり。

ヘーゲルの辨證法 思へらく、一の思想は必ず之に正反對なる思想を潜在的に包含す、此の潜在的ものが顯在的となり、茲に互に矛盾せる兩思想の對立となり、此の對立は一層高等なる思想に擧揚せられ綜合せらる。しかも斯くて得たる高等なる思想は更に自己の内面より正反對の思想を生み、更に新なる綜合に進み、指定(正) Thesis 反指定(反) Antithesis 綜合(合) Synthesis の三段階を無限に反復し、低級概念は次第に高級のものに進行すと。ヘーゲルは概念の斯かる三段階的發展を辨證法と名づけ、一切の實在は宇宙理性的の辨證的發展に外ならずと論定せり。かゝる辨證的發展はカントの思想に於て已に其の萌芽を見、フイヒテに於て已に明かに點出せられたれども之を以て其の全哲學を一貫せるはヘーゲルの特色なり。

教育上 ヘーゲルの上の思想は教育上にも其の影響を及ぼせり。フレイベルが幼稚園の恩物に對する解釋の如きは之を一種の辨證法(ヘーゲルの意味に於て)と見て可なるべく、又ヘーゲル・ローゼンタラントの教育思想の中核と見るべき自己離脱 Selbst-Entfremdung は辨證

法)の一種の適用に外ならず。

特に家庭課業の程度及び分量に注意し、苟しくも過重教育に陥るあるなく、(三)日々規則的に活動するの習慣を附與し(四)兒童の作業に對して満足の意を表し、成效の快感によりて刺激すること等によりて養はる。尙意情につきてのべたる所は反面より勉勵に對する方法と見ることを得。

習慣・模倣。

ポートルレース Port Race  
ベースボール・フットボール等と相並び、多く行はる。學校競技の一。對校ポートルレース中最も著名なるは英國オックスフォード・ケンブリッヂ兩大學の間に行はるるものにして、一八二九年に始まり、一八五六年以後毎年行はる。イートン・ウェストミンスター兩公衆學校の對校競技亦一八二九年に始まり、米國イェール・ハーヴァード兩大學の競技は一八五二年を起原となし、爾後殆んど毎年行はる。コースは一哩乃至二哩のもの多けれども、著名なる對校競技にては四哩以上にも及び、オックスフォード及びケンブリッヂの競技にては四、二五哩なり。競漕者は一般に長命ならず、亦肺・心臓等の病疾患に襲はるゝ事多しとは能く聞く所なれども、モルガン博士 Dr. William Morgan 及び其の他の研究は上の杞憂の根據なきものなるを確立せり。

ポートルレース

ポートルレース

聖オーガスチンの教説即ちアダムの墮落以來人は全く善をなす力を缺く(原罪説)故に救済は偏に神の恩寵によらざるべからずとの説を遵奉

する宗教上の一團體。

〔起原〕 佛國、聖、シラン St. Cymon の僧院長ジャン、メブチスト、ド、ツヘルツェー、ド、ラン、Jean Baptist du Vergier d'Haumenne (一般にサン、シランの名に呼ばる)(1581-1643) 及び和蘭の神學者コルネリウス、ヤーンセ Cornelijs Jansen (1585-1638) (故に又ヤーンセン派とも言ふ) の二人が一六一一年以來佛國シャンブレにて共にオーガスチンの神學を研究せしを以て其の起原となす。其の後ダンテ、アルノー、d'Authilly Arnauld 及び其の妹にしてポートルロワイヤール僧院の尼僧たるアンジェリク Angélique 等々に加はり、アンジェリクはサン、シランを以て該僧院の精神的指導者と仰げり、故に之をポートルロワイヤール派と言ふ。越えて一六三七年サンシランの指導の下に宗教的生活に入らんとする人々ポートル、ロワイヤールに集まり始めて一の小なる宗教的團體を組織す。

〔學校〕 ポートルロワイヤール派は神に對する幼兒の敬虔心を養ふを以て、宗教家の最も高尚なる任務となし、教育を以て其の重要な一事業となせり。されど其の學校は極めて小規模のものにして、サン、シランは六人の兒童を以て一學校の適當なる員數とし、自ら其の小學校を Petites Ecoles と稱せり。故に生徒總數は一般に

二十人乃至二十五人にして、五十人に上りしことは唯僅かに一回ありしのみ。各教師は五人乃至六人の兒童(即ち自己の寢室に收容し得る人員)を擔當し、日夕之と共に起臥し、絶えず監督指導せり。一六三七年サンシラン Singin がサンシランの示唆により、始めて小學校を起せしときは其の數二三人に過ぎざりしが其の後生徒數の増すと共に一六四四年ウエルサイユの近傍ル、シュネイに移り、後再びポートルロワイヤールに復歸し、一六四六年バリーに移り、ランスロー、ニコール・ギュー・ク羅斯テルの四人の教師各六人宛の兒童を擔當して最も整然たる教育を行ひしが、後又バリーを離れ、一六六〇年イェスノータの反對に遇ひルイ十四世は遂に學校の閉鎖を命ぜり。

語に及ぶべしとせり。

〔ロワイヤール派の教育家〕 ロワイヤール派は小規模の一團體に過ぎざりしも、知名の學者及び教育者を出すこと甚だ多く、ル、メートル Le Maître (法律家) バスカル Page (數學者にして且哲學者) 等の外にランスロー、アルノール・ニコール・ギュー Guyot ク羅斯テル Constel 等の教育家何れも此の派に屬せり。

〔クロード、ランスロー〕 Claude Lancelot (1715-1786) 外國語教授に關して特に功績あり、羅甸・希騰・伊太利・西班牙等の諸外國語の學習法に關する教授書を相次いで公にす。

〔アントヌ・アルノール〕 Antoine Arnauld (1612-1694) 始め法律を學びしが一六四八年ロワイヤール派に入り、一六七九年佛國を逐はれ、餘生を白耳義に送れり。多くの著書中論理學 Logique (1682) はアカルトの説を敷衍せしものにして、ロワイヤール派の思想的根據をなせり。

ポートルレース

〔マニール・ニコール〕 Pierre Nicole (1625-1695) 論理學及び道德論(六卷)の著あり。道德論の一部に「貴族の教育法」を收む。

ロワイヤール派の思想は其の後佛國にてはフェロン・ロラン等の教育説に影響し、又獨逸の敬虔主義に少なからざる感化を與へたり。

ポートルレース

ポートルレース

〔教育法〕 ロワイヤール派は前にも述べたる如く、人の罪深きことを主張し、兒童も亦自然に惡に傾くのを有すとなすを以て、其の教育は偏に溫和の情を以て、兒童の精神上の疾病を醫し其の敬虔心を養成せざるべからずとなせり。故に愛は其の第一原理にして、課罰はなるべく之を禁じ、(一)訓戒の言を少くし、(二)なるべく寛容し、(三)多く祈ることを以て教育上の三大格率となせり。教授法につきては凡てアカルトの哲學に其の根據を求め、デカルトと等しく國語の教授を獎勵し、先づ國語に習熟したる後古

Thomas Horne (1610-1684)

英國の教育家。オックスフォード大學卒業後、倫敦の私立學校、レスターの貧民學校等に教鞭を取り、一六三八年トンプリッジ學校長となる。在職十年、同四八年イートンカレッジの長に轉じ、終生其の職にあり。又著述家として名あり。彼はサラマンカのイェスイタ派カレッジの校長ウィリアム・バース W. Bache (1564-1611) の「語學入門」(コメニウスの語學入門は此の書の影響を受くること大なり) の最終の英譯者にして、同時に、コメニウスの「語學入門」の最初の英譯者たりし外、又讀方教授・修辭法等に關する著述をなせり。

ホーン、ブック Hornbook

初學者用の入門書。把手を有する木板の上にアルファベット、母、綴字、新講用の語及び羅馬數字を記せる紙を貼附し、其の上に透明なる角の薄片を載せて之を作る。木板の把手には穴を穿ち、紐を通して、首又は腰に帯び得る装置あり。十六世紀の始より、十八世紀迄廣く英・米二國に行はれたり。

保育 Pledge

幼稚園の教育。幼稚園の教育が、兒童の幼兒の身體及び精神を保護し、自然的にして正常なる發達を遂げしむるを目的とし、そが學校的ならずして寧ろ家庭的なるべきより、之を一般の學



校教育に區別して、斯く名づく。「幼稚園」の條を見よ。

法家

法を以て國を治めんとするもの、即ち法治主義を取れる學者の總稱。蓋し徳を以て國を治めんとする儒家の徳治主義と相對するものなり。王霸の別を以て言へば徳治主義は偏に先王の道に據り王道なれども、法治主義は霸道なり。従つて法家は儒教と相反せる黄老(老子の條參照)の思想を取り、人君は須らく虚静・無爲・無欲なるべしとなす人君執心の術と及び無爲の理想の治世を描く點に於て黄老派に相一致す。されど法治主義は本來法を本とし、信賞必罰を期するを以て、若し冷冽者流の治者たるに於ては人情を無視する嫌なきにあらず。故に班固は法家を評して「及刻者爲之、則無教化、去仁愛、專任刑法、而欲以政治、至於殘害至親、傷恩薄厚」といへり。管子(管仲)・申子(申不害)・商子(商鞅)・韓非子等は何れも有名の法家なり。殊に韓非子は荀子に學び、其の性惡説を受け、之に黄老の學及び申・商諸子の意見を加へ最も徹底せる法治主義を説けり。

忘却

以前に経験せし事項を再生し得ざる状態。精神能力の衰退又は其の他種々の條件に基づきて起り、何人にも起り得べき正常の現象なり。

健忘の如き異常の状態とは明かに區別せられざるべからず。忘却の法則につきては「記憶」の條中、把住の項を見よ。

放校

Expulsion

放校處分は小學校に於ては各國共に殆ど之を行ふことなし。蓋し、小學校の教育は強制教育にして、放校は強制教育の精神に反するものなればなり。故に若し兒童の性行不良にして他の兒童の教育に妨ある場合には、一時其の出席を停止するか又は之を特別の教育所に送らざるべからず。されど中學教育以上の學校及び私立學校に於ては今尙放校處分をなすこと尠からず。

放散

Irradiation

神經刺激が正常の神經路以外に波及し、其の結果一の末梢機關の刺激が、之と直接に相關させる中樞以外の他の中樞機關を刺激するを言ふ。一定の局部に起りし痛覺が其の近傍に放散し、何れの局部に痛の起りしやを知るに苦しみ、又は網膜の一部の刺激せらるゝとき其の興奮を近傍の網膜に波及するが如きは其の一例なり。

放心

Absent-mindedness

注意を一定の對象に集中せるが爲め、其の他の對象に對し全く不注意となりし状態。  
● 放心の習慣となり、普通には容易に意識の對象たり得る對象に不注意となり、且注意の

報徳教

二宮尊徳の條を見よ。

方法

Method

一定の目的を達せんが爲にて、具案的に遂行する處理。

教授の方法につきては教授の形式・教授の原理・形式的段階・教授の様式・分析と綜合・ソクラテス法・再發見法・辨證法等の諸條を見よ。

方法的單元

單元の條を見よ。

方法論

Methodology (Methodentic)

眞理の探求に關する一般の原理を取扱ふ論理學の部門。方法論は通常之を(一)個々の事實より進みて一般の原理を發見するに至る探求的方法(發見的方法)と(二)既得の知識を整理し探求の基礎を作る統整的方法とに分かつ。前者は所謂歸納的方法にしてペイコン・ミル等によりて其の基礎を置かれたるもの、時としては單に之のみを狭義に方法論と言ふことあり。後者即ち統整的方法は通常之を定義・分類及び論證の三部に分かつ。方法論の詳細につてはミルの「論理學系統」System of Logic ユウケンズの「科學の原理」Principles of Logic 等に見るをべく、又ウエントの論理學は之につきて述ぶる所最も詳かなり。

法隆寺學問所

焦點の移動が困難となりし變態現象。この意味に於ける放心者の言語動作は人の意表に出づる事多し。習慣的の放心は又老年期の一特徴をなす。

法政大學

東京市麹町區富士見町にあり。我國の私立法律學校中起原最も古く、明治十二年二月東京法學社を創立せしに始まり、同十四年東京法學校と改め、同二十二年更に東京佛學校と合して和佛法律學校と稱し、同三十六年八月二十八日專門學校令に依り法政大學と改稱し、大正九年新大學令により大學組織に改む。現今之を大學部(法學部・經濟學部・文學部)大學豫科(之を第一部と第二部とに分かつ)専門部に分ち、又別に聽講生の制を設く。機關雜誌として法學志林を發行す。

妄想

Delusion

事實上を背反せる、多少永續的なる誤謬の信仰。(一)同一事情の下にある多數の經驗と矛盾し、(二)道理を以て論ずる之を是正する能はず、(三)又屢々周囲の人々に惡影響を及ぼす行動の源泉となること等を以て其の特徴となす。妄想は或は之を固定的妄想と、一時的妄想に分ち、或は之を發揚性妄想(誇大妄想・發明妄想の如き)抑鬱性妄想(罪業妄想・貧困妄想・被害妄想の如き)とに分ち、或は之を妄想の關係す

ボエーシウス、アンキウス、マンリウス、セウエリヌス

Ancius Manlius Severinus Boethius (480?-1525)

羅馬の哲學者・政治家にして中世初期に於ける最大學者の一人なり。プラトーン・アリストテレス等の著を或は翻譯し、或は之に註釋を加へ、後世希臘哲學研究者に多大の便を與へ、又自ら音楽・辨證法及び其の他の自由科(七自由科の條參照)に關する著述をなせるが、是等は何れも永く教科書として使用せられ、中にも音楽に關するもの如きは第十八世紀に至る迄用ひらる。又彼の論理學上の著述よりして中世の名目論・質念論の争も起り來れりといふ。

卜齋文庫

又淺草文庫とも言ひ、將軍家綱の時代に於て醫師板坂卜齋(明暦元年歿)が致仕の後江戸淺草に設けしものにして、和漢の書數千部を集め來

る觀念の種類に應じ(甲)外界に關する妄想、(乙)opyschie(迫害・監禁等の妄想の如き)(丙)身體に關するもの somatopsychic(妊娠の妄想・身體中に動物住めりとの妄想の如き)及び(丙)精神に關するもの autopsychic(發明妄想・罪惡妄想の如きもの)の三種に分かつ。此の中最後の分類は最も完全なりと稱せらる。

妄想と錯覺及び幻覺との區別は錯覺及び幻覺は直接に感覺的刺激に基づきて起れども、妄想は主として精神内部より起り、感覺の内容を有すること極めて少きの點にあり。

法則

Law

普通に行はれ又は行はれざるべからずと認められたる、事物・現象間の必然的關係の表明。法則は或は事物の觀察・實驗に始まり假説と檢證とを経て歸納的に立せられ、或は何人も承認せざるを得ざる自明の原理より演繹的に證明の道を経て成る。

普通、法則を分かつて必然の法則と當爲の法則の二種となす。前者は事物の必ず従ひつゝある所のものにして自然科学の法則に凡て之に屬す。然るに後者は反之必ず之に従ふとはあらざれども、しかも必ず守らざるべからざるものにして倫理學・論理學等の法則は之に屬す。當爲の法則は又之を規範とも言ふ。

歸納法・演繹法・假説・檢證・定理・規範

庶の縦覽に供せり。

墨子

墨子名は翟、其の年代明らかならざれども、孔子の晩年に生まれ、子思・列子の徒と同時代なりしが如し。宋の大夫となり、守禦を善くし、節用を爲せり。人格高潔、秦漢時代にありては屢々「孔墨」とて孔子と並べ稱せられき。墨子の思想中最も注意すべきは其の兼愛説にして、思へらく、吾人は親疎の別なく、同様に人を愛すること、なほ天の萬物を平等に愛するが如くなるべし。若し天下の人悉く兼愛を以て理想となし、互に相愛し相利するときは天下自ら治まらん。彼の互に相攻め、國々相征し、戰鬪是れ事とする如きは、最も此の理想に遠ざかるものなり。斯くて墨子は親疎によりて愛の度を異にし、例へば己れの父母と他人の父母とに於て愛に差等あるが如き所謂別愛を排せり。孟子が儒教の立場よりして別愛説を取り、痛く墨子を攻撃せるは是が爲にして、墨子の説は、父を無みする禽獸の道なりと迄極論せり。

其の他墨子は國家を富強ならしめんが爲に儉を貴び、葬禮を節し(節葬論)樂に耽るを戒め(非樂論)、且つ貧富・治亂・天壽・賞罰は凡て運命なりとなす所謂宿命論に反對し、如此は人が富まんとし、壽ならんとし、賞せられんとする努力を無視するものなりとして、始めて非命説を

唱へたり。此の節葬・非樂・非命の諸説の如きは何れも支那古來の思想に反對せるものにして、墨子の説は寧ろ從來の思想に伴なふ弊害に着眼し、經世の上より立論せるものと見るを得べし。

補習教育

Continuation Education.

半途にして學校を退學し、若しくは卒業の後一定の職業を有するものに對して施す教育。此の意味にて、下は尋常小學校に附設せる補習科より上は近時英米にて盛行する、大學擴張運動に至るまで、之を廣く補習教育の下に包括することを得。

〔諸外國の補習教育〕

(イ)獨逸 補習教育機關の最も完備せるは獨逸にして、同國の補習教育は其の端を、日曜日の午後宗教教授を施せる日曜學校(一五六九年サムランドの僧正之を創む)に發し、其後次第に規模を擴張し、日曜以外の夜間にも之を教授するに至りしが、一八七〇年以來時の大臣フアルク・ヒッの努力により、俄に發展し、終に今日の盛況を見るに至れり。現時獨逸の補習教育は之を一般の補習學校 Allgemeine Fortbildungsschulen 實業補習學校 Gewerbliche F. の二種に分ち、國民學校卒業生を入学せしめ修業年限共に二個年乃至三個年にして、多く強制的制度を取る、殊に一八九一年政府が補習教育を強

制となすべきことを令してより、現今にては二十六州中二十二州之を強制せり。尙日曜又は夜間の教授を廢し、一週六時間乃至八時間、夜間教授よりも寧ろ晝間教授をなさんとする傾向近時増加し來れり。

(ロ)英國

英國の補習教育は從來主として夜學校 Evening Schools に於て行はれたり。夜學校は一八〇六年始めてプリストルに開き、讀方・算術・習字を教授せしが、日を追うて盛大に赴くと共に一八五一年以來政府は之に補助金を支給し、一八九〇年以後其の教科に實業科目を加ふ。生徒の年齢は十二歳以上、教授の季節は一般に九月より翌年四月に至り、毎週教授時數六時間乃至八時間なり。然るに其の後一九一八年法令の大改正を行ひ、補習教育を強制せり。此の法令によれば、凡そ十四歳乃至十八歳に至る青年は一週八時間(午前七時より午後八時の間に於て)一年四十週計三百二十時間(但本令實施より七時間、十四歳乃至十六歳とし一年二百八十時間に減ずることを得)凡て補習學校に就學すべく、唯十六歳に至る迄他の學校に就學せるもののみ義務を免除せらる。補習學校は無月謝にして教科の組織は地方の状況により一定せざれども、極端に職業的なるを避け、人文的要素を加へ、善良なる市民の養成を以て其の目的となす。(イギリスの教育の條参照)

(ハ)佛國

一八二〇年妥めて巴里に夜學校を創し、十九世紀の後半以後次第に隆盛に赴けり。未だ強制的制を取るに至らざれども、試験・賞與等の方法により之を奨励せり。其の種類を無學なる大人に施す大人級 Cours d'adultes 學科の補習をなす完成級 C. complementaires 實業を教授する實業級 C. techniques の三種に分かつ。

(ニ)米國

合衆國にては一七三〇年代以後私立夜學校各地に起り、一八三〇年代以後公立夜學校亦起り、同六八年以後中等程度の夜學校を起したれども、是等は何れも一般的陶冶を重んじ、實業的の補習教育は未だ充分發達せず。(補習教育以外に於ける實業教育は米國に於ては大に發達せり)

〔我國の規程〕

我國に於ても亦諸外國に於ける如く、補習教育は之を普通教育の補習をなすもの即ち所謂補習科を職業的陶冶を施す實業補習教育とに二分することを得。實業補習學校につきては別に項を設けて説明したれば茲には唯前者につきて述ぶることとなすべし。

補習科には(一)尋常小學校を卒業したるもの又は之と同等以上の學力を有するものに尋常小學校の教科を補習せしむる尋常小學校の補習科(二)高等小學校を卒業したるもの又は之と同等以上の學力を有するものに高等小學校の教科を補習する高等小學校の補習科の二種あり。修業

年限何れも二個年以下にして、其の年限・教科目等は土地の情況に應じて決定すべく、教授の期節亦農閑又は長夜の時期を利用し、毎週教授時數亦便宜之を定め、府縣知事の認可を受くべき定めにして、法令の規定極めて自由なり。又高等小學校の補習科は兒童の年漸く長ずるを以て、其の教授時間を正教科の教授時間内に定めたる場合の外は、男女を區別し、各其の生活に適切な教育を施すべき事とせり。大正七年度に於ける補習科設置の小學校は公私立合して、尋常小學校三〇二五校(内私立八校)高等小學校(公立のみ)二二九校にして、生徒數は尋常補習科一、八六五人、高等補習科三、一一〇人なり。

補充讀本

Supplementary Readers

教科書以外、補充として個々の兒童に使用せしむる讀本。補充讀本は(一)教材の一層豐富なる内容を知らしめんが爲に(二)單調を避くる爲に(三)兒童の能力に應じ、適當に之を配當して、其の研究心を刺激する爲に之を用ふ。教科書として採用せられたる讀本が、讀書力を養成するを目的とし、深く内容を省みず、形式的なるとき及び、地理・歴史等の教科書が簡單を旨とし、内容上其の骨子を示すに止まるるときは、補充讀本の採擇は特に必要なりとす。唯、其の分量と程度は固より兒童の能力に應じ、取捨すべく、是が爲に正規の課業に支障を來すことあるな

く、其の内容將た教育的に選擇せられたるものならざるべからず。補習讀本はなるべく學校に於て之を備附け置くを可なりとす。

補助學校

Hilfschulen

特殊學級の條を見よ。

戊申詔書

明治四十一年戊申十月十三日明治天皇の下し賜ひし詔書。蓋し明治三十七八年戰役以後國民が奢侈輕佻に向ふの趣きありしかば、之に軫念したまひし結果にして、「上下心ヲ一ニシ、忠實業ニ服シ、勤儉虚ヲ治メ、惟レ信惟レ義、醇厚俗ヲ成シ、華ヲ去リ、實ニ就キ、荒怠相戒メ、自強息マザルベシ」と宣らせ、専ら勤儉實業なるべきを戒めまふ。教育上教育勸語につきて、重大の意義を有する聖勅なり。

細井平洲

(二三八八一) (二四六一)

平洲姓は紀、名に徳民、字は世馨、通稱甚三郎、平洲と號し、享保十三年尾張に生まる。始め名古屋に行き中西淡圃に就て學び、又長崎に遊學し、二十四歳の時、其の師淡圃の江戸に移るに従ひて東上し、嘯鳴塾を開きて學徒を教授す。米澤侯上杉治憲(鷹山公)其の名を聞き、明和元年迎へて賓師となす。後治憲が興讓館を興すや、其の學規を定め、又自ら講義せり。米澤藩文教の盛なる平洲の教育興りて力あり。安永九年五十三歳を以て、始めて張侯に謁見し、



其の知遇を受けて、明倫堂の革新に従事して教を擧げ、又屢々巡回講義をなせり。享和元年病歿す、年七十有四。平洲人となり温厚篤實、操守極めて固く、且辯舌に長じ、其の講義を聴くもの感泣せざるはなかりきと言ふ。

平洲常に曰へらく、聖學の要は徳を成すにありて學派にあらずと。故を以て漢唐の古註を重んずれども、必ずしも之に拘泥せず、宋明の學に參し、所謂折衷派に屬す。門人を教ふるにも、各其の好む所に從ひて學ばしめ、學問の要を以て徳性の涵養にありせり。對某侯書「櫻鳴館遺草卷六」の一節に曰く「御國に學問所を御造立被遊候御本意は、御先祖様よりの風俗を失ひ不申、萬人安堵仕候様に被遊度と申所極意にて、人を利口發明に被遊度と申所にては無御座候。……扱人を教へ候ても百人が百人一様には不參もの、人心は各々別なる事は不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>申上<sub>レ</sub>候……聖人(孔子)の御徳にても御一様に教へ立てられ候事は不<sub>レ</sub>相成<sub>レ</sub>ものかと被<sub>レ</sub>存候、併し人が

善良に相成候所は一同に御座候。」と。以て其の教育上の意見を窺ふに足るべし。

ホツグ、クインティン

Quintin Hoag (1845-1903)

英國の慈善家にして、諸藝學校の創設者なり。倫敦に生まる。イトトン在學中は卓越せる運動家として、名聲を馳せ、卒業の後實業に従事せしが、無告の少年子女に對して深く同情し、自ら其の間に交りて、彼等の状態を究め、終に之を教育せんと志し、先づ二人の掃除兒を集め、蠟燭の光によりて聖書を教授せり。是れ即ち諸藝學校 Polytechnic の濫觴にして、翌年ヨークブレスに一家を借りて、之に移り、ホツグ自ら莫大なる私財を投じて、其の發展を計り、一八八一年レジエント街に始めて大なる校舍を起すに至れり。其の後之に倣ひて諸藝學校を設くるもの甚だ多く、一八八三年以來政府は之に對して補助金を交附するに至れり。

發心 Conversion

宗教的發心の心理は、近時スターバック Starbuck、ニューコグ 我が石神徳門氏等によりて研究せられたり。スターバックは質問法によりて得たる多くの人の宗教的經驗を統計彙類せるが、其の結果によれば、發心の最も多く現はるは十六歳にして、之に次ぐは十二及び十八歳なり。此の結果よりして、氏は發心と青春期と密接の關係を起せり。

ボニツ、ヘルマン

Hermann Bonitz (1814-1888)

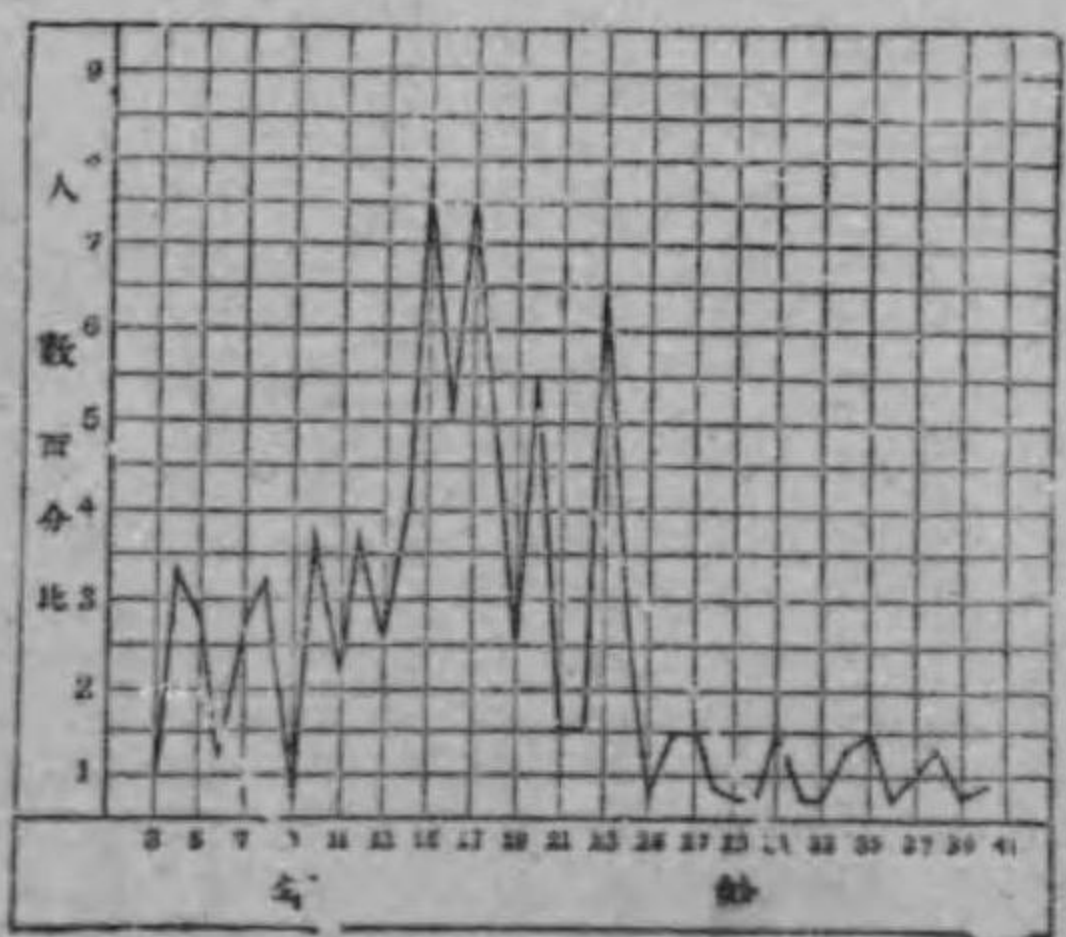
獨逸の言語學者にして教育學者。ランゲンザルツに生まる。プフォルタの學校を経てライプツヒ及びベルリンの大學に言語學を修め、一八三六年以來十數年間文科中學校の教師たりしが、一八四八年維也納に聘せられ、同地の大學に言語學を教ふる傍ら、エクステルを助けて、獨逸中等教育令を改正し、教育上一大革命を企てたり。一八六七年ベルリンのアラウエンクrostel 文科中學校長として獨逸に歸り、同七年普魯西文部大臣の教育顧問となり、死に至る迄其の職にあり。言語學者として氏は又希臘古典にプラトーン及びアリストテレスに關する多くの著書を公にせり。

保姆

Kindergartners

幼稚園の教師。小學校令施行規則第二百四條に「幼稚園にて幼児を保育するものを保姆とす」と言ひ、其の資格を定めて「保姆は女子にして小學校の本科正教員又は准教員たるべき資格を有するもの又は府縣知事の免許を得たるものたるべし。」とせり。

係あるを確め、且、男子と女子を比較すれば女子の發心は、男子に比して大凡二年早く、其の



宗教的信仰の入りたる年齢と合歩

宗教的經驗は男子よりも一層感情的にして暗示せられ易きを見たり。コイの研究の結果亦スターバックと大差なく、石神氏の研究も略ぼ之に近き結果を得たり。

ボツドリ圖書館

Bodleian Library

歐洲に於ける最古の公開圖書館。一五九七年英國オックスフォードに設けらる。トマス、ボツドリ Thomas Bodley (1545-1613) の寄附に成るを以て此の名あり。館は一六〇三年盛大なる儀式を以て公式に開館し、翌一六〇四年ジュームズ

ホメロス

(希) Homeros (英) Homer

西紀前九世紀頃に生存せる叙事詩人。イリアッド Iliad 及びオディッセイ Odyssey の著者なりと稱せらる。此の中イリアッドはトロヤ戰爭につきて記し、オディッセイはトロヤ没落後オディッセウス Odysseus が神の怒に觸れ、歸途海上に彷徨し、其の妻ペネロペ Penelope が二十年間郷里にありて苦節を守りたる事を記せるもの。共に希臘人の日々愛誦する所にして、詩中の人物は凡て希臘人の理想として仰ぎし所。希臘の教育は此の二書を中心として行はれたるものなりと言ふも、可なし。加ふるに文藝復興以來此の二者は歐洲各國に於ける古典の教科書として採用せられ、歐洲の文化に大なる影響を及ぼせり。

ホメロスに就きては上の二大詩の作者たりと言ふの外、何等の據るべき材料なきを以て、或はホメロスを以て歴史上の人物にあらずとなし、或は此の二大詩は一人の作にあらずと説く。こはホメロス論争と稱せらるるものにして、ゾルフ Wolf を始め幾多の研究家の考證あり。現今にては本来一人の作なれど、後多くの作者により多少の附加と改竄とを加へたるものなりとなすの説有力なるもの如し。

ホブズ、トマス

Thomas Hobbes (1588-1679)

英國著名の大哲學者。ウイルトシャー州マムズベリーに生まる。オックスフォード大學にて、アリストテレスの哲學及びスコラ哲學を學び、デヴォンシャー伯の家庭教師となり、伴なはれて歐洲の各地を旅行せり。一六四〇年巴里に移り、同七年英國王子(後のチャールズ二世)の數學教師となる。一六五三年其の著「レヴァイアサン」の爲に筆禍を蒙り、迫害せられて英國に歸り、後専ら著述の完成に力めたり。王朝復興するに及びチャールズ二世の優遇を受け、年金を給せらる。

氏は其の哲學に於て機械的唯物論を取り、自然現象及び生理現象を運動によりて説明し、一切の精神作用は感覺より派生すと説き、しかも此の感覺作用も身體と其の運動によりて規定せらるとせり。又倫理學にては大膽なる自我説を主張し、人は自然の状態にては互に自己の利益の爲に絶えず鬭争すとなし、此の前提より國家論に於て民約説をなすに至れり。又其の大著「レヴァイアサン」にて教育上の問題にも觸れ、盛に

### 堀川學派 葡萄牙の教育

伊藤仁齋の條を見よ。  
Education of Portugal

〔沿革〕 葡萄牙の教育は王ディニース Dom Diniz の治世より始まる。王は農業學校を起し、又一二九〇年リスボン大學(後一三〇七年コインブラに移る)を設立し、教育の爲に力を用ひたり。されど中等及び初等教育は中世に於てはさまで顧みられざりき。十六世紀に於てイエスキタ派の起ると共に國內の教育は全然同派の手に歸し、しかも同派は専ら力を上派子弟の教育にのみ注ぎたりき。下つて十八世紀に入るや有名なる政事家ポンバル Pombal (1689-1782) は一七五〇年始めて教育に關する法令を布き爾來教育の事次第に起りしも、佛國革命の影響によりて一頓挫を來し、一八四四年再び教育令を出すに及び、現行制度の基礎漸く成れり。同令にては全國を二十一區に分ち、各區に中學校及び之に相應する小學校を設くべく、兒童の教育は之を強制し、故なくして子女を學校に送らざるものは罰金に處し、又中央に教育會議を置けり。

後一八九〇年再び之を中央に移し、始めて文部大臣を置く。然るにやがて又一八九二年文部大臣を廢し、之を内務大臣の支配に屬せしむ。〔小學校〕 一八九七年の小學校令を以て小學校を初等高等の二階級に分ち、一九一一年強制教育の制を布く。高等小學校は人口四千以上の都市に是を設くる定めなれども、現今にては師範學校の附屬として存するのみ。初等小學校は又是を上級下級に別ち、下級は六歳より十二歳に至る義務教育期間の兒童を收容す。上級を卒業したるものあらざれば中學校に入るを得ず。教科は讀方・書方・算術・修身及宗教教授。教科書は凡て之を國家にて公定し、五年毎に檢定出願の教科書につき、審査官之を決定す。私立學校と雖も公定以外のものを採用するを得ず。小學校の教員は師範學校にて是を養成す。現今オポルト及びリスボンに於て、男女各一校、計四校の國立師範學校、各地方の主要なる都市に其の豫備學校と教員養成校とを置く。三歳より六歳の幼兒を教育する母親學校、及び夜間補習學校亦教育系統の一部と認めらる。葡萄牙の初等教育は未だ甚だ不振の狀態にあり。一九〇〇年に於て六歳以上のものにして、文盲者七十八パーセントを算せりと言ふ。其の後

にても國內争亂絶えざれば尙七十パーセント以上文盲なるべしと推せらる。一九一五年に於ける公立小學校の數六、七〇六校、兒童數三四二、七六三人なり。〔中等教育〕 現行中學校令は一八九四年の制定にして、是によれば全國を三大學區(リスボン・コインブラ・オポルトを中心とする)に區分し、各地の重なる都市には中學校を置くべきを定む。中學校亦二階級あり、一は修業年限七個年、他は五個年にして、五個年課程のものを修了せるものは七個年課程の第六級に編入せらる。現今州立中學三十校、市立一校にを數ふ。外にリスボンに女子公立中學校あり。〔高等教育〕 大學はコインブラに之を置く。四分科制度にして、一九一〇年には學生千三百五十二人に達す。又一九一〇年リスボンの文科大學(一八五八年設立)諸醫學校、醫學校を合してリスボン大學を編制せり。此の外高等教育の機關として、リスボンに商工學院あり、リスボン及びオポルトに美術學校あり。醫學校及び藥學校各三校を數ふ。

### ボローニヤ大學

University of Bologna

歐洲最古の大學。一一五八年始めて皇帝フレデリック、バーボラにより正式に認可せらる。歐洲の大學は多くは其の始めパリ大學か若し

くはボローニヤ大學に模して設立せられたるものなり。法學部最も早く發達し、又最も名あり。醫學部・藝術部(後の哲學部)之に次ぎ、神學部最後に發達す。女子の入学を許せるのみならず、十八世の始めに於て已に女子の教授すらありき。一九〇九年に於て學生大凡二千人を數ふ。

### 本山學校

(獨) Domschulen, oder Kathedralschulen.  
(英) Cathedral Schools

本山所在地に於て僧侶志望者を教育することには聖アウグスティヌス以後一般に行はれしが、クロデカンガに至りて始め一定を組織を具ふ。即ち第八世紀に於て、獨逸メッツの大僧正クロデカンガ (Chrodegang (712?-766)) は、メネテクトの定めたる僧徒の制度に基づき、一の僧徒制(七六四年)を定め、其の中に學校設立に關する規定をも掲げ、將來僧侶たるべきもの及び貴族の子弟を教育する學校を設立せり。本山學校是より乃ち盛なり。其の後カロロ大帝の助力を得八〇二年アークン(エークス、ラ、シャペル)の宗教會議に於て、一般の承認する所となり、僧徒學校と相並んで中世初期の教育を支配したりしが十二世紀に及んで衰頽に赴けり。教育の内容及び方法につきては略ぼ僧徒學校に等し。

### ボン大學

University of Bonn

ボンボン

獨逸ボン市にある大學。一八一八年普魯西王フリードリッヒ、ゲイルヘルム三世の創立に係り、ミュンヘン大學を除きては獨逸帝國中新大學なれども、規模の大なるベルリン・ミュンヘン及びライプツヒヒ大學に次ぎ、第四位にあり。始め一七七七年選舉侯マクシミリアン、フリードリッヒボン市に一のアカデミーを起し、同アカデミーは一七八四年大學の地位に進みしも、十年の後佛國が同地を占領するに及び廢校せしが、一八一八年西方普魯西の學術の中心たらしめんとすの政策の下に再興せらる。現今、新教及び舊教神學・法學・醫學・哲學の四分科を有し、農學校をも附設す。圖書館は大凡三二五、〇〇〇卷の圖書と一、五〇〇の寫本を有す。一九一〇年の學生數三、五九八人、中にも哲學科最も多く二、〇一八人に達す。外に二八二人の聽講生あり。

### 本體論

Ontology

實在の究竟的性質を研究する學。彼の哲學上の重要問題たる二元論・一元論・唯物論・唯心論等の問題は本體論の與る所なりとす。故に本體論は認識論に相對する哲學上の一分科にして狹義の形而上學に當れり。

### 本地垂迹

神道の條を見よ。

### 本能

Instinct

● 廣義には生まれながらにして有する凡ての性能を指す。本能的なる形容詞は屢々此の意義に使用せらる。  
○ 目的を豫知することなく、又之に對する豫備的教育又は練習なくして、しかも能く目的に適合する行動を營む能力。例へば鳥の生れながらにして巢を營み得るが如し。學術上本能と言ふ場合は此の第二の意義に限らる。  
「本能的」なる語は「衝動的」なる語と混同せらるることあれど、本能的といへば刺戟と運動との連絡が先天的に一定せる場合を指し、衝動的とは必ずしも其の一定を豫想せず。次ぎに本能による動作即ち本能的動作と反射運動との區別につきては(一)反射運動は全く無意識なれども、本能的動作は意識的にして、必ず刺戟に對する知覺と之に伴なふ感情とありて、然る後運動に移りし、(二)反射運動は動作甚だ簡單なれども、本能的動作は概して複雑にして、其の全活動中に簡單なる運動の一系列を含み(鳥の巢を營む場合につきて見よ)(三)本能的動作は常に快感を伴なへども反射運動は必ずしも然らず。最後に本能的動作は第二次自動運動と頗る相似たれども兩者は全く起原を異にし、前者の先天的なるに反し、後者は後天的たり。  
「本能の發現」 本能の發現には一定の時期あり、之を本能の定期性といふ。人類に於て最も

早く現るゝは自己保存の本能にして、最も遅きは種族保存の本能なり。又本能は其の發動期に當りて適當なる刺激を缺くときは遂に發現せずして止むことあり、之を本能の一時性といふ。

〔本能の種類〕 本能は其の種類甚だ多く到底數へ盡くすを得ずと雖も、其の目的よりして之を次の四種に大別することを得。

● 個體的本能(自己保存の本能) 個體の保存と幸福とを其の目的となすものにして、例へば食物を攝取する營養本能、自己を防衛する争闘本能、逃避本能、排斥本能等の如し。

● 種族的本能 種族の保存を目的とするものにして、兩性相愛の性的本能、兒子を養育する保育本能等は之に屬す。

● 社會的・社會的維持發達に必要な本能にして、群居の本能、共働の本能、愛他の本能等は之に屬す。

● 順應的・順應的(發達の本能) 生物をして外界に順應することを學ばしむる本能にして、身心發達の基礎とも稱すべきものなり。穿鑿・構成・模倣・遊戯等に關する本能は之に屬す。

〔本能の起原〕 本能の起原につきては左の諸種の意見ありて未だ一定せず。

① 睿智失跡説 The Injured Intelligence theory. 其の始め睿智的なりし精神活動が反復の結果第二次自動運動となり、生理的遺傳によりて

後代に傳へられたるものなりとなす説にして、ヴント・コープ・アイメル等之を主張す。

② 反射説 The reflex theory. 本能を以て境遇に對する反射的順應の次第に蓄積せられ、自然淘汰により保存せられたるものとなす見解にして、スペンサー・ダーウイン等之を唱ふ。ローマ・ネスは以上の(イ)(ロ)共に一部分の眞理を含み、相待ちて本能を成すとの折衷説を取れり。

③ 有機的淘汰説 The organic selection theory. 凡ての順應は睿智的なる有機的たるとを問はず一有機體を保護するの効果を有す。而して此の保護あるが故に、他方に於て自然淘汰によりて生ずる趨異が漸次固定して本能となることを得となすものにして、こは(ロ)の説が、

凡て本能は其の發達の始めにありては未だ個體に有効なる結果を來さざるに拘らず、それが如何にして保存せられしかを説明する能はざりし缺點を補ふに足る一新説にして、モルガン・グロース・ポールドウイン・スタウト等之を唱ふ。

〔本能の變化と教育〕 本能は遺傳的傾向なれども必ずしも固定せるものにあらず、境遇に應じて、多少之を變化することを得。例へば啄むことは鳥の本能なれども、經驗の結果惡臭ある物を啄むことを禁止し、人見知り幼児の通有性なれども多數の人に接見するに従ひ、其の度を

減ずるが如し。殊に人類の本能にありては遺傳として享受するものは其の大體の輪郭に止まり、一々の内容は生後の經驗によりて決定せらるゝこと多く、之を彼の比較的確定せる形式を有する動物の本能に比すれば其の變化甚だ容易なり。人に於て本能と稱せらるゝものは多くは先天的要素に後天的經驗の結果を加へたるものにして、本能と習慣との結合より成り、其の如何ばかり、遺傳的にして、如何ばかり生後の經驗によれるかは容易に之を決定する事能はず。人類の本能が其の數に於て動物より遙に少きかの觀を呈するは實は其の習慣による部分の比較的

多きが爲にして、其の實決して少數ならざるべし。

本能の發現には前に述べたる如く一定の時期あるを以て、其の發現期に際し、適當なる指導を代へざる可らず。鐵は熱せられたる時に當り之を鍛へざるべからず。若し適當なる指導を加ふるときは不良なる本能をも徐々に醇化するべしと必ずしも不可能にあらず。

**本務** Duty 本務はもと拉丁語の debere より來り、他に負ふ所あるを意味し、倫理學上道德的法則が人に爲すべく要求する所のものを指す。詳言すれば本務は道德的法則以外の動機に動かされんとする人と道德的法則との間に存する倫理的關

係なり。而して道德的法則以外の動機を排し、本務を遂行せんとする心的状態を責務の感

★ マネ

マードル、カルル、ウィルヘルム

Karl Wilhelm Mager (1810—1883)

本務につき倫理學上二様の見解あり。其の一は、若し吾人の行爲が自然に道德的法則に合するに至らば、換言すれば人性が道德化し、他よりの制裁(政治的・宗教的・社會的)を受くること減ずるに従ひ本務及び責任の感は次第に減じ、終には全く消滅するに至るとなすものにして、スペンサー等の進化論的倫理説之を主張し、他は本務を以て道德の根本概念となすものにしてカント及び直覺派の倫理説之に屬す。カントは本務は實踐理性が、理性的ならざるもの本動機とする意志に對する法則にして、常に永久に無上命法として吾人に絶対服従を命ずとなせり。

本有觀念

生得觀念に同じ、其の條を見よ。

獨逸著名の教育家。ライン地方ゾーリンゲン

其の熱心なる學徒となる。

**マリー、デーヴィッド** David Murray (1830—1905)

米國の教育家にして、明治初年に於ける我が國の教育顧問。一八五二年ユニオンカレッジ卒業後、一八五七年に至る五年間オールドニ、アカデミーの教師となり、同年校長に進みしが、一八六三年ラットジャース、カレッジの教師に轉じ、一八七三年に至る。始めより同カレッジに入學せる日本の學生に對して好意を寄せたりしが一八七三年我が教育顧問に聘せられ我が國民教育制度を確立するに與りて力あり。一八七九年辭して故國に歸るに當り、政府は其の功を彰せんが爲に特に勳三等旭日章を贈る。一八八〇年ニューヨーク州大學監督局長に任じ、一八八九年に至る。同年公職を退きしも、尙二三回ユニオンカレッジ・ジョンズ、ホプキンス、カレッジ等にて日本に關する講演をなせり。「陸地測量」 Land Surveying (1869) 「日本の教育」 Japanese Education (1876) ニュージャージー教育史 History of Education in New Jersey (1899) 等著あり。

**マールブルヒ大學** University of Marburg

獨逸に於ける最初の新教大學にして、一五二七年ハッセン公國フリーリップの創設せる所。十

七世紀の始に於て盛大に赴きしも、三十年戦争の打撃を受け、一時衰滅に瀕せり。一七五三年之を再興し、爾來徐々に發展し來り、殊に一八六六年ハッセンと普魯西との合一後急激に進歩し、内外の施設頓に整へり。神學・法學・醫學・哲學(哲學部・歴史部・理學部に分る)の四分科を有し、一九一二年の學生數二千十四人なりき。

マールホルツ、ビュロー、ベルタ、フオン

Bertha von Marholtz, Bilow (1810—1893)

幼稚園の擴張に功ありし女流教育家。ブラウシシュヴァイヒの名門に生まれ、妙齡にしてマールホルツ男爵に嫁す。一八四九年始めてフレibelに會し、此の老痴漢(時人フレibelを斯く紳名せり)の教育法を嘆賞し、フレibelを多くの教育家に紹介す。ドイツステルゲエヒ



も其の一人なり。一八五一年以後死に至る迄幼稚園事業擴張の爲に東奔西走席の暖むるに

違あらず、即ち先づ一八五四年倫敦に赴き、幼稚園につきて講演し、且其の教育法を公衆に示し、翌五五年巴里に赴き、次いで白耳義及び瑞西にも及び、一八六一年獨逸に歸るや同六三年伯林に幼稚園を起し、且雜誌を出して、其の説を公にす。一八七〇年居をドレスデンに定め茲に幼稚園及び保母養成所を置き、ドレスデンは一時幼稚園運動の中心となる。幼稚園今日の隆盛を見るに至れる夫人の努力與つて力ありと言ふべし。

マイエロット、ヨハン、ハインリッヒ、ルットヴィツヒ

Johann Heinrich Luthwig Meierotto (1742—1800)

獨逸の教育家、ベルリンのヨアキムシュタール中學及びフランクフルト、アム、オーデルの大學に學び、後ヨアキムシュタール中學校長となり、其の改良に全力を注ぐ。古典に關する著書頗る多し。

マックルア、ウィリアム

William Maclure (1763—1840)

米國に於ける最初のベスタロッチ學徒。蘇格蘭のエイルに生る。初め商業に従事せるが、資産を成すに及び、一八〇三年實業界を退き、フィラデルフィアに移住す。後大統領ジェファアソンの使節として巴里に至り、閑を以て歐大陸の教

マリオン、アンリ

Henry Marion (1846—1896)

佛國著名の教育學者。フォントネ、オー、ローズの師範學校に始めて教育的心理學を講じ、又ソルボン大學に於て始めて教育學を講じ、死に至る迄其の職にあり。是れ實に佛國の大學に於て教育學を講じたる嚆矢なりとす。氏は教育の目的を以て道德的品性の形成にありとなし、道德主義を奉ぜり。「人の義務と権利」Devoirs et Droits de l'Homme (1879) 教育的心理學 Leçons de Psychologie appliquée à l'Education (1881) を始め教育に關する著書甚だ多し。

マルカスター、リチャード

Richard Mulcaster (c. 1532—1611)

英國教育家にして著述家、ブレックンヘル城に生る。一五五六年オックスフォード大學卒業の後マーチャントテローズ學校長となり在職二十五年、一時退職せしが一五九六年セントポールス學校長に轉じ、一六〇八年迄其の位置にありき。教育上の著述として有名なるは「位置」Positions wherein those primitive Circumstances be examined, which are necessary for the Training up of Children, either for skill in their Books or Health in their Bodies (1581) 及び「初學書」Elementarie, which entreateth chiefly of the Right Writing of the English tongue (1582)

育事業を研究し、ベスタロッチ及びフエレンベルヒを訪ひ、又ニーフを聘して、始めてフィラデルフィアにベスタロッチ主義の學校を設く。一八一九年蘇格蘭に歸り、ロバート、オーウェンの教育事業に刺激せられ、西班牙のアリカンテに工業及び農業學校を興す。一八二四年再び米國に移り、インディアナ州のニュー、ハーモニに居をトし、同地をして、米國に於けるベスタロッチ主義の中心たらしめんと試みたり。其の他諸種の學術的事業に關係し、米國教育の發達に貢獻する所大なり。

松平定信 (二四一八一—二四八九)

定信家齊を助け政治上諸般の改革をなせしが、中にも意を學政に用ひ、美濃岩村城主松平乘蓮の子述齋をして入りて林家を嗣がしめ、昌平愛の制を改め、士庶共に學に就くを得しめ、寛政二年柴野栗山・尾藤二洲・岡田寒泉等を教授に任じ、是より校規大に張る。又當時種々の學派起り、互に門戸を張り、歸着する所なかりしかば寛政二年遂に林家に命じて程朱の學を宗とし、士民をして之を則らしむ。之を寛政興學の禁といふ。寛政五年致仕して樂翁と稱す。著書甚だ多く、其の名の傳はるもの大凡百三十餘種に及び、又當時の學者をして多くの書を編せしめたり。

松永尺五 (二二五二—二二七一)

の第一部なり(第二部は公刊するに至らざりき)前者にては、彼は(一)國語は之を外國語に先だちて學ぶべく、(二)精神のみならず身體の教育にも大なる注意を拂ふべく、(三)小學教育は強制的なるべく、(四)兒童の個性を尊重すべく、(五)學校教育は家庭教師による教育に勝るものある等の諸點を詳述せり。就中彼が此の書に於て教員の養成につき述べ、大學に於ては僧侶・醫師・法律家を養成すると等しく、又教師を養成する特別の分科を設けざる可からずとなせるは頗る卓見と言はざるべからず。後者にては彼は又特に國語の教育の尊重すべきを極力主張せり。曰く「余は羅馬を愛す、されど一層倫敦を愛す、余は伊太利を好む、されど、より多く英國を好む、余はラテン語を知る、されど英語を尊敬す」と。彼の教育上の意見は同時の教育學者アスカムに對して、決して劣るものにあらずれども、永く世に認められず、漸く前世紀に及んで、世人の注意を惹くに至れり。

マルサスの法則 Malthus' Law

英國の經濟學者マルサス Thomas Robert Malthus (1766—1834) の定めた人口に關する法則。氏は其の人口論に於て、人口は幾何級数的に増加するも、生活資料は算術級数的に増加す。斯くて食物の供給は不充分となり、貧困・罪惡等の爲に自然に人口の増加を制限すと主張す。

尺五名は昌三、字は退年、文祿元年京都に生まる。始め藤原惺高に就て學び、後寛永十七年を以て加賀侯前田利高に聘せられ、頗る禮遇せらる。已にして辭して京都に歸り、慶安元年講習堂と稱する私塾を開きて、程朱の學を講ず。明暦三年病を以て逝く、年六十有六。朱子學の爲に私塾を開きしもの蓋し尺五を以て始めとなす。多くの門人中木下順庵・宇都宮蓮庵の二人最も名あり。

松下村塾

吉田松陰の條を見よ。

マドラス法 Madras System

助教法の條を見よ。

マリア、テレシマ(マリア、テリサ)

Maria Theresia (1717—1780)

奧地利・洪牙利及びボヘミアの女王。特に教育に興味を有し、己が領土及び白耳義の教育に對し大なる改良を行へり。即ち先づイエスイタ派を排し、教育の權を僧侶より奪ひ、又フェルピゲル・キンテルマンを始め知名の教育家を引見し、一七七四年新教育令を發布せり。奧太利の教育参照。其他ヴィーン大學に實驗物理學及び力學の講座を置き、グイーネル、ノイシュタートに陸軍學校を設け、白耳義の中等教育組織を改造せる等教育上畫策する所頗る多し。

リ。ダーウイン・ウォーレス等の生存競争・自然淘汰の説はマルサスの暗示に基づき氏の人口論を動物界に適用せるものなり。

### マルボー、ジャン、バプティスト、ファイルマン

Jean Baptiste Firmin Marbeau (1798—1875)

佛國の法律家にして、幼児預り所の創設者。一八四四年始めて幼児預り所を巴里に設け、翌年「幼児預り所記録」Manual de la Crècheを公にし、又一八四六年以後「幼児預り所雜誌」Bulletin des Crèchesを發刊して、主張を公にし、終に佛國以外の諸國にも其の設置を見るに至れり。

### マン、ホレス

Horace Mann (1796—1859)



米國の教育家にして且政事家。米國普通教育の發展に與りて偉功あり。マサチューセッツ州フランクリンの農家に生る。一八一六年ブラウン大学に入り、卒業の後同大學古典科の

教授となり、後更に法律を研究して辯護士となり州會議員たること多年。教育・宗教・慈善・禁酒等の諸問題につきて力を盡せしが、一八三七年轉じてマサチューセッツ州新設の教育局長となり、其の職にあること十二年身を普通教育の振興に捧げたり。即ち或は(一)定期に教員會議を起し、或は(二)「普通學校雜誌」The Common School Journal (一八三八年創刊)を發行し或は(三)年々教育年報を公にして教育上の諸問題を論究し、指導是れ怠らず。殊に十二冊の教育年報は米國教育史上最も重要な文獻の一にして、彼は此の年報に於て、學校建築・學校衛生・兒童の労働問題・國語教授・唱歌教授・教科書の統一・課酬の方法・師範教育・女教員採用・道德教授・教員會議等教育上の諸問題を研究報告せるが、中にも第七年報は彼が一八四三年英・佛・獨・白・和・瑞西等歐州諸國の教育を視察せる結果を報告せるものにして、特に世の注意を惹きけるが他面に於て、又、一部教育家の反感を煽り、爲に大なる論争を惹起せり。彼は又特に師範教育を重視し、就職第二年に於てレクシントン及びベレに二個の師範學校を設け、第三年に於て更に一個をブリッヂウォーターに増設し、是等の師範學校を中心としてベスタロッツの主義の普及に力めたり。

一八四八年選ばれて國會議となり、五年間其

の任にあり、一八五三年アンティオク大學最初の總長に擧げられ、其の死に及べり。デーヴィドソンは左の十項を以て氏が教育的努力の主眼點となせり。

- 一、教育は社會の各階級を通じて同様に普及せしむべし。階級によりて教育を異にすべからず。
- 二、教育は教權を離れ、科學の上に建設せらるべし。而して其の教育はベスタロッツの方法に據るべし。
- 三、教育は眞の宗教を愛むべく、決して特定の宗派に偏すべからず。
- 四、教育は生活の各方面の準備たるべし。而して其の終局的目的は道德的社會的人格の確立にあり。
- 五、教育は寛和を旨とし、兒童の個性に應ずべし。體罰はなるべく之を避くべし。
- 六、校舎は採光・通氣共に完全にして、圖書館・博物館等新教育に必要な凡ての設備をなすべし。
- 七、教育は優良なる教師によりて行はるべし。是が爲には師範學校の設立を急務となす。
- 八、教育は男兒のみならず、女兒にも普及せしむべく、教育者亦男子のみならず女子を必要とす。
- 九、教育者は屢々會議を開き教育上の意見を

交換すべし。

十、國家は教育を完成せんが爲に決して費用を惜しむべからず。

### 曼ツン

Hinsdale, B. A. Horace Mann

Hubbell, G. A. Horace Mann, Educator, Patriot and Reformer

### マンチエスタ大學

University of Manchester

英國新設の一大學。マンチエスタにあり。一八五一年ジョン、オーウエンズの遺志によりて設立せられたるオーウエンカレッジに其の端を發し後次第に發展して、一八八〇年グイクトリア大學の一部となりしが、一九〇三年始めて獨立の大學となる。文・理・法・商・醫・工・音樂・神學等の各分科を有し、一九一二年の學生數千五百五十七人、教師二百四十二人なり。

### マンツン侯爵夫人

Marquise de Maintenon (1635—1719)

佛國の女子教育家、有名なる新教徒にして歴史家なるアグリッパ・ド・ゴリティー Agrippa d' Aubigné の孫にして、ニオールの獄中に生るる(時に其の父母共に新教徒の故を以て迫害を受けて獄裏にありき)。父の死後舊教徒に改宗し、十六歳にして、詩人スカーロンの妻となり、ス

カーロンの歿後(一六六〇年)、一時貧苦に沈みしが一六六九年王ルイ十四世とモントスマン夫人の間に生まれし二人の男兒の家庭教師となれり。爾來日に王の信任を得、一六七四年マンツン侯爵夫人の稱を興へられ、同八五年非公式に王と結婚せり。一六八六年ツェルサイユの近傍サン、ミール St. Cyr に學校を起し、零落せる貴族の女兒を教育せしが一七一五年王の死後同地に退隱し、専ら教育に身を捧げたり。サンシールの學校は七歳乃至二十歳の女子を收容し、生徒の數二百五十の多數に達し、教育法はフエロンの意見と一致する所多く、良妻賢母を養成するを以て其の目的とせり。始めは自由主

義なりしも一六九四年以後僧庵の制に換し、生徒を外界と隔離し、嚴格なる規定の下に起居せしめ、全く新しき境遇の下に新しき訓練を施さんことを努めたり。

### マントヴァの宮廷學校

Palace School at Mantova (Mantua)

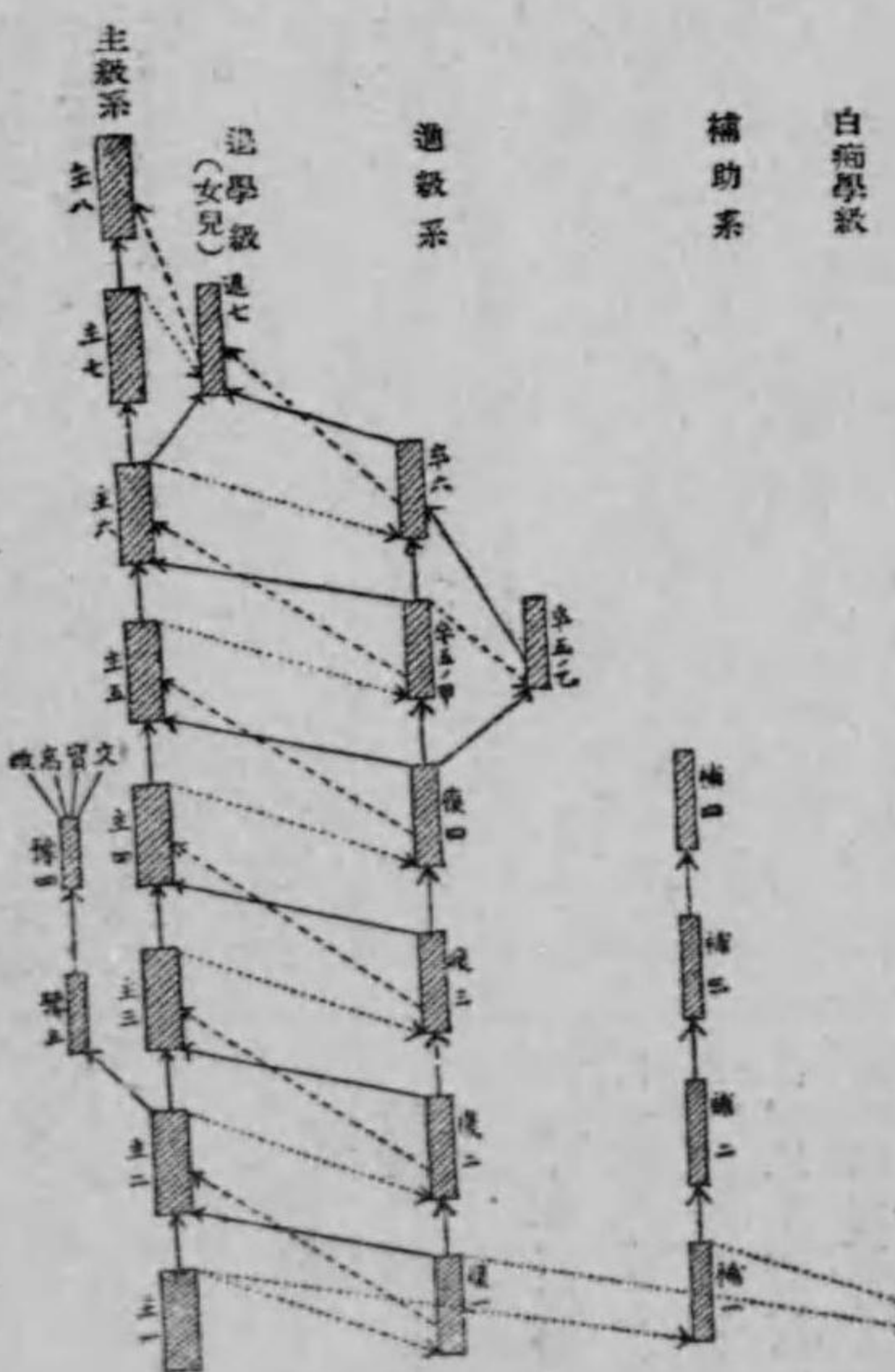
「ヴィトリノ、ダ、フェルトマ」の條を見よ。

### マンハイム式學級編制法

Mannheim System

兒童の能力に應じ、夫れ夫れ適當なる教授を施さんが爲に、南獨バイエルン州マンハイム市に於て、學務官ジッキンゲル Sickinger が一九〇〇年に創めたる新編制法。此の編制法は上に示せる如く、小學校の系統を主級系・進級系・補助系の三種に分ち、更に主級系を中學豫備級と退學級とに分ち、進級系を卒業級と復習級に分ち、又別に白痴院あり。

兒童は最初主級系第一學年に入學し、(甲)成績通常なるものは順次主級系第二、第三學年に入り、(乙)能力優秀にして、中學教育を受くる志望あるものは第



二學年の終に於て豫備級に入り、中等學校(文科中學校、實科中學校、高高等實科學校、改良學校)(獨逸の教育參照)に進む。(丙)能力劣等なるか又は病氣缺席等の爲に學業不進のものは一學年の終に於て復習級に入れて(……)↓は之を示す) 特別の教授を施し。若し中途にして成績相當のものは再び主級系第二學年に復習せしめ(……)↓は之を示す) 又復習級一學年の終に於て其の成績により之を(イ)主級に復するものと(ロ)復習級二學年に進むものと(ハ)復習級の原級に生まるものと三種に分かつ。(↑は之を示す) 追つて此の如く主級系と進級系の間には相互に兒童の出入あり。(丁)能力最劣等なるものは之を補助系に入れ、手工を主とする特別教授をなし、(戊)學習不可能なる白痴は之を白痴院に送る。

卒業級は復習級及又は主級の四學年を終へたるものにして、二個年の後退學せんとするものを收容し、特に必要な教科のみを選びて學習せしめ、年限二個年なり。退學級は女兒の爲に設けたるものにして主級系第七・第八兩學年の教科中特に必要なものを選びて授け、一年に退學せしむ。

マンハイム式新編制法の特徴は進級系を置くの點に存せるなるが、此の方法は其の後一九〇五年伯林に開かれたる全普魯西小學校長會

議、同年ゲルリッツに開かれたる全獨逸教員聯合總會を始め、多くの會合に於て是認せられ、歐洲各地に於て之に倣はんとするもの次第に多し。

### 味覚

Taste Sensation

諸種の溶液が舌面・軟口蓋等に存する味細胞を刺激するときに生ずる感覚にして、之を甘・酸・苦・鹹の四種に分かつ。時には尙之に加ふるに金屬性・アルカリ性・二種を以てするものあり。其の他に於て日常、味と稱せらるるものは、以上四種の味覺と嗅覺・壓覺・溫覺・冷覺等と相融合せるものにして、單純なる味覺にあらず。舌は其の部分によりて感受性に分化あり。即ち其の兩側面は主として酸味に、舌尖は甘味に、舌根は苦味を感じ、鹹味は各部に於て殆んど一様に感ぜらる。小兒にありては甘味のみが快感を起すべき唯一の味覺にして、他は微弱なる程度に於ては無頓着なるも、強度に於ては不快感を生ず。年齢の長ずると共に他の味覺亦快感を起すに至ること普く知らるる所の如し。

### ミシガン大學

University of Michigan

米國ミシガン州にある著名の州立大學。一八四一年の開校にかゝり、始めは振はざりしも、ヘンリ、ファイリップ、タッペン、H. P. Tappanの總長時代(1852—1863)に於て種々の改革を施し、一八七〇年には女子の入学を許し、其の後

ジェームズ、バリー、エンジェル J. B. Angell が一八七一年以後三十八年の長期間總長として大に活動せる結果、校運隆盛に赴けり。文科・理科・法科・醫科・工科等の諸學部を有し、一九一二年には學生の數五千五百八十二人を數ふ。

### ミッション・スクール

Mission schools

基督教の教義を宣傳せんが爲に、日本・支那・印度・亞非利加・土耳其等東洋諸國に設けられたる學校。ミッションスクールは其の始めは多く外國宣教師の手により、外國傳道會社の資力を待ちて設立せられたるものなるが、其の教育を各地の事情に適合せしめ、「異國的」なる感想を薄からしめんが爲に、其の教師にはなるべく多く内地の基督教徒を採用するの方針を取り、中には内地人を校長となし、外國宣教師の其の下に活動せるもの(例へば京都同志社の如く)もあり。又現今費用の大部分は之を授業料より支辨するもの多し、蓋し無月謝の學校を輕んずるは東洋一般の通性なりとは、彼等の長き經驗より學び得たる所にして、今や昔日の如く、多大の補助を傳道會社に仰ぐもの少く、何れも高き月謝を徴集しつゝあり。

ミッションスクールの種類及び各學校の課程は、内地の事情に適應せしむる必要よりして、

各國に於て其の趣を異にせり。されど外國語を重んじ、基督教の原理及び教會の歴史を課し、精神教育に力を注げるは其の代表的傾向と見るべく、殊に女子教育は彼等の最も注意せる所なり。是れ從來東洋に於て一般に女子の教育を輕んぜるより起りし所にして、現今ミッションスクールに在學せる生徒の大凡三分の一は女子なりといふ。生徒の入学・卒業に當り宗教に關する試験は(少くとも新教の學校にては)殆んど全く之を廢し、又生徒が基督教徒となるか否かも一に生徒の自由に委ねるもの多し。

學校の種類は孤兒院・幼稚園・小學校・盲啞學校・中學校・高等女學校・カレッジ・神學校等の各種に亘り、又近年ミッションスクールの教師を養成せんが爲に師範學校を設けんとするもの多し、醫學校(支那北京にあるもの特に著名なり)農學校・工業學校等も又漸く多からんとす。以上の諸學校につき、之を其の數より見れば一般に新教徒の學校は舊教徒の學校よりも多く、唯孤兒院は舊教徒のもの却つて甚だ多く、又幼稚園は殆んど全く新教徒の獨占する所なり。

我國のミッションスクールは天文十八年フラスコ、ザヴィエール來朝して以來基督教次第に擴まると共に、肥前の有馬、豊後の府内、近江の安土等に學校を設けたりしも、鎖國と共に全く廢絶に歸せり。開國維新に及び、洋學研究の

### ミッテルシュレ

Mittelschule

南方獨逸及び埃太利にては國民學校と大學との中間に位する學校即ち文科中學校・實科中學校等を指し、普魯西及び普魯西に倣へる北方獨逸にては國民學校と中等程度の學校(文科中學校・實科中學校等)との中間を占むる學校を指す。後者は十八世紀の後半に始めて起れるもの



なるが、一八七二年始めて公認せられ、經費は地方の負擔に屬し、政府の補助を受くることなし。而して其の組織亦(一)或は國民學校に附屬せるあり。(二)或は五年又は六年の課程にして國民學校の生徒を入学せしむるあり(三)或は九個年程度の獨立の學校たるありて、必ずしも一様ならず。後一九一〇年の法令にて之を九個年程に定め、國民學校の生徒は其の四年程に編入し得ることとなせり。

獨逸の教育

ミッテンドルフ、ヴィルヘルム

Wilhelm Middendorf (1793-1833)

獨逸の教育家にして、フレイベルの協力者。ゲネストフアリア州のプレヒテンに生まる。ドルトムントの文科中學校を経て、一八一一年ベルリン大學に入り、哲學をフイヒテに、神學をシュライエルマツヘルに學べり。一八一三年リュツァウの義勇軍に投じ、陣中フレイベルと相識り、一八一七年フレイベルの招に應じてカイルハツに移り、終生同地に止りて教育に従事せり。

水戸學派

水戸學派は神道を根本義となし、之を扶翼するに朱子學を以てし、光園に始まり、明治維新に至る二百三十餘年間大日本史編纂の大事業を中心として、常に敬神・愛國の大精神を鼓舞し、

學堂一〇九校あり。

外に支那人の經營せる書房大正七年に於て四八兒童數九七五人あり。

中等教育 内地人を教育する中學校及び高等女學校の組織内容は略ぼ内地のものに等し。現今關東都府府中學校(明治四十二年開校)旅順高等女學校(明治四十三年開校)及び大連高等女學校(大正三年開校)あり。又會社所屬のものには實科女學校(高等小學卒業生を入学せしめ修業年限本科二個年研究科一個年)九校設立せらる。支那人子弟を教育する中學校には旅順高等學堂あり。豫科(旅順工科學堂に入学せんとするもの)爲に豫備教育を施し修業年限二個年)及び師範科(公立普通學堂の教員を養成し修業年限三個年)の二科を置き、大正五年六月先づ師範科より開始す。此の外會社所屬のものに支那人子弟に中等教育を施す南滿中學校あり、又支那の小学校卒業以上ものを入学せしめ主として日本語を教授する日語學堂三校あり。實業學校にては南滿洲工業學校・營口實業學堂及び東洋協會滿洲支部所屬の大連商業學校(明治四十三年開校)及び旅順語學校(明治四十三年創立)あり。

又會社の所屬にして、夜學の方法により實業上の知識を授くる實業補習學校大正六年に於て二九校を數ふ。

大義名分を明らかにせる一大學派にして、「忠孝二なく、文武岐れず、學問事業其の效を殊にせず、神を敬し儒を崇び偏黨あるなく、衆思を集め群力を宣べ以て國家の恩を報ず」とは其の學の綱領なり。光園は明曆三年關帝の學者栗山潛鋒・三宅觀瀾及び安積澹泊、明の遺臣朱舜水等を聘し、彰考館を起して大日本史の編纂に着手し、神功皇后を皇妃傳に收め、大友皇子を帝紀に載せ、南朝を以て正統となし、春秋の筆法によりて大義名分を明らかにせり。其の後實曆・明和の頃に及び水戸學は一時多少の頓挫を來せしも、齊昭出づるに及び、天保九年を以て、弘道館を起し、水戸學の精神に基づきて學徒を教へ、加ふるに藤田東湖の如き英材の之を輔くるあり、教學大に張り、嘉永・安政以後天下皆水戸學を宗とし、人をして、水戸の人に遇へば直に學者ならんとの感を抱かしむるに至れり。大日本史の完成には年を要すること二百五十年、卷數三百九十七、其の量に於て其の勞力に於て殆ど天下無比の大著述なり。

南滿洲の教育

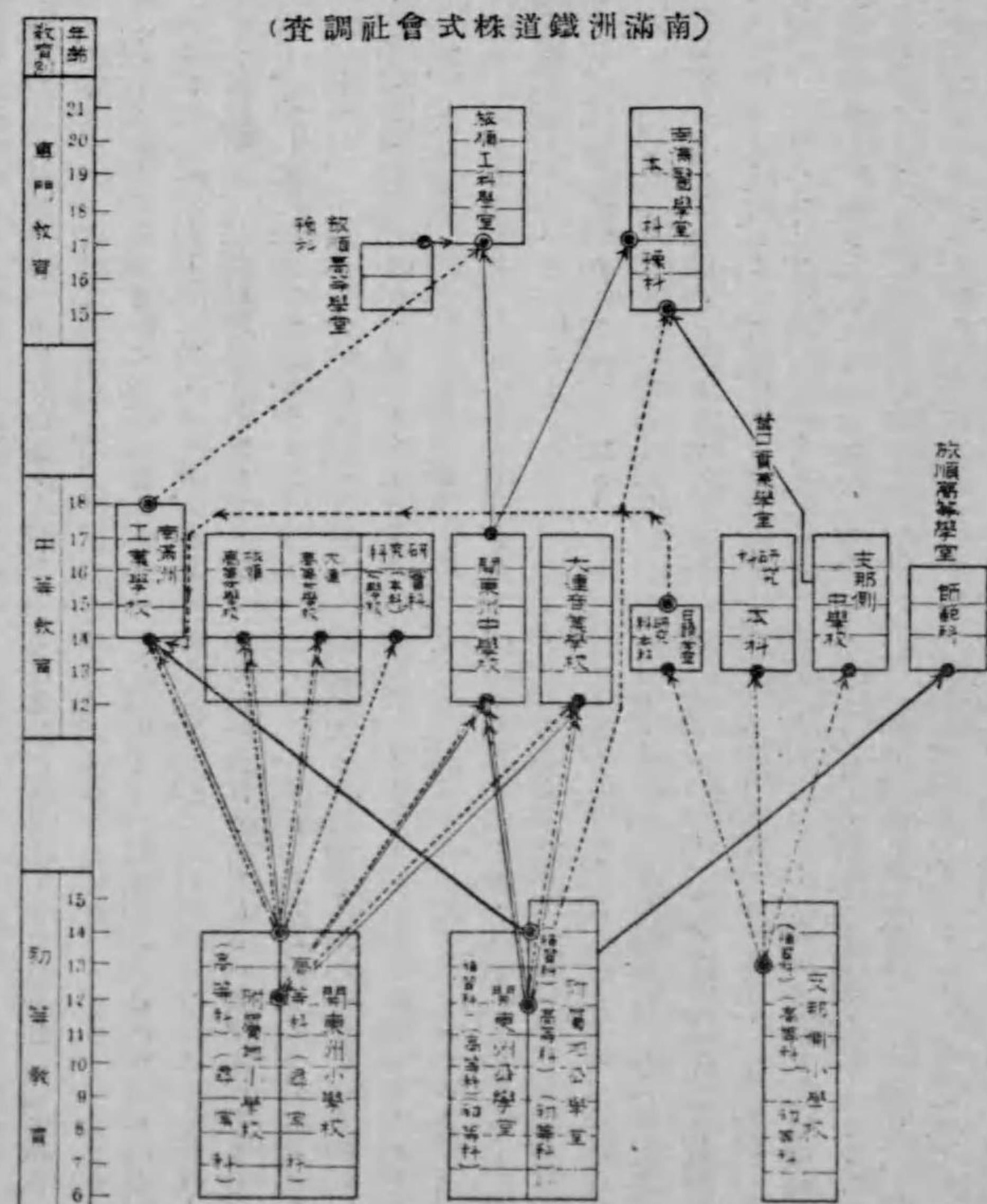
南滿洲租借地の教育は之を關東都府府の經營に成るものと、南滿洲鐵道株式會社の經營に成るものとに二大別するを得べきも、其の制度略ぼ等しければ一括して其の現狀を述べべし。

初等教育

● 専門教育 専門教育の機關としては、都府府經營の旅順工科學堂と會社所屬の南滿洲學堂を數ふべし。旅順工科學堂は明治四十三年四月の設立にかゝり、工業に須要なる高等の學術技藝を教授するを目的とし、中學校・甲種工業

表圖覽一統系校學各洲滿南

(查調社會式株鐵洲滿南)



(イ) 小學校 内地人の子弟を教育し、一に小學校令及び同施行規則に準據す。明治三十九年五月以後の設立に係り、大正六年五月一日に於て、都府府所屬一二校、鐵道株式會社所屬一校、計三二校、兒童數一一、〇七〇人、外に居留民團立小學校三實業補習學校二十校あり。

(ロ) 公學堂 支那人の子弟を教育す。兒童身體の發達に留意し、日本語を教へ徳育を施し並にその生活に必須なる普通の知識技能を授くるを以て本旨とす。修業年限初等科四年、高等科二年、兒童の年齢は初等科八歳以上十二歳以下、高等科十二歳以上十六歳以下とす。其の數大正六年に於て都府府所屬七、會社所屬八計一五校に達す。

(ハ) 普通學堂 都府府開辦の始に當り、各部落に私立の書房存在して支那人を教育し、其の數約五百生徒數約八千人に及びしが、其の組織極めて不完全なりしを以て漸次之を整理しつありしが終に大正四年關東洲普通學堂規則を定め、地方に於ける子女の初等教育の方法を決定し、大正五年より實施す。普通學堂は支那人兒童に對し、身體の發達に留意し、徳育を施し並に其の生活に必須なる知識技能を授くるを以て本旨とし、會社は之を設置することを得。修業年限四個年、第一學年に入学すべき兒童は年齢凡そ八歳乃至十二歳とす。大正六年關東洲普通

一般醫學的研究特に滿洲固有の疾病及び人種的關係を研究するを任務となし、豫科(中學校第三年修了者)を入れ修業年限二個年(本科)中學校卒業生を入れ修業年限四個年)及び研究科に分ち、本科卒業生は南滿醫學堂醫學士の稱號を認許せらる。

又會社附屬として教育研究所あり教育に關する諸般の研究をなす。目下小學教育部・支那人教育部を置き、又教員の講習をも開けり。

青島の教育 大正四年始めて第一青島尋常高等小學校及李村尋常小學校を設立し、同六年、第二青島尋常小學校を設立す。又淄川・張店及び坊子には第一青島尋常高等小學校分教場を置く。外に青島高等女學校(大正五年設立)及び青島中學校(大正六年設立)あり。支那人の子弟を教育する公學堂は大正四年青島公學堂を開きたるを始めとし、大正六年には二八個所に之を置く。

朝鮮總督府 支那教育狀況一斑

身振言葉

Gesture Language

思想・感情を表出する爲に表情・身振等の人爲的使用。身振言葉は一般に、多少、音聲言葉に伴ひ、其の意味を強め、又は之を補ふの用をなすものなるが、聲啞及び未開民族等にありては全く音聲言葉の代用をなすことあり。身振言葉は通常是を指示身振 Indicating gesture 即ち

眼前現存の事物其ものを指示して、意のある所を示すものと、描寫身振 Copying gesture 即ち現存せざる事物の形狀・運動等を描出するものとの二種に大別す。身振言葉は凡て具體的にして、抽象的概念の表出に適合せざるものが、是が爲に却つて教育上、抽象的概念を具體化する方とあり。例へば、文法上の一人稱を説明する代りに、話者が自己を指して一人稱の何たるかを知らしめ、(指示身振)指頭にて曲線を描きて波動を示し、又は圓を描きて圓きことを表徴する(描寫身振)場合の如し。

ミュンステルベルヒ、フーゴ

Hugo Münsterberg (1863—1916)

獨逸近代の哲學者心理學者。ダンティツヒに生まる。ライプツヒ及びハイデルベルヒの大學に學び、一八八七—一八九一年フライブルヒ大學助教となり、後招かれて米國に至り、一八九二年以後ハーヴァード大學教授たりしが一九一六年ラドクリ、カレッジに講義中卒倒して死す。著書甚だ多く中にも、心理學の方法と任務 Aufgaben und Methoden der Psychologie (1891) 心理學原論 Grundzüge der Psychologie (1900) 心理學と人生 Psychology and Life (1899) 價値の哲學 Philosophie der Werte (1908) 道德の起原 Der Ursprung der Sittlichkeit (1889) 永遠

の價値 The Eternal Values (1909) 一般及應用心理學 Psychology, General and Applied (1914) 等名あり。  
〔心理説〕氏は始め聯想心理學派に屬し、心理的過程が腦の過程に依存することを高唱し、心理的唯物論とも言はるべき立場にありしが、後、生理的現象と心理的過程の間には嚴密なる普遍的なる平行ありとの心身平行説を聯想説より導き、グントの統覺説より精神生活の發動に關する思想を取り、相合して活動説 Aktionslehre なるものを主張せり。所謂活動説とは「凡ての意識現象は感覺的運動的(單に感覺的なるものにあらず)過程の隨伴現象」なることを主張するものにして、「凡ての感覺従て又凡ての意識内容の要素(ミュンステルベルヒは凡ての精神内容は感覺より形成せらるるとなす。此の點に於て彼は主知的なり)は大腦の領域に於て、興奮(求心的なる)が解發 Entladung (遠心的なる)に移行する其の過程に依存することを主張し、感覺の性質は解發路の位置に、其の活度 Lebnstigkeit は解發の強度に依存す」と説くものなり。要するに心理的現象を生理的現象の因果關係に從屬せしめ、凡ての心象を感覺の結合より説明せんとするは氏の自然科學的心理學に對する態度なり。  
〔精神と價値〕心理學はされど、具體的實在

としての精神を論ずるものにあらず、具體的なる目的に向へる活動としての精神生活より、唯個人的主觀に經驗せらるる方面を抽象し、價値及び目的より離れて之を研究するものなること即ち其の抽象的なることに於ては他の自然科學に等し。具體的のものとしての精神は、對象に對し一の態度を取る Stellungnehmender 主觀的活動として存す。心理的主觀が時間の中に存するに反し、それは超時間的にして却つて時間を定立する永久的のものなり。自己を保存し、統一的に自意識に活動し、全く自由なり。而してかゝる目的に向へる具體的精神作用を研究するは一切の精神科學 Geisteswissenschaften (心理學は精神科學にあらずして因果的説明を任務とする客觀的科學なり)なり。精神科學に於ては故に因果的説明を許さず、唯、理解と價値判斷あるのみ。

客觀的世界は、一切の個人的主張に無關係に、絶対に妥當する「世界への意志」Wille zur Welt によつて成立す。「世界への意志」は個々の主觀に無關係に、一般に妥當し、永存する世界を定立する事行 Tathandlung なり。此の事行によりて世界は定立せらるるが故にそれは最も根本的な評價的意志とも言ふべく、一切の他の評價は之よりして派生す。存在は存在の評價によりて成り、價値は存在に先行す。しかもかゝる評價

は固より個々の主觀に無關係なるもの、換言すれば凡ての精神的存在者に妥當なる絶対的のなるが故にそれは絶対的價値なり(價値の條参照)故に又反面より絶対價値は、一般妥當の世界を定立する超我 über-Ich の意志に合するものといふことを得べし。而して上の根本價値より吾人は一切の價値の體系(生活價値・文化價値又は存在價値・統一價値・發展價値・神的價値といふが如き)を演繹することを得。

超我は 個我の中に自己を顯現し、一切の經驗的價値は超我の根本活動が個我の中に特殊的に顯現するによりて生ず。逆之又個我は自己の活動によりて自らを超我に迄擴充することを得。即ち人生の道德的任務は絶対に妥當する純粹價値を己が活動によりて實現するにあり「自己に忠なれ」とは故に唯一の道德的命令なり。(如何にフイヒテの思想に近きかを見よ)

〔教育上の影響〕教育上に於ける氏の説の影響は其の價値論よりも寧ろ心理説にあり。其の意識的發動的要素を重んずる見解は廣く近時の發表主義的教育に根據を與へ、ライイの筋肉運動主義の如きものを生むに至れり(運動的過程の條を見よ)又氏は職業教育は完全なる一般的教育を基礎とせざるべからざるを主張し、教師の任務を説きては、功利的に兒童を導き、又自ら功利的見地よりして(生計の維持の爲に)教鞭

ミリュウ

Milieu

ミル、シエームス

James Mill (1773—1881)

英國の哲學者、スコットランドのモントローズに生まる。靴師の子なり。エディンバラ大學に學び、牧師となりしも成效せず、去つて倫敦に赴き、ジョン・スチュアート侯の家庭教師となり、尋いで東印度會社に重要な地位を占め、傍ら文筆に従事す。歴史・經濟・哲學等に關する著述多く、中にも「人間精神の分析」Analysis of the human Mind は英國聯想派の經典とも稱すべく、此の書に於て、氏は聯想の形式を「接近」の一に歸し、且觀念及び感情の融合すること化學に於ける化合の夫れに等しとして「精神化學」 Mental chemistry の説をなせり。氏は又倫理説に於てベンタムの功利説を奉ぜり。

ミルが其の子ジョン、スチュアート、ミル、を教育せる方法は極端なる早教育にして、三歳已に希臘語を教へ、六歳種々の希臘古典を讀ましめ、十歳にして略ぼ古典に通じ、十二歳にしてアリストテレス及びプラトーンを研究せしめたり。

ミル、ジョン、スチュアート

John Stuart Mill (1806-1873)

十九世紀に於ける英國最大の哲學者の一人。ジェームズ・ミルの子なり。彼は英國の他の大哲學者スペンサーと等しく大學の課程を履むことなく、専ら家庭にありて、父ジェームズ・ミルの特異なる教育法を受けた。一八二三年東印度會社に入り、在社三十三年、一八五六年辭職の後、専ら文筆に従事せり。著書甚だ多く、倫理學にてはベンタムの功利主義を祖述し、哲學にては「ワイリアム・ハミルトンの哲學の吟味」(Examination of the Philosophy of Sir William Hamilton) の大著あり、殊に論理學上の著述たる「論理學系統」(System of Logic) はハミルトンに源を發せる歸納法を大成せるものとして最も創見に富み、科學者より諸々の攻撃あるに拘らず、依然として論理學の一經典に數へらる。教育上にてはアンドルー大學總長就職演説に於て、古典の研究と科學の研究との相反すべきものにあらざることを論じて、當時の教育思想に一大影響を與へたり。

ミルデ、フィンセンツ、エドゥアルト

Vincenz Eduard Milder (1777-1833)

塊太利の神學者にして教育家、モラヴィア州のブリュンに生まる。維也納大學に神學を學び、一八〇〇年僧籍に入る。一八〇六年維也納大學

教育學教授に、一八二三年ライトメリッツの僧正となり、同三年維也納の大僧正となる。其の著「一般教育學教科書」(Lehrbuch der allgemeinen Erziehungskunde (1811-1813)) は大學に於ける講義の稿本にして、主としてカント及びベスタロッチの説に基礎を置きり。

ミルトン、ジョン

John Milton (1608-1673)

英國の大詩人にして、失樂園 Paradise Lost の著者なり。又教育に對して興味を有し、一六四〇年倫敦オールドバースト街に一枝舎を設け、自ら數名の貴族の子弟を教育し、又一六四四年ハートトリブに宛て、「教育論」(Traktate on Education) を草し、殆んど同時に又拉丁文法教科書(一六六九年出版) Accidence commenced Grammar を著せり。

氏は其の教育論に於て、從來の教育が希臘語・拉丁語等言語の形式を學ぶに全力を注げるを攻撃し、教育は「人をして、戦争と平時とを問はず、公私の職務を正しく、敏速に且花々しく、遂行せしむる」にありとし、而して教育が能く此の重大なる任務を達せんが爲には先づ言語の知識に代ふるに事物の知識を以てせざるべからざることを力説せり。されど氏が茲に事物と言へるは、氏と同時の大教育家コメニウスが同じく主張せる事物とは其の意義を異にし、専ら

古典の中に存する知識の内容的方面を指せるものにして、唯言語の形式的方面に對して其の内容を事物と稱せるに過ぎず。氏が十二歳乃至廿二歳の少年の教育につきて立てたる課程表によれば第一年に於て拉丁語の文法と算術・幾何・宗教を授け、次いで順次にカトリ・コルメラ・ザアロの著書によりて農業を、アリストテレス及びテオフラストスの著書により生理學を、返つて斯くの如く、希臘・羅馬の學者の著書を通じて建築學・自然哲學・地理・醫學・文學・倫理・經濟・歴史・神學・論理・修辭等を學び、又ヘブライ語・伊太利語等をも學ぶ。其の他擊劍・相撲・騎馬・音樂をも併せ課し、身體を強健ならしめ、心情を快活ならしむ。

ミルトンは一方に於て言語に代ふるに事物を以てしながら他方に於て、事物を古典の内容と同一視し、其の精神は近世的なれども教授の内容の依然として中世的なるに於て、實に中世と近世との過渡期を代表するものと見るべし。殊に其の課程は頗る複雑にして凡ての當時の知識を含有し、普通の教師が普通の兒童に對して到底教授し盡し能はざる底のものなりき。

民族心理學 Folk Psychology

人種・國民又は之に類する社會團體に關する心理學。特に原始民族に於ける精神的產物(神話・言語・風習の如き)を以て其の對象となし、

無意識 Unconscious

① 全く意識なき状態。例へば睡眠・失神の場合に於けるが如し。

② 實驗心理學に於て、或事狀の下に、意識(普通には意識せらるるものに拘らず)を缺く生理的過程を指す。例へば事業に熱中するとき、一時、平生惱まれつゝある神經痛を忘るゝが如し。

③ ヘルベルト派の心理學に於ける重要な假定。ヘルベルト派の心理學にては無意識的精神興奮(Seelische Erregungen)なるものを認め、一切の觀念は意識下に沈むときは無意識的興奮となり、此の無意識興奮意識を上るときは再び意識的觀念となるとせり。

無意識的腦動 Unconscious Cerebration

自動的無意識的なる精神活動の基礎としての腦の活動を無意識腦動と言ひ、十九世紀の中葉カーペンター William B. Carpenter 及びレーンク Lanyon の始めて用ひたる語なり。無意識腦動は現今一般に無意識の中に合せて研究せらる。

人類學及び傳説等と密接の關係を有す。獨逸のラッパルス Rappaport 及び、シュタインタール Steinhilber の二氏は其の創始者なり。

民族心理學は時としては社會心理學と混同せらるゝことあれども、後者は人々の社會的關係より生ずる精神現象を研究する科學として民族心理學より區別せらる。

明代の教育

太祖朱元璋が元を滅してより、永明王混に滅さるゝに至る迄二十世二百九十三年(皇紀二〇二八年—二〇三〇年)間を明朝となす。

「教育の趨勢」太祖都を金陵(南京)に定むるや、元の遺儒劉基・宋濂等を引きて政教の顧問となし、大に教育を振興せり。先づ洪武元年國子學を建て、品官の子弟及び民間の俊秀なるものを選んで學に就かしめ、二年府・州・縣に命じて學校を設けしめ、生徒は府學四十人、州・縣各々次を以て十人を減ず。洪武八年更に社學(郷社の學)を設け、民間の子弟を教へしむ。於是か上は國子學より、下は府・州・縣・郷社に至る迄各學校あり。學事大に張り、高麗・日本・琉球・暹羅等よりも入學せるものありきと言ふ。洪武十四年國子學を改築し、翌年學を改めて國子監となし、祭酒・司業・博士・助教以下の官を置き、生徒の費用は之を官給せり。下つて成祖の朝都を燕京(北京)に定むるや、新に北京に國子監を

無月謝教育 Free Education

授業料の條を見よ。

無上命令 Categorical Imperative

例外又は條件を許さざる、換言すれば普遍絶對の道德法。他の目的に關して妥當する換言すれば條件的に立せらるゝ假言命令例へば「汝若し幸福ならんと欲せば約束を守るべし。」といふ如きものに對す。

始めて無上命令なる語を用ひしはカントにして、氏は道德の最大原則を「汝の意志の格率が、同時に、常に、普遍的法則として妥當し得る如き格率に従つて行へ」といふ、一の無上命令として表出せり。

無神論 Atheism

あらゆる意味に於ける超人者を否定する説。かゝる説を奉ずるものを無神論者。Atheistといふ。されば嚴密なる意義に於ける無神論は世界人生を機械的に説明し盡くし得と主張する機械的唯物論のみなるが、日常には之を極めて漠然たる意義に用ひ、異端といふと略ぼ同様に使用せらるゝこと尠からず。有神論者が汎神論者と呼ば無神論者と呼び、基督教徒が佛教徒を無神論者と呼び、同じく基督教徒にも新教徒が無神論者に數へられたりしが如し。

ムハメド教の教育

Mohammedan Education

メ

メーソン、ローウエル

Lowell Mason (1792-1872)

米國の音楽教育家。マサチューセツツ州のメッドフィールドに生まる。一時郷里の小學校教師たりしが、後音楽に専心し、又東西に赴きネーダリ及びブライフェル Peifer につきてペスタロッチの教育法を學べり。殊に一八三七年ホレス、マンと相知りてより爾來十二年間マサチューセツツ州師範學校に音楽を教授し、音楽の普及に務め又多くの唱歌集を出せり。米國小學校の音楽教授は氏の努力に負ふ所頗る大なりとす。

米突法

Metric System

十八世紀の終、佛蘭西に起りし計量法（リヨンの僧ムートン Mouton は一六七〇年已に之を考へたりと言ふ）。一米突はもと赤道と北極との距離の千萬分の一の長さとして考定されしが、近時其の誤を見せられ、現今にては巴里に保存せる白金棒の上にある二線の距離（攝氏〇度に於て）を以て其の標準と定む。英國にては 39.370 113 インチを、米國にては 39.37 インチを以て之に當つ。米突は單に長さの單位をたるとのみなら

アラビアの教育の條を見よ。

無編制教室

Ungraded Room

病氣缺席・轉校・慢性疾患・性行不良等特殊の事情に基づき、一般の學級に編入するを不適當となす兒童に特別の個人教授を施す教室。大都市の、學級多き學校にては事情の許す限り無編制教室を設け特別の兒童を特別に取扱ふを可なりとす。

室鳩巢

(二二一八—二二九四)

鳩巢名は直清、字は師禮、通稱は新助、鳩巢は其の號なり。萬治元年武藏に生まる。年甫めて十五にて加賀侯に仕ふ。侯其の非凡なるを見、命じて京に學ばしむ。鳩巢乃ち木下順庵の門に入り、研學多年學業大に進む。貞享三年加賀に歸り、程朱の學を講ぜしが、正徳元年新井白石の薦めにより、將軍家宣に仕へ、幕府の儒官に補せられ、眷遇最も渥し。享保三年吉宗の侍講となり、享保十三年以後病を以て駿臺に退くの後も尙職名を帯びたりき。其の著書難雜話は病氣靜養の傍ら、門人と談話せしものを集めたる者なり。享保十九年病歿す。年七十有七。鳩巢は純然たる朱子學者を以て任じ、佛教・道教・神道等を排すると共に、又儒教中の古學派を偽學なりとして痛撃し、特に自己の新主張として見るべきものなしと雖も、朱子學の擁護發達に於ては

ず、一デシメートル立方は容積の單位即ちリットル、攝氏四度の蒸留水一センチメートル立方の重さは、重さの單位即ちグラムに當る。斯くメートル法は各種の單位を供するのみならず、凡て嚴密に十進法を取り之を他の計量法に比すれば頗る簡單なる特色を有するを以て一八三七年佛國に採用せられたるを始めとし、十九世紀の後半以後各國に輸入せられ、今や唯一の國際的計量法となるに至れり。

米突法の單位を十倍・百倍するに従ひ次第にテガ Deca (クト) Hecto キロ Kilo ミリア Myria 等、希臘語の接頭語を附して、之をデカメートル・ヘクトメートル等と稱し、又之を十分・百分するに従ひデシ Deca センチ Centi ミリ Milli 等の拉丁語の接頭語を附し、デシメートル・センチメートル等と稱す。

米突法は其の組織の簡單なると、それが學術的、國際的の計量法なるを以て自國固有のもの以外に於て、之を小學校の課程に加ふること各國共に等しとす。されど之を課する學年につきては區々にして一定せず。米國の如きは理科教授を開始せる後始めて之を課すべしとなすもの多し。

メーヨー、チャールズ

Charles Mayo (1792-1846)

英國に於けるペスタロッチ派の教育家。倫敦

其の全力を傾中せり。其の他吉宗の命を受けて選せる六論衍義大意・五倫和解・五常和解等が寺子屋の教科書として普通教育に資し、又赤穂義人録を著し、获生徂徠等に反對して、義士を以て忠義無雙の士となせるが如き、共に風教に裨益すること尠からず。

に生まる。一八一四年オックスフォード大學を卒業し、一八一九年瑞西イフェルテンに赴き、ペスタロッチの下に止まること三年、一八二二年英國に歸り、ペスタロッチの主義に従ひ、一學校を設立經營す。

メーヨーの妹エリザベス、メーヨー Elizabeth Mayo (1793-1865) 亦ペスタロッチ派の教育家として名あり、兄メーヨーと共に多くの著書を公にし、専らペスタロッチ主義の宣傳に務めたり。

名家

支那の戰國時代に於て、思案辯論に長ぜる一派を稱して名家を言ふ。此の派の人々は世の治まらざるは名の正しからざるにありとし、専ら名分につきて論じ、中には詭辯に陥れるものあり。蓋し戰國時代に於ける各國の折衝は自ら辨論の必要を生じ、終に詭辯を弄するものあるに至りしならん。之を法家に比較すれば法家は名によりて實を責め、名家は名につきてのみ研究す。故に此の兩家共に黄老を宗とし、又同一人にして法家たり且名家（例へば尹文子の如く）たるものあり、頗る密接の關係を有す。鄧析子、尹文子、惠施・公孫龍等は名家として著る。特に惠施・公孫龍の如きは全く詭辯家にして、惠施が「山與地卑、山與澤平」と言ひ、又は「鏃矢之疾而有不行不止時」と言へるが如き、如何に詭

辯に馳せたるかを知るべく、又公孫龍が堅白論、白馬非馬論の如きは普く人口に膾炙す。されど同じく詭辯家と言ふも、支那の詭辯家は單に名字の上の論議に止まり、口舌の末に走れるものにして、彼の希臘の詭辯家の如く哲學上重要な旨義を有するものにあらず。

明義堂

盛岡藩の藩學。多くの藩學中最も古きものに屬す。始め藩主南部重直實永十三年(紀元二二九六年)を以て、文武場を創設し、之を新丸稽古所と稱し、學事を奨励せり。然るは中頃儒者の間に明黨の事あり、學事類廢せしかば、天保十三年利濟の代に至り、校舎を改修して、明義堂と名づけ、下つて文久三年利剛立つに及んで大に規模を擴張し、更に作人館と改稱し、施設一に水戸藩に模せり(弘道館の條參照)。即ち文武不岐忠孝无二の主義に基づき、皇漢兩學を重んじ、神廟には大己貴命と孔子とを合祀するなど、何れも水戸學の縮寫たり。於是か學事類に振興す。教科は和・漢・洋學及び和洋醫學、算道・武道等にして、文學局は之を修文所と稱し、武學局を昭武所、醫學局を醫學所と稱す。生徒は庶民の入學を禁ぜざりしも、實際入學するもの殆んどなく、八九歳より學に入り、大凡二十歳に至る。又俊才にして大成の望あるものは資を給して、江戸・大阪・長崎等に遊學せしめたり。

明治三年閉校す。

名辭

Termin

命題を構成する要素即ち命題の主辭及び賓辭たるべきものを、論理學上名辭と言ふ。故に名辭は概念の言語的表出なり。凡て名辭は一定の意味を有すると共に又一定の事物を指示す。名辭の含む imply 意味をば其の包述(内包) Connotation と言ひ、其の指示する事物即ち名辭のあてはまる applied 事物を其の概述(外延) Denotation とす。

明治大學

東京市神田區駿河臺にあり。初め明治法律學校と稱し法律・行政・經濟・財政の諸學を教授し以て世運の進歩を裨補せんが爲め有志相謀り明治十三年十二月官の允許を得、同十四年一月東京麹町區有樂町島原邸内に設置したるに始まる。同十九年校則を改正し豫科として外國語、日本文章の二科を置き、十一月神田區河臺の新校舎に移轉す。同三十六年組織を改めて明治大學と改稱し、同時に専門學校令に由る認定を得、高等豫科の授業を開始す。五月神田區錦町に明治大學分校を設置す。三十七年更に組織を擴張し、法學部・政治部・文學部・商學部の四部門を置き、且外國人教育の爲に經緯學堂を設け、翌三十八年財團法人となす。明治四十五年附屬明治中學

校を設置す。大正九年新大學令により大學に昇格す。現今大學豫科・大學部(法學部・商業部専門部・高等研究科)を置き、附屬として明治中學校及び商業夜學校あり。圖書館には三萬二千餘部の書を蔵し、又出版部を置く。大正九年に於ける職員數各部を通じて一九八八、生徒數八、五四八人に達す。

迷信

Superstition

信仰の條を見よ。迷信の打破は(一)正しき宗教的感情の養成と(二)科學の教授により因果の關係を正當に理解せしむることによりて行はるべし。

明新館

駿府にありし幕府直轄の學校。安政五年(紀元二五一八年)の創立にかゝり、幕臣・藩臣及び農商の入學を許可し、昌平坂學問所より教授方一人交代して學頭となれること、他の幕府直轄の學校に等し。されば教育の方法等凡て昌平坂學問所に模し、主として朱子學を授く。明治元年王政維新と共に廢絶せり。

明善館

久留米藩の藩學。創立の年代明らかならず。初め講談所又は修導館と稱せしが、寛政八年(紀元二四五六年)校舎を新築して明善館と稱し、和學・漢學・珠算・習禮等を授く。下つて文政年間藩主有馬頼永學を好み、自ら侍臣と經史を講じ

藩士を奨励せしかば教學大に振ふ。萬延元年學制を改め、文武を合して一統轄となし、是と共に學校の名稱を單に學館と改め、明治に入りては更に英學を加へたり。生徒は八歳を以て入學の期となし、十五歳迄學を強制し、十六歳以後に至りては大成の見込あるものに限りに入學を許せり。又平民の子孫にも隨意入學を許可せしも、實際入學するものなかりき。明治三年閉校す。其の跡は明善中學校の敷地となる。

命題

Proposition

判斷を言語に發表せるもの。判斷は命題として發表せらるゝにより、始めて固定したる形式を有するに至る。

明道館

福井藩の藩學。文政二年(紀元二四七九年)藩主松平慶永(春嶽)の開く所なり。始め治好の時代に於て、夙に文政二年を以て正義堂を興し、士庶の入學を許し、經書の句讀及び講義を授け、且毎月六回藩士を集めて講筵を開きしが、中間廢絶したるを以て、此の學ありしなり。慶永英邁の資を以て特に學政に注意し、學問所の外別に講武場を設けて文武を兼修せしめ、又遙に肥後の名士横井小楠を聘し、加ふるに橋本左内の如き英才の之を資くるあり。紀綱大に張り、生徒の數一時千三百人に及びたりと言ふ。明治二

年改めて明新館と稱し、從來醫學を教授せる濟世館(文化二年設立)をも其の管轄に屬し、其の後更に一二の改革を経て、明治五年の學制頒布に及ぶ。生徒は始めより士庶共に入學を許可し、頗る寛大の制を取り、(實際庶民の入學は稀なりき)教科目は經書科・史科・兵書武技科・歴史諸子科・典令科・歌詩文科・習書算術曆學科・蘭學科・醫學科等にして、且夙に泰西學術に注意し、各藩に先んじて洋學の發達に力めたりき。

明德館

秋田藩の藩學。寛政元年(紀元二四四九年)藩主佐竹天樹の創設せる所。始め明道館と稱せしが、文化八年明德館に改めたり。文武忠孝の道を修め、節義廉耻の風を勵ますを以て教育の目的となし、其の學風は終始折衷學派に據り、古學及び朱學の何れにも偏することなし。教科は經學・醫學・武術・和學・禮式・算法等にして、中に五六歳以下のものを、西學にては十六七歳以上ものを教ふ。醫學館亦本館内にあり之を養壽局と稱し、醫家の子弟を教へ、武術は初め各師家に就て學ばしめしが、文政五年以來館内に一大道場を設け之を武藝所と稱し、諸般の武術を演習せり。生徒は何れも士族の子弟にして卒族は特に志望のものに限り入學を許可す。斯くて維新に及びしが、明治元年戊辰の役以來次第に

類廢し、五年學制の頒布と共に閉校せり。

名譽感情

(獨) Ehrsucht

(英) Sense of Honour

社會の一員として、自己の價値を認むるより來る一種の自意識。名譽感情を起さしむるは品性の陶冶上重要な一方法に屬し、ロックの如きは訓練上最も之を重視したれども、之を以て行爲の唯一の動機たらしめ、終に極度に名譽を得んとするに至らしむるときは(獨逸語の Ehrezeit, Ehrsucht は之に當る。)却つて其の品性を損ひ百の害ありて一の益なし。名譽の感情による行爲を義務の感による行爲に高むるは訓練の秘訣なり。

明倫館

毛利氏の藩學。長門國萩にあり。享保四年(紀元二二七九年)藩主毛利吉元の建設する所。多くの藩學中最も古きものゝ一に屬す。其の後嘉永年間敬親の時代に至り、更に之を擴張し、政安年間には従來同地にありし醫學校及び洋學校(博習堂と稱す)をも本館の管轄に歸せしめ、別に歩・騎・砲の三藝及び兵學校を設け、下つて萬延元年には山口の講習堂及び三田尻の越氏塾をも本館に隸屬せしめ、長藩文教の中心たらしめたり。かくて維新に及びしが明治五年之を閉ぢ、遺跡は萩中學校となれり。教育の主義は、他の藩學の概ね朱子學なるに反し、其の始め徂徠の

高弟山縣周南學政に與りしを以て、一に徂徠學に偏せしが、敬親の時山縣大華の館長たるに至り朱學に轉ず。されど徂徠學の精神は維新に至るまで存したりき。教科は漢學・和學・音樂・醫學・天文・地理・算術・筆道・習禮及び諸般の武藝にして、藩士の子弟にして、七八歳に至るものは先づ學に入り、十四五歳に至るまで小學規則によりて素讀を學び、十五六歳より廿四五歳までは大學規則に準じ、文武を兼修し、四十歳に至るまで文武の學に怠らざらしめ、四十歳以後尙會讀に列せしめたり。生徒は學業進歩の度に応じて之を高足・日進・專心・遊意・擯斥の五等に分ち、督勵怠らず、幕末多事に際して、多くの人材を輩出せり。

明倫堂

長崎聖堂 又明倫堂と稱し、後光明天皇の正保四年(紀元二二〇七年)醫士向井元升が此の地に立山書院を設けしに始まる。其の後一度火災に遇ひて廢絶せしが、延寶四年長崎奉行牛込勝登之を再興し、元升の男元成を延きて祭酒となし、爾來向氏世々學政を司どれり。生徒は士庶の別なく凡て入學せしめ、東條及び月謝を徴し、天保八年には奉行よりして月次の講釋には農・工・商の區別なく、業暇を以て參聽すべきを布達し、次第に隆盛に赴けり。教科は經學を主とし、傍ら和學及び醫學を授く。斯くて維新

に至りしが、明治元年學制を立て新に廣運館を興し、國學・漢學・英學の三局となし、二年漢學を向井氏の宅に移し、國學局と稱せしが、四年に至り終に廢校せり。其の校廟は今尙舊態を存して遺存せり。

名古屋の明倫堂

藩祖義直が學問所を建てしに起因し、寛延二年始めて明倫堂と名づく。宗隆の代に至り、天明二年新に學館を興し、細井平洲を擧げて總裁となし、下つて天保四年本居宜長の門人鈴木朗(離屋)を教授となし、始めて和學を講究せり。生徒は七八歳頃より入學せしめ、別に退學の期なし。唯平民の入學を許可せざりしは他の諸藩に等し。學科は和學・漢學・算法・筆道・習禮及び弓術なりしが、慶應の比よりして馬術・劍術・槍術・練兵を加ふ。明治四年新學制の成ると共に廢せらる。

金澤の明倫堂

寛政四年(紀元二四五二年)藩主前田治脩が其の父重政の遺旨を承けて建つる所なり。士族の子弟十五歳に至らば必ず入學して、聽講・會讀に従事し、廿三歳迄在學す。學科は漢學を主とし、和學・算術・醫學・筆道・習禮・歴史・天文・曆學・詩文等にして、此の中筆道は各師範家に學ばしめ、定日に淨書の批評をなすのみ。斯くて王政維新に及び、明治三年中學校に變じ、翌年之を中學西校と稱し、新學制によりて普通學科を授けしが、明治五年學制の頒布

と共に廢校す。明倫堂と相並びて、治脩の立つる所に、別に經武館あり、専ら武術を練習せり。又藩主齊奉が安政元年に創設せる壯猷館は砲術及び洋學を教授し、是等三館相鼎立して、文武の道を研鑽せり。

命令と禁止

Commands and Prohibitions

從順と不從順の條を見よ。

目の衛生

Hygiene of the Eye

- 一、三十分又は四十五分以上間斷なく眼を近く使用する課業に従事せしむべからず。之が爲には適當に課業の轉換をなす必要あり。
- 二、眼を休むる爲め屢々遠隔の事物を見せしむべし。
- 三、なるべく戸外の運動を多くすべし。チーグレル博士は體操は近視眼を防ぐに最も適切なる課業なりと説けり。
- 四、薄光に於て讀書するを避くべし。
- 五、讀方、書方に於て姿勢を正しくし、眼は少くも書籍より二十インチの距離を保たしむべし。
- 六、眼鏡は醫師の命に聞きて之を用ふべし。
- 七、近視眼の生徒は教室内適當なる位置を配當すべし。

八、光線は上方又は左方より之を取るべし。  
九、人工光はなるべく之を避くべし。止むを得ざるときは人工光の下に於ける讀方・書方は之を最小限度となし、圖畫は之を廢すべし。  
一〇、文字の大きさは少くも、高さ三ミリメートル以上なるべし。

近視・トラホーム。

メラニヒト、フィリップ

Philip Melancthon (1497-1560)

獨逸著名の宗教改革家、人文學者にして「獨逸國の教師」Praeceptor Germaniae と呼ばる。元の名をシュヴァルツェルト Schwarzer (黒き土地の義)と言ひしが之を希臘語に翻譯してメラニヒトと呼ぶ。プレッテンの武器師の家に生まる。ロイクリンの甥なり。プッオルツハイムの拉丁學校を経て、ハイデルベルヒ大學(一五一一年卒業)及びケュービンゲン大學(一五一四年卒業)に古典・科學・法律等を學ぶ。一五一八年ウイッテンベルヒ大學希臘語教授として聘せられ、同大學にてルテルと相識り、爾來深



メラニヒト

く相結託し、同校に止まること四十二年、獨逸の他の諸大學及び佛英等の各地よりの招聘を辭し、此の一小大學をして全歐洲を動搖せる一大運動の策源地たらしむ。獨逸新設の諸大學にして大凡範を同大學に取らざるものなし。一五四六年ルテルの歿するや推されてルテル派の首領となり、一生を宗教上の奮闘に捧げたり。メラニヒトの教育上の成績は大凡之を左の五項に約することを得。(一)、大學教授としての信頼を一身に集め、神學・古典・倫理學・物理學等の各方面に亘れる其の講演は多數の學生を吸引し、講筵に列するもの一時は二千名以上に達し、門下生よりトロツェンドルフ・ネアンデルを始め多くの學者輩出せり。(二)、其の觀察章程 Visitationsbuchlein (1538) (ザクセン選侯の求により起草せるもの)に於て拉丁學校の組織を考案して現代の學校組織の開拓者となる。後カメラリウス・トロツェンドルフ・シュツルム等諸教育家の定めたる課程論は氏の意見を敷衍し、直接間接に氏の影響を受けたるものなり。(三)アイスレーベン・マクデブルヒ・メンムベルヒ等の學校を組織して範を四方に垂れ(四)マルブルヒ・ケーニヒスベルヒ・イェーナを始め多くの大學の組織の新定又は改造に努力し、其の他(五)多くの教科書を著作編纂せり。氏は十六歳にして已に希臘語文典を著し、しか

メンデルの法則

Mendel's law ; Mendelianism

「遺傳」の條を見よ。

### モイモウ

#### モーア、サー、トマス

Sir Thomas More (1478-1535)

英國の政治家にして且著述家。ロンドンに生まる。セント、アントニーの學校を経て、オックスフォード大學に入り、拉丁・希臘の古語を始め佛語・歴史・數學・音樂等を學びしが、中途にて退學し、後法律を研究せり。一四九七年エラスムスに會し、爾來之と親交を結び、其の感化により終生古典の研究を繼續せり。一五〇四年國會議員となり、一五一五年和蘭に使して、此地にて多くの人文學者に會せり。一五二一年ナイトに叙せられ後諸種の重要な地位に進みしが、政争に坐して一五三五年燻殺せらる。

モーアは英國に於ける人文主義の保護發達に對して貢獻する所頗る多く、其の家庭はエラスムスを始めグロウシグ、グロウ、ノレット、コラト、フィッシャー、Eisler、エクトット、Elyot等多くの人文學者の集合所となり、宛然英國初期の人文主義の中心なりき。氏は又其の名著夢想國 Utopia (1516) に於て教育に關する種々の意見を發表せり。

#### モーア、ハンナ

Hannah More (1745-1833)

英國の女流作者にして、慈善教育家。プリストルの近傍ステイブルトンに生まれクトリントンに逝く。教育家としては日曜學校及び孤兒院の創設者の一人に數ふべく、又特に女子教育に關する著述を公にせり。女史は宗教を以て教育の中心要素となし、女子の教育に於ては男子の友として男子を助け得るに至らしむるを其の目的となし、日常生活に對する實際的修養を積ましむべしと主張せり。

#### モーリス、ジョン、フレデリック、デニソン

John Frederick Denison Maurice (1805-1872)

英國の僧侶にして且教育家、ケンブリッヂ大學に學び、一八四〇年倫敦キングス、カレッジの英文學教授となり、同四年同カレッジ神學部教授に轉じ、傍ら牧師を兼ね。教育上の事業としては一八四四年クイーンズ、カレッジを創設して、英國に於ける女子の高等教育に先鞭をつけ、同四年友人チャールズ、キングスリ及びトマス、ヒューズの助を得、始めて労働者の高等教育を目的とせるウワーキングメンズ、カレッジ Working Men's College を起し、自ら其の校長となる。一八五三年宗教上の紛争に坐して、キングヘカレッジを退き、一八六〇年倫敦セントピーター

ス寺院を監督し、同六年ケンブリッヂ大學道徳哲學の教授哲學の教授に補せらる。「キリストの王國」The Kingdom of Christ (1838)「教育講話」Lectures on Education (1839)等の著あり。

#### モイマン、エルンスト

Ernst Meumann 1862-1915

獨逸の心理學者・美學者にして又教育學者。ライプツヒヒに生まる。グントに就きて實驗心理學を研究し、チューリッヒ大學心理學教授となり、一九〇五年迄在職せしが、同年ケーニヒスベルヒ、翌年ミュンヘンに轉ず。後エビンゲンハカスの後任としてハルレに招かれ、後又ライプツヒヒに歸り晩年ハンブルヒに移り同地に歿す。多くの著書中「記憶の經濟及び術」Oekonomie und Technik des Gedächtnisses (1908)「學習經濟及び術に就て」Über Oekonomie und Technik des Lernens (1903)「知性と意志」Intelligenz und Wille (1907)「實驗教育學入門講義」Vorlesung zur Einführung in die experimentelle Pädagogik (1907)「現代美學入門」Einführung in die Aesthetik der Gegenwart (1908)「美學の系統」Das System der Aesthetik (1910)等名あり。又自ら「實驗教育學雜誌」を發行せり。モイマンは心理學者としては大凡グントの説を奉ずれども、其の主意説に據らざるものあり、

知性は意志の條件にして、知的要素なくんば意志も不可能なりとし、美學に於ては心理的美學の心理的主觀的方法を補ふに客觀的方法を以てすべく、其任務としては、(一)觀賞の態度、(二)創作の態度、(三)藝術品、(四)美的文化の四方面につき研究せざるべからずとせり。されど氏の最も大なる事業として擧ぐべきは實驗教育學の建設にして、氏は從來の教育學は凡て演繹的(例へばヘルバルトの教育學の如く)にして確實性を缺く。この缺陷を補ひ、教育學を確實なる基礎の上に置かんには歸納的、實驗的、統計的、方法によらざるべからずとし、教育各般の問題を實驗的に研究し、其の結果を一九〇七年「實驗教育學入門講義」(二冊)として發表し、一九一一年以後更に之を増補して三冊となし、大戰の始めに於て完成せり。されど氏は教育一切の問題は悉く實驗的歸納的に解決せらるべしと主張するものにあらず、教育の目的、教育の制度の如きは他の研究法を要すとして、頗る穩健の態度を持つ。此の點に於て同じく實驗教育學を説くライ氏とは異なる立場にあり。しかも、は又反面に氏の實驗教育學は教育學にはあらずして、其の實教育問題の實驗心理學的研究に過ぎざるにあらずやとの疑を起さしむる所以なりとす。彼が實驗教育學に於て論究すべき事項となせるもの大凡左の如し。

#### 實驗教育學

心身の發達 心身發達の研究—教科課程の改造  
個性研究及眞賦論 (知能測定論)—教育の個性化  
兒童精神作業—學習經濟論—各科教授の改良  
の心理的分析—學習作用の分析  
學校作業の生活に及ぼす影響

(實驗教育學雜誌第十二卷第一號參考)

#### 盲啞の教育

Education of the Deaf-Blind

茲に盲啞と稱するは盲にして且聾啞なるもの即ち、視覺及び聽覺の二感覺を缺如するものにして、其の數さまで多からざれども、(一九〇〇年獨逸に於ける調査によれば六千萬人中三百四十人の盲啞ありきといふ)其の教育法は漸次教育者の注意を惹くに至れり。(盲人及び聾啞の教育につきては各其の條参照)

〔歴史〕 盲啞の教育に關する有名なる最初の記録はローラ、ブリッヂマン Laura Bridgman (1829-1889) なる米國一女子の教育にして、ブリッヂマンは生まれて十八個月にして、視聽二覺を失ひしが、八歳にしてボストンの盲學校に入り、ハウの熱心なる教育を受け、遂に音樂・裁縫・家事等の技術に熟達するに至れり。近時喧傳せらるヘレン、ケラー Helen Keller (188

〇) 女史の如きは盲啞教育の最も成功せる一例にして、女史は生後十九個月にして盲啞となりしが、サリヴァン A. M. Sullivan フルラー。の Fuller 二女教師の教育により、終に獨・佛の外國語及び希臘・羅甸等の古語を學び、特に文學及び語學に秀で、一九〇〇年ハーヴァート大學に入り、其の業を終へたり。其の他諸威のラゲンヒルド、カータ Raaghild Kanta を始め盲啞の教育に成效せるの例乏しからず。  
〔教育の方法〕 盲啞は知識收得上最も必要なる視・聽二覺を缺くを以て、其の教育は専ら觸覺の利用に基づくべからず。ハウがブリッヂマンを教育せる方法は先づ普通の事物例へば鍵の上に凸字なる凸字を貼附し、他に別に同様の凸字 を現せる紙面を用意し、先づ鍵と其の凸字に觸れしめ、次に凸字のみの紙面に觸れしめ、反復數回類似聯想の助によりて、鍵なる名詞を知らしむる如き方法を取れり。次

いて事物を示して、其の名を指頭文字（雙啞教育の條参照）にて綴ることを教え、斯くて徐々に言語の取得に導けり。然るに其の後スイフト、ラムソン女史 M. S. Lamson はカスウェル Caswell の教育に於て始めより直に指頭文字によるの方法を用ひ著しき進歩を認めれば、今やラムソンの方法に據るもの多し。

其の他諾威のエアプス、ホフガード Elias Hofgaard はカータ(前出)の教育に於て始めより教師の唇に觸れしめ、其の運動によりて教授する方法を取り、全く指頭文字を使用せざりしが、こは指頭文字を用ふるものに比し、効果少しと稱せらる。

斯くて兒童が稍言語の取得を成せるの後は、印刷語を讀むに慣れしめんが爲に、盲人に用ふるが如き凸字に觸れしめ、之と指頭文字との連絡によりて、讀書の術を授く。最後に發音は教師の發聲機關に觸れて、其の位置を知り、自ら之を試みしむるを要す。されど發音の教授は言語に對する知識の相當に進歩せるの後に於て、之を始むるを可とす。

盲啞の教育は各國共に、家庭の個人的教育によるか、又は盲學校・雙啞學校にて教育するかに止まれども、獨り瑞典のグエネルスボルグには盲啞に對する特殊の學校設立せらる。

ケラーの著書に「わが生涯」The Story of

孩提の子も亦其親を愛し(仁)其の兄を敬する(義)を知る。是れ亦性の善なるを證するものにあらずして何ぞ。(孟子は良知を以て心の本體又は、理となすものにあらず、こは王陽明の説と區別せらるべき點なり)以上吾人は人性の善なるを知る。されど、是れ唯善の要素の人性に固有なるを説けるのみにして、修養宜しきを得ざれば例へば水尙逆流するあるが如く、人性亦惡となることあり。然らば即ち修養の道如何。

修養の道、第一には、なるべく寡慾にして物欲の陷る所とならざるにあり。第二は放心を收むるにあり。曰く「仁人心也義人路也。舍其路弗レ由、放其心而不レ知求、哀哉、……學問之道無レ他、求其放心而已矣」と。第三は夜氣を存し、浩然の氣を養ふにあり。(養氣說)夜氣とは例へば水清くして靜なるときの如く、一點の邪念の起らざるもの、浩然の氣とは水の盛にして動くときの如く、至大至剛俯仰天地に愧ぢざるの態なり。夜氣以て誘惑を斥け、集義(善行を結集すること)以て浩然の氣を養へば遂に事に當つて恐れず、從容迫らざる不動心の域に達することを得。

My life (1903) (皆川正禧邦譯)あり、盲啞の教育法を見るに適す。

Aurep-Nordin, Annual Reports of the Institute of the Deaf-blind in Yemensborg, Sweden  
Elliott and Hall, Laura Bridgeman

孟子 名は軻、字は子輿、又は子車といふ。鄒の人なり。生存年代詳かならず、或は周烈王四年(皇紀二八九年)に生まれ、根王廿六年八十四歳にして歿せりと云ふ。業を子思の門人に受け業成りて後、孔子に倣うて天下を周遊し、鄒・齊・宋・薛・滕・梁・魯等の諸國を遍歴し、王道を説きしも、何れも時勢に迂なりとして容れられず。晩年退いて萬章の徒と問答し、孟子七篇を作り、孔子の道を闡明すると共に、又力を極めて楊墨の徒を排斥せり。

孟子畢生の事業は孔子の説を明らかにするにあり。されど時勢の變遷は自ら孔子の未だ説かざりしものを加へ、又は説いて未だ詳かならざるものを精説するの必要あり。故に孔子の仁に附するに義を以てし、仁の外に節制を重んじ、例へば墨子兼愛說(墨子の條参照)の如きは節制に缺け、事の宜しきに合せざるものなるを指摘し、又特に性善說を主張せり。其の他養氣と言

ひ、良知良能と言ひ、放心と言ひ、浩然の氣と言ふが如き何れも孟子獨特の教説なり。

性善說の意は已に中庸の「天命之謂レ性」(子思の條参照)なる語に見るを得べきも、特に之を點出して、自己教學の中心となせるは孟子なり。思へらく「人性之善也猶如水之就下、人無有不善、水無有不下と。人の性の善なるは水の下きに向ふが如く然り、水に下流の性あるは水の下きに向ふの性あらざるなし、即ち孟子の性善說は善をなし得る要素の人性に固有なることを説けるのみにして、彼の宋儒が唱ふる本然の性(朱子の條参照)の如く、人性を以て純粹に善となし、天下の性一として惡あるなしとなすものにあらず。然らば何を以て善の人性に固有なるを知るを得べきか。曰く、人皆人に忍びざるの心あり。是れ性の善なるを示すものにあらずして何ぞ。惻隱(仁之端)羞惡(義之端)辭讓(禮之端)是非(智之端)の四端は人皆是を有す、之を擴充存養するときは、人として善人ならざるなく、以て四海を保んずるに足るべし。(四端につきては種々の説あれども、伊藤仁齋の説ける如く、之を以て端本の意に解し、例へば彼の植物の種子の培養により次第に發展する如く、四端を存養すれば、竝に仁義の徳を完成すと考ふべし。)又人には良知・良能を本具す、「人之所不能學而能」者其良能也、所不能而能知者其良知也」

せる主義にして、彼が性善論の如きも畢竟件の政治論に根據を與ふるが爲に立てられたるものなり。されど孟子は性善論を好み、其の説動もすれば詭辯に類するものあれば、之に反對する學者紛からず、支那の王充・司馬光、我が國の荻生徂徠の如きは何れも孟子の説を疑へり。

盲人教育 Education of the Blind.

「沿革」西紀一七八八年獨逸ヴヱリア州メニンゲンに於て盲人教育の爲に學會を起し、次いで一二六〇年佛國巴黎に、戰爭にて明を失ひし兵士三百人の爲に、Quarante (三百との義)なる盲院を起せることあれども(此の盲院は今尙存續せり)盲人の爲に、眞に教育を施すの必要を感じ、之が勃興を見るに至りては十九世紀以後の事に屬し、佛人ヴァラント、アウイーが一七八四年パリに創設せる盲啞院を以て、盲人教育の新紀元となす。英國にては一七九一年リパーパールに、同九三年アリストールに盲啞院を開き、爾來年を追うて隆盛に赴き、埃太利にては一八〇四年グラインツ、W. B. 始めて維也納に盲人教育を始め、熱心其の教育法を研究せり。クラインはアウイーと共に盲人教育上殊に記憶すべき人なりとす。其の後獨逸(一八〇六年以後)和蘭(一八〇八年以後)瑞典(一八一〇年以後)丁抹(一八一一年以後)米國(一八三二年以後)の各國共に盲人の爲に學校を

開き、一八六一年始めて獨逸モリツブルヒに盲人幼稚園の起るあり、又盲人教育振興の目的を以て「英國及び外國盲人協會」(英國)「ヴァラント、アウイー協會」(佛國)「紐育協會」マサチューセツツ協會(米國)等の會合各地に起り、今や各國争うて、其の教育に力めつゝあり。

我國にては子爵山尾庸三及び我國盲人教育の祖とも稱すべき古川太四郎氏の力により明治十一年始めて京都に私立京都盲啞院を開き、次いで明治十二年大阪府は模範盲啞學校を設立し、明治十三年東京に私立調盲院起る。調盲院は明治十八年文部省の直轄となり、同二十年始めて東京盲啞學校と改稱し、四十三年盲學校と雙啞學校との二校に分たる。明治三十年代以後公私立の盲啞學校各地に起り、大正七年度の調査によれば、公立盲啞學校七、私立盲啞學校六五校計七十二校を數ふるに至れり。

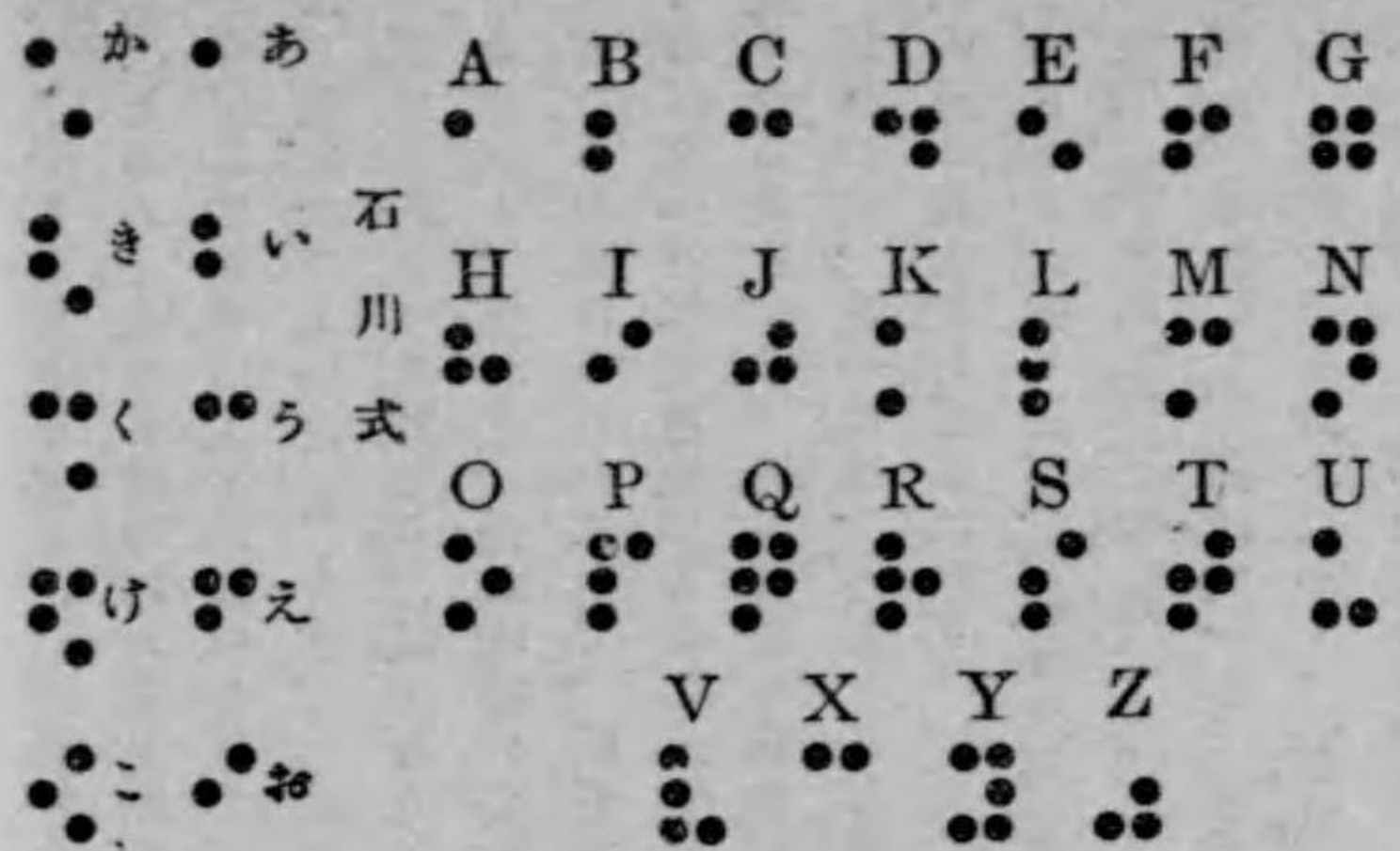
「教育の方法」盲人の教育を分かつて普通教育及び特殊教育となす。普通教育にありては其の目的・教科目共に普通の兒童と異ることなく、又なるべく普通の兒童と並行し、之と同一程度に至らしむるを以て其の理想となす。されど、彼等は學習に最も必要なる機關即ち視覺を缺き、之を補ふに、盲人に於て著しく鋭敏なる觸覺と聽覺とを以てせざるべからざるを以て、教授の方法及び教育に於て、別に工夫する所な



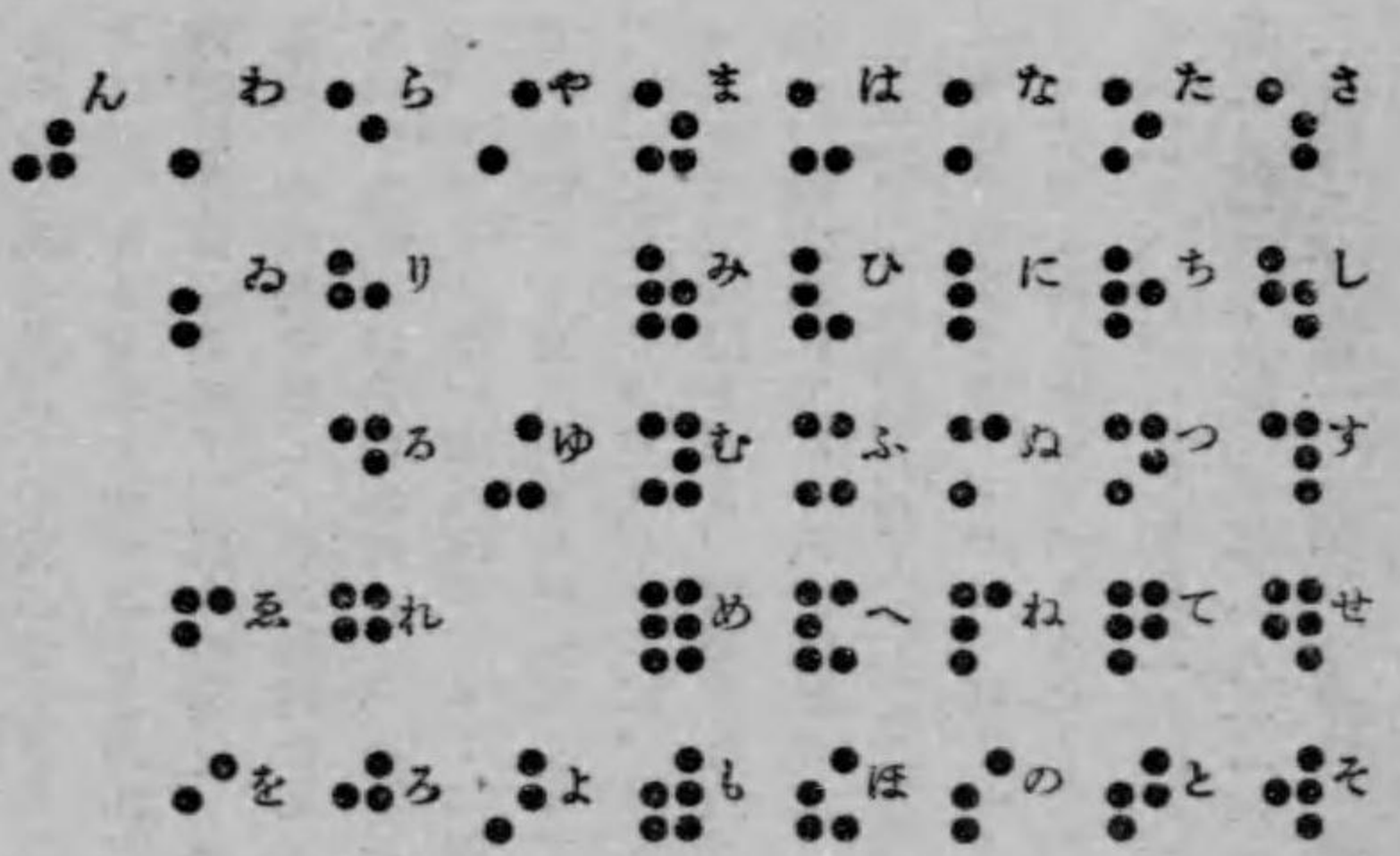
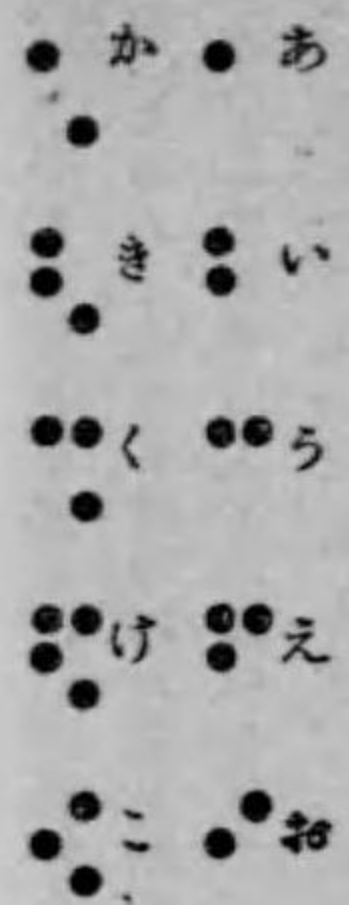
るべからず。是等特殊の事項中、特に詳説すべきは點字なりとす。

〔點字〕アウイーが始めて立案せる羅馬字の凸字は、其の後英國のゴール「Gail」によりて鋸齒狀の凸字(點線の凸字)に改められ、其の他速記術に用ふるが如き人為的の凸字を使用するものもありしが、一八二五年佛國の盲生ルイ、ブレイユ L. Braille (1809-1853) 始めて點字を發明せり。ブレイユの點字は縦に二行に排

ブレイユ式



石川式



列せる。點の種々の排列によりて、各字母及び符號を現すものにして、其の數凡て六十二あり。(此の六十二の内には句讀點の如きものを凡て含めり)。ブレイユ式の變化として、亞米利加ブレイユ American Braille 式なるものあり。此は其の原理に於てはブレイユ式と異なる事なく、唯、E・O・R・S・Tの如き最も多く現はるゝ字母を僅少なる點にて表す如く變形せるものにすぎず。又別にニューヨーク式 York Point と稱し、三行に排列せる六個の點

の變形にて字母及び符號を構成せるものあり。されどニューヨーク式にも種々の缺點存するが故に現今最も多く各地に行はるゝものは依然としてブレイユ式なり。我が國に行はるゝ點字亦ブレイユの一變形にして、明治廿三年東京盲啞學校教師石川倉次氏の案出にかゝる。

點字の發明は盲人教育に一大革新を加へ、點字によりて印刷せられし書籍の數亦頗る多く、現に米國ワシントンの圖書館の如きは斯かる書籍を蔵すること二千五百卷の多きに及ぶといふ。其の他觸覺の利用は盲人教育法に於て主として研究せらるゝ所にして、地理教授に於て、地球儀を土地の高低に應じて凸凹ならしめ、理科教授に於て、實驗を重んじ、生理にて人體模型に觸れしめ、算術に於て觸覺に訴ふる計數器を案出せるが如き、何れも觸覺利用の原理に基づけるものなり。

特殊の職業的教育につきて言へば、西洋諸國にては、籠細工・刷子細工の如き手工及び小賣商業を以て盲人に適處なる職業と認め、近時マツサイジ・タイプライター等の技能を教ふるもの亦次第に加はり、特に材能あるものには音楽を授く。我國にありては按摩業は古來盲人の專業に屬したるを以て、其の教育に於ても、特に此の方面を重んじ、技藝科目として按摩・鍼灸及び音楽の三科を置くもの多し。

盲點

Armitage, T. Education and Employment of the Blind  
Sizeranne Maurice, Mes Notes-Las  
Aveugles Ulises

石川重幸 盲人教育。  
盲點 Blind Spot

網膜に於て光を感じ能はざる部分盲點といひ、視神經の入り來る部分に相當す。今五寸乃至六寸五分の距離を隔て、紙上に二個の小圓を描き、右眼にて左方の圓を諦視し、左眼ならば右方の圓(紙面を眼より遠ざげ又は、近づくときは、右方の圓(左眼ならば左方の圓)の一時消失するを見るべし。是れ其の小圓の映像が盲點上にあるが爲にして、この實驗は一六六八年マリオン・Marieにより始めて行はる。

目的指示

(獨) Zielangabe  
(英) Statement of the Aim

ヘルバルト派の教授段階中、豫備の一部。教授すべき事項を豫示し、之によりて(一)倫理的には教授事項に對する兒童の意志を刺激し、自發活動を鼓舞し、間接に教授の究竟目的たる道徳的品性に影響し、(二)心理的には、新しき事項を收得するに必要な舊觀念を喚起して、兒童の注意を教授事項に集中せしめ及び「夫れ迄意識を占領せる表象を排して、新しき表象を受

入るゝの餘地を成す」(ツイン)を以て其の任務となす。目的指示は、その形式によりて(一)肯定的(二)疑問的(三)課題的の三種に區別する。とを得。其の何れの場合にも、(一)具體的内容を有し、(二)繁簡宜しきに適ひ、(三)且兒童の理解力に適し、(四)其の興味を喚起し得ることを要す。但し一單元に含まるゝ教授の終局的目的は屢々抽象的の性質を有することあれども、目的指示は此の抽象的結果を以てするの謂にあらずして唯單元の如何なる問題を含むかを示せば足る。故にザルゲルは「目的指示」なる語が、動もすれば抽象的なる教授の終局點と誤解せらるゝ虞あるより、之に代ふるに「對象の指示」Angabe des Gegenstandes なる語を以てせんことを提言し、シャールマンは始めより教授終局の目的を指示するは、却つて兒童の探求の興味を妨ぐる場合ありとし、各單元毎に必ず「目的指示」をなすべしとなすの說に反對せり。

目的論

Teleology

宇宙説明の原理としての「目的」又は「究竟原因」を論究する哲學の一分科。  
凡ての事物は究竟目的を有し、此の目的の爲に存すとなす説。萬有は機械的、因果的法則によりて説明し盡くさるべしとなす機械論に相對す。現今にては多く此の(二)の意義に用ひら

黙讀

Silent Reading

黙讀は(一)讀方の技術よりは寧ろ文章の内容に注意を集中し思想を讀み取らすこと(二)音讀よりも一層早き速度を以て讀ましむることの目的を以て之を課す。故に正しき發音を練習せしむるか、若しくは美的表情的讀方を目的とするかの以外に於ては、小學校の各學年を通じ、なるべく獎勵せらるべき方法なり。蓋し讀方の主目的は印刷せる文字より其の内容としての思想を讀み取るに存すればなり。

模寫的教授

(英) Presentative Instruction  
(獨) Darstellender Unterricht

總合的教授の條を見よ。

持上り法

(獨) Durchführung der Klassen

兒童の進級と共に教師も高學年を擔任し、同一教師が長く同一兒童を教育する一種の學級擔任法。持上り法は、教授・訓練の方法が前後相一貫し、同時に又兒童の個性を知悉し、之に順應し得るの長所あり。故にヘルバルトは教育の連絡統一の上より、又興味の永續の點より見て、持上り法に賛し、テグス Teggs 亦道徳的感化の點より之を主張し、持上りによりてのみ教師の權威は保たるべしと唱へたり。斯くて持上り法は一

般に、毎學年擔任教師を變更するものに比して利ありと認めらる。されど持上り法亦一人の教師の偏したる感化を受け、一教師の缺陷を他の教師の長所にて補ひ得ざるの缺點あり。従つて全在學期間を通じて極端なる持上りを主張するもの少く、幼年生には持上りを、高學年に至るに及び之に擔任變更を加味せんとするの意見即ち緩和せる持上り法を採用せんとするもの最も多きが如し。

モティヴェーション Motivation

● 廣く生徒の興味を刺激し、其の學習動機を起さしむること。「教授の原理」の條を見よ。

● 實用主義の立場より、兒童の生活と其の興味に向へるもの、即ち兒童の要求を中心とし、之によりて學習動機を起さしめんとするもの。近時米國に於て盛に論議せらる。

モティヴェーションは、其の主張者の一人たるウィルソン Wilson に從へば從來の學校に行はるゝ如き、兒童より見て何等の意味なき強迫的課業に代ふるに「兒童の興味と動機」とを以てし、兒童の眞生命に觸れたる問題を選び、之を中心となし、教材の排列、教授の方法等凡て之に基づきて決定するものにして、チューイの實用主義に其の根據を有す。實にモティヴェーションなる語はチューイの始めて用ひたる所なりと言はる。凡て知識は實用の具なり、其の價值は如何

本居宣長(二三九〇—二四六一年)

宣長通稱は春庵(後壽庵又は中衛と改む)、宣長は其の字にして、鈴の屋と號す。享保十五年伊勢國松坂町に生まる。幼より學を好み、兼て歌道に志せしが、寶曆二年廿三歳を以て京に上り、朱子學及び醫學を學び、廿八歳郷に歸りて醫を業とす。偶賀茂眞淵が田安侯の命を受け、史蹟探訪の途次、松坂に宿りしを機とし、請うて弟子となり、始めて専ら古學に傾倒す、時に年三十有四。勵精刻苦名聲傾に加はり、明和六年眞淵歿するの後は國學の中心江戸より松坂に轉せるの觀あり。寛政六年紀伊侯に聘せられ、爾來眷顧甚だ厚し、享和元年請に應じて京に上り公卿紳士の間に道を説きしが、其の九月病を得て松坂に通く、年七十有二。諡して秋津彦美豆椋根大人と稱す。門人大凡五百人、中にも平田篤胤・伴信友最も著はる。又子孫代々其の學を紹き、長子春庭、義子稻懸大平、大平の養子内遠を経て、文學博士本居豊顯に及ぶ。多くの著書中古事記傳四十四卷は結構廿五年の勞作に成り、氏が最も心血を凝せるものなり。其の他神道に關する直毘靈を始め、國語學上の著述頗る多し。

宣長研學の大精神は、古道を明らかにし、産靈の神の御靈によりて賦與せられたる眞心をさながらに知るにあり。而して眞心を知るには先

の原理に導かれ、一塵の模範的形式によりて行はれん事を要す、又模範教授の後には教授の目的・原理及び經過につきて特に練習生に指示する所あるを要す。

模倣 Imitation

● 感覺又は暗示を介して來る他人の行動又は思想、若しくは行動と思想との兩者を自己に寫し行ふを言ふ。プライエル・ロイド、モルガン等は此の意に用ひたり。

● 手本となるべき思想又は行動若しくは兩者を反復することを總稱す。こは(一)よりも意義廣く、唯手本と模倣の結果との一致を豫想するのみにして模倣すべき手本が他人にあるべきを要せず。故に自己の思想・行動を反復する所謂自己模倣 Selimitation をも其の中に含み、又プラトーン等が美は自然を模倣するものなりといへる場合の模倣をも其の中に含む。タルド・ジェームズ・ロイス・ポールドウィン等は此の義に用ひたり。

以上二種の用法中現今には第二の意義によるもの多し。模倣は學者により種々に區分せらる。プライエルは之を(一)自發的のもの(二)思慮的のものに區分し、兩者共に其の始め有意的なれども、其の中前者は特に二次的、自動的となれるものとし、ポールドウィンは之を(一)單純模倣 Simple I. と固執性模倣 Persistent I.

とに分ち、前者は模倣衝動及び暗示によりて無意的に模倣するに止れども、後者は手本を再生せんと固執して、再三再四有意的に試み、益々完全ならんと力むるものを言ふ。スタウトは又之を(一)衝動的模倣 Impulsive I. (衝動より直接に起るもの)と(二)遠隔的模倣 Remote I. (一定の目的を達せんと動機よりして模倣するもの)とに分かてり。其の他尙模倣には模倣せんと意識なくして、自然に反射的に起り、單に外より見て模倣とせらる暗示的模倣(反射的模倣) Imitative Suggestion 意識的に模倣せんとする意識的模倣 Conscious I. 群集又は一揆に於て見るが如く、思想及び行動の一定の型式に自ら合致する可型的模倣 Plastic I. の等の區別あり。

● 有機的模倣 Organic I. あり。こはポールドウィンが循環反應 Circular reaction と稱するものと同一にして、或る筋肉運動が目・耳及び其の他の感覺機關を通して刺激となりかくて同一の運動を反復する一の有機的反應なり。されどかゝる反應は純粹に生理的のものなるを以て、之に模倣と言ふ名を與へんよりは、寧ろ循環反應と稱するを可とせん。

模倣が心理學・社會學等に於て重要な意義を有するに至りしは、佛の社會學者タルド Tard de G. (1833—1904) が模倣を以て社會發展の

づ備教により薰習せられたる漢意を一洗し、古傳説を尋釋して、其の精神を求めざるべからず。於是か彼は畢世の力を古事記の研究に傾け盡し、荷田・賀茂二大人の跡を受けて復古神道(神道の條參照)を力説し、國家至上主義を宣傳せり。幕末勤王の士が尊王愛國の旗幟を翻し、王政維新の大業を成就せるが如き、宣長の研究亦與りて大に力ありとなさざるべからず。其の他彼は國語學の建設に一生涯を開き、假名遣・五十音圖・掛結の法等に於て創定する所多く、又和歌の本義を説いては藝術神聖論を唱へ、文學を以て實用訓誡の具となすの非を難じたるが如き、一として卓抜の意見にあらざるなし。鈴の屋の遺跡が今尙國學者崇敬の中心となれる、蓋し故なしとせず。

物語 Legend

或歴史的人物を中心とし、自然に無批判的に成れる傳説。歴史的に見れば虚偽多きも、之を生ぜる時代の人民の思想及び生活を表すものとして價值あり。神話に比すれば神話の全く想像より成り、一般に自然の事物又は勢力を人化するに反し、物語は實在せる人物に關せるを異なりとす。

模範教授 Model Lesson

教授の原理を實地に例解せんが爲に教授練習生に對して行ふ教授。模範教授は故に必ず一定

根本原則となし、模倣によりて一切の社會現象を説明せんと企してに基因す。タルドは反復を以て宇宙一切の現象を生ずる所以となし、此の反復は無機界にては波動となり(光がエーテルの波動なるが如し)、生物界にては遺傳となり社會にては模倣となる。模倣は實は社會現象を生ぜしむる唯一の原理にして凡て習慣・風俗・輿論等は模倣によりて生起す。加之新發見の如きも一人の精神中に於て種々の模倣が衝突し、衝突の結果互に適應し、相調和する所に生ずとせり。ロイスは此の説を承けて、種々の社會的財産の社會的に繼續する爲、最も重要な方便として模倣を認めたり。斯く風俗習慣等の模倣によりて、次代に傳はるるを社會的遺傳 Social Heredity といふ。

「社會的教育的意義」教育上模倣の必要なことは多く説くを要せず。されど模倣を以て全く受動的なるものと見、其の發動的要素を輕視するは不可なり。人は凡て本有の本能及び衝動により、絶えず境遇に順應せんとして努力す。此の順應をなすに當り、自己と同一の境遇にあるもの、思想行動を取り、よりて以て己が順應を全うせんとするものは即ち模倣なれば、模倣は凡て境遇に順應せんとする發動的勢力を豫想す。模倣を以て例へば鏡面に物を寫すが如く、全く受動的に手本を寫すものと考ふるは人の精

神を以て白紙の如きものと見るより來る誤解なりと言はざるべからず。

紅葉山文庫

徳川幕府の私有文庫、將軍の外特許を得たるものにあらざれば閱覽するを得ず。寛永十年(紀元二二九九年)將軍家光の建設せる所にして江戸城内にあり。設備整へるに及び富士見亭文庫の書を悉く本庫に移し、其の後書籍の加はるに伴ひ家宣及び家繼の時代に於て、各規模を擴張し、多くの珍籍を蔵して、以て明治維新に及び、終に今日現存の内閣文庫(内閣記録課所管)をなすに至れり。

森有禮(二五〇七一—二五四九年)

明治の政治家。文部大臣として令名あり。弘化四年鹿兒島に生まる。同藩士有起の第四子なり。慶應元年藩選により、五代友厚に従ひ英國に留學し、歸朝の後外交官となり、明治三年少辨務使として、米國に駐劄し、特に其の教育法を研究す。同八年



清國全權公使に轉ず、幾ばくもなく外務大輔に轉じ、英國に赴任す。明治十

八年官制の大改革あり、文部大臣に任ぜらる、や、多年海外にありて得たる新知識と實務に於ける經驗とに基づき教育法令の大刷新を行ひ、同年文部省に視學官を置き、十九年學校令を發布し、以て現行諸學校令の基礎を確立せり。二十年功を以て子爵を授けらる。越えて二十二年二月十一日憲法發布式を行はるゝに方り、參列の爲め官邸を出でんとして、刺客西野文太郎に襲はれて復た起つ能はず。年僅かに四十有三。有禮伊勢大廟に詣て不敬の事ありとの故を以て此に及べらる。明治五年以後變動常なかりし我國の教育法令は森文部大臣によりて始めて其の基石を置かれ、整然たる學校系統を形成するに至れり。

文章院

王朝時代に於ける七代私學の一。饒暎天皇の弘仁の末年(紀元一四七〇年代)文章博士菅原清公が自家の子弟を教養せんが爲に大學寮内に設置せるものにして東西兩曹あり。其の後仁明帝の承和の始め(紀元一四九〇年代)大江音人亦子弟の教育に意あり。菅原家と共に兩曹を分かち菅原家は東曹、大江家は西曹を掌り、主として漢文を授け、詩文の事に力を注げり。後世菅・江兩家より典故に熟し文章に長ぜるの士を輩出せるは、文章院の教育と相關する所渺しとせず。

問題

Problem

Problem は希臘語の (pro = before + gignav = to give) より來り、「解決せらるべく、前に置かれたる或者」の意を有す。眞なる、論理的に満足なる答を要求する疑問。

問題につき教育上特に注意すべきは、凡て問題とする所は人により異なり。甲に對して問題とするに足らざるも、乙に對しては問題たることあり。故に問題の提出に際しては常に生徒の個々の經驗界を眼中に置き、且其の解決が生徒の理解力の及ばざる如きものなるべからず。教師の問題は必ずしも生徒の問題にあらずせば必ず生徒の知力及び經驗と相合的なるを要す。

モンテーニウ、ミシエル、エイケム、ド

Michel Eyquem de Montaigne (1533—1592)



偉國著名の道德學者・評論家にして教育學者。ペリゴールのモンテーニウ城に生まる。著名の評論家にして、其の教育上の意見は、特に論文集第一卷

廿四章及び廿五章につきて之を見るを得べし。

氏は教育に於ては、ラブレ・コメニウス・ペーコン等と等しく、古典偏重の人文主義に反對し、自然の研究と實際生活に對する準備の必要を高唱し、教育の目的は文法家を作るにもあらず、又論理學者を養成するにもあらず、實に心身の兩方面に互り完全なる紳士を養成するにありとせり。從て、當時多く省みられざりし體育に注意し、古語よりも先づ自國語を語らしむ。教授に於ては「若し理解の伴ふなくんば知るとも何の効あることなし」語論せるのみにては未だ知れりと言ふべからず、それは唯、人の授けたるものを保存するのみと唱へ、大に當時の注入的教授に反對して判斷力の養成を重んじ、訓練に於てはなるべく調と強迫を避け、自由と寛和により自立と實行的堪能に導くべしとせり。後世氏を以て、十七世紀以後に於ける教育改革運動の首唱者に數ふ。

モンテソソリ法

The Montessori Method

伊太利のドクトーレサ、マリア、モンテソソリ Dottressa Maria Montessori (1870—) 女史の創めたる幼稚園幼兒の教育法。(起原) モンテソソリ女史は一九〇〇年以前に於て數年間ローマ大學精神病學の助手たりしが、當時多くの低能兒に接し、爲に低能兒の

教育に關して趣味を感じ、イタール・セガン等白痴教育者の教育方法を研究し、之に基づき種々の教具を考案して低能兒の教育に従事せり。結果頗る良好にして是等の低能兒は小學校の卒業試験に合格し得るに至りしと言ふ。於是か女史は低能兒に用ひて有效なる方法は、又正常の兒童に對しても同様の効果を擧げ得べしとの確信を抱き、偶、貧民に、良好なる家庭を供給する目的を以て組織せられたる、會社の需あるを機とし、貧民の子女を集めて、一の教育所を設け之を「兒童の家」 Casa dei Bambini と名づけ始めて自己の所信を實行するに至れり。是れ即ちモンテソソリ法の起原にして、時正に一九七年一月なりき。

〔教育法の特徴〕モンテソソリ法の特徴として數ふべき中心要素に二あり。一は極端なる自由にして、他は系統ある感覺機關の練習なり。

● 自由教育 女史は兒童の身體及び精神作用の内部的發展に對して強き信仰を有し、人類種族たると將個人たるとを問はず、其の發展の起原は自己の内部に存すとせり。曰く「生命は美しき女神にして、境遇が其の前途に横たへたる障礙を排除しつゝ、勝利を宣しつゝ進む。こは最も根本的の眞理なり」と。凡そ教育は「兒童の身體及び精神の自然的發達を助長するにあ

り。而して助長の方法としては、唯「生命を刺激し、——刺激したる以上は自由に之を發展せしむるにあり。服従及び自己犠牲の如きは必要上偶然要求すべきものたるに止まり、決して教育の本質をなすものにあらず。自由教育の要訣は兒童の内部的發展を注意して監視するにあり。是が爲に教師は一定期に於て兒童身體の成長を測定し、及び其の精神的發展の状態を記録し、是に基づきて適當の所置を施し、且なるべく兒童の個性に注意するを要す。兒童の過誤は兒童自らをして改めしめ、他より干渉すべからず。例へば一兒童誤つて椅子を倒せりとせんも他より干渉することなく、兒童をして、其の如何ばかり他人に迷惑を與へたるかを悟らしむる如くし、斯くて徐々に自己を支配することを學ばしめざるべからず。

● 感官の練習 女史は感覺機關の練習を以て凡ての精神的發達の唯一の基礎となし「感官の練習は明瞭堅固なる精神（道德的生活をも含む）を築くべき礎なり」とすら唱へ、感官練習の爲に種々の教具を考案せり。形の知覺の爲には種々の形體を之に應ずる穴に嵌めしめ、容積の知覺には種々の圓柱を之に應ずる穴に嵌めしめ、大ききと長きの知覺には梯子を組立てしめ、色の爲には色彩ある絲絡を使用せしめ、聴覺にては種々の高さの音を聴取せしめ、又特に沈黙

- 一、フレイベルの幼稚園に比して、一層無制限の自由を主張すること。従つて兒童を團體的に教授することなし。
- 二、其の感官練習は一層直接的形式的にして、フレイベルの重視せる想像的構成的活動の不足せること。
- 三、一層多く、純粹に身體的發達を目的とせる教具を具へたること。
- 四、一層社會生活の實習（食事の準備、室内の掃除、動物の飼養の如き）を課せること。
- 五、一層多く學校課業の準備として、讀方算術等を課せること。

Montessori, M. The Montessori Method  
 " Advanced Montessori Method  
 Boyd W. From Locke to Montessori  
 河野清丸 モンテッソリ教育法真髓

**問答學校** Catechetical Schools  
 紀元二三世紀の頃宗教教育及び一般教育を施す爲に起りし一種の學校。其の教授に問答法を用ゐたるを以て此の名あり。問答學校は羅馬・エデッサ・セザリア・ニシピス。アンチオーク等の各地に起りしも就中最も著名なるはアレクサンドリアの問答學校にして、アンチオーク是に次ぐ。  
 アリクサンドリアは一時世界に於ける學術の



書方學習



食後皿洗

の時間を定め、文字は砂紙を文字の形に切り取りて之に觸れしめ、諸種の感覺特に觸覺の助に

府となり、著名なる神學者多く現れ、従つて早くより學校の設立を見たりき。問答學校の起原は詳かならざれども、紀元一七九年パンテューヌ Pantenus 之に長となりてより次第に盛大に赴き、當時行はれたる諸種の科學及び修辭學・哲學（エピクローソスの哲學を除く）を教へ、特に聖書の研究に力を用ゐたり。パンテューヌに次いで、クレメンヌ（アレクサンドリアの）ガリギネスの如き神學者之を率し、其の後ヘラクラス Heracles・ディオニッス Dionsius 及び其の他の學者を経て、紀元四世紀の終りロッドン Rhodon の學校長たりし時代に於て閉鎖せり。

カテキューメンの學校。  
**問答法** Catechetical Method  
 問答の形式による教授の方法。歸納的教授の場合に用ふるときは特に之をソクラテース法と言ふ。其の條を見よ。

**文部省**  
 教育・學藝及宗教に關する事務を總轄する最高官廳。明治四年大學を廢して文部省を置き、大木喬任を文部卿に任じたるを其の始めとす。現今にては省内に大臣官房の外、専門學務局・普通學務局・實業學務局・圖書局及び宗教局を置く。文部大臣は各省官制通則に於て定められた

よりて所謂精神生活の基礎を與へんと試みたり。兒童をして自ら其の誤を正さしむる如く、教具を排列せるは女史の練習法の一特色にして、例へば兒童若し一圓柱を之に應じたる穴に嵌むる能はざるときは幾度にも試行と錯誤を重ね終に成功に至らしむるが如し。而してこは其の自由教育の當然の要求なりとす。

以上の系統的練習の外女史は又ボマンのかけ外し、學校園に於ける動植物の觀察の如き、感官の偶然的練習をも多く課せり。

女史の自由教育説は他の凡ての自由教育家（ルソー・エレンケイ等）と等しく、兒童の生命を神化せるより來る。女史は兒童の本性を絶對的に善となし、又は惡となす、性善惡論を深究せんとせざりしも、作業を適當に組織し、よりて以て兒童の勢力を善導するときは惡の原因は自ら除去せらるるとの信仰を有せり。即ち作業の組織と自由とは教育の立つべき二大支柱にして、此の二者により人が自然に善に進むは、歴史を一貫せる最高の原理にして、文明の進歩は所詮作業の組織が次第に發達し、人類が、より大なる自由を獲得する過程に外ならずと唱へたり。

「フレイベルの幼稚園との比較」女史の方法とフレイベルの幼稚園との異同につきホームズの擧げたる所左の如し。

職務權限の外、國家省務の分擔として教育・學藝及び宗教に關する事務を管理し、國務大臣として内閣に列し、且閣議を求むるの權限を有す。

**文盲者** Illiteracy  
 一般に、十歳以上に達し、全く、讀み書く能力を缺くものを文盲者と言ふ。文盲者の多少は其國に於ける初等教育普及の度を定むる一標準を成す。文盲者の統計につきては或は軍籍に上りしもののみにつきて之を測り、或は結婚簿に自署し得るもの數にて之を測り、或は十歳以上ものゝ凡てにつきて之を測る。従つて其の比例は統計の方法によりて大差あるを免れず。

一般に女子は男子より其の歩合多く、國について言へば歐洲の西北部諸國は其の歩合最も低し。

# ヤクヤマ

## ヤーン、フリードリヒ、 リードウイツ

Friedrich Ludwig Jahn (1778—1852)

「體操の父ヤーン」Turnvater Jahn なる敬稱を貰へる氏は、一七七八年普魯西のランツに生まる。牧師の子なり。一七九一年ザルツヴェデルの學校に入りし以來屢々學校を代へ、常に教師及び學友に反對せる行動をなせり。一八〇九年アラウエン、クロスタルのキムナジウムに教師となり、毎水曜日及び日曜日の午後兒童を郊外なるハーゼンハイデなる地に伴ひ、諸種の運動競技をなさしめ、一八一一年始めて同地に體操場を設く。これ實に獨逸に於ける體操場の嚆矢にして、ツルネン (Turnen) 體操) なる語亦此の時に始まる。氏は此の地に體操を教授し、重體操(體操の條参照)に關する種々の器械を發明し、體育によりて愛國心を鼓舞せり。一八一三年門下生を率ゐて義勇軍に加はり、戰の終ると共にベルリンに歸りしが、同一九年謀叛者の秘密結社に加はれりとの嫌疑によりて捕へられ、爾來一八四〇年迄ベルリンの近傍及び大學・高等學校の所在地に住むことを禁ぜらる。偶ザイ

ルヘルム四世位に即くに及んで以上の監禁を解かれ、剩(祖國に對する功績により、鐵十字章を贈らる。體操に關する著書としては弟子アイゼン (Eisen) E. との共著に成る「獨逸體操」Die Deutsche Turnkunst (1816) あり。後ベルリンランツ・フライフルヒ等に紀念碑を建設せらる。國民の尊榮如何に厚きかを知るべし。

### ヤーン派 Jahnists

ポールロワイヤール派に同じ。其の條を見よ。

### 約結的

假言的の異譯、其の條を見よ。

### 約説原理

Principle of Recapitulation

生物の一個體が卵より成熟に至る迄の發達は其の屬する種が祖先たる原種より進化し來れる發達の段階を反復すといふ説、即ち「個體發生は系統發生を反復す」(故に又反復説といふ) Onogenesis recapitulates phylogenesis との主張なり。

ダーウインが「種の起原」を公にしてより個體發生と系統發生との關係につき種々の議論あり、アガシ Agassiz は此の二者の平行することを認め、ヘッケルは之を進化の一法則に定立せり。爾來多くの學者此の研究に没頭し、件の平行は決して完全なるものにあらざるを認むるに至りしも、しかも一般には大體に於て之を承認す。

完全ならずといふ所以は、生物が變化せる現象に順應する必要及び變化せる食物等よりして、個體發生に於ては自ら系統發生中の或者を省約し、又は其の或者を相應の時期よりは早く(若しくは遅く)發現するが爲にして「系統發生上低き段階は個體發生に於ては省約せらる。」といふ説(省約説 Theory of abbreviation) をなすものす。要するに約説原理は條件付きに於てのみ承認せらるべきものとす。

コープ Cope 及びハイアット Hyatt は共に個體が老年に於て衰へ行く徑路と種屬の衰滅し行く徑路との間に亦平行の存すること、即ち個體衰亡の道は種屬衰亡の方向を豫示すと主張せり。

約説原理の教育上の應用につきましては開化史的段階の條を見よ。

### 山鹿素行 (二二八二—二三四五年)

素行名は高祐、字は子敬、通稱甚五左衛門、元和八年會津に生まる。幼にして父に伴なはれて江戸に來り、九歳の時羅山の門に入り朱子學を學ぶ。天資穎悟十五歳にして自ら大學を講じ、聽衆頗る多し。當時兵學家に有名なる小幡景憲、北條氏長の二氏あり、乃ち就きて兵學を學び、又是と同時に神道・國學・老佛の學を修め、當時の學術一として通ぜざる所なし。承應元年三十一歳を以て、赤穂城主淺野内匠頭に仕へ、其後



赤穂に赴き居ること八年、致仕して江戸に歸り、家塾を開きて兵法・文學を教ふ。名聲籍甚、其の門に集まるもの二千人を超え、勢威一時を壓す。然るに慶安の變以來幕府兵學家・浪士を厭ふこと甚だしく、素行亦忌諱に觸れんとせしが、偶々其の著す所の聖教要録は朱子學を斥け、「道統之傳至宋竟浪没」となし、直に周孔に接して、古學を唱へしにより、林家の忌む所となり、遂に亦穂に幽閉せらる。斯くて配所にあること凡そ十年、彼の赤穂義士の美譽は素行が前後十有八年の黨與りて力ありと稱せらる。延寶三年赦されて江戸に歸りしも、爾來弟子を執るを禁ぜられたれば、頗る寂寞なる晩年を送り、貞享二年六十四歳を以て歿す。葬るの日諸侯・大夫の使者列するもの甚だ多く、頗る盛儀を極めたりと言ふ。多くの著書中、聖教要録・山鹿語類・武教小學・武教全書・武家事記・中朝事實・配所殘筆・謫居童問等特に名あり。

素行は儒者よりも寧ろ兵學家として知らる。氏が江戸の家塾について學びし二千有餘の門弟

四散するや、所謂山鹿流の兵學は海内に布き、各藩の武道之を採用するもの尠からず、又其の著す所の武教小學・武教全書・山鹿語類等は武士道の經典として、永く尊重せられ、素行により始めて、我國古來の武士道は一の教學として組織せられたり。されど之が爲に素行が儒者としての功績も亦頗る大なるものあるを忘る可からず。彼が伊藤仁齋と時を同じくして(之を天に發表せしは素行仁齋に先んず)古學を唱へ、朱子及び陸王の學を排して、直ちに孔子の旨に接せんとし、又は我國の儒者徒に支那を崇拜し、自ら東夷を以て居るものあるを慨し、我國の美點を稱へ、呼ぶに「中朝」(支那人が自國を中華と呼ぶに對す)を以てし、之を證せんが爲に中朝事實及び武家事記を著せるが如き、學者として、武士として、將た愛國の志士として、素行は古來最も傑出せるの偉人たるを失はず。永富獨嘯庵曰く「假武以來豪傑士四人、山鹿素行・熊澤了介・伊藤仁齋・物徂徠」と、蓋し至言と言ふべし。

### 山崎闇齋 (二二七—二三四二年)

闇齋名は嘉、字は敬義、通稱は嘉右衛門、闇齋は其の號なり。元和四年京都に生まる。幼にして狡悍不遜、父之を患へ、度して僧となし、妙心寺に入らしむ。されど性行依然として修まらず、妙心寺を追はれて、土佐の汲江寺に至る。

當時土佐に朱子學の一派として南學(朱子學派の條参照)を唱ふる谷時中あり、乃ち就て學び、終に著髮して儒となる。時に年廿五。萬治元年江戸に赴き、笠間侯井上正利に仕へ、越えて寛文五年會津侯保科正之に聘せられ、眷顧最も渾し。又神道を出口延住及び吉川惟足に學び、晩年垂加と稱する一派の神道を創む。(神道の條参照)天和二年病歿す、年六十有五。闇齋人となり稱介殿殿、子弟に臨むに嚴として君臣の如く、弟子畏懼して敢て仰ぎ見るものなかりきといふ。弟子頗る多く、其の數六千餘人と注せらる。中にも淺見淵齋・佐藤直方・三宅尙齋最も秀て之を時門の三傑と稱す。又氏の神道を紹げるものにては玉木葦齋殊に名あり。

闇齋は純然たる朱子學者なり。彼は朱子を以て「孔子以後の一人なり」と稱し、明も居敬・窮理(朱子の條参照)の説に傾倒せり。氏の學中特に注意すべきは敬・内・義・外の説にして(是れ敬義と字する所以)、彼は程伊川が「敬以直内、義以直外」(二程子の條参照)の語に基づき、内を修むるに敬を以てし、義を以て外を正し、二者相合して修身・治國の理想に達せんとせり。闇齋は斯く朱子を宗とす、されど之が爲に其の本を忘れ、偏に支那に心酔するものにあらず、嘗て弟子に向つて、孔子若し我國に攻め來らば「之一と一戰して孔子を擒にし以て國恩に報せん、是れ孔子

の道なり。」と言へるにても其の志の存する所を知るに足る。故を以て晩年心を神道に傾け、大に我が國體の重んずべきを唱へ又宋儒理氣の説によりて、神道を解し、垂加神道を立てたり。

開齋の學は其の後諸種の方面に影響を及ぼせり。門人淺見綱齋が靖獻遺言を著して、勤王の精神を鼓吹せる、又細齋の門人三宅觀瀾及び桑名松雲(開齋の門人)の門人栗山潛鋒の二人が水戸に入りて水戸學に貢獻せる(水戸學派の條参照)、或は幕末志士山縣大貳が三宅尙齋の學派に屬し、竹内式部が玉木葦齋の門に出てたる如き、維新の大事業と開齋が直接間接の教化とは頗る大なる關係を有するものありて存す。

### ユイ

#### 唯一神道

神道の條を見よ。

#### 唯象論

Phenomenalism

吾人の認識し得る所の者は、實在の吾人に現象に止まるとなす説にして、哲學上種々の立脚地より主張せらるゝ所のものなるが、ゲイテンルバントは之を部分的唯象論と絶對的唯象論とに區別せり。

● 部分的唯象論 認識を感覺的認識と概念的認識とに二分し、二者の中其の一は實在と一致するも、他は之に一致せず、即ち現象に過ぎずとなすものにして、之に左の二種あり。

(イ) 感覺的唯象論 感官知覺による知識は實在と一致し、其の正しき模寫なれども、概念的知識は單に主觀的にして、意識の事實として存するのみか、又は名目にすぎずとなすもの。中世の名目論者の如し。

(ロ) 合理的唯象論 概念的知識は實在と一致するも感覺的認識は意識の現象たるに止まり實在を正しく示すものにあらずとなす。プラトーンの所説の如し。

● 絶對的唯象論又は不可知論 Agnosticism

感覺的知識も概念的知識も共に實在の真相を示すものにあらず、知り得る所のものは實在の吾人に現るゝ象に止まり、實在其の者(物自体)は不可知なりとなすもの。カント・スペンサー及び多くの實證論者の立脚地は之に屬す。普通に唯象論といへばこの立場を指す。

以上二種の外、絶對的唯象論を更に推し進め、(三)現象の背後にありて現象を引き起すと考へられたる物自体を全く排除し、吾人の知る所のものは現象、換言すれば認識に現れたる事實のみ、と主張する一種の唯象論あり。英國のホヂソン、佛國のルヌビエー等之に屬す。

#### 唯心論

アイディアリズムの條を見よ。

#### 唯物論

Materalism

物質を以て唯一終局の實在となし、宇宙間一切の現象、従つて精神現象をも延長及び礙重の二性を有し、且運動する物質によりて残りなく説明し得べしとなす形而上學説。唯物論は古代のロイキッポス及びデモクリトスの原子論に於て始めて明確なる形式を以て現れ、エピタロース及びルクレティウスにより祖述せられ、近世に至り英のホッブス・ハートリ等又之に傾き、十八世紀の佛國哲學者の多數、十九世紀の獨逸の哲學者モレシヨット・フォアグト・ブヒネル等極端に之を主張せり。ハックスリ・スペンサー

等の不可知論亦物質により心意現象を説明せんとせる點に於て一種の唯物論と見らるべし。されど現代に於ては嚴密なる意義に於ける唯物論を主張する哲學者極めて罕なり。

#### 唯理論

Rationalism

● 宗教上の教説を(啓示によらず)、凡て、理性の作用により演繹せんとする説。普通の論理的規範及び論理的方法を宗教的信條に適用せんとするものにして、此の意味に於て天啓主義の教説に反對す。

● 理性を以て、感性知覺より獨立し、しかも之より一層優秀なる知識の根元となす説、此の意味に於て感覺論に對立す。

● 哲學の考究に於て、先づ一定の根本概念を求め、自餘一切の哲學内容を、此の根本概念より演繹せんとする説。此の意味に於ける唯理論は、經驗論に相對立するものにして、アカルトによりて始めて明らかに提示せられ、スピノーザ・ライブニッツ・ヴォルフ等により次第に完全に定立せらる。カントは認識の内容を感覺に求め、其の形式を悟性の先天形式に求め、經驗論と唯理論とに各正當の位置を與へ、二者を綜合せりと稱せらる。

#### 游泳

Play

#### 遊戯

ユイユウ

「遊戯と作業」 將來の實際的效果如何に關心せず、活動其の者を目的とする身體又は精神の自發的活動を遊戯と言ふ。之を作業 Work に比較するときは、作業は一定の目的を豫想し、此の目的に束縛せられ、此の目的を達するに必要なる手段の選擇を爲すものにして、遊戯の如く自發的ならざるを其の特徴となす。遊戯と作業との主要なる差別は故に自發的なる否とに基き、苟も興味あり、従つて自發的勢力強からんか、そは凡て一種の遊戯なり。遊戯に於て人は全自我を全一的に發現す。遊戯は必ずしも休養にあらず、否、遊戯の後に於て心身は作業以上の疲労を感ずること多し。蓋し遊戯は全自我の全努力を促せばなり、同時に亦人は遊戯に於て作業以上の大事業をもなすことを得、學者の眞理に對する態度が一種の遊戯的態度なるが如く、凡ての大事業は遊戯的態度に成ると言ふも不可なし。プリントンが「作業の價值如何は其中に存する遊戯的要素の度に準じ、反對に遊戯の價值は之によりて成されたる作業の度に比例す。」と言へるは此の意を語るものなり。遊戯的衝動なき作業は苦痛の淵源にして、遊戯的衝動の衰退は是れやがて老衰の兆なり。人は老ゆるが故に遊戯を止むるにあらずして、遊戯を廢するが爲に老衰す。

〔遊戯に關する學説〕 兒童の遊戯に關しては

大凡左の四種の學説あり。

● 勢力剩餘説 遊戯を以て、有機體に蓄積せられたる剩餘勢力 Surplus energy の溢れ出でたるものとなすものにして、スペンサーを唱ふ。兒童は未だ一定の業務を有せざるを以て、比較的多くの剩餘勢力を有し、それが模倣性に導かれて、間斷なき遊戯に發現す。兒童の遊戯を好むは是が爲なり。

● 準備説 遊戯の職分は將來の生活に必要な機能を豫め練習し、生活の準備をなすにありと説くものにして、早くより唱へられ、グロースによりて完成せられたるものなり。仔猫が毬に飛びつき、女兒の形遊びに耽るが如き、何れも將來生活の準備たり。

● 反復説 種族の過去に經驗せる運動的習慣の現在に持續せるは一切の遊戯の基礎にして、遊戯は將來の準備にあらず、寧ろ祖先の活動の復演なりと説くものにして、スマンリ、ホール之を唱ふ、兒童の「石投げ」は祖先の狙ひ撃ちを反復し、魚釣りが祖先の漁獲を反復するが如し。

● 休養説 或機關の活動により、間接に他の機關を休養する手段是れ即ち遊戯なりと説く。以上の三者に比すれば最も生理的なる説明法なり

されど以上の四説は或は生理學の方面より或

は生物學の方面より、各異なる立脚地に立てるものにして、畢竟見方の相違に歸するを得べく、互に相補充して始めて全し。決して柄鑿相容れざる性質のものにあらず。

「遊戲の種類及び時期」廣義に所謂遊戲の内特にゲーム Game と稱せらるるものあり。こは一定の規約の下に行はるる競争的遊戲にして、更に左の三種に區分す。

- (一) 偶然的遊戲 Games of chance 勝敗の専ら偶然に支配さるるものにして、例へば双六の勝敗が賽の目の偶然的發現に左右せらるるが如し。この種の遊戲は人類のみ之を有す。
- (二) 熟練的遊戲 Games of skill 單に熟練を目的とするものにして、玉突の如き是に屬す。
- (三) 競技的遊戲(Athletic games or Athletics) 身體の鍛練と熟練とを目的とするものにして、ベース、ボール、ローン、テニスの如き是なり。

遊戲は又之を他の見地より、運動的遊戲。精神的遊戲に區分することあり。前者は疾走・飛躍等の本能的運動(本能的遊戲)及び之を利用して他人と競争する競争的遊戲(個人的及び團體的)を含み、後者は感覺機關を練習する感覺的遊戲、想像力に訴ふる想像的遊戲、將棋の如き推理力に訴ふる悟性的遊戲を包括す。

遊戲の發達には一定の時期あり。ギュリック

の研究によれば、七歳以下の兒童は自發的にゲームをなすことなく、唯、大人の示唆によりて偶之を行ふことあるのみ。七歳乃至十二歳に至る期間は殆んど全く個人的競争遊戲(競走・相撲の如き)にして、十二歳以後團體的競争遊戲(ベース、ボールの如き)に移り、同時に魚釣・游泳の如き戸外的遊戲と共に又將棋の如き悟性的遊戲に耽るに至る。

「遊戲の價值」運動的遊戲の教育的價値はフットボール等之を認め、近世に入りてはルーソウ・ペセドウ・ベスタロッチ・フレイベル・スペンサー等の諸教育家何かも之を高唱せり。今其の効果を列挙すれば大凡左の如し。

- (イ) 保存 遊戲は反復説の主張する如く祖先より遺傳せる筋肉的習慣を反復し、人の根本的特質を保存するの用をなす。此の特質は本能として發現すれども、凡て本能の發現には一定の時期あるを以て、適當の時期に於て適當の遊戲を課し、練習を加へざれば、其の發達を見るを得ざる事あるべし。例へば少年時代に於てボールを手にせざる人は成長の後之を手にすること殆んど不可能なるべし。
- (ロ) 發達 各時期に於ける遊戲に何れも當時の心身狀態に最も好適なる運動を課し、各機關を最も自然的に發展せしむ。
- (ハ) 心理的生理的統制 意志のままに筋肉活動

動を統制するの能力を養ひ、事變に遭遇して適當に且敏活なる動作に出づることを得しむ。

- (ニ) 道德的修養 遊戲は公明・勇氣・注意・努力・決斷・共働・社會的同情・公憤等の諸徳を養ふに適當なる機會を與ふるのみならず、又反社會的なる有害なる本能的傾向を有益なる方向に轉換し、之を純化するの用をなす。石投により事物を破壊せんとする惡本能をボール遊びに轉じ、争闘本能を相撲に轉ずるが如し。
- (ホ) 豫防 遊戲は寂寞無聊失望等より生ずる種々の惡徳を豫防す。
- (ヘ) 休養 遊戲の供する愉快なる情調は精神に高尚なる慰安を與ふ。
- (ト) 移入 遊戲は單に遊戯者のみならず、又觀者に大なる慰安を與ふ。而して此の慰安の度は觀者が精神的に遊戲の中に自己を移入するの度に比例す。

以上遊戲は其の效果に於て、遂に體操科に勝るものありと雖も、又時としては體操科に見る能はざる種々の惡結果を來すことなしとせず。即ち(一)身體の局部的運動に偏して、均齊なる發達を妨げ、(二)過激なるものありては却つて身體を損ひ、(三)動もすれば過度に耽溺して、精神的修養を怠り、(四)競技の法則を破り、不正の手段にて勝を占めんとし、(五)切りに敵を

罵り公明の態度を缺き、(六)所謂選手と稱する一部の人のみ限られ、多數のものに之に加はるを得ざるが如きは其の重なるものなり。されど是等は何れも、指導の方法如何により、避け得べき所のものとす。

「英國に於ける競技」 獨逸及び瑞典が體操科の本土なるが如く、英國は競争的遊戲の本土にして、上は大學より下は小學校に至る迄、遊戲を以て教育の生命となし、競技の優勝者は學術の秀でたるものにも勝るの名譽を博す。詩人ローバーの如きすら、尙自ら少年時代に於て、クリケット及びフットボールの優者たることを唯一の驕りとなせり。其他凡て推して知るべく、加ふるにアーノルドの如き大教育家が競技を以て品性陶冶の第一方便となせるあり。諸種の競技は日を追うて盛に、ボールの響きとオーアの閃きは英國教育の一半を代表すと言ふも不可なし。英國の一視學官曰く「英國の學校は教場を缺くことありとするも、運動場は之を缺くこと能はず」と。

英國人は競技を以て紳士を養成する主方便となし、其の身體に於ける効果は之を第二位に置けり。従つて其の遊戲は多く團體的にして、個人的ならず。長距離競争の勇者はクリケットの選手に比すれば其の影極めて薄し。公明なる對校マッチは最も廣く行はれ、イトントン對ハ

ローのクリケット競技は遠く一八二二年に起り、一八二九年には始めてオックスフォード對ケンブリッジの競争あり、爾來對校マッチは次第に盛に、重要な年中行事の一に數へらる。諸般の競技中フットボールは特に國技とも稱すべく、競技法は一八九〇年以來主としてラグビー式及びアソシエーション式の二式に據ることとなり。

體育・體操

Hall, G. S. Adolescence  
"Youth, its Education, Regimen,  
and Hygiene  
Games  
Johnson, G. E. Education by Plays and  
Games  
Organic Sensation

有機感覺(一般感覺)

廣義には身體内部の狀態の變化を刺激として起る感覺を總稱す。生理的過程に基づきて起る點に於て、物理的刺激(光・音の如き)に基づく感覺と相對立するものにして、其の中には筋肉・關節・腱等より起る運動感覺・飢・渴・嘔氣の如き治化的感覺・性感感覺、眩暈の如き平衡感覺、呼吸に伴なふ感覺、血行に伴なふ感覺等を包括す。

狭義即ち普通の用法にては以上諸感覺中、運動感覺・平衡感覺の如く、性質の明らかなるも

のを除外し、残れる部分を總合的に有機感覺と稱す。

有機感覺は、吾人の健康狀態の標示となるものにして、快不快の感情と極めて密接に相關係す。一般に氣分と稱するものは此の有機感覺に伴なふ快不快の感情なりとす。情緒に關する「ジェームズ・ラング説」再認及び記憶に關するキユルベの「再認の氣分」ハリーの「感情的記憶」等は此の事實を上記に立てられたるものなり。

有機體

Organism

- ① 生活機能を有する物體。無生物に對す。
- ② 之を構成する各部分が一定の原理(全體より導かれたる)従つて内部的に必然なる)により内部的に結合せられたる全體。即ち部分が全體を決定すると共に、全體の有する目的・原理が部分を決定する一全體。

有機的

Organic

- ① 生命を有するものを形容する語。無機的又は無生物的に對す。
- ② 生物の特徵が其の各部分互に相關係し、相互に影響して一全體をなす點に存するより、轉じて部分と全體が生物に見るが如き關係を有すること、換言すれば部分と全體とが、必然に相關係し、内部的統一を有するを廣く形容する語となる。此の意味に於て有機的とは機械

的に對する語なり。

● 心理學にては、主として(又は全く)生理過程によりて制約せらるゝ心的現象を形容す。有機的記憶。有機的同情と言ふ場合の如し。有機的感情なる語は屢用ひらるゝ所なるが、此の場合に於ては反省の加はらざる、自發的なる(即ち本能的なる)感情を指す。

有機的記憶

Organic Memory  
ヘーリング Hering の始めて用ひたる語にして、神經組織が一度一定の方法にて活動するときは、爾後同様の活動を一層容易に實行することを得ること、即ち神經組織が過去の經驗の結果を保存する能力を(心理的記憶にならへて)有機的記憶とす。

優境界

Euthenics  
境遇の影響を重んじ、境遇の改良によりて人種改良の條件を決定せんとする學。優生學の一分科と見るべく、主として米國の優生學者によりて主張せらる。Euthenics なる名稱は米國のリチャード女史 E. H. Richards の始めて用ひたる所にして、彼は其の著優境界學 Euthenics, the Science of Controllable Environment (1910) に於て、之を「能率ある人類を得んとすの意識的努力により、生活條件の改善を取扱ふ」學と定義せり。

融合

Fusion

二個以上の心的要素が結合して、一の全體的經驗を構成し、しかも構成要素を一々辨別すること困難なる場合に於て、是等の心的要素を融合せりと言ふ。例へば味といふ一の經驗は味覺と嗅覺の融合より成り、空間的表象は運動感覺と觸覺との融合より成るが如し。故に融合には程度の差あり、若し特別の實驗によるにあらざれば構成要素の何たるかを識別する能はざるときは其の融合を完全なりと言ふ。

有神論

Theism

(甲) 宗教上にては有神教とも譯し、

● 廣義には超人者を崇拜の對象とせる宗教的信仰を廣く指し、一神教・多神教及び多神教の最も幼稚なる庶物崇拜迄も其の中に含む。

● 稍狹義には唯一神を崇拜する宗教即ち唯一神教を指し、汎神教・理神教(自然神教)をも其の中に含む。

● 狹義には神の超越性及び人格性を信する唯一神教のみを指す。此の意味に於て有神教は無神教及び多神教に反對するは勿論、神の超越性を信する點に於て汎神論に、天啓及び奇蹟の可能を信じ、神が自然の進行に干渉するを認むる點に於て理神論にも反對す。

(乙) 哲學上にては、唯一にして無限絶対なる至上存在者を以て宇宙の根源となす説。而して此の絕對者と宇宙との關係につきは之を汎神

的に見るあり、理神的に見るあり、狹義の有神教的に見るありて一定せず。

優生學

Eugenics

Eugenics は希臘語の εὖγενής (良き生まれ)より來り、英國のフランシス・ゴルトンの創めたる新しき科學なり。ゴルトン自ら斯學に定義して「高等なる人間 Men of high type を生ずべき條件を研究する學」となし、又「次代の種族の性質に影響する(精神的に及び物質的に)社會的作用を研究する學」と言へり。即ち優生學の目的はゴルトンの語によれば「不良なるものゝ出生率を減ずるを以て其の第一目的となし、早き婚姻によりて良好なる子孫を生じ、之を適當に養育して種族を改良するを以て第二の目的となす」ものにして、遺傳に關する研究を實際の社會問題に適用せる結果として生れ出でたる一の科學と言ふを得べし。

優生學なる名は新しけれども、優生に關する思想は古來已に存在し、彼のプラトーンがレムブリックに於て、國家は個人の結婚に干渉し、優良なる男女を選びて配偶となすべしと説けるは普く人の知る所なり。其の他優生の思想は到る所に散見せるが、ゴルトン一度優生學を唱へ、自ら資を投じて、斯學を研究する大學の學生を給費生となし、又ロンドン大學に優生學講座を置くや、忽ちにして各國の做ふ所となり、今や

米、獨の各地にも各優生學會を組織し、其の機關雜誌を發行し、我國に於ても大正六年二三の士相集りて、優生學會を起すに至れり。

優生に關する研究に於て、現今二個の大潮流と見るべきあり其の一は遺傳を重視し、遺傳の研究を其の第一條件となすものにして、他は環境を重視し、環境の改良によりて人種を改善すべく、遺傳も畢竟するに「蓄へられたる環境」Stored environment に過ぎずと見るものなり。概して之を言へば、ゴルトン及び其の有力なる補助者なるヒアスン Pearson (遺傳に關する精密なる統計的研究を重ねたる人)を始め英國の學者は第一に傾き、ダヴェンポート Davenport、ハーバート Huxford を始め米國の學者は比較的に環境を重視せり。

有造館

伊勢國津にあり、藤堂氏の藩學。文政三年(紀元二四八〇年)藩主高見の立つる所にして、傍に養正寮を置きて童生を教へ、四周に二十八個の武術ありて、武術を練習せり。始めより特に經費に注意し、學田の制確立せしを以て、次第に隆盛に赴き、弘化・安政の比には齋藤拙堂の如き名儒の出づるありて教化大に擧がり、二三の小改革を経て、明治四年の閉校に及ぶ。教育の主義は一般に漢唐の古註により、且、釋奠には特に我國文教に功ありし吉備公及び菅公を以て

孔子に配し、皇道を重んじたり。生徒は凡て士族の子弟にして、九歳にして先づ養正寮に入學し、句讀・習書及び習禮を學び、十三歳以後算術を學び、十五歳にして退學す。十六歳以上のものは専ら武事を學び、文學は特に志あるもの爲に、毎月六回定期の講義を開かしむるに止めたり。高見は此の外別に安政四年を以て伊賀國上野に崇廣堂を設けしが、其の制度凡て有造館に則り其の分校たるの觀を呈せり。

誘動式教授法

モティヴェーションの譯、其の條を見よ。

優良兒の教育

Education of Supernormal Children

〔優良兒教育の必要〕 兒童の個性を尊重し、夫れ夫れの個性に應じたる教育を施すべしとは必ずしも近時の主張にあらず。ベスタロッチは「兒童の個性は神聖なり」と説き、ヘルバルト亦「教師はなるべく兒童の個性を損ふなかれ」と奨む。之を事實に徴するも十八世紀以前の教育は多くは個別教育なりき。然るに近時生物學・心理學の發達に伴ひ、兒童の遺傳的傾向が科學的に研究せらるゝと共に、他方に於ては學級教授の機械的形式なる教育法に反對し、自由教育の説をなすものあり、個性に應じたる教育即ち個性教育は十九世紀の終末より盛に論議せらる。

多種多様な個性を、大まかに、通常兒・低能兒及び優良兒に三大別するとき、低能兒の教育に關しては、己に種々の特別な施設を見るに至りしも、(特殊學校・補助學校・マイハイム組織・ペタピア組織・分團教授等の條参照) 優良兒教育の特殊の方案は未だ甚だ備はれりと言ふを得ず。又同じく優良兒と言ふも、其の中には(一)各方面に互り良好の成績を示す一般的優良兒と(二)音樂・數學・語學等、一定の特殊の方面に限り、卓越せる天稟を有する特殊の優良兒とを區別し得べきが、現今の優良兒教育に於て注意を引けるは一般的優良兒に限られ、特殊の優良兒につきは未だ何等方案の見るべきものなきが如し。こは固より自然にして、且當然なる所置なれども、將來に於ては、特殊の優良兒の教育亦世の注意を惹くべきを疑はず。

一般的優良兒を特別な學級に編制して特別の教育を施すべしとなすに對し、されど次ぎの如き見地より反對をなすものなきにあらず。

- (一) 優良兒は特別の教育を施さずとも自然に發達す。
- (二) 早熟は必ずしも將來の大成を確保せず、そは却つて將來の凡庸を豫示す。
- (三) 優良兒に對する特別の教育は學校よりも寧ろ家庭の任務なり。
- (四) は過大の經費と勞力を要す。



(五) 優良児を特別の學級に移すときは、通常  
兒の學級は其の指導者を失ひ、通常兒學級の  
兒童の努力と教師の興味とを殺ぐ。

(六) 優良児をして倨傲自負の惡習を得しむ。  
以上の諸反對中、(一)は偉人と雖も、其の發  
達のは異常なる天稟の外に、又適當なる境  
遇を要することにより、(二)は早熟は必ずしも  
大成の前兆にあらずとも、又必ずしも凡庸の前  
兆にあらず、早熟と將來の大成と多くは並行す  
るものなること(早熟兒の條参照)により(三)は  
家庭の任務なることは必ずしも學校が之に冷淡  
なるべきことの理由ならず、否、優良兒の正し  
き發達は單に個人のみならず、又國家及び人道  
の上より見て大に必要なるべく、從つて國家は  
特に之に注意すべき義務あること、(四)は一二  
の偉人の出現は經費と努力を償ふて餘りあるこ  
と(五)は、優良児を他の兒童の方便となし犠牲  
となし、優良兒の權利を無視するものなること、  
(六)は優良兒の學級にては生徒の學力相如くを  
以て、夫れ夫れ努力を要し、教師の適當なる注  
意により、自負に陥らざらしむることを得るの  
理由により、何れも之を打破するを得べし。加  
ふるに優良児をして常に自己の能力以下の作業  
に服せしむるは其の正常なる發達を阻害し、且  
怠惰の惡習を養ひ、引いては國家社會の發展上  
大なる惡影響を及ぼすに至るべし。從つて大局

の上より見て、優良兒の教育は特に識者の注意  
を促すべきものなる固より論なし。

(教育の方法) 優良兒の教育法につきては從  
來大凡二個の方案あり其の一は優良兒をして、  
劣等兒よりも早く進級せしむる組織にしてケン  
ブリッジ編制法・エリザベス式編制法・セントル  
イス式編制法の如き、又はジカゴ式編制法  
The Chicago Plan (各學年兒童を能力に應じ、  
數個の學級に編制し、各學級毎に進級に遲延あ  
るもの)の如き、フエプロ式編制法 The Fuch  
s Plan (各兒童毎に能力に應じ、出來得る限り  
早く進級せしむるものにして、極端なる個人的  
取扱をなす)の如き是に屬す。其の二は分離式  
編制法 The segregation plan と稱せらるるも  
のにして、一定の年限の後、優良なる兒童を選択  
して、分離學級(又は學校)を組織し、中等學校  
の準備教育を受けしむ。教科としては外國語・  
數學等をも加へ、學科擔任の教師之を教授す。  
獨逸のマンハイム組織に於ても此の種の編制を  
見るを得べきも、其の廣く行はるるは米國な  
り。米國に於ける分離式編制は、多くは第六  
學年の終りに於て選擇せられたる兒童を收容  
し、二個年間小學校と中學校の課程を併せ授  
け、其の卒業生は大凡三個年(通常は四個年)を  
以て、中學校の課程を修了し、中には二個年に  
て修了するものすらあり。こは一九〇二年始め

てバルティモアに置かれたるを以て、又バル  
ティモア組織とも稱せられ、今や優良兒教育  
の最良の案として、各地に行はる。  
我國に於ては明治四十年代に於て奈良女子高  
等師範學校附屬小學校及び明石女子師範學校附  
屬小學校等にて、分團式教育を施し、優良兒に  
對する特別の注意を拂ひしも、未だ特別に早く  
之を進級せしむるが如き事なし。下つて大正七  
年京都府師範學校にては、尋常科第二學年以上  
の優良なる兒童を選択し、各學年毎に二十五名  
より成る優良兒學級を一學級づゝ組織し、傍ら  
中學校入學準備を兼ね、特殊の教育を施せり。  
是れ恐く、我國に於ける分離式編制法の嚆矢と  
見るべきものならん。  
〔將來の問題〕 優良兒の教育は尙未だ其端緒  
に就けるのみにして、將來研究すべき問題甚多  
し。第一、分離組織に於て、兒童は何學年より  
分離すべきか、從來多く行はれたる如く、第六  
學年以後に於てすべきか又は尙以前なるを適當  
とすべきか、第二、優良兒選定の標準如何、十  
數萬人中、稀に一人を數ふべき天才につき、其  
の特別の教育法を公立小學校に望み得べくもあ  
らざるは勿論なれども、或は米のゴッダード G.  
C. Goddard の如く、優良兒を、生誕年齢よりも二年以  
上精神の發達に於て進めものと定め、優良兒は  
僅かに兒童全數の四パーセント(ゴッダードは二

千人の兒童をゴッダードにより調査し、四パーセ  
ントの結果を得たり)に過ぎずとし、若しくは  
獨のペットオールド Petoldt が、千五百人乃至二  
千人毎に最優良兒各一人を選び、特別の學級を  
組織すべし(氏はベルリンに斯かる學級を設く  
べきを主張せり)とせるが如く、優良兒の標準を  
極めて高くすべきか、又は反對に之を低下し、例  
へば、バルティモア分離學級の如く、通常學  
級に於ける成績順位、上より四分の一に至る  
迄を、優良兒と見るを適當とすべきか。寧ろホ  
イッセル Whipple が優良兒を全兒童の四乃至  
五パーセントと定め一學級の人員二十乃至二十  
五人なるべしと唱へたるを適當の見解と認むべ  
きかにつき、將來大に研究の餘地あるべし。其  
の他、優良兒は何歳頃より其の特色を現すか、  
優良兒の精神的特徴如何、眞の優良と早熟とを  
區別する方法如何、優良兒は學齡以前より教育  
を施すべきか或は反對に之を後らすべきか。優  
良兒教育の特別の方法ありや等何れも優良兒教  
育上解決すべき重要な懸案なりとす。殊に  
我國に於ては、(例へば彼の英・米諸國に於て見  
るが如く)兒童を其の能力に應じ、適宜進級せ  
しむるの方法を認むるべきや否やは教育行政上  
重要な一問題なりとす。

Grotzmann, Exceptional Child

Holmes, W. H. School Organization and  
the Individual Child

乙竹岩造 讀才教育

猶太の教育 Jewish Education

〔特徴〕 猶太人は國王を以て、神エホヴァの  
代表者となし、神は國王を通して政治を行ひ、  
教育を施し、裁判をなすと信じたりき。從つて  
其の教育は徹頭徹尾宗教的にして、モーセの法  
則に從つて行はれたり。換言すれば猶太の教育  
は宗教的倫理的なる品性を作るにあり。しかも  
かゝる品性は神の法則を知るによりて成る。教  
育は神を畏るゝ人を作るにあり、神を恐るゝに  
智の始めなればなり「ミムナ Mishna を知る  
人は罪を犯すことあらざるべし」とは能く猶太  
の教育の精神を表せるものにして、神の姿に人  
を育成するは其の最後の理想なり。  
〔家庭教育〕 かゝる宗教的教育の中心たるべ  
き機關は家庭なり。舊約聖書時代に於ては公立  
學校(少くも少年に對する)は存在せざりしを以  
て、エホヴァの忠實なる信者としての教育は一  
に家庭、中にも、父の教育によらざるべから  
ず。父は國民の宗教的教訓及び信仰を其の子に  
語り、諸種の宗教的儀式を説明し、種々の傳説  
を其の子に傳へ、母は之を輔く。而して上の宗  
教的教育の外に又多少の讀方・書方を授け、祭  
日の計算及び日用の爲に算術を課し、歴史・唱

歌をも加へたり。

〔學校の發達〕 エルザ及びネヘミアの時代よ  
り、聖書を研究すること始まり、教授者又は學  
者 Sopherim, Scribes と稱する一の階級生じ、  
紀元前二世紀頃より希臘文化の影響を受け、希  
臘語の學習行はるゝと共に、又體育にも注意す  
るに至れり。殊に女子の教育は、從來家政に關す  
るものに止まりしが、其の高尙なる修養として  
希臘語を加ふるに至れり。學校として最も古き  
は士師サムエル Samuel によりて創められたり  
と言はるゝ。〔豫言者學校〕 Schools of Prophets  
あり、バビロニアより歸國後之に次ぎて會堂  
Synagogues を多く設けしも、是等は何れも特殊  
の階級の人々が相集まり神の法則を研究するも  
のなるに過ぎざりしが如し。初等教育は已に述  
べたる如く全く家庭の事業にすぎざりしが、紀  
元前七〇年頃シモン、ベン、シメオン Simon Ben  
Simeon 強制教育の制をエルサレムに布きしと  
言はる。而して之より大凡一世紀以後ヨシュ  
ア、ベン、ガムラ Joshua Ben Gamla は六歳以上  
の兒童に強制教育を布き、各村は二十五人の  
兒童に教師一人を雇備し、若し四十人なるとき  
は外に、補助教師一人を、五十人に増すときは  
二人の教師を雇ふべきを定め、宗教と之に關係  
ある算術・歴史・地理等を教科と定めたり。  
エルサレム墜落後高等教育機關としてアカデ

ミー各地に起れり。其の中最も有名なるはヨハン、ベン、ザカイ Johann Ben Zakai、ガゼエニス、バージアン帝の許可を得てガリラヤのヤブネーに設けしものにして、此のアカデミーは永く猶太の新文化の中心となり、宗教上の種々の問題を研究論定し、又哲學・數學・天文學・醫學・地理・歴史・理科に關する研究をなせり。之に次ぎて有名なるはガリラヤのテイベリアスのアカデミーなり。猶太の經典たるミシュナ Mishna (教へると言ふ義)及びミシュナの補遺たるゲマラ Gemara (完成といふ義)は是等のアカデミーに於ける研究に成りしものなり。アカデミーは紀元三世紀の中葉以後次第に衰ふ。

(初等教育の發達) 國獨立を失ひて後教育の却つて振興せるは猶太に於ける一の特異の現象なり。舊約聖書時代に續く大凡九世紀間の教育はタルムード Talmud (ミシュナとゲマラを收めし經典)中に散見す。此の時代に於ては初等教育大に普及せるもの如し。小學校は各町村に義務として之を設置すべく、(ベタル市のみにても四百の小學校ありきと言はる)兒童は五歳乃至六歳にして小學校に入り(夫れ以前の學習は將來の發達に害ありと考へられたりき)大凡之を三時期に區分し、始め舊約書を學び、十歳にしてメシュナに進み、最後に十五歳にしてゲマラに進む。教育の方法は、兒童教師を圍みて

座し、教師の示す文章を高聲に誦讀して、之を暗記す。而して暗記せしものを行に實現せしむるに力を注げり。教師は結婚せる男子のみより之を採用し、教師不足のときは優等生をして教授の補助をなましむ。教師を尊敬すること其の極に達し之を「イスラエルの光」Light of Israel 「イスラエルの柱」Pillars of Israel等と尊稱し、「教師を畏るゝこと天を畏るゝが如くなるべし」父は其の子に一時的の生活を與へ、教師は永遠の福祉を得ることを助く」とすら言はる。教場は始めは露天なりしが、後、屋根ある校舍を備へ、教科は宗教の外又讀・書・算にも及び職業的方面をも加ふ。毎日大凡五時間學につき、休暇あるなく、唯、夏日に於て之を一日一時間に短縮せるのみ。家庭教育の重んぜらるゝこと聖書時代以前と異ならず。

夢 Dream

夢は睡眠中に起る意識過程にして、其の誘因は或は身體の外部に起る刺激なることあり、(例へば窓の響きを雷と夢みるが如く)或は身體内部の刺激なることあり(例へば消化不良の爲に悪夢に襲はるゝが如き)。何れの場合を問はず、此の刺激を起點として、種々の觀念聯想的有機的に繼起し、幻覺又は錯覺に類する状態を呈す。夢と覺醒時の意識との差は第二、夢に於ては

意識の統制作用殆んど是あることなく、自意識は著しく減退す。従つて觀念の系列に秩序あるなく、覺醒時に於て抑壓せられたる觀念も突如として生起することあり。次ぎに夢の誘因は固より内外の刺激なれど覺醒時に於けるが如く此の刺激に對して、反應することなく、唯誘因に導かれて觀念の再生をなすのみなれば、其の内容は主として内部的状態に基づき、感情・性向・身體的狀態より來るもの多し。平生深く關心したがら、しかも意志の力に支へたる感情の、夢中に多く現はるゝは是の爲なり。第三に意志運動一般に停止し。覺醒時に於ける如く、刺激又は觀念に伴なひ適應運動を起すことなし。故に夢中の運動的現象としては偶々寐言を發するあるのみ。近時フロイド Freud は夢を以て平生抑壓せられたる欲望の發現なりとし、夢の診斷によりて、種々の神經病の原因を推定し、之を醫藥上に應用するの道を開き、頗る學者の注意を引きつゝあり。

精神分析

ユングウス、ヨアキム

Joachim Jungius (1587-1657)

獨逸の科學者にして、理科普及運動に功あり。リューベックに生まれ、ロストツク及びギーセン大學に學び、一六〇九年ギーセン大學數學の教授に任ぜらる。一六一二—一四四年に至る

ヨヨ

洋學

洋學の我國に入りしは天文十一年(二二〇二年)ホルトガール人が薩南に漂着し、邦人中ホルトガール語を語るもの生ぜしに始まる。二二〇七年鹿兒島人彌次郎(半次郎といふ説もあり)ホルトガール船に便乗してマラッカに至り、フランシスコ、ザグイニールに會し、勧められて、印度のゴアに赴きサンパウロ學林に入る。これ邦人にして洋學を正則に學びし始めとす。天文十八年(紀元二二〇九年)ザグイニール彌次郎に導かれて鹿兒島に來り、基督教の傳道を始め、これより葡語漸く行はる。爾來凡そ二十年間基督教は盛に宣傳せられ、織田信長・大友宗麟・大村純忠・有馬義純の諸將共に之を保護し、中には使を羅馬に使はし、其の教を傳習せしめたるものあり。是に於てか傳道師を養成するの必要よりして、各地に基督教の學林を設け、宗教の外ホルトガール語・拉丁語・音樂・修辭・算術・辨證學等を授け、洋學次第に行はる。是等の學林中特に有名なるは肥前有馬の學林(カレッツヤ及びセミナリー)にして、其他豊後の府内、近江の安土の學林等亦名あり。洋學と同時に南蠻流と稱する

間ラトケの新教育法をフランクフルト及びアウグスブルヒに研究し、一六一五年リューベックに歸り、再びロストツク大學及びパドローヴァ大學に醫學を研究し、パドローヴァ大學にてドクトルの學位を得。一六二二年ロストツクに「科學研究會」を起し、スコラ學風に反對して、歸納的に眞理を研究すべきを主張し、始めてベーコンの方法を獨逸に擴む。同年ロストツク大學數學の教授となり、同二八年ハンブルヒのギムナジウム長となり、死に至る迄在職せり。氏は科學研究法として、歸納的實驗的方法を採用せる最初の獨逸人にして、特に之を物理學及び植物學に應用し、植物學にてはリンネの分類法の先驅とも見るべき一種の分類法を立てたり。又コメニウス・ハートリブと友としてよし。

ユンゲ、フリードリッヒ

Friedrich Junge (1832-1905)

理科教授に一大革進を加へたる獨逸の教育家。ホルンシュタインの小村に生まる。家極めて貧しかりしが、幼より自然界の研究に興味を有し、四十歳にしてキールに於て一學校の教師となり、更に大學に於て動物學・植物學等を研究し、其の結果千八百八十五年「生活共存體としての村の池」Der Dorfteich als Lebensgemeinschaft なる一書を公にせり。氏は此の書に於

て、從來の理科教授が採用せる系統主義・分類主義に反對して、動物及び植物が相互に相依存し、同一の環境の下に有機的社會をなして生存せることを力説し、所謂生活共存體としての統一的理會を理科教授の要點となし、兒童をして先づ自己の眼前に存在する共存體、例へば村の池・牧場・森・沼の如きものを知らしめ、次第に遠き共存體に及ぼし、終には理科教授の究竟目的たる「自然界に於ける凡ての生命の統一を明瞭に洞察する」に至らしむべしと唱へたり。近時に於ける理科教授書中ユンゲの書の如く甚大の刺激を教育界に及ぼせるものは多く見ざる所なりとす。

生活共存體

西洋の外科醫術及び天文・曆法の學を傳へたりしが、豊臣秀吉が天正十五年を以て基督教を嚴禁し、南蠻寺を毀ち、伴天連(宣教師)を磔殺するに及び洋學次第に衰退せり。されど此の間にありても、其の研究全然中絶せるにはあらず、殊に天正十八年(二二五〇年)歐洲より印刷機械を傳てり、ローマ綴及日本文の翻譯次第に多く、文祿四年及び同八年には「葡和辭書」及び「和葡辭書」の刊行せらるゝあり。又現今尙存在せる伊曾保物語を始め二三の書の翻譯せらるゝあり、文祿・慶長の頃には西班牙語・和蘭語も入り來れり。然るに寛永七年(紀元二二九〇年)家光禁書令を發し、凡て横文の書を讀むを禁じてより、洋學研究の道途に全く杜絶し、唯僅かに來往する蘭人につき口づから漸く之を學び通辯の用に供するに止まれり。

されど如何に書を禁ずるも、學ばんとする志向は之を禁ずるゝと能はず。西川如見(二二三〇八一二三八四年)の如きは夙に西洋の事情に注意し、將軍綱吉の元祿八年華夷通商考を著して、洋學研究の先鞭をつけ、新井白石(二二七一七一年—二二八五年)亦將軍家宣の旨を受け當時布教の爲ローマより渡來し、小石川のキリシタン屋敷に拘禁せられし宣教師シドティ(Giovanni Battista Sidoti)を訊問し、其の結果西洋紀聞を著し、又采覽異言を編す。されど是等は何れ

も通辯の助を借りしものにして、未だ自ら蘭書を講ぜしにあらざり、其の是あるは吉宗以後にありとす。吉宗の卓見なる、早く西洋學術の探るべきあるに着眼し、其の享保五年を以て禁書令を解き、宗教以外の書を讀むことを許すと共に儒官青木昆陽(二二五八—二二九九年)をして長崎に行き、蘭書を學ばしむ、是れ實に蘭學講習の始めなり。昆陽の後は前野良澤あり、桂川甫周・杉田玄白等と相謀り、始めて蘭書を翻譯し、之を解體新書と名づく。一語に一日を費し、數日尙一句を解する能はず、稿を改むること十一度、年月を閲すること四年にして功を竣す。是れ即ち蘭書翻譯の權輿なり。世に白石・昆陽・良澤及び玄白を以て蘭學の四大家となす。

良澤の後に大槻玄澤あり、始めて和蘭文法書を著して蘭學研究の便を開き、蘭學次第に盛なりしかば、將軍家齊の文化八年翻譯局を淺草天文臺中に置き(開成所の條參照)玄澤をして翻譯の事を主らしむ。其の後宇田川玄信・坪井信道・杉田成卿・緒方洪庵等相次ぎて出て、蘭學の研究愈々盛なり。蘭語に次ぎては露語最も早く我が國に傳はり、(寛政五年)英・佛之に次ぎ、(共に嘉永年間)獨語最も遲し。斯くて洋學の發達と共に、單に醫學のみならず、天文・地理・博物・物理・化學・兵學等の諸學傳來し、我が文運に貢

獻する所頗る大なりしかば、文久二年には幕府より始めて留學生を蘭國に派し、次いで慶應元年露國に、同二年英國に、同三年佛國に、各々留學生を送り、洋學者次第に輩出し、洋學教授の塾舎・教授各所に起り、以て明治維新に及べり。

養賢堂

仙臺藩の藩學。元文元年(紀元二二九六年)藩主伊達吉村の建設せる所にかゝり、後重村の時代に至り、校字を改修し、始めて養賢堂と名づけたりしが、尙甚だ振はざりき。然るに齊宗の文化年間儒者大槻清準を擧げて學頭となし。更に校舎を増築し、學制の改革を計りし以來紀綱大に張り、大槻齊溪の如き鴻儒又身を本館の教育に委ぬるあり。以て維新後學制の頒布に及べり。教科は漢學・歌學・蘭語・露語・算術・筆道・習禮・兵學・劍道・槍術等にして、文武兼備の士を作るを以て目的となし、庶民の入學を許さず。入學は八歳(筆道は十一歳)にして別に退學の期なし。少數の寄宿生もあれども、其の大多數は通學の制なりき。

姚江學派

王陽明の條を見よ。

養護學

Diætica 教育學の一分科にして兒童身體の發育に關する方面を研究する部門。されど其の論ずる所多く衛生學の範圍に屬する者なるを以て、教育學

し、前者は後者の前階をなすとのと見るを得べし。

幼兒學校

(獨) Kleinkinder Schulen (英) Infant Schools (佛) Ecoles Maternelles

生活上の必要より、母が工場等に於ける戶外労働に従事せるが爲、其の愛育を受くる能はざる幼兒を集め、家庭に代りて之に一定の教育を施す學校。此の種の學校は夙に其の必要を認められ、ベスマロッツの如き之につきて述ぶる所ありしが、一七七九年始めて、獨逸のオーベルリオンがエルザス州のシュタインマルに之を開き、家婢ルイゼ、シエブレルをして其の教育に當らしめ、次いで一八〇二年バウリネ Pauline 公爵夫人がデトモルトのリッペに之を設くるに及び、大に世人の注意を惹き次第に各地に擴まるに至れり。

英國にては一七九九年頃、蘇格蘭の大工場主たるロバート・オーウェンは、其の労働者の子女の爲にニュー・ラナークに之を開き、ジェームズ・ブカナン、J. Buchanau 及び少女モリ、ヤング Molly Young を以て其の教師となせるに始まり、次いで一八一八年ブカナンは是を倫敦に移入し、ウィルダ、スピン其の思想を受けて之を宣傳し、爾來各地に其の設立を見、一八三六年には幼兒學校教員養成の爲に、一、本國及

者中には之を教育體系の一部と認めざるもの多し。

Diætica は希臘語の διαίτη = diet より來り、攝生法の義なり。始めは身體の攝生法を指せしが、後之を精神生活上にも轉用し、維也納の醫師フオイヒテルスレーベン Feuchtersleben は其の著書に「精神の養護學」なる名を與へたり。されど教育上には尙之を古き意義に用ふ。

楊子

名は朱、字は子居、衛人なり、年代及び傳記詳かならざれども、戰國時代のならんと言はる。

楊子は極端なる宿命論者にして、人の材貌・生命・貴賤等は凡て運命に基づき、又人力の如何ともする能はざる所となせり。故を以て自ら厭世主義に傾き、人生の目的は唯自己の感覺的快樂を求むるにありと説き、極端なる利己的快樂説を唱へたり。曰く、「古之人損一毫一利天下不與也、悉天下奉一身不取也、人々不損一毫、人々不利天下、天下治矣。然るに世の人多くは壽(壽ならんとす)名・位・貨(名・位・貨を得んとす)の苦しむ所となり、一刻も安んずる能はず、愚の極にあらずして何ぞ。斯かる外物に支配せらるゝことなく、唯目前の感覺的快樂に耽り、一毫を抜いて天下を利するも、爲さざ



幼稚園の遊戯

び植民地幼児学校協會 Home and Colonial Infant School Society) の設立を見るに至れり。

佛國にては一八二六年バストレ夫人 Pastoret が英國のプカナン及びウィルダースピンの成功に刺戟せられ、ミレ夫人 Millet と共に巴里の

マク街に開きしを始めとし、爾來各地に設立せられ一八三三年には已に政府よりして教育系統の一部と認めらるゝに至れり。學校は始め之を保護所 Salles d'asile と稱せしが、一八八一年以來母親學校 Ecoles Maternelle の名に改む。(フランスの教育参照)

幼児學校の最も盛なるは英・佛兩國にして、生徒に二三歳より六歳に至り、其の任務は主として幼児の保護監督をなすにありき。されど又同時に讀書・算術等を授け、一時は宛然初級の小學校の觀を呈せしが、フレイベルの教育主義の宣傳と共に漸次其の精神を加味し、今や其の内容に於ては幼稚園と多く區別を見ざるに至り、又其の設立地も始めは工場近傍に限られしが、漸次其の他にも及べり。

幼稚園の教育

Salmon and Hinshaw, Infant Schools

Modality

様式

存在・生起・思考の種類方法、特に確實の度より見たる判断の形式。様式より判断を區分すれば蓋然判断・實然判断・必然判断の三種なる。

感覺の様式とは、感官によりて分類せる感覺(色音等の如く)の種類を指す。様式を此の意義に用ひしはヘルムホルツなり。

幼児の教育

Infant Education

〔歴史〕 幼児即ち未だ學齡に達せざる兒童の

(一)身體の養護 兒童身體の發達は生後の第一年に於て最も著しく、第二、三年に於ては稍之に劣れども、尙頗る急激の増加を示し、滿三歳の兒童は身長に於て初生兒の約一倍半、體量に於て四倍強に達す。されど反對に於て抵抗力乏しきを以て其の死亡率亦最も多し。兒童の身體を正常に發育せしめ、其の疾病を豫防するは父母の第一の責務なり。身體の養護上先づ注意すべきは其の食物にして、食物としては母乳に如くはなく、統計によるに幼児の死亡率は母乳に育つものに最も少く、獸類の乳に育つものは稍多く、乳の代用物と與ふるものに最も多しといふ。次に衣服・住居等に注意し、日光と空氣を充分に供給し、安靜に熟睡せしめ、過度の刺戟を避け、なるべく自由に遊戯せしむべし。兒童を玩弄視し、故意に干渉的に諸種の動作を演ぜしむる如きは幼児の弱き神經を刺戟すること頗る大なるものなれば力めて之を避けざるべからず。

(二)習慣の養成 幼児に扶植すべき習慣の内重要なものは生理的習慣(歩行・談話の如き)、知覺に於ける習慣及び或程の道徳的習慣なり。幼兒の運動は其の始め複雑なれども、身體の發達と共に次第に統制せられ、一定の習慣を形式す。此の統制作用は先づ手の運動に始まり、次に光又は音の方面に目又は耳を傾くる運動に進み

教育は夙に注意せられ、希臘及び羅馬の時代に於ても之を重んじたりしが、教育學者にして始めて組織的に幼児教育法を論述せるはコメニウス及びロックなりとす。コメニウスは其の學校系統に於て母親學校を認め、ロックは道徳的習慣の養成を以て教育の最も重要な目的とし、此の道徳的習慣は幼児より早く之に注意すべきを唱へたり。次いでルソー亦生徒數年間に於ける身體的精神的發展を重視し、ベスマロッツに至りては兒童將來の發達は母の愛に充てる教育に胚胎すること論じ、フレイベルの思想を受けて幼児教育の特殊の機關として幼稚園を創設せり。又他方に於て幼稚園以外幼児の教育所としては英國に幼児學校、佛國に母親學校(佛蘭西の教育参照)等各特殊の發達をなせり。斯くて幼児の教育に對する機關次第に備はるに至り、加ふるに近時勃興せる兒童研究は兒童の精神作用を學理的に考察し、其の結果教育の内容に於て著しき進歩を見るに至れり。

〔教育の方法〕 之を境遇に順應する過程の方面より見るときは、生れてより大凡四歳に至る間は順應の最も盛に行はるゝ時期にして、幼兒の教育は全教育の第一歩たると共に又其の基礎をなす。之を其の内容より考察するに大約(一)身體の養護、(二)習慣の形成の二大綱目に分つことを得。

に童話・寓話等に興味を有するに至る。談話の適當なる選擇亦父母の特に注意を拂ふべき點なりとす。

幼兒の道徳的習慣中特に大切なるは從順にして、從順は父母の愛と權威によりて得らる。次に大切なるは清潔・秩序・誠實・克己等の道徳なり。幼兒の行動は概ね利己的衝動的にして、一時の感情に支配せられて動くものなれば、之を指導するには常に幼兒の満足・快感に訴へ、此の感情によりて動かされながら、自然に善に向ふ如くならしめざるべからず。

之を要するに幼兒の教育に於ては、特に兒童の生活する境遇に注意を拂ひ、境遇の各要素が自ら兒童の行動を指導する如く整理し、此の理想的境遇の力により、兒童をして不知不識身體の發育を遂げ、諸種の習慣を得るに至らしめざるべからず。幼兒の教育は凡て自然的なるを尊ぶ。過度の干渉は却て其の天真を奪ひ、不自然なる發展を誘致することあるべし。

要請

公準の異譯。其の條を見よ。

幼稚園

Kindergarten

〔主旨〕 學齡以前の兒童を收容し、其の心身の自然的發展を圖るを以て目的となす。

幼稚園の創設者たるフレイベルは、イエーナ大學に學生たりし時代よりして當時哲學上の一



大低向たる唯心論、特にラヂオの説に傾き、宇宙萬有（自然及人類）を以て、或精神的統一原理（即ち神）

の發現なりと見、人の目的を以て此の原理を意識的に發展し實現するにありと認めたり。斯くて氏は此の哲學的見解を教育に應用し、教育は（一）人類に本有せる神性を發展せしむるを以て其の目的となす、（二）此の發展は自己活動によりて行はる、（三）此の發展は自己と同類のものとの交際によりて成る。故は教育は社會的ならざるべからず、（四）特に幼年時代の教育は兒童の自己活動の發現たる遊戯を以て中心となさざるべからざることを決定し、此の主張の下に一八三七年始めて幼稚園をフランケンブルヒに創立せり。（以上フレイベルの條参照）

幼稚園は小學校にあらざるは固より、小學校の豫備學校にもならず。家庭と學校との中間に位置すべき一種特別の教育所にして「入學以前の兒童を自然界と人間界とに導き、其の本性に適應せる活動をなせしめ、身體を強健にし、感覺を練習し、心情を誘導し、以て神に近づかしむるを以て目的となす。其の教育は學校的ならずして家庭的なるべく、其の教育者又教師風ならずして、家庭的ならざるべからず。幼稚園の教育を特に保育・Pädie と稱するの理茲に存す。幼稚園の教育は例へば園丁の植物を培養するが如く、幼兒の自己發展を助長するを以て主要の任務となし、外部的には此發展を妨害する作用を除去すれば即ち足る。而して兒童の自己活動は遊戯として現るゝを以て、此の遊戯を心身の二方面に適用し、一々の遊戯の性質を研究し、夫れ夫れ兒童の發達に應じたる遊戯を講し、之によりて其の自己發展を促進せざるべからず。遊戯は之を分かつて（一）運動的遊戯と（二）作業的遊戯との二種となす。前者は戶外に於て行進飛行舞踏等をなし、之に結合して、唱歌を練習せしめ、後者は更に之を（一）庭園等にて植物を培養するものと、（二）卓上にて恩物を用ひて行ふものとの二種に分かつ。恩物はフレイベルに従へば宇宙間の事物を象徴せるものにして兒童は之を遊ぶことによりて自ら、自然界の法則及び神を意識することを得。即ち恩物は單に感覺

機關を練習し、創造的活動を進むるのみならず、又實に宇宙の眞理に達するの方便なり。〔教育の實際〕 フレイベルの開きたる幼稚園の實際につきて見るに、毎朝兒童の集合するや、先づ唱歌を合唱し、次に恩物による遊戯を課し終つて遊園に出で、運動遊戯及び自然物の觀察をなさしめ、後再び室内にて卓上遊戯をなし、時には談話をも加へたり。近時兒童心理學及び生理學の發達に伴ひ、兒童の遊戯・唱歌・談話等につきて次第に兒童の發達に合せるものを選択し、益々教育的となるに至り、幼稚園の教育法は大に進歩せしも、他方に於ては、之を共にフレイベルの重きを置きたりし遊園に於ける遊戯を減じ、卓上の遊戯を過度に課し、教育は次第に形式的なるに至れり。此の形式的風潮に反抗して立てるものを所謂自由派の運動 Movement とす。我國現在の規定にては、幼稚園は滿三歳以上六歳に至るまでの幼兒を保育し、其の心身を健全に發達せしめ、善良なる習慣を得しめ家庭教育を補助するを以て其の目的となす。保育の項目は之を遊戯・唱歌・談話及び手技（恩物を用ひて行ふもの）となし、保育の時間は管理者設立者に於て之を定め地方長官の認可を受くべく（大凡一日三四時間以内）保母一人にて保育すべき一組内の幼兒數は約四十人以下、一幼稚園に收

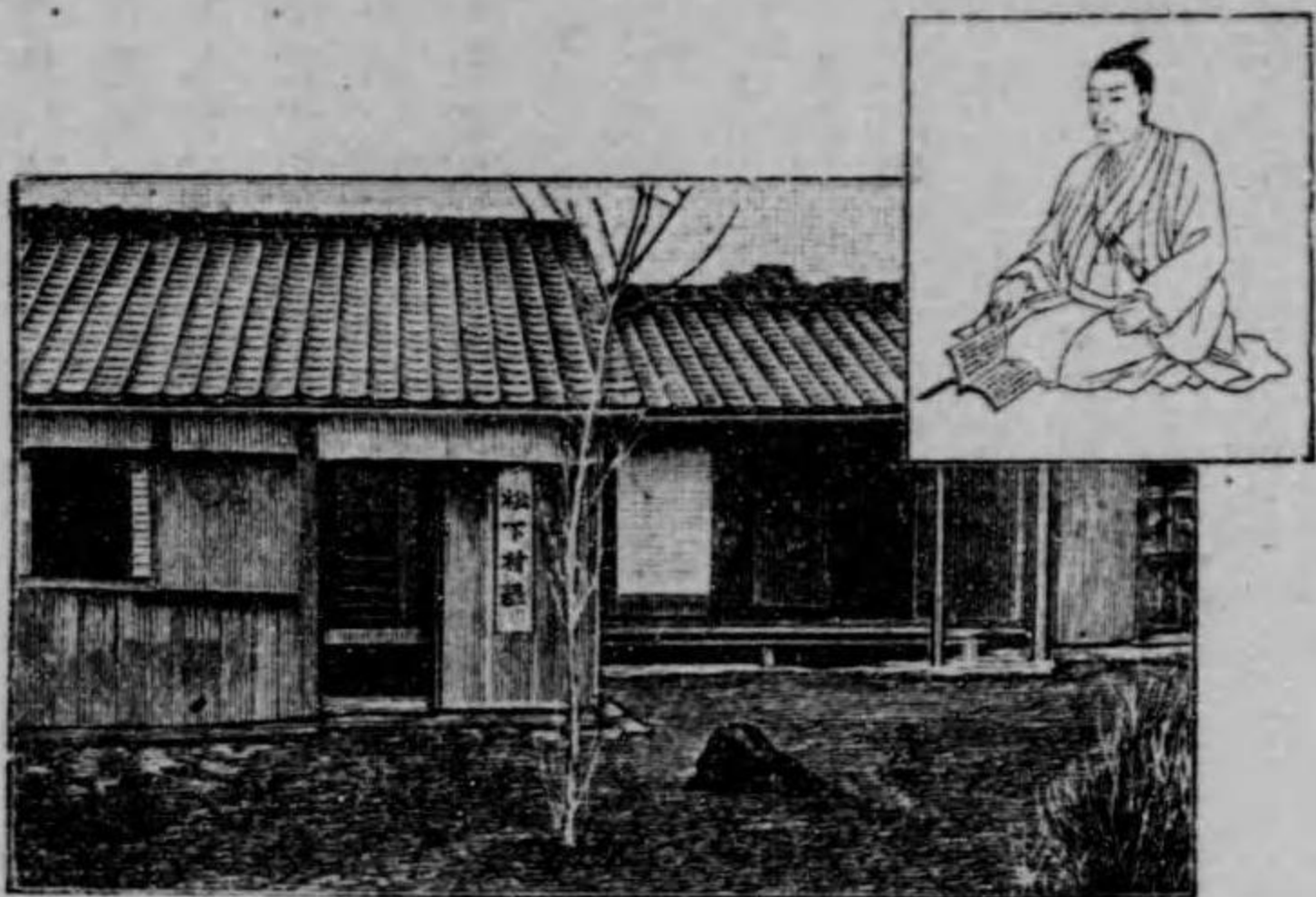
Problems  
中村五六 保育法。  
東 基吉 幼稚園保育法。  
陽明學派  
王陽明の條を見よ。  
欲望 Desire  
欲望なる語は通俗には動能又は衝動と同一の意義に用ひらるゝことあれども、科學的用語としては、其の意義を限定し、目的の意識を有し、同時に此の目的を達する方法の觀念を有するもののみを指す。故に欲望は精神の或度に達せる後起る所の一種の動能にして、之を衝動に比すれば衝動の如く盲目的ならざるを異なりとす。例へば嬰兒の乳を求むるは衝動より起る行動なれども、貧しきが故に富まんとするは明らかに目的を有するが故に一の欲望なり。

容すべき幼兒の總數は約百二十人以下たるべきを以て本則と定められたり。〔幼稚園の發展〕 幼稚園はフレイベルの死後大凡二十年間に於て、マールホルツ、ビュロー男爵夫人の努力により、始て世界各国に擴まれり。即ち獨逸にては一時幼稚園の設立は禁止せられたれども、一八六一年禁令を撤せられ、ハムブルヒ・ドレスデン・柏林を幼稚園運動の三中心地として、各地に其設立を見るに至れり。佛蘭西にては幼稚園を母親學校（フランスの教育参照）と言ふ。されど、これは本來幼兒學校の一種と見るべく、其の教育法小學校と多く異ならざりしが、次第にフレイベルの思想を加味し、英國にては一八五四年始めてロンドン及びマンチェスターに之を設け、又一八七四年以來從來の幼兒學校を幼稚園の原理に基づきて改革し、

米國にては一八五五年フレイベルの弟子カール・シュルツ Carl Schurz 夫人、ウオータータウンに之を設けたれども、こは唯、獨逸人の子弟の爲に設けられしものにして、米人の爲にせるものは一八六〇年ヒューボティ Peabody がボストンに設けたるを嚆矢とし、爾來急速の發展を遂げ一八七三年セント・ルイスにては始めて之を公立學校の一部と認め。我國にては明治九年十月東京女子師範學校

（現今の東京女子高等師範學校）に始めて之を附設し、保育事項を物品科・美術科・知識科の三となしたりしが、漸次各地方に幼稚園起りしを以て明治十一年保母練習科（修業年限一箇年）を内校内に設け、次ぎて明治十三年幼兒保育法を女子師範學校の科目となし、明治卅二年幼稚園保育及び設備規程を定む。大正七年度に於ける幼稚園數官公私立合せて六一二保母一、七五〇人幼兒數五一、八三四人に達す。〔現時の傾向〕 現時幼稚園の教育家の間に保守派を自由派との二者あり。保守派はフレイベルの方法及び思想を其の儘繼承せんとすれども自由派は反之時勢の進歩に伴ひ、自由なる改革を加へんと試む。従つて自由派はフレイベルの哲學特に其の自然觀に據らず、恩物を以て自然の象徴となし、之によりて自然の法則を理解せしめんとする神秘的見解を棄て、フレイベル以後に發達せる、兒童研究・發生的心理學等の知識に基づき、哲學よりも寧ろ科學の上に幼稚園教育を立てんと企てつゝあり。近時伊太利のモンテッソリによりて試みられたる幼稚園改良運動（モンテッソリ法参照）の如きは其の一に屬す。

Goldammer, Der Kindergarten  
Mac Vannel and Hill, Kindergarten  
吉田松陰 (二四九〇—二五一九年)  
〔傳記〕 松陰名は矩方、通稱は寅二郎、松陰又は二十一回猛士と號す。天保元年長州萩の東郊松下村に生まる。家もと山鹿流の兵學家なりければ夙に家學を修め、年甫めて十一歳藩主の前に兵學を講ぜしに所説明快聞くもの驚嘆せざるばなし。後佐久間象山・横井小楠・藤田東湖等當時知名の士と相交り、常に勤王の大義を唱へ、熱心なる攘夷論者として國事に奔走せり。安政



元年米鑑に投じて海外に遊學せんとして成らず  
自首して縛に就き、長州野山の獄に投ぜらる。  
越えて二年松下村の自宅に塾居を命ぜられ、翌  
三年(二五・一六)藩に請うて、嘗て養父が天保  
十二年の頃開きし塾舎を再興し、家學を教ふ。  
是れ即ち有名なる松下村塾にして、松陰時に年  
廿七歳。松下村塾「誓爲神國幹」の意氣を  
以て、國家經綸の策を講じ、尊王攘夷の精神を  
鼓吹しけるが、偶安政の大獄の起るあり、松陰

亦事にして罪を得、安政六年「我今爲國死、  
死不背君親、悠悠天地事、感實存神明」と  
詠じて從容刑に就けり。時に年僅かに三十歳。  
松陰人となり勵精、牢獄にありて常に心を書冊  
に潛め、著書凡て六十種の多きに及べりといふ。  
〔教育法〕松陰は素行の武士道に感化せらる  
こと最も深く、教育の目的を以て「君臣一體、  
忠孝一致」の國民道徳を發揚し、君臣の義、華  
夷の辨を明らかにするにありとなし、最も氣節  
義行を尊び、至誠之を貫ぬき、「死而後止」の四  
字を以て之を守るべきを唱へたり。曰く「心一  
死を存する人にあらざれば守るの一字は台點行  
かぬ事なり」と。

松下村塾記の一節に曰く「天下を奮發し、四  
夷を震動するは即ち長州にあり、其の長州の大  
に顯はるゝは必ず松下邑より始まらん」と。此  
の自信と抱負とあり、加ふるに燃ゆるが如き熱  
誠を以てし、其の教育は簡易を旨とし、師弟共  
に出で、は田を耕し、入つては米を搗き、日常  
作業の間に書を講じ、道を論じ、専ら實踐躬行を  
以て子弟を導き、教ふる所は經學は固より地理、  
歴史及び數學にすら及び、且武藝をも併せ課し  
たり。されば其の塾は僅かに八墨と十墨半との  
陋屋、其の期間は僅かに二年半の短日月なりし  
も、高杉東行・木戸孝允・山田顯義・前原一誠・品  
川彌二郎・伊藤博文・乃木希典を始めとし、多く

の英材を其の門に出だし、維新の泉源を製賛せ  
るの效頗る大なり。薫化の偉大なる松陰の如き  
は多く見ざる所なりとす。嘗て從弟玉木彦助加  
冠の時與へたる左の士規七則は氏の所守を知る  
と共に又其の教育主義を窺ふに足るものなり。

- 一、凡生爲人、宜知人所以異禽獸、蓋人有五倫、而君臣父子爲最大、故人之所宜爲人、忠孝爲本。
  - 一、凡生皇國、宜知吾所以尊字內、蓋皇朝萬葉一統、邦國士夫、世世祿位、人君養民、以續祖業、臣民忠君、以繼父志、君臣一體、忠孝一致、唯吾國爲然。
  - 一、士道莫大於義、義因勇行、勇因義長。
  - 一、士行以質實不欺爲要、以巧詐文過爲耻、光明正大、皆由是出。
  - 一、人不通古今、不師聖賢、則鄙夫耳、讀書尙友君子之事也。
  - 一、成德達材、師恩友益居多焉、故君子慎交遊。
  - 一、死而後已四字、言簡而義廣、堅忍果決、確乎不可拔者、舍是無術也。
- 古士規七則、約爲三端、曰立志以爲萬事之源、擇交以輔仁義之行、讀書以稽聖賢之訓、士苟有得於此、亦可爲成人一矣。
- 豫備 Preparation

形式的段階の第一段。教授の對象を指示し、教

授事項を類化するに足る舊觀念を喚起し、より  
て以て、學習せんとの意志を起さんが爲に之  
を行ふ。其の方法としては或は目的指示をなし  
或は既習事項の復習をなし、或は實物標本等  
を示し、或は新教材を收得せしめんが爲に已有觀  
念の整理を行ふ等、教材の性質と兒童の年齢と  
に應じて適當に斟酌する所あるべきなり。

讀方教授(初歩の)

Teaching Reading to Beginners

〔目的〕印刷又は書寫せる文字・文章の意味  
を正確に理解せしむるの能を得しむるを以て目  
的とす。故に讀方の教授は(一)言語の視覚的表  
現たる文字(二)文字の意味(三)文字の發音を心  
中に思ひ浮かべ、又は明らかに發音することの  
三要素を其の中に含み、是等三者を正當に且確  
實に聯合せしむるによりて成立す。

〔初歩の讀方教授の歴史〕最も早く、且最も  
永く行はれたるは綴字法 Alphabetic method に  
して、先づアルファベットの名及び形を暗記せし  
め、次に之を綴及び語に構成せしむるものに  
して、汎愛派の如きは特に之を利用し、ペスタ  
ロッツ亦之に依り、中には綴字法の爲に特にア  
ルフアベットの骨牌及び其の他の方便物を案出  
せしものあり。されど綴字法は、一文字の發音  
を直接に教ふることなく、アルファベットの名  
より間接に之を發見せる可らざるの缺點を有

す(Bをビと教へアの發音を直接に示さざる  
が如し)るを以て現今にては此の方法に依るも  
のなし。綴字法に次ぎて行はれしは發音法 P  
honic method, or Phonic method なり。發音法  
は文字の音(名にあらず)を以て出發點となし  
(Bをビと言はず、直ちにブと言ふ類)之よ  
り、綴・語を構成するものにして、之が爲に各  
文字の發音を示す爲に種々の符號を用ふる事  
あり(一の場合特に Phonic method と云ふ)  
發音法は、早くより綴字法と並存し、宗教改革  
時代ルテルと同時のイッケルザメル始めて  
之を用ひ、シエテフアニ之に發音法の名を與  
へ、音より始め、次に二重音次に子音次に  
綴語の順序に進めり、其の後オリグアイエー  
Oliver クルーフ Krug シヒューセル Schuler 等  
順次之を改良し改良の進むと共に次第に聲學學  
の複雑なる原理を加味するに至れり。

發音法は(一)語の發音は孤立せる文字の發音  
の單純なる總和にあらずるを以て、文字の發音  
が語の發音に融合するとき、困難あること(二)  
發音上の符號を徒らに記憶せしむるの負擔を課  
するのみならず、(三)語の視覚的表現たる文字  
と其の發音との器械的聯合に主力を注ぎ、意味  
の方面を閉却せる等の缺點を有す。斯くて文字  
と觀念的内容、即ち意味と文字と及び發音との  
聯合を完全ならしめんが爲に所謂思想法 Phonetic  
method なるもの發達し來れり。

思想法は彼の綴字法及び發音法が、要素より  
全體に進む綜合法 Synthetic method なるに反  
し、一般全體より要素に進む分析法 Analytic  
method を取り、之に選ばれたる文章より出發  
する文章法 Sentence method 語より出發する純  
語法 Normalwörtermethode, word method, Look-  
and-say method 句より出發する句法 Phrase  
method 等あり。文章法は思想及び言語の眞の  
單位は文章なりとの豫想の上に、兒童の思想の  
發表たる文章より出發し、次第に之を句・語・綴  
等に分析す。(ジャコトの條參照)純語法は文  
章法よりも早く用ひられ、煩瑣なる發音法の反  
動として起れるものにして、選ばれたる標準語  
を全體として提示し、之に直觀教授を結合し、  
後、次第に之を綴・字音等に分析し、意味と文字  
と發音との聯合を得しめんとす。句法は文章法  
又は純語法の補助として、一定の句を示すもの  
にして、獨立に用ひらるゝ事少し。以上三種の  
方法中、近時最も廣く行はれたるは純語法にし  
て、それは(一)大人は通常、單一なる文字を讀むに  
あらずして語又は句を讀むといふ心理的事實の  
上に立ち、(二)語と直觀教授とを結合して意味  
との聯合を生じ(三)發音上の約束を器械的に記  
憶せしむるの勞を省き(四)語を觀念の表現とし  
て扱ひ、語と意味とを結合するを以て器械的の



は、莊重なる道德的の教訓、又は模範文の如きものを讀むに用ひ、聽者をして感動せしむるを主とす。速讀は、既に他教科にて學習し、形式・内容共に容易なる章節等に於て、専ら讀み方技能の練習に用ふるものなり。然れども屢之を用ひ、兒童をして内容を顧みず、粗略に讀過する習慣を生ぜしむるは不可なり。「速讀は惡讀の母なり」と。範讀は、教師模範的讀み方を示すものにして、既に素讀の練習を了したる後、速讀・美讀の爲になすべきものなり。範讀の後は、兒童をして、なるべく之に模して讀ましむべし。準讀は一句一句教師の讀み方に準ひ、兒童をして讀ましむるものにして、劣等生の教授に有效なり。單讀は發音を示し、誤謬を矯むる時に用ふるものにして、兒童をして一人毎に單獨に讀ましむるものなり。共讀は、教師・兒童交互に或語句・章節を讀みて、次ぎを他に回はすものにして、兒童の注意を集中するを得、讀み方練習に倦ましめざる利益あり。齊讀は、教授に活氣を與へ、懶惰なる兒童又は劣等生を活動せしむるに利あり。概して低學年に用ふべきものとす。然れども齊讀は屢之を用ふるときは、却つて不注意に流れ、無意味の誦讀をなすに至る虞あると共に、又一種の口調を生ずるに至る嫌ありとす。

(ハ)意義の話し方 直譯的なるもの、意譯的

✪ラ

ライアーンソン、エシヤートン

Lepton Ryerson (1803-1882)

カナダの教育家。オンタリオ州のノーフォークに生まる。一八四三年視學官に任ぜられ一八七六年に至る迄其の職にあり。就職の始め、合衆國及び歐大陸に旅行して其の教育状況を觀察し、其の視察報告は一八四六年及同五〇年の普通教育令の基礎をなし、又教育養成の必要を主張し、其の結果トロントに師範學校を開き、小學教育と中等教育との分離及び連絡を企てたり。オンタリオ現在の普通教育は氏が視學官として三十三個年の努力に基づくと言ふも不可なし。退職後文筆に身を委ね一八八二年病歿す。

ライエル、アンドレアス

Andreas Reyher (1601-1673)

十七世紀に於ける獨逸有数の教育家。ヘンネメルヒのハイブリッヒスに生まれ、ライプツヒにて神學及び哲學を修め、一六三二年以來ジュロイゲンケンの文科中學校長として名あり。一六四〇年ゴータ公エルンスト、テル、フロムメに聘せられ、ゴータの中學校長となり其の死に及

ライ

なるものゝ二法あり。直譯的話し方は、字句通りに話すものにして、譯文的措辭多く、意譯的話し方は、全文を理會したる後、字句に拘泥することなく、其の内容を自己の言語にて發表するものなり。詩歌・韻文の如き材料に在りては、其の措辭・修飾を教授したる後、直譯的話し方を併用することあるべきも其の他、一般には意譯的話し方を用ひ、讀み方と相交錯して之を練習し、漸次讀むに従つて、其の意義を解すること慣れしむべし。然れども、文章の形式・内容共に平易なるときは、特に解釋的話し方を要せざるべしなり。

國語教授・讀方教授(初歩の)・直觀教授 齊唱・精讀と粗讀。

讀方の心理 Psychology of Reading

「讀方教授(初歩の)」の條下「實驗的分析」の項を見よ。

與料 Data

研究の出發點たるべき資料。特に思考により系統化せらるべき知覺材料を指す。「經驗的與料」と言ふ場合の如し。凡て研究に際しては一定の知識をば、疑ふべからざるものと認め、之を出發點として研究を進め、終に一定の法則に達す。此の出發點としての疑ふ可からざる知識を與料となす。故に與料は研究の目的及び方法を異なるに従ひ、換言すれば學問の性質の異なる。氏は嘗にゴータ中學校として名を全獨逸に馳せたるのみならず、又エルンスト公を助けて、有名なる「學校教授法」Danmethediusを發布せしめ、又多くの教科書を著し、ラトケ及びコメニウスの主義に基づきて、小學校の教育に一大革新を加へたり。

ライオン、メーリ

Mary Lyon (1797-1849)

米國有数の女流教育家。マサチューセッツ州バックランドに生まれ、サウス、ハドドりに逝く。一八三七年マウント、ホールヨーク、カレッジ Mount Holyoke College を起し、爾來十二年、其の校長として女子の高等教育に盡瘁せり。同カレッジは現今女子のカレッジとして勢力あり、大凡八百の生徒を收容す。

頼山陽 (二四四〇一)

山陽名は襄、字は子成、通稱は久太郎、別に三十六峰外史の號あり。安藝の藩儒頼春水の長子にして、安永九年大阪に生まる。父は熱心なる朱子學者なりしかば、幼にして家學を學び、寛政九年江戸に遊學し、柴野栗山及び尾藤二洲に就いて學ぶ。後父の怒に觸れて廢嫡せられ、幽室に閑居して、日本外史の稿を起す。文化七年備後に至り、菅茶山の廉塾に寓す。是より茶山との情誼最も渥し。後京都に上り家塾を開き又日本政記を著す。天保三年肺を病んで歿す、

るに従ひて夫れ夫れ差異あり。

年五十有三。山陽人となり氣品高邁、窮に處して、悠々、海内を周遊して史跡を尋ね、未だ曾て任に就かず。詩文に巧みして、兼ねて書を能くし、是等の技藝に於て亦一世に宗たり。

山陽もと朱子學を修めたれども必ずしも之に泥まず、特に心を國史に潛め、經世の業に志し、傳史によりて以て大義名分を明らかにし、勤王の志氣を鼓舞せんとす。其の謙卓拔其の筆翰爛、日本外史・日本政記の二書最も讀書子の間に尊重せらる。蓋し漢文を以て國史を説くは當時の漢學者に我が國體を教ふる最良の手段ならずんばならず。故を以て幕末維新の際に於て、藩學・家塾共に日本外史を誦讀せしめざるものなく、引いて維新後十數年に及び國民道德の涵養に於て貢獻する所極めて大なりき。

ライデン大學 University of Leyden

和蘭の四王立大學の一。一五七五年の創設にして、十六世紀の終より十七世紀の前半に於て、歐洲各國より新教徒の難を免れて來り學ぶも甚だ多く、著名の學者輩出せり。一八〇七年王立大學に改められしが一八一一年ナポレオンによりて佛蘭西大學の一アカデミーに改められ、後同一五年再び王立に復す。法・醫・理・文・神學の五分科あり、一九一一年の學生數千九百九十五人なり。

ライプツヒ大學



University of Leipzig

獨逸サケン州にある大學。主としてプラーグ大學を模して創立せるものにして、十五世紀以後十七世紀に至る迄獨逸最大の大學に數へらる。されど頗る保守的の傾向を有し、稍世の進歩に後れたる感ありしが、一八三〇年代に於て大改革を行ひ、校舎を改造し、ザクセン州唯一の大學として、其の豫算は獨逸諸大學中ベルリン大學に次ぎて最多額を占む。附屬圖書館は一五四四年の設置にかゝり、大凡五十五萬冊と外に六千の寫本を蔵す。附設の心理學實驗場・教育練習所亦有名なり。學生の數は、ヘルリン及びミュンヘンにつき第三位にあり。一九一二年に於て其の數大凡四千九百人、内哲學科二千八百十六人にて最多數を占め、法科・醫科・神學科(新教)順次に次ぎ、教授の數百六十六人、講師七十人なり。

ライプニッツ、ゴットフリート、ウィルヘルム、フォン

Gottfried Wilhelm von Leibnitz (Leibniz) (1646-1716)

獨逸の大哲學者、ライプニッツに生まる。父はライプニッツヒ大學の倫理學教授たり。幼より羅句語に秀で多くの羅句書を繕讀す。教師其の早熟を患へ、聖教問答及びコメニウスの著書以外、其の書を讀むことを禁ぜしかば、氏は著しく不

チンゲン・ハルレ・フライベルヒ等の大學に、初めは法學を、後自然科學特に礦物學を研究せり。一八〇八年パリに旅行し、パリ博物館に自然科學研究中、偶々フイヒテの「獨逸國民に告ぐ」及びベスタロッチの著書に接し、其の刺激により、教育に志を傾け、ベスタロッチをイフェルテンに訪ひ、一八〇八年十月より翌年四月迄滞在し、ベ氏の助手を勤む。されどイフェルテンの滞在は寧ろ彼を失望せしめ、歸國の後一八一一年ブレスラウ大學の教授に補せらる。後一時義勇兵として戰爭に従ひ、一八一九年ハルレ大學教授に轉ぜしが、當時の獨逸大學の學風に倣らず、一八二三年職を辭しニュルンベルヒの私立學校教師となり、又自ら、貧民學校を起せり。一八二七年エルランゲン大學教授に任じ、死に至る迄在職す。大學教授としては礦物學・地理學等を教授する外、又、教育史をも講義せり。多くの著書中「古典研究の復興より現代に至る教育史」四卷 (Geschichte der Pädagogik von Vordemphilien klassischer Studien bis auf unsere Zeit 4 Bde. (1842-45)) 最も世に行はる。

樂天觀と厭世觀

Optimism and Pessimism

世界及び人世の價値に關し、相對立する二種の觀法。樂天觀 Optimism は拉丁語 Optimus (最善)より來り、世界は善なり、此の世界は凡

平を感じ、後に至りても常に凡ての兒童を一樣に取扱ふの愚を鳴らせり。イエーナ及びライプニッツヒ大學に學び、アルトドルフ大學にて法學博士の學位を受く、後暫くポイネアルヒ伯爵の家庭教師たりし事あり。一六七六年以後ハンノイフェル侯の宮中顧問となり同時に圖書館長を兼ね、一六九八年ソフイー、シャルロッテ王女の招きにより柏林に赴き、同地に科學會(後柏林大學に發達す)を創立す。氏は博學多才其の多方面なるに於てアリストテレス以後の第一人者と稱せらる。特に數學及び哲學に於ける成績最も顯著なり。宗教に於てはルテル派とカルヴァン派との調和を試み、哲學に於ては唯心論と主理説を主張し、有名なる單子論を唱道せり。氏の教育説は其の二十一歳の青年時代に著せる法學教授新方法論 Methodus nova discentiae doctrinaeque Jurisprudentiae (1657) の第一篇に於て之を見ることを得。

氏は教育の目的を「活動に對する恒久の用意を収得する」にありとし、此の活動の力は、望まじき活動を反復し、之に慣れしむこと即ち習慣に成ると説けり。こは氏が後年單子論を以て以て活動的のものとなす説に相應す。而して件の習慣は第一に同一印象を反復し、第二に其の印象を明瞭ならしむるによりて生ず。殊に學習をなすべく愉快ならしめ Disce Inducendo 遊ぶこと

ての可能な世界中最善なるものなりと説き、厭世觀は拉丁語 Pessimus (最悪)より來り、此の世界は惡なり、凡ての可能な世界中最悪なるものなりと主張す。

〔樂天觀(樂天說・樂觀說)〕 古代に於てプラトーンが世界は造物主によりて、永劫なるもの理想的なるものに象りて作られたりと説けるは一種の樂天觀なれども、彼は同時に又世界は非有によりて制限せらる、人は肉體の繋絆によりて理念の世界より墮落し來れりとし、厭世觀の最初の唱導者とも認められ得。西洋の思想史に於ける樂天觀は多くは、世界は神の所造なり、神の所造なるが故に善ならざるべからずとなす宗教上の觀念に基づけるものにして、聖アウガスティンが世界は神の所造なり。眞の惡は存せず、惡は神の命に不從順なる人の意志より生ずと見、聖トマスが神は最良の可想的世界を作れりとなせる如し。下つてライプニッツは神は一切の可能な世界を豫め思ひ浮かべ、此の多くの可能的世界中最善のものを無限智によりて選び、且之を創造せり。惡とは善を發揚する手段にすぎず、惡は善の爲の惡なりとて、最も明確に樂天說を主張し、カント亦其の初期に於て、ライプニッツ流の樂天觀を支持す。要するに樂天觀は基督教の正統的見解とも見らるべく、十八世紀の哲學者は多く之に傾けり。ヘーゲルは世界は

によりて學ばしむるは其の最も必要な條件なり。

教育の時期は之を四期に分かつことを得。第一期は教育生まれてより六歳に至り國語と羅句語と物語とを以て教科となす。第二期は六歳乃至十二歳にして小學校に入り歴史・數學・修辭學・理科・音樂・體操・遊戯等を學ぶ時代なり。第三期即ち十二歳乃至十八歳は大學時代にして諸種の科學の外に佛蘭西語・伊太利語・希臘語・ヘブライ語等を學び且演説の術に熟せしむ。而して最後の第四期に入りて各國を旅行し、實地に各國の制度、農工商業の實際等を研究す。旅行は實に氏の最も重きを置きし所にして(後年の著「貴族の教育案」(一六九六年)に於ては、早き外國旅行に反對したれども)氏自身亦諸外國の旅行に於て其の見聞を擴めたることを寧ろ大學の課程に勝るものありき。

ラウエハウス Krauhe Haus

「グイヘルン」の條を見よ。

ラウメル、カルル、デオルグ、フォン

Karl Georg von Raumer (1783-1865)

獨逸の礦物學者にして教育史家。デッサウの近傍グエーリッツに生まる。有名なる歴史家フリードリッヒ、フォン、ラウメルの弟なり。ゲッ

宇宙理性の發展なり、故に現實的のものには凡て合理的、合理的のものは凡て現實的なり、と提唱し、シュライエルマッヘルは汎神論を基礎として、宇宙は神的活動の顯現なるが故に全體として善ならざるべからず、惡は有限なる事物の避く可らざる制限なり、一切の事物はそれが能ふだけ善なりとして、各一種の樂天觀を立つ。

〔厭世觀(厭世說・悲觀說)〕 プラトーンに於て已に其の佛を見たるは已に説ける所なるが、近世に至り、ヴォルテールはライプニッツに反對して、稍學理的に之を主張し、ショーペンハウエルに至つて最も明確なる體系を具ふ。故に人厭世主義と言へば直ちにショーペンハウエルを想起す。彼はヘーゲルが絶對を以て理性となし、之より演繹して極端なる樂天觀に達せるに反對し、意志―非合理的なる盲目的意志を絶對に掲げ、之に基づきて厭世觀を立つ。唯夫れ盲目的なり、故に目的なき意志の、絶えざるきほひあるのみ、其所には進歩あるなく發展あるなし。意志とは苦しみと不幸との異名なり。吾人亦此の意志の顯現として、をやみなき、飽くを知らざる盲目的慾望に悩まざる。總して世界及び人生は苦なりと。下つてハルトマンはヘーゲルとショーペンハウエルの二者を綜合し、人世は現狀に於ては苦多くして樂少し、されど世界はショーペンハウエルの唱ふる如く盲目的に

あらずして發展しつゝありとし、此の發展する所に樂觀の根據を求め悲觀的發展説 pessimistic evolutionism を唱ふ。フイヒテ亦世界は現時の狀態にては惡なりといふ點に於て厭世論者なれども、世界は次第に道德的目的の實現に近づきつゝありと見る點に於て樂天論者たりき。概して十九世紀の思想は十八世紀の樂天的なるに對し寧ろ厭世に傾けり。

以上は形而上學より見たる樂天觀及び厭世觀なるが、經驗的の考察よりも亦此の二觀法に導かる。エヒクローロス學徒及び懷疑派が世界に於て苦痛と惡の充てるより厭世觀に達せる如き其の一例なり。ルソーが社會的觀察よりして文明を咀へる厭世思想亦之に近し。されどダーウインの進化論によりて、哲學的形而上學的觀法は、茲に一轉機を劃して經驗的觀法に傾き、生物的考察に導かる。而して生存競争を生物一般の止むべからざる現象と見るに止るものは、多く厭世觀を取り、生存競争は發展の爲に行はる、惡は發展の爲の一時的現象なりと見るもの(例へばスペンサーの如く)は發展的樂天觀に到達す。

哲學的より經驗的への轉回、即ち世界は形而上學的に見て善なるかとの問題より經驗的に見て善なるかの問題への轉回は、自ら觀察の中心的人を人世に導き、其の結果人世は善なるか、それは生存に價するかとの論争となり、茲に所謂

改善觀なるものを生ずるに至れり。

ラグビー、スクール Rugby School

ロンドンの一雜貨商ローレンスシャーリフ Lawrence Sheriffe の遺言に基づき、一五七四年開校、英國九大公衆學校の一なり。ラグビーはもとい小寒村にして、シャーリフの意志は單にラグビー及びブラウンソーバー村の近傍の貧民の子弟を教育するにありしが、年と共に盛大に赴き、之を先きにしてはジェームズ James 及びウール Wool 之を後にしてはトマス、アーノルドの如き校長あり、殊にアーノルドが寄宿舎の自治制を布きてより其の名世界に喧傳せらる。現在生徒數五百七十人中五百四十人は寄宿生にして、之を九舎に收容す。

ラ、サル、ジャン、バプティスト、ド

Jean Baptiste de la Salle (1651—1719) 佛國の僧侶教育家にして「基督學校同胞」 Freres des Ecoles Chre'tiennes : Freres Ignorant-Em の創設者。ランスの貴族の家に生まれ、パリ及びソルボンヌに學び、一六七八年僧籍に入る。一六八二年六月二十四日羅馬教の主義を奉じ、國民學校の教師たらんとする同志と「基督學校同胞」(基督教同胞)と稱する一團體を組織す。此の團體は後四十餘年一七二五年三月廿六日法王ベネディクト十三世により宗教團體及び

教育團體として公認せらる。是より先き一六八一年已にランスに於て貧民に對する無月謝の教授を始めしが一六八五年師範學校の Manufacture de Maitres d' Ecoles を起し、一六八八年學校設立の目的を以て巴里に轉じたりしが、同地にては諸方面より反對を受け、一六九一年巴里の近傍グオリガールに轉じ同九三年、同團體の規約を定め、且同胞をして各地の學校に教鞭を取らしむ。一七〇五年サン、ヨンにも學校を開き、次第に其の事業を佛蘭西南部に擴張し、一七一九年ルアンに及する頃には、二八一人の同胞と一二三の學校と九〇〇人の生徒を有するに至れり。

ラサルの事業が舊教國に普通教育を起すに與つて力ありしこと、猶ルナルが新教國の普通教育に於けるが如し。舊教國の普通教育は史家コンペーレの斷定せる如く、實に基督教學校同胞に始まりと言ふを得べし。彼の目的は「自己及び家族を支ふる爲に終日勞働せざるべからざる貧民の子弟に」基督教的教育を施すにありしを以て、始めより無月謝を標榜し、一六九四年彼は十二人の弟子と共に「よしおのれ等は世の惠を乞ひパンのみにて生活するを餘儀なくせらるゝに至るも相一致して無月謝の學校を組織せん」と誓へり。加ふるに彼は又強制教育をも主張せり。曰く「若し己が子弟の教育を欲せざる貧民あらば、之を教區長に報告し、教區長は彼等が其の

Christian Brothers, Elements of Practical pedagogy.

Wilson, The Christian Brothers, their Origin and their Work.

ラ、シヤロテ、ルイ、ルネー、カラドウィック、ド

Louis Renee de Caradone de la Chalabais (1701—1785) 佛國の政治家。同國に於けるイエスイタ派の禁止(一七六四年)に與りて功あり。其の著國民教育論 Essai d' Education Nationale (1763) は中等教育の改良につきて論じたるものにして和譯獨の各國語に翻譯せらる。

ラスキン、ジョン

John Ruskin (1819—1900) 英國の文豪、藝術批評家にして、且社會改良家。倫敦に生まる。酒商の子なり。幼にして父母に伴はれて、英國内は固より、佛・獨・瑞・西・伊太利等に旅行し、夙に自然及び藝術に對する趣味を養へり。一八三六年オックスフォード大學に入り、同四二年卒業す。不朽の名著「現代畫家論」第一巻は實に同大學卒業論文なりき。一八四三年其の公にせらるゝ、や忽ち文壇の注意を引き、爾來一八六〇年に至る迄専ら批評家として活動せしが、一八六〇年以後カーライルの感化を受け、注意を經濟道德の問題に向け、社會改良家

として、諸種の著述を公にせり。一八六九年オックスフォード大學美術教授に擧げられ、美術を講ず。傍ら、尙社會改良に盡くし、一八七一年私財を抛ちて「聖ジョージ組合」 St. George's Guild と稱する労働組合を組織し、諸種の慈善事業を起せり。一八七九年腦病に罹りてオックスフォードの教授を退きしが、一八八三年再び同教授に擧げられ、二年間其の職にあり。後ロニストン湖畔ブラントウッドの田莊に退隱し、同所に歿す。

ラスキンは詩人と批評家との天分を兼ね具へ、其の藝術批評は特に道德的色彩を帯び、「人道は藝術の標準にして、且其の終局なり。」とすら宣言せるのみならず、又後半生を道德・經濟等の社會的事業に没頭し、教育の方面にも大なる注意を拂ひ、其の著「セサメとリリー」 Sesame and Lilies (186) の如きは之を一篇の教育論と見るを得べし。氏は教育を以て、生活一幸福なる生活の準備となすの見解を嘲り、高尚なる精神の外に富あるなく、教育の目的は善良なる性質を有する人を作るありとし、從つて知的教育よりも道德的修養を重んぜり。校舎・校地は風景に富める地を選び、其の美的設備を完全ならしむるを要す。美しき自然・音楽・美術等は品性に及ばず影響より見て、讀書・算術等よりも重要視せらるべく、特に生徒をして勤勞の爲に勤勞

子女を學校に送る迄、一切彼等に助力を與へざるべしと脅すも止むを得ざるべし」と。基督學校同胞は一七九一年大革命の勃發と共に一時散會せしも、一八〇五年以後リヨン・パリ・ランス及び其の他の市に於て復興し、次第に其の勢力をカナダ・合衆國・英國・白耳義・獨逸・伊太利の諸國にも及ぼし、一六八二年には校舎六、同胞三〇八生徒一、一〇〇人に過ぎざりしも、一九〇三年には校舎一五六九同胞一五、四五七人、生徒三四〇、〇〇〇人の多数に上れり。今ラサルの事業中重要なものを左に擧ぐべし。

一、無月謝小學校の設立。  
二、學級教授の開始從來の教育は凡て個別教授たりしが、同團體は始めて、生徒を優中劣の三等級に區分し等級毎に一齊教授をなし且國語を教授の基礎として重せること。  
三、師範學校の創設、ランスに開けるものに次ぎ、巴里にも之を設け、殊に巴里の師範學校には練習學校を附設せり。  
四、職工に對する日曜學校 一六九八年二十歳以下の職工の爲に之を開き、圖書・幾何・建築學校を授く。  
五、工業學校の設立 一七〇五年サン、ヨンに之を設く。

De laire, Saint Jean-Baptiste de la Salle

するの習慣を得しめ、自利的動機に基づく競争は一切之を斥け競争試験及び其結果として與ふる賞品の如きは之を全廢すべと主張せり。

ラテン語 Latin (Language)

古代の伊太利の州、レーンウム Latium、伊、ラチオ(Latio)に行はれたる方言より發達せる國語。中世以後學者・外交家等の常用語となり。特に文藝復興期に於てエラスムス・ヴィーヴェスを始め多くの古典學者が之を教授用語となせしより、純正古雅のラテン語は中等學校の教科の主要部を形成し、文藝學校・ギムナジウム・リセー・カレッジ等は殆んど「ラテン語學校」と同義に考へられ、ラテン語の外唯僅かに希臘語と數學とを加ふるに過ぎざりき。斯くて近世に及びしが、十七世紀に於て國語亦教科課程中の僅少なる一部を要求し來り、十八世紀に於て近世外國語、十九世紀に於て諸般の科學等何れも教科中に其の領域を占め、しかも之に配する時間は、もと希臘・ラテンの古語に配せしものより之を取らざるを得ざることとなり、其の結果、多くの中學校に於ては希臘語を全廢し、ラテン語の時間を著しく減少せり。其の實際は各國の教育につきて之を見よ。加ふるにラテン語は今や全く死語となり、日常生活に於て使用せらるゝことなきを以て、教育家の中にはラテン語全廢論者すら少からず。従つて之が教授及其の程度如何は西洋各國に於て最も重大なる教育問題の一に數へらる。

現今ラテン語の教授を主張するものは(一)形式的價值と(二)實際的價值の二方面より其の必要を唱ふ。即ち形式的方面に於ては特に其の文典に於て思考・注意等の能力を陶冶し、實質的方面に於ては現時の國語に於てラテン語に起原を有するもの頗る多く、且國文學に於ても其の影響甚だ大なるものあるを以て、國語の徹底せる理解の爲には必ず之を學ばざるべからずとす。斯くて是等の主張者はラテン語の教授に對し種々の改良を加へ、以て頹勢を支持せんとすれども、他方に於て、科學の急速なる進歩に伴ふ科學的教育は日に其の領域を蠶食しつゝあるは争ふべからざる事實なりとす。

希臘語

ラトケ(ラティキウス)ヴォルフガング Wolfgang Ratke(Ratichius) (1571—1635)

近世初頭の有名なる教育改良家。ホルシュタイン州のツイルステル市に生まる。ロストック大學に神學及哲學を研究せしが、發音の不良なるが爲に教師たらんと志を絶ち、後へプライ語を學び、又和蘭のアムステルダムに留學して(一六〇三—一六一〇年)數學を學び、教育の改

良につき考察する所ありき。一六一二年獨逸フランクフルトの議會に就白して、言語の教授を根本的に改良し、拉丁語に代ふるに國語を以てし、よりて以て獨逸全土を統一的國家たらしめんとの意を述べたり。王侯中氏の説に賛するもの多く、又大學教授にも之に感化せらるゝもの現れ殊にギーゼン大學のユンギウス、Johann Jungius (1587—1657)、ヘルツイクス、Christophorus Helvicus (1581—1617)の教授の如きはラトケの思想を宣傳せんが爲に其の職を辭し、一六一四年ラトケがアウスブルヒの招きに應じ教育改良の業に従事するや、二人共に從へり。されどアウスブルヒの事業は成功を見るに至らず、次いでケーテン(一六一八—一六二〇年)マゲデブルヒ(一六二〇—一六二二年)等の教育改良を依託せられしも、何れも教育法のみならず新しきと、ラトケの經營上の手腕に乏しかりし爲め成功せざりき。これより以後氏は専らシユヴァルプルの女伯にして、己が弟子たりしアンナ、ソフイーの保護の下に活動を繼續し、一六三三年女伯の推舉により、瑞典の總理オクセンスチールナに用ひられんとせしが、同年中風に罹り舌と右手との自由を失ひし爲中止し、一六三五年エルフルトに歿す。

如此ラトケは實地の教育家として成功するを得ざりしも、其の教育説は卓抜なる主張に富み、

近世の教育の泉源を拓きたり。今其中重要な原理を擧ぐれば、(一)凡て教育は自然の順序に従ひ、一時に一種の學科を授け、(二)凡ての學習は自國語を以て始め、(三)屢々反復練習し、(四)凡ての強迫を避け、(五)機械的誦讀を斥け、(六)凡ての事物は同様に之を取扱ひ(即ち各國語の文法は同様に之を組織し、自國語に結合して、一般的普通の文法を學ばしむること)(七)先づ事物其の者を示し、然る後其の説明に及び(八)凡ての事物を經驗と實驗によりて學ばしむる事等にして、此の中(八)はヘーコンの歸納法の精神に合し、(七)は後に來るべきヘスタロッツの中心格條となり、又あらゆる點に於て彼はロミニウスの先驅となり、同時に感覺的實學主義 Sense-realism の陳奥たり。

Adamson T. W., Pioneers of Modern Education.

Charles, E. Ratichius

Vogt G., W. Ratke.

大瀨甚太郎 歐洲教育史。

ラバヌス、マウルス

Rabanus (Hirabanus) Maurus (776-856)

九世紀に於ける有名なる獨逸の僧侶にして、且教育家。マインツに生まれ、フルダの僧徒に

ラバ ラブ ラマ

學びしが、後選ばれてツールの學校に至り、アルクインに就て學び、其の愛する所となる。八一八年フルダの僧院學校の校長となりしが、暫くして名聲四方に傳はり、各國より來り學ぶもの甚だ多し。後フルダの僧院長となり(八二二—八四二年)八四七年マインツの大僧正に補せらる。多くの著書中「僧侶の教育に就て」De Clericorum Institutione (819)は、氏が教育上の意見を述べたるものなり。

ラブレ、フランソア Francois Rabalais (1483—1553)

佛國の醫師にして諷刺作家。幼時及び青年時代の事蹟明らかならず。始めフランシスコ派の僧たりしが、後ヘネアクト派に轉じ、一五四五年より死に至る迄巴里の近傍ミュードンの牧師たりき。又醫師として一時モンペリエ大學に講義をなしたることあるも、最も諷刺家として「レクタム・エナ」Pantagruel (1533)及びガランチュエガ Gargantua (1535)と稱せる二卷の諷刺小説によりて世に知らる。前者は十六世紀の教育法を痛罵して諷刺骨に入り、後者に於て新

教育の理想を説く。氏は其の教育説に於て、當時の教育が言語の形式的練習に偏せるを攻撃し、宗教・道徳・科學及び身體の各方面に互る多方の陶冶を主張し、形式よりも内容を重んじり。されど彼が知識の内容となせるものは古典の内にある内容的方面にして、自然界の研究よりも寧ろ書籍によりて學び得べき性質のものなりき。即ち彼は一面に於て實學主義の先驅をなせども他方未だ人文主義を離るゝ能はずして、古典を重んじ、「人文的實學者」Humanistic-realistsの代表的位置を占む。氏の説は當時の教育に對するよりも、寧ろ後に來るモンテーニョ、ロツク、ルソー等に對する影響に於て重んぜらる。

ラマルク、ジャン、バプティスト、ピエール、アントアヌ、ド、モネー Jean-Baptiste Pierre Antoine de Monet Lamarck (1744—1829)

佛國有名の博物學者。弱冠兵役に服せしが、やがて其の職を退き、醫學研究の目的を以て、巴里に赴きしも、却つて博物學に興味を感じ、一七八一年研究の目的を以て歐洲を旅行し、一八八八年以後職を巴里植物園に奉ず。後盲目となりしも、毫も研究を怠らず。著書甚だ多く、進化論上ラマルク説を提唱せり。

ラマルク説 Lamarckism, Lamarckianism

(一)凡そ器官の發達と衰退とは是を使用する  
 と否とによる(二)生物が一代に於て得たる變化  
 は子孫に遺傳するとの二個の想定に基づきて生物  
 の進化を説明せんとする一種の進化説、一言に  
 約すれば、用不用に基づきて起る器官の發達及  
 び衰退は子孫に遺傳す。との説なり。例へば鯨  
 は水中生活を營むに至り、前肢は泔水に用ひた  
 るが爲に鰭狀に發達し、後肢は使用せざりしを  
 以て益々衰へたるが如し。

器官の用不用が其の發達と衰退とに關係ある  
 ことは一般に許容せらるれど、斯くて得たる變  
 化が子孫に遺傳するや否やにつきては反對者少  
 なからず。(ヴァイズマン説の條參照)されど又  
 地方にはラマルクの説に左して自然淘汰説を排  
 し、凡そ住所・食物・温度等の直接周囲の影響は  
 生物に變化を起し、此の獲得性の遺傳に基づき  
 て生物は進化すと説き、同時に用不用の器官に  
 及ぼす影響をも認むる一派の學者あり。之を新  
 ラマルク説と言ひ、ネーゲラー Nagelel ヘルト  
 ヴィッヒ Hertwig オスボン Osborn 等之に屬す。

【進化】

ラムー、ペートルス(ビエール、  
 ド、ラ、ラメー)

Petrus Ramus (Pierre de la  
 Ramée) (1515—1572)

佛國の人文學者にして教育改良家。ヒカルテ

イのクートに生まる。家貧しく、苦學生として巴  
 里大學に學び、一五三六年マスターの學位試験  
 に於て、已に「アリストテレスの教説は凡そ  
 偽なり。」と宣言して、眞理の標準は教權よりも  
 寧ろ理性にありとの自己の態度を大膽に表明せ  
 り。爲に世の非難を受け一時哲學上の講義をな  
 し、又は著書を出版することを禁ぜられしが、  
 後許されて一五五一年パリ大學の講師とな  
 る。されど宗教上の論争は絶えず氏を迫害し、一  
 五六二年氏が大學改良案を提出し、同時にカル  
 ガイン教徒に改宗するや、一五六二年同七年及  
 び八年の三回巴里を退はる。特に最後の追放に  
 於ては二年間獨逸及び瑞西を歴遊し、一五七〇  
 年歸國したれども、大學に講義するを禁ぜられ、  
 終にサン、バルテルミーに虐殺せらる。文法・修  
 辭・辨證法・數學・物理學・倫理學・神學等に關す  
 る著書頗る多く、其の數六十二種に及ぶと言ふ。  
 又頗る能辯にして、屢々大學の代表者たりき。

氏は教育上自由科を煩瑣なる形式より解放す  
 るに全力を注ぎ、教授の材料は自然より(文法の  
 材料は實際の談話より、論理の材料は人心觀察  
 より)物理の材料は、自然界の觀察より)之を取  
 り、教材の排列は之を論理的ならしめ、教授に  
 於ては、事物の明瞭なる説明に主力を注ぎ、且  
 學び得たるものを分析的に(規則に照らして事  
 物を吟味す)又は發見的に(新しき事物を創造



九八年(?)  
 クエーカー  
 教徒の助け  
 により、貧  
 民學校を開  
 きしが、生  
 徒の數俄に  
 加はり、遂  
 に一人にて教授するを得ざるに至れり。於是か  
 生徒の或者を使用して相互に教授するの道を開  
 く(一八〇一年頃)。しかも教育の歴史を知らざ  
 る氏は之を以て自己の創案なりと自負し、一八  
 〇三年「教育の改良」Improvement in Education  
 なる一書を公にし、同時に有力なる人士の補助  
 を得んが爲に四方に遊説せり。斯くて多くの貴  
 族の賛同を得、殊に英王ジョージ三世は年々百  
 ポンドを、女皇は五十ポンドを下賜する事を約  
 せらる。されど明りに學校を擴大し無謀の畫策  
 を成せしを以て、忽ちにして負債の海に沈みし  
 が、氏の方法を賛するもの之を憐れみ、一八〇  
 八年貧民教育振興の目的を以て一の協會を組織  
 し、助教法を擴むると共にランカスターの窮境  
 を救はんとせり。此の會合は一八一四年ランカ  
 スターと絶縁し、「英國及び外國學校協會」と改  
 稱す。されど氏が性來の虛榮心は協會の精神と  
 調和するに由なく、一八一八年終に故國を棄て

年伴なはれてイフェルテンに移り、最も師に愛  
 せらる。後、氏の學校に教師となり傍ら其の  
 書記となる。一八一六年シユミットと爭論の結  
 果イフェルテンを去る。同年ヴェルツブルヒの  
 新設學校教師たりしが、翌年ヴェルツブルヒ  
 の皇子の教育係に聘せられ、同時にスツットガ  
 ルトの貴族小學校長となる。一八一九年ヴェル  
 テンブルヒ女王の崩すと共に、皇子を伴ひ、  
 オルテンブルヒに赴き、同地に一女學校を起し、  
 死に至る迄同校の教育に従事せり。教師として  
 は圖畫の教授法に秀て聲名ありしが、特に氏の  
 後世に重んぜらるゝは、氏の事業及び教育説  
 の忠實なる敘述にして、氏は多くの弟子中最も  
 良く、氏の精神を理解せり(宗教につきては多  
 少相反せる意見を抱持せるも)と稱せらる。其の  
 著「余の教育的生活の概要」Kurze Skizze meines  
 pädagogischen Lebens (1838) は、メスタロッチ研  
 究に缺くべからざる文獻の一なり。圖畫教授に  
 つきては特に教育的圖畫と藝術的圖畫とを明  
 らかに區別すべきを主張せり。

蘭學

「洋學」の條を見よ。

ランカスター、ジョセフ

Joseph Lancaster (1778—1838)

英國の教育家にして助教法の主張者。倫敦に  
 生まれ、十六歳にしてクエーカー宗に入り、一七

ラムザウエル、ヨハネス

Johannes Rauwauer (1790—1848)

瑞西の教育家にしてメスタロッチの高弟。ア  
 ヴェンツェル州のヘリザウに生まれ、一八〇〇  
 年ブルグドルフのベ氏の學校に入り、一八〇五

す)充分應用すべしとなし、僅かの法則を教へ、  
 多く練習せしむべしとせり。其の他從來顧みら  
 れざりしiとj、uとvとの發音上の區別を始  
 めて確立し、論理學にては三段論法の第四格を  
 廢せしが如き、何れも大なる功績に數へ得べし。  
 唯、物理學は自然より學ぶべしと唱へながら未  
 だ其の材料をアリストテレスを始め、多くの  
 古典に仰ぐを免れ得ざりき。其の「辨證論」は佛  
 語にて著されたる最初の哲學書なり。

Graves, F. P., Peter Ramus and the  
 Educational Reformation of the  
 Sixteenth Century.

Sixteenth Century.

て米國に逃る。爾來フィラデルフィア・バルチ  
 モニア・カラカス・ニュー・ヘブーン・カナダ等の  
 各地に流寓し、一九三八年再び英國に歸せんと  
 企てしが、同年紐育にて殺害せられたり。ラン  
 カスターは助教法の發見者にあらず、又其の性  
 格に於て尊むべきものあるを見ず。されど「英  
 國及び外國學校協會」がベルの爲に設けられたる  
 「國民教會」と相並んで、激甚なる競争の下に英  
 國の初學教育發達に貢獻せること大なるは一に  
 は氏の刺激によるものと言はざるべからず。

蘭學

「洋學」の條を見よ。

ラングラー

Wringler

英國ケンブリッヂ大學に於て、數學の競争試  
 験に最高の位置を占むる選手。一七四七年來用  
 ひし語にして、選手は大なる名譽の負擔者とし  
 て、社會の耳目を聳てしが、一九〇九年此の名  
 稱を廢す。

ランゲ、フリードリッヒ、

アルベルト

Friedrich Albert Lange (1828—  
 1875)

獨逸の哲學者。ヴェスリフアリア州ゾーリン  
 ゲンの近傍に生まる。チューリッヒ及びボン  
 大學に古語を研究し、ケールンの文科中學校教  
 師、チューリッヒ大學の私講師を経て、最後に  
 (一八七二年)マールブルヒ大學教授となり、此

の地に死せり。其の大著「唯物論史」Geschichte der Materialismus 廣く世に行はる。又シユエミットの教育辭典の有力なる執筆家たりき。氏は教育學を以て政治學・生理學・心理學等を基礎とせる一種の經驗的科學なりとし、又當時の教育が機械的一律的なるを攻撃し、體育及び實科の教授を奨励せる等教育上種々の有益なる改良意見を公にせり。

**ランドエルチーウクスハイム**

Landerziehungsheim

近時獨逸に起りし郊外寄宿學校の一種。アボツツホームに於ける學校を模し、ヘルマン、リーツ Hermann Lietz が一八九七年ハルツに於けるイルゼンブルヒに設けしを始めとし、是に倣ふもの漸く多し。生徒は凡て貴賤の別なく一様に寄宿舎に收容し、最も體育に注意し、教授に於ては宗教教授と實科に重きを置けり。修學旅行も重要な行事の一にして、近國は固より時としては希臘・伊太利等にも旅行することあり。快活純潔なる氣風は其の一大特徴なりと言ふ。

Frei, W. Landerziehungsheim

**ランドマンシャフト**

Landmannschaft

獨逸大學に於ける學生團體の一種。十七世紀の前半に起り。其の始めは學生出身の地方別による團體なりしが、ブルシエンシャフトなる

新團體の起ると共に多くのランドマンシャフトは其の團體を解き、新團體に加入せり。然るにブルシエンシャフトの禁止せらるゝと共にコーアなる名の下に續行し、コーアと何等の區別なきに至りしが、一八八八年以後再び元の名稱を襲ひて獨立せり。其の性質より言へばブルシエンシャフトよりもコーアに類する所多し。

**リース**

**リース、アダム**

Adam Riess (Ries, Rys, Ryse) (1492—1559)

獨逸の算術教師。メンメルヒの近傍シュタツフェルシュタインに生まる。一五二二年エルフルトにて算術教師となり、同五年アンナベルヒの算術教師兼嶺山官吏に轉じ、一五三二年頃より、私塾を開きて獨創的計算術を教ふ。算術教科書の著者として名あり。其の著「線と筆による計算」Rechnung auf der Linien und Federn (1523) の如きは一六五六年廿六版を重ねたりと言ふ。如何に廣く行はれしかを知らべし。氏は數へ方を數字による計算練習の前に置き、教材の排列は簡單なるものより次第に複雑なるものに及び、且練習を重んじて算術教授の一革新を促せり。

**リーツ大學**

University of Leeds

英國の新設大學。ヨークシャー州リーツにあり。其の起原を一八八四年の創設に成るヨークシャー、カレッジに發し、一九〇三年迄グライトリア大學の一部なりしが、同四年始めて獨立の一大學となる。文科・商科・理科・工科。

醫科・齒科・農科等の分科に分かれ、一九二二年に於て九百の學生と百五十二人の教師を有せり。

**リヨン大學**

University of Lyon

佛國新設の一大學。各分科は十九世紀に徐々に起りしも、其の綜合大學となりしは一八九六年にして、現今法科・理科・文科・醫科及び藥學科の四分科に分かれ、一九一〇年二千九百二十二人の學生を收容せり。

**リヴァプール大學**

Liverpool University

英國に於ける新設大學、一八八一年カレッジとして設置せられ、一八八四年以後グライトリア大學の一部に編せられしが、一九〇三年始めて獨立の大學となる。文・理・法・工醫の五分科を有し、學生數一九二二年に於て千七十八人、教師二百十九人なりき。大學擴張運動甚だ盛なり。

**理科教授**

The Teaching of Nature Study.

〔意義〕 小學校に於ける、自然界の事物及現象の研究を總稱して理科といふ。今之を嚴密に言ふ科學即ち植物學・動物學・物理學・化學等と比較するときは兩者は其の材料及び方法につきては單に程度の差を有するに過ぎざれども、研究上の見地につきては根本的の差異を有し、理科は人生に密接の關係を有する日常の事項を兒

童の發達に應じて取扱ふに反し、科學は自然界の事物及び現象に關する原理を立て、之に關する知識を有機的に統整するものにして、前者の立脚地は主として心理的にして、之に論理作用を加味するに止まれども、後者は純粹に論理的なりとす。

〔理科教授の沿革〕 理科の教授が一般教育界の注意を惹くに至りしは十七世紀以來の事にして、ラトケ及びコメニウスがペーコンの歸納的研究法の影響を受け、教授上自然觀察を奨励したるに始まり。其の後一方には科學的發明の跡を續いて現はるゝあり、他方にはフランケルソー・汎愛派の教育家等各理科の教授を重んずるあり、理科は次第に小學校の課程中に其の位置を確保するに至れり。小學校令中に理科に關する事項を掲げたるは、獨逸ゴータ侯エルンストが一六五六年に發布せる法令に「自然界の事物に關する簡單なる教授」と定めたるに始まる。

下つて十九世紀に入るやベスタロッチ出て、大に直觀教授を重んじたれども、氏は理科教授につきては、さまでの意を用ひざりき。然るに氏の系統を受けたるディースタルグエツヒは實驗・觀察の方法を理科に應用して、其の教授に一大革新を加へ、ハルニッシュは先づ郷土を中心となし、之によつて理科の各教材を統一的に授

け、次に本國、最後に地球上に及ぼし、近より遠に進みつゝ、自然界の統一的理解を與ふべしと唱へたり。其の後、ユーベンはハルニッシュの方法を更に精説し、ユングは生活共存體の説を成して、材料相互の間に存する内部的統一を力説し、之と同時にヘルバルト派の學者にシエルレル・バイエルの二人出て、中にもバイエルは開化史的階段の説を理科に適用し、人文發展の段階を狩獵時代・遊牧時代・農民時代・市民時代に大別し、各時代に於ける勤勞を中心として、利用厚生に與へんと企てたり。次いでザイフェルトは理科を(一)狹義の理科と(二)勤勞科 Arbeitskunde とに別ち、前者は動物學・植物學及び土壤學を含み、よりて以て自然の統一的生活を理解せしめ、後者は物理・化學・工學・衛生等の事項を網羅し、現時の文化的勤勞を理會せしむるを以て其の目的となし、此の二分法によりて、ユングの統一的見解とバイエルの開化史的見解とを調和せんと試みたり。

〔理科の目的〕 フンボルトは理科教授の目的を以て「内部的勢力によつて活動せる一全體として自然を表現するにあり」と説けり。實に自然界の統一的考察は理科教授の第一目的たり。次に自然と人生との關係を考察し、現時の開化事業を理會せしめ、利用厚生に關する知識を與ふるは其の第二目的なり。觀察・實驗の能力

を練り、推考の習慣を興へて、科學的精神を養ひ、併せて美的、道徳的、宗教的興味を起さしむるは其の第三目的なり。教材の選擇・排列及び教授の方法は常に此の三方面に着眼して設定せられざるべからず。

〔教材の選擇及び排列〕 教材は日常生活に關係深き普通の、且興味ある事項及び自然界の統一的理會に關する代表的事項を選ばしむべし。従つて主として之を郷土的材より選定すべきは自然の數にして、地方的事情の異ると共に教材亦當然差異なかるべからず。

教材の排列につきては上に述べたる理科教授の歴史よりして想像せらるゝ如く大凡左の三主義あり。

(イ)系統的排列 種より屬、屬より科、科より目と順次に系統的に排列するものにして、リユーベンの採りし方法なり。

(ロ)生活共存體による排列 生物の各機關相互の及び生物相互の因果關係に基づきて排列するものにして、ユングの生活共存體の説はなり。ユングは生活共存體を定義して、「生活上の必要に應じて形成されたる生物の一群」とせり。

(ハ)開化史的見地に基づける統一 上に述べたるバイエルの説はなり。

其他ザイフェルとの如き折衷主義もあれども、要するに各長所を有すれば、其の一方に偏

せざらん事を要す。

〔教授の方法〕 兒童をして自ら觀察實驗せしめ、自ら思考せしむること、是れ理科教授の根本的要求にして、近時再發見法又は歸納的方法と稱せらるゝものゝ勢力を得つゝあるは之に基づく。實驗による教授は自ら書籍による教授を排す、故に本科の教授に於ては書籍を用ふる事なく、よし用ふるにして單に補充たるに止むるは各國を通じて一般の形勢なりとす。

學校園・觀察・實驗・直觀教授・再發見法・郷土科。

Holtz, F. I. Nature Study

Mumury, C. A. Special Method in Elementary Science

北澤種一外三名譯 ルーデ氏各科教授法下

宋儒の學。朱子・二程子の條を見よ。

理氣二元論

朱子の條を見よ。

陸王學派

陸象山と王陽明との學。陸子は朱子の窮理に反して頓悟を貴び、陽明は陸子を超えて之を大成す。合せて陸王の學と言ふ。

陸軍教育 Military Education

〔沿革〕 明治維新以前己に諸藩には兵法・砲

術・劍術等の指南役あり、軍事教育を施し、幕府又講武所(後陸軍所と改稱)を置きしが、下つて明治元年參與兼兵部大輔大村益次郎氏始めて兵學校を京都に起し、他日將校たるべき子弟を收容し短期の教育を施せり、是れを今日の陸軍教育の嚆矢なりとす。二年兵學校を大阪に移して兵學寮と改稱し、三年始めて海外留學生十名を佛國士官に派遣し、四年佛國士官を聘して軍政及び軍事教育の事に與らしめ、五年兵學寮を東京に移し又教導團を設け下士及び軍樂生徒の養成を始む。六年戸山學校を起し、八年兵學寮を廢して、別に士官學校を設け、始めて正規の教育法によりて將校を養成す。同時に嘗て年々海外に留學せしもの相續いて新知識を抱いて歸朝し、軍事教育の事又大に舉りしが、明治十五年陸海軍人への勸諭を賜ひ、次いで陸海軍擴張の大詔を喚發せらるゝに及び、教育の精神率平として確立せり。軍人への勸諭は實に我國軍人の精神とすべき所を宣せられしものにして、之を一般の教育に於ける教育勸諭に比するを得べし。明治十六年陸軍大學校を設け、次いで各種の學校を夫れ夫れ必要に應じて増置し、明治廿七八年戰役以後數回の戰役により、次第に教育法を改良し、以て今日に及べり。

〔現在の諸學校〕 現今陸軍省所屬の各種學校に於ける教育は其の目的により、之を(一)將校

たるべきものの豫備教育(二)將校及び下士の教育を更に完成するもの(三)軍人以外軍隊所屬職員を養成するもの三種に區別することを得。

豫備教育 將校たらんとするものに必要なる教育を施す學校に陸軍幼年學校・士官學校の二種あり。

(イ)陸軍幼年學校 獨逸の Kadettenhaus に相當す。始め明治廿年陸軍幼年學校(修業年限三個月)を置き陸軍各兵科の士官候補生たるべきものを養成し來りしが明治廿九年之を廢し、更に陸軍地方幼年學校・陸軍中央幼年學校を設けたり。地方幼年學校は仙臺・名古屋・大阪・廣島・熊本の五箇所置き、年齢十三歳以上十五歳以下、身長四尺四寸以上にして中學校第一學年修業程度の入學試験に合格せるものを收容し、修業年限三個月、中央幼年學校生徒たるべきものを養成す、生徒には自費生・半官費及び官費生の三あり。

中央幼年學校は東京に置く。三十六年の改正規程により之を本科と豫科とに分ち、豫科は凡て地方幼年學校に等しく、本科は豫科並に陸軍地方幼年學校の卒業生を收容し、修業年限を二十一個月(九月一日より翌々年五月下旬に至る)とし、士官候補生たるに必要な普通學科及び軍人としての豫備教育を施す。

(ロ)士官學校 獨逸の Kriegsschulen に當る、

諸學校あり。

(イ)陸軍大學校 獨逸の Kriegs-Akademie に當る陸軍の最高教育機關にして才幹ある少壯士官を選抜して高等用兵に關する學術を修めしめ、併せて軍事研究に須要なる諸科の學識を増進せしむるを目的とし、明治十六年の創設に係る。各兵科(憲兵科を除く)の中・少尉にして二年以上陸務に服し、身體強健勤務精勵學才に富み且操行高尚にして將來大に發達の見込あり、初審及び再審試験に合格せるものを收容し、修業年限三個月なり。

(ロ)陸軍砲工學校 明治廿二年の創設にして、砲・工兵の中・少尉にして二年以上陸務に服せるものを入學せしむ。砲兵・工兵各科の勤務に必要な學術を授くるを目的とし、之を普通科と高等科に分ち、普通科(修業年限一箇年)の卒業生中、成績優秀なるものを選抜し、更に一箇年高等科に在學せしむ。高等科卒業生中或者は員外學生と稱し、更に必要な學科の研究を命ぜられ又は外國駐在員として派遣せらる。

(ハ)陸軍戸山學校 明治七年兵學寮の戸山出張所を改稱せしものにして、當時は各隊より將校下士を召集し、教育大隊を置き戰術・射擊・體操の三科を專攻せしめしが、其の後數次の改正を経て、現今にては教育の目的を(一)學生に體操・劍術・及び喇叭譜の訓練をなし(二)且體操

劍術・軍樂に關する調査研究及び試験を行ひ以て各隊教育の進歩を計り(三)軍樂生徒に樂手補たるに必要な教育を施すを以て目的となす。學生の種類入學資格等左の如し。

一、體操科 各兵科の中少尉及下士を入學せしめ、修學期間約五個月

二、譜調 各兵科の喇叭長を入學せしめ、修學期間約二個月

四、軍樂 軍樂部に出身を志願する者につき選拔し、修學期間約一箇年

(三)歩兵學校 大正元年八月陸軍戸山學校より分離せるものにして、千葉縣千葉郡那賀村にあり。學生に歩兵の射撃、戰術及通信術等習得せしめ、之を各隊に普及し、且常に是等諸學術の調査研究を行ひ、以て武兵教育の進歩を圖り並攜帶火兵・機關銃等の研究試験を行ふを以て目的となす。學生は歩兵大尉又は中尉(必要あるときは騎・重砲・工・交通及輜重の大・中尉)を召集し、修學期間概ね四個月、毎年二回入校せしむ。本校に教育部・研究部及び教導大隊を置く。

(ホ)陸軍野戰砲兵射擊學校 明治二十年創立千葉縣印幡郡千代田村にあり。野戰砲兵の射撃術・戰術並に通信術を教授するを以て目的とし、學生を甲種及び乙種に分かつ。甲種學生 各野砲兵及山砲兵隊より分遣する

大尉を入れ、修學期間約八個月

乙種學生 同上兩砲兵隊より分遣せる大・中尉を入れ(但少尉を以て之に充つることを得)修學期間約四個月

(ニ)陸軍重砲兵射擊學校 明治二十九年創立神奈川縣浦賀町にあり、要塞砲兵に射撃術及戰術を授くる學校にして學生に左の種別あり。

甲種學生 各重砲兵隊より分遣せる大・中尉を入れ修學期間約八個月

乙種學生 同上、但少尉を以て之に充つることを得、修學期間約四個月

丙種學生 電信大隊にて終業後入校する尉官及重砲兵大隊より分遣の下士・兵卒(電燈使用員に充つるもの)修學期前者は一個月、後者は約一箇年

(ト)陸軍騎兵學校 大正六年従来の騎兵實施學校(明治二十一年創立)を改稱せるものにして千葉縣千葉郡二宮村にあり。學生に馬術及戰術並に通信術の訓練をなし、以て各隊教育の進歩を圖り、常に諸學術の調査研究を爲し、且乘馬具及馬四器具の研究並に試験を行ふを以て目的となし、學生を左の二種に區分す。

一、甲種學生 騎兵大・中尉を入る。修學期間概ね八個月

二、乙種學生 騎兵中・少尉及砲兵・輜重兵科の士官を學生とし、修學期間概ね十一個月

●軍隊所屬の職員を養成するもの。

(イ)陸軍經理學校 明治二十三年従来の軍吏學會(明治十九年創立)を廢し、之に代りて起れるものにして、東京にあり。陸軍經理部士官より選拔したる者を學生とし、之に高等の學術を修得せしめ、又陸軍主計候補生を生徒となし、之に陸軍經理部初級士官たる爲、必要の教育を施し、且經理に關する調査を行ふを目的とし、學生の修學年限は概ね一箇年とし、生徒の修學年限概ね一年九個月とす。學生は現役一二等主計中身強健、勤務精勵、操行高尚、且將來發達の見込ありて、檢定試験に合格したる者より採用せらる。

(ロ)陸軍軍醫學校 在職醫官をして衛生部に必要なる學術を練習せしむる學校にして、明治二十一年の創立にかゝる。東京にあり學生に左の種別あり。

普通學生 衛生部士官を入れ練習期約六個月  
專攻學生 練習を終りたる普通學生中より選抜す、練習期約四個月、又特に醫務局長の認可を経たるものを以て充てたるときは練習期約一箇年  
上長官學生 軍醫正を以て充つ、練習期は陸軍大臣之を定む。

(ハ)陸軍獸醫學校 獸醫及蹄鐵に關する必要の學術を練習する學校にして、明治二十六年創

立、東京府世田ヶ谷にあり。學生の種別には左の三種あり。

士官學生 (イ)甲種 一、二等獸醫を入る。修學期間約五個月

(ロ)乙種 二、三等獸醫を以て充つ、修學期間約八個月

下士學生 蹄鐵工長を以て充つ、修學期間約三個月

蹄鐵工長候補者 蹄鐵工卒を以て充つ、修學期間約十個月

(ニ)陸軍砲兵工科學校 東京砲兵工廠内にあり、明治二十三年創立にして、火工掛下士及砲兵諸工長をして、其本務に必要な學科を練習せしめ、且つ火工下士候補者及砲兵工長候補者に火工掛下士又は鞍工・銃工・木工・鍛工長たるに必要な教育を施すを以て目的となし。學生は之を(一)火工下士學生、(二)砲兵工長學生、(三)火工下士候補者、(四)砲兵工長候補者の四種あり。火工下士學生は火工掛下士を以て之に充て、砲兵工長學生は砲兵上等工長及砲兵鞍工・銃工・木工・鍛工長を以て之に充つ。其の修學期間は概二個月にして毎年二回入校す。火工掛下士候補者は、砲兵隊より選抜して分遣したる第二年兵を以て之に充つ。其修學期間は概ね一年とし毎年一回入校す。砲兵工長候補者は陸海軍豫備役又は後備役に在らざる者にして召募試

験に及第したる者及び各兵科初年兵にして、召募試験に及第したる者を以て之に充て、其の修學期間は概ね二年とし、毎年一回入校す。

(獨逸の陸軍教育) 我が陸軍教育は獨逸將校メッケル氏多年の指導によるもの多く、範を普魯西に取れり。故に普魯西の教育につき大要を述べて參考となすべし。

普魯西にて陸軍將校たらんとするものは多くは陸軍幼年學校 Kadettenhaus に入る。幼年學校は我國と等しく、之を地方幼年學校と中央幼年學校との二種に分かつ。前者は十歳にして入學を許し、修學期間五箇年其の數八校(ゴスリン・ポーツダム・ヴァールシュタット・ベンスブルヒ・アレン・オラニエンシュタイン・カールスルーエ・ナウムブルヒ)あり。後者はグロッツリヒテルフェルデーにあり、地方幼年學校卒業生を容れ修業期間四箇年なり。故に正常に進めるものは十九歳にして士官候補生となり、各隊に配附せられ六個月間下士として勤務す。此の外中央幼年學校第二級修業生にして特に優秀なるものを以て選抜級を編制し、直ちに士官學校同様の教育を施し、將校に補せらる。

中央幼年學校卒業生(選抜級のものを除く)及び一定の資格を有し、又は召募試験に合格せるものより選拔せる士官候補生にして六個月間隊附勤務を果せるものは士官學校 Kriegsschule

に入る。士官學校は十校(アンクラム・カッセル・ダンテツヒ・エンゲルス・グロガウ・ハンノーフェル・ヘルスフェルト・メツツ・ナイセ・ポーツダム)あり、修學期間十個月なり。士官學校の修業生及び前に述べたる選抜級の修業生は其に一定試験を受け、然る後再び隊附となり、數個月勤務の後、將校會議の選舉(選抜級あり来りしものは之を省く)を受け、始めて少尉に任ぜらる。斯くて將校となりて勤務すること三年以上にして、特に優秀なりと認められたるものは選抜試験の後陸軍大學校 Krieges-Akademie に入る。大學校は一八一〇年の創設にかゝり、首府ベルリンにあり。修業年限三箇年、其の目的は我が陸軍大學に等し。其の他各兵科の士官及下士を召集して夫れ夫れ相當の教育を施すこと亦我國に等しく。加ふるに特に下士の養成を目的とせる學校亦各地に設置せらる。

陸軍所

安政三年幕府は武術練習所を江戸築地に置き之を講武所と名づけ刀槍・砲術・水練等を習はしめしが是れ即ち陸軍所の始めなり。下つて萬延元年之を小川町に移し、慶應二年改めて陸軍所と稱し、陸軍奉行の所管となし、大に砲術を演習せしめ、同三年撤兵士官學校を併置し佛國より教師を招きて教授し、以て明治維新に及ぶ。

六經 詩經・書經・易・春秋・禮記・樂記の總稱。此の内樂記は秦火に亡びて傳はらず。

六藝

支那周代に於ける教育の科目。又道藝とも言ふ。禮・樂・射・御・書・數を總稱す。禮とは禮儀作法、樂は音樂、射は弓術、御は馬を御する法、書とは六書、數は算數の道なり。

六藝を六經と同一の意味に用ゐ、禮記・樂記・書經・詩經・易・春秋を指すことあり。

六書

支那に於ける文字構成法。漢書文藝志に「教之六書謂象形・象事・象意・象聲・轉注・假借造字之本也」とあり。左に中を略説すべし。

象形 物の形體に象りて作るもの。○と日、○と月、山と川、と川の如し。象事(又、處事・指事) 數量・方向等物の象るべきものなく、符號を以て、其の意を表すもの。一、二、三、上、下の如し。象意(又、會意) 二個の文字を結合して、意義を表すもの。明(日と月を合す)、信(人と言を合す)、武(戈と止とを合す)の如し。象聲(又、形聲・諧聲) 二個の文字を合して一字となし、一半は意義を示し、他半は意聲を示すもの。江・河にてシは義を示し、工・可は發音を示すが如し。

轉注 既成の文字を他義に轉用すること。恰も諸水の互に灌注する如きもの。音樂の樂が快樂の樂となり、尺度の度が付度の度となるが如し。

假借 已に言語音聲あり、未だ之に當る文字なきとき、其の音聲に符合する文字を借用するもの。竹節の節を節操の節に、長短の長を長上の長に借用するが如し。

サンマース Sumner の調査せるものによれば漢字中象形六〇八、象事一〇八、象意七四〇、象聲二、一八一〇、轉注三七二、假借五九八なりといふ。

陸象山

(皇紀一七九九—一八五二年) 名は九淵、字は子靜、宋の高宗紹興九年金谿に生まる。幼にして頓悟、卅四歳にして進士に登第し、時の考官呂祖謙に知らる。其の説朱子と異なるの故を以て、淳熙二年朱子と信行の鵝湖寺に會し、各々蘊蓄を傾けて論議すること數日、決する所を知らず。之を鵝湖の會と言ふ。されど朱子との交情甚だ厚く、後朱子の白鹿洞書院に至り、「君子喻於義、小人喻於利」の一章を講じ、聽者泣下るに至る。光宗の紹熙二年知荊門軍に叙せられしが、翌年病を得て逝く。年五十有四。諡して文安と言ふ。遺著に象山全集あり。象山の學は心即理説を以て根本思想となす。

所謂心即理説とは大は宇宙萬般の理より小は人倫百行の標準に至るまで悉く我が心に備はるものなれば、理は之を我が心内に求むべく、心外別に理あるなし、と説くものにして、之を朱子の如く、讀書を重んじ、外界事物の理を窮めんとするに比すれば其の間に隔鑿相容れざるものあり。曰く「宇宙便是吾心、吾心即是宇宙」と所謂格物と稱するものも皆自己の由地を開闢するに外ならず、外より我に添加するにあらざして唯自ら有する所を意識するのみ。「學苟知本六經皆我註脚」なり。従つて教授の方法に於ても全く朱子と異なり、朱子が窮理を重んずるに反して、陸子は直に我が心に返り、其の本を求むべしとなし、所説頗る禪家の頓悟に類す。直截簡明なれども、動もすれば疎漫に流るゝの嫌なきにあらず。

或は曰く象山の學は程明道に出で、明道より謝上蔡を経て象山に至ると。而して其の後王陽明に至り大成せられたれば、世に之を陸王學派と稱す。

離己

「自己離脱」に同じ、其の條を見よ。

李翱

字は習之、唐の儒者にして、韓退之の弟子、甚だ文章を能くす。元和の初め國史博士史館修撰となる。性硬直、嘗て宰相李逢吉の過ちを面折のと言ひ得べし。

リズム

時間間隔の反復せる系列をリズムと言ひ、かかる系列をなして起る出來事、即ち多少の時間を隔て、週期的規則的に起る現象を律的(リズムを有す)なりといふ。諸種の感覺的刺激(特に觸覺及び聽覺)の律的繼續は一般に快感を與へ、多の場合、吾人は此のリズムに合せて四肢・喉頭等の運動を起さんとする傾向を有す。リズムは實に心身活動の一大方式とも稱すべく、大は歩行の際に於ける足の運動手の振り方より、小は呼吸・血行に至る迄律的に發動し、又注意作用・心的作業・諸般の藝術等何れも一定のリズムを具へ、更に精神作用及び身體諸機關の發達の様式も直線的ならずして律的なりとす。(身體の發達の條を見よ)律的ならざる、即ち平等なる外來の刺激をも、主觀的にリズムを附して知覺するあるは、實に心身活動の律的性質に基因す。リズムが、吾人に快感を興ふるは音樂・舞踏及び詩歌の韻律につきて容易に知らるべく、同時に又リズムは作業を容易ならしめ、其の疲勞を減少す。凡て學校課業に於ては心身活動のリズムに注意し、且巧みに之を利用せんこと頗る必要なりとす。

リセー

「佛蘭西の教育」の條及「リシーアム」の條(二)

し、出で、盧州の勳史となる。後諫議大夫に拜す。卒するの後諡して文と言ふ。著す所復性書三篇は氏の思想を見るに足る。

李翱は性と情とを分ち、之を互に相反對せるものとなし、情は譬へば雲の月を蔽ふ如く、清明の性を晦ますものなれば吾人は「弗慮弗思」心を靜かにして、本然の性に復し、眞の性を見るべしと説けり。其の靜を主とし、復性(復性の思想は老莊に始まる)を唱へ、儒教に配するに釋老の思想を以てせるは、宋儒に影響する所尠からず。

利己主義

心理的利己主義 人の行爲は凡て、常に自己の利益幸福によりて支配せらるゝものなりと説くもの。

倫理的利己主義 自己の利益幸福を増進するを以て道德の最高標準となし、人の行爲は必ずしも常に自己の利益に向ふものにあらざれども、之を以て行爲の目的となさざる可からずと説くもの。

リコルニス

希臘の立法家。紀元前九世紀に生存せりと言はる。されど果して生存せし人なりや將た神話的人物に過ぎざるやは定かならず。スパルタの嚴肅なる法制は彼の定めたるものなりといふにつきて、疑を抱く人多く、スパルタの法令は

寧ろ數世紀の長き間に於て集積せられたる習慣の結果なりとなす説、現今却つて有力なり。

リシーアム

(獨) Lyceum (英) Lyceum (佛) Lycee (希) Lyceion 古代希臘アテネの東郊にありし體操場。アリステテレス(一)に學徒を教へてよリ教育場の意を有するに至り、現今佛國及び伊太利にては中等教育機關を指す(佛國の教育及伊太利の教育參照)獨逸にても現今の文科中學校に嘗て履リツェウムの名を與へたり。

米國にては科學文學等に關する講演をなし、及び圖書館設置に盡力する會合をリシーアム又はリシーアム會 Lyceum association と稱し、其の數甚だ多し。

理神論

又理神教・自然神教とも言ふ。神の超越性を信ずる點に於ては有神教(有神教(三)參照)に等しけれども、有神教が神は自然の進行に干渉し、其の自由意志を以て萬物を造化支配すとなし、天啓を信じ、奇蹟の可能を認むるに反し、神と雖も自然法を無視する能はずとなし、奇蹟及び天啓を排し、理性に基づきて神を解せんとす。其の態度は有神論と汎神論との中間に位するも



を見よ。

理性

(獨) Vernunft (英) Reason

● 推理即ち一定の前提より結論を引き出す精神能力又は精神的過程。「人は理性的動物なり」といふ場合の「理性的」は是に當る。此の意味に於て理性は「本能」に相對す。

● 直覺的に(即ち推理作用を待たずして)個々の(即ち此の時、此の場所に於ける)判斷の根據となるべき眞理を領得する能力。此の意味に於て理性は感覺・知覺・想像及び感情・欲望等に相對す。

以上二様の意義を實踐上に適用して(イ)何故に甲の行爲を棄て、乙の行爲を選ばざるべからざるかを決定し及び(ロ)かゝる行爲を起さしむる能力を特に實踐理性といふ。

● 世界を一體として統一的に理解し、若しくは事物の最究竟の根據を理解する能力。此の意義に於て理性は悟性と相對す。

悟性と理性との上の對立、即ち悟性を比量即推論的の知識の能力となし、理性を直覺的にして、直接に全體系を理解するの能力となして二者を區別し、悟性を科學的知識の機關、理性を哲學的知識の機關となせるはプラトーン以後廣く行はれたる所なるが、カントにより其の意義一層嚴密に規定せられたり。即ちカントは感性

によりて與へられたる材料を範疇により統一し、自然界を構成する作用を悟性に歸し、範疇のかゝる適用に關せず、從つて超感覺的に最後の統一を求め、規正的價値を有する一定の理想を供給する能力を理性とせり。約言すれば悟性は相對的の統一を與ふる能力にして、理性は絕對的の統一を與ふる能力なり。例へば「因果」といふ範疇の適用により一の現象が他の現象の原因なることを知り、此の二者を統一するは悟性なれども、一切の現象の究竟原因・第一原因を求むるは理性なるが如し。

理性的

「合理的」に同じ。其の條を見よ。

離散的

「選言的」の異譯、其の條を見よ。

理想

Ideal

完全なりと考へられたる状態。換言すれば之を實現せるとき充分なる満足を得べしと想像せられ、從つて之が實現に對して努力する事物の状態。理想は、故に入々の知識・經驗の度によりて異なり、個人的なると共に又具體的なるを要す。又理想は完全なりと考へられたる状態なれど必ずしも客觀的實在性を有せず、されど又反對に空想にもあらず、吾人の意志行動の標的となり、意志行動の方向を示し、之を規正するも、カントの言へる如く、實踐的規正の意味を

有す。理想は常に現實と相對す、故に或時代に於て理想として考へられたるものも實現せられて現實となるに至らば更に新しき理想を立て、無限に終止する所なし、而して是れ實に人類に無限の向上發展ある所以なりとす。

意志行動の種類に應じて理想にも種々の別あり。知的理想・道德的理想・社會的理想等と言はんが如し。教育上の理想につきては個人主義・社會主義(社會的教育學の條を見よ)・道德主義(ルバルトの條を見よ)・自然主義(ルソーの條を見よ)・實利主義(スペンサーの條を見よ)・調和的發展主義(調和的發展の條を見よ)等相對立す。

利他主義と利己主義(倫理上の)

Altruism and Egoism

利他主義は他の利益を計ることを以て道德的行動の目的となすもの(Altruismは拉丁語に「他」を意味す)・利己主義は道德的行動は凡て自己の保存・快樂を以て最高の標準となすべしと説くもの(Egoismは拉丁語にて「自己」を意味す)なり。此の二主義に對する倫理學上の論争は特に英國の倫理學者の間に盛なりき。利他主義と利己主義との對立は佛蘭西のコントが「生存の大問題は成る可く、利己主義を利他主義に從屬せしむるにあり」と言へるに始まり、其の後英國のエリオット・スペンサー等何れも之に倣ひて、二語を對立せしむ。

律

リズムに同じ、其の條を見よ。

立教館

伊勢國桑名藩の藩學。寛永年間(紀元二二九〇年代)藩祖松平定綱の創設する所なり。其の後百餘年を経て、寛保元年(1779)の時に至り、封を奥州白河に移ししが、寛政三年定信(白河樂翁)學校を白河に設け始めて立教館と名づく。然るに文政六年定永再び封を桑名に復するに及び、舊領主松平下總守の舊貫に仍りて學校を設け、同じく立教館と稱せり。斯くて明治維新に及びしが、元年藩主定敬罪を朝廷に得て、政教一時に廢絶し、三年之を再興し、規模を擴張して、以て五年の學制頒布に至る。教育の主義は偏に朱子學に據りしも、又、學者徒らに支那の風を慕ひ、本邦の長所を忘るゝの愚を戒め、伊勢太神宮の祓札を安置し、別に釋奠を行はず、國粹の保存に力めたりしは他藩稀に見る所なり。教科は漢學・習字・算術等にして、後には洋學をも加へ、且兼て武藝を練習せしむ。生徒は士族の子弟に限られたり。

立證

「檢證」の異譯。其の條を見よ。

立體鏡

「實體鏡」に同じ、其の條を見よ。

リッテル、アカデミー

リッリヒ

Ritterakademien

「アカデミー」の條(三)(イ)を見よ。

リッテル、カルル

Karl Ritter (1779-1859)

近世に於ける科學的地理學の祖。ザクセンのクネドリッブルヒに生る。幼にして父を失ひ、聰明なる母の手に養はる。一七八四年家庭教師グーツムツツに伴はれて、シュネッブフェンタールのザルツマンの學校に入り、グーツムツツは同學校教師として、尙リッテルの教育を指導せり。一七九六年ハレレ大學に入り止ること三學期にして、フランクフルトの銀行家ベートマン、ホルヴェツヒに知られて、其の家庭教師となり、其の子を伴ひて瑞・佛・伊の各國を旅行し、一八〇七年にはベスタロッチをイフェルテンの學舎に訪ひ、又有名なる博物學者アレクサンデル、フォン、フンボルトに會し其の感化を受けたり。一八一三より一八一九年に至る間、ホルヴェツヒの子を伴ひて、ゲッテンゲンにあり。リッテルは初めより地理學に關し、大なる興味を有せしが、ゲッテンゲン滞在中其の研究に没頭し終に大著「地理學」Die Erdkunde im Verhältniss zur Natur und zur Geschichte des Menschen (1817-1818)を出す。此書大に世人の注意を引き、一八二〇年ベルリン大學及び陸軍の學校の教授となり、死に至る迄地理學の教授と

リヒテル、ヨハン、パウ、フリードリッヒ

Johann Paul Friedrich Richter (1763-1825)

獨逸の諷刺作家。通稱ジャン、パウ、Jean Paul、バウアリア州のウンジューデルに生まる。ライプツヒ大學に神學及び文學を修む。一時家庭教師となり、又私塾を起して七人の生徒を教へしことありき。後、ハイロイトに居を定め、多くの小説を出し、一種の特色ある文體を創め、機智と怪異と諷刺とに秀づ。彼の小説中、教育に關係あもの二三に止まらざれども、中にも

最も纏まりたるものは「レヴァーナ一名教育論」  
Levana oder Erziehungskunde (1807) となす。

レヴァーナとは羅馬の神話中にある、嬰兒を保護する女神の名にして、氏は此の書に於て、ルソーの意見を消極的非道德的なりとして非難しながら、尙ルソーの影響を受くる事、極めて大なるものありき。氏はルソーと等しく人は皆先天的に善良なる本性を具備するものとなし、教育の理想は、先天的稟賦を調和的に最高の程度に發達せしめ、「各兒童の中に隠れて存する理想人」を自由に發展せしむるにあり。唯、夫れ理想人なり。故に教育は「時代の精神以上の高所に其の標準を求むべし。兒童は現在の爲にのみ教育せらるべきにあらず」と説けり。教育の方法については、なるべく兒童を自由に愉快ならしむべく、則は「小兒的ならざる語」なりとして之を排し、舞踏・遊戯・音楽・童話を重んじて、フレーベルの先驅をなし、古語を斥けて、最も國語・國文學に力を注ぎ、又形式的なる宗教教授に反対せり。殊に女子教育の必要を詳説せるは其の一異彩とも稱すべく、女子教育論はレヴァーナ中最も注意すべき部分なり。要するに彼の教育論は前世紀に於けるルソー及び汎愛派の所説に基づく所多く、體系ある著述としては多く備はらずと雖も、甚だ機智的箴言に富み、教育上の格言として諷諭に價するもの少からず。

リヒトヴァルク、アルフレット

Alfred Lichtwark (1832-1914)

獨逸の教育家にして、最近の藝術教育運動の頭目。ハンブルヒに生まる。初め小學教師たりしが、後ライプツヒヒ・ベルリン等に學び、次いでベルリンの美術工藝博物館司書となる。一八八六年ハンブルヒの美術館長に任ぜられ、死に至る迄其の職にあり。在職中常に藝術教育に心を注ぎ、一八八七年「學校に於ける藝術」Die Kunst in die Schule を著し、一八八八年以後生徒と教員の爲にハンブルヒ美術館に美術鑑賞を始め、終にハンブルヒをして藝術教育の中心たるに至らしめたり。

リニーベン、アウグスト

August Lihben (1804-1874)

獨逸の有名なる教授學者。キュストリンの近傍ゴルトツォグに生まる。ノイツェルの師範學校卒業後、一八二二年始めてヴァイセンフェルス師範學校の補助教師となり、次第に位置を高め、一八五八年當時新設せられたるプレイメンの師範學校長となり、死に至る迄其の職にあり。多くの著書中「植物學教授指針」Anweisung zu einem methodischen Unterricht in der Pflanzenkunde (1832) 最も顯はる。又教育雜誌を發刊し、教科書編纂者として名あり。氏が教授學に於ける大なる功績は理科教授の

改良にあり。氏は理科の目的を「一の大なる全體として、自然を認識し、生活・勢力及び統一を認めしむるにあり」と定め、先づ兒童の熟知せる郷土の材料より出發し、之を統一的に理會し、次第に他郷の材料を附加しつゝ、より大なる統一に導くべしとせり。されど氏は所謂統一を系統的分類と同一視せしを以て、自ら外部の形態と分類上の概念を與ふるに主力を注ぎ、形式的に流るゝの缺點に陥りたりき。

了翁文庫

了翁信都が將軍家綱の寛文年間江戸上野に設けし文庫、文庫の外に學舎をも建て、四方の學徒を寄寓せしめ、且衆庶の閱覽を許せり。世に之を勸學講院と稱す。

兩眼視

Binoctular Vision

兩眼にて一外物を視るとき、兩眼各別に映像を生ずるに拘はらず、其の映像相融合して、唯だ一個の事物を認む、之を兩眼視と言ふ。凡そ兩眼の網膜には相應點なるものあり、此の相應點に映する二個の像は相融合し、一個として外界に投射さる。故に若し或刺激が相應點に落ちるときは、一の刺激も二個に映すべし、之を二重像と言ふ。次に立體の知覺亦兩眼映像の融合より生ずるものにして、若し兩眼にて近距離ある事物を眺むるとき、右眼の見る所は右に偏し、左眼の見る所は左に偏し、兩眼の像に

多少の差あり。而して此の差ある映像相融合するときは並に立體の知覺を生ず。此の理は實體鏡を用ひて容易に證明することを得べし。

兩耳聽

Binaural Hearing

兩眼にて一物を見るとき兩眼に映する二個の映像相融合するが如く、兩耳に來る別個の音印象亦融合して一音と感ぜらる、之を兩耳聽と言ふ。されど此の際兩耳に響く音波の強度は固より同一にあらず。若し右耳のもの左耳より強ければ、吾人は目を右の方向に轉じ、音を右方に定位し、左耳の印象強ければ之を左方に定位す。故に兩耳の印象同一強度なるときは屢々其の定位を誤ることあり。又正面と背面とは耳鼓の構造上正面より來る印象と背面より來る印象とに多少性質の差異あるに基づきて之を定位す。

良心

Conscience

良心なる語は拉丁語の Conscientia より來り「共に知る」Knowledge with といふ義なり。正邪善惡に對する主觀的意識、換言すれば行爲及び品性に對する道德的價値を認め、同時に之に伴ふて道德的責任及び功過を意識する個人の精神作用を指す。良心は故に行爲に先たづては何を爲すべきかを吾人に示し、且之を爲すべしと刺激し、行爲の後には賞賛若しくは非認の意識として吾人に面す。良心は上に述べたる如く、個々の行爲及び意

志に對する道德的人格の反應なるが、其の起原及び發達に就ては學者の間に異説あり。スコラ學者は良心を以て神に授けられたる(善惡に對する)理性的判斷となし、マトローは之を「心情・性質・行爲を賞賛し若しくは非認する、人に存する原理」となしカントは良心を實踐理性の要求と見、フイヒテは之を「一定の義務に對する直接意識」と定義し、パウエルセンは「道德的義務に對する個人の意識」とせり。近時又良心の發達を社會的環境に關係せしめて考察し、良心は、環境の影響によりて個人の中に築かれたる社會的意識なりと説くもの多し。ベーン・ジョン、スチュアート、ミル、スペンサー等の如し。若し此の説に従へば良心の道德的判斷必ずしも過誤なしと言ふを得ざるに至るべし。

兩手利

Ambidexterity

左右兩手を同様に自由に且同様の熟練を以て使用する人。兩手利きは極めて稀に見る現象にして、大多數は右利き Right-handedness; Dexterity 又は左利き Left-handedness; Sinistrality なり。中には人類に右利き最も多きは古來より現象にして、石器時代にありても右利きなりしこと明かにして、シェーフェルはベルリンの小學兒童一七七四人につきて驗せるに左利きは僅かに其の四・六パーセント(中男兒五・一五パーセント、女兒二・九八パーセント)にして中六〇

パーセントは遺傳的左利なりしと言ふ。右利き・左利きの原因につきては未だ定説なしと雖も、之を以て遺傳的神經組織の構造に依存し、この神經組織の構造は循環系統の構造に密接に關係すとなすもの最も多し。即ち腦の兩半球に於ける血液の分量は均等ならずして、若し左半球に多ければ右利となり、右半球に多ければ左利を生ずと説くもの多し。固より生後の練習も多少之が原因をなし、殊に練習により右利き又は左利きの一層著しくなるは争ふ可らざれども、それは遺傳に比すれば僅少なる因子をなすに過ぎざると見做さる。

左利きを以て精神能力の薄弱の證となす如きは俗見にして何等の根據ある説にあらず。されど世間一般に行はるゝ手技は右利きを標準として考案せられたるもの多ければ、出來得べくんば左利きを矯正せんこと必要なり。しかも強ひて之を矯正せんとして却つて言語の障害を來し(腕の運動中樞と言語中樞とは密接の關係を有す)又は成績の劣れるを致せるものあり。されば、若し左利きの度僅少なる場合にはなるべく右手の練習をなましむるを便とせんも、強き左利きは之を自然に委し、左手の發達を充分ならしむるを可なりとすべし。近時兩手教育論として左右兩手を均等に教育せんとするものあれども、如此は必ずしも理想の状態にあらざるべし。

蓋し、一手を以て微妙なる作業をなし、他手の用は單に是を支持すること人の常態なればなり。

富田精 右利と左利。 兩部習合神道 神道の條を見よ。

林間學校(戶外學校)

(獨) Waldschulen (英) Open-Air Schools (佛) Ecoles sous Bois

病弱兒童を集め之に適當の教育を施し、且健康の恢復を目的とする特殊の學校にして、獨逸伯林市の外郊シャルロテンブルヒに設けられたるものを以て其の嚆矢となす。

先是伯林の醫師ベツヘル Becher 等は種々の患者を空氣清澄なる森林中に休養せしむるの必要を認め、林間休養所なるものを設け、次いで教育社會にも森林を教育に利用せんとの議起り、バッキンスキ Baecksky の如きは一八八一年已に之を伯林教育局に建議せしも、未だ實行せらるゝに至らざりしが、終にシャルロテンブルヒの市視學ノイフネルト Neufert の創意と醫師ペンディックス Bendix の助力とにより、一九〇四年始めて之を開くに至れり。

シャルロテンブルヒの林間學校は身體虛弱にして、正規の課業を受くるに堪へざる如き兒童

ト・ゾーリゲン・ミュンヘン・ドレスデン等の各地に其の勃興を見るに至れり。

英國にては一九〇七年ロンドンのポストトルウツドに之を設け、翌八年該學校をショーターズ、ヒルに移し、之と共に更に二個の林間學校を設け、同年又ハリファックス及びブラッドフォードにも設置し、パーレーハウス・マンチエヌスタにも又之を置き、殊にパーレーハウス及びブラッドフォードにては一九一二年以後一年を通じて之を開き、其の成績は冬季に於て特に良好なるを確めたり。米國にては一九〇八年一月ロードアイランド州のプロビデンス市に之を設け、市の中央にある校舎の一部を改造して結核初期の兒童十名(後廿五名に増加せり)を收容せるを始めとし、同年七月ボストン市は公園内にある食堂の一部を利用し、同十二月紐育市は從來病院船たりし河船を利用して、之を起し、一九一二年には其の數四十四の多きに達せり。

同じく林間學校といふも、國によりて其の特色あり。獨逸及び英國に行はるゝものは市外を離れたる森林中に設けられ、眞に林間學校と稱すべきものなれども、米國にては市街中にある建築物を利用し、又は一般の學校の一部を改造し、又は戶外にて天幕生活をなさしめ、特殊の校舎を新築することなく、林間學校と言ふより

を集め、一面其の健康を増進し、他面適當なる精神的教育(林間學校と林間休養所との別は前者が精神的教育を施すの點に存す)を施さんが爲に設けられたるものにして、之に收容すべき兒童は學校醫の精密なる検診によつて、一般小學校の兒童中より、貧血質・腺病質及び肺・心臓等の虛弱なるものを選定す。兒童の數は始め九十五人なりしが、後には二百五十人に上れり。

校舎としては通風・採光の充分なるバラック式のものをも有すれども、雨天の外は林間にて教授を行ふを常とす。一學級の兒童は大凡二十人、教授の一時限は二十五分にして、(歴史・讀方・綴方は時に二十五分以上なることあり)各時限の間に、五分乃至十分の休憩時間を置き、如何なる場合にも四時限以上連続して教授を施すことなし。毎朝七時四十五分兒童の集合すると共にスूपの一碗と一片のパンを與へ、八時授業を開始し、十時に於て一二杯の牛乳とパンを與へ、以後十二時に至る迄遊戯・體操等を課し、零時半食として野菜・スूप及び肉大凡三オンスを與へ、終りて後一時間半乃至二時間一齊に午睡をなさしむ。午後三時より少時間學習をなし、四時に於て、又牛乳・パン及びジャムを與へ、遊戯・談話等をなしたる後、午後六時四十五分スूप・パン及びバターの最後の食事をなさしめたる後帰宅せしむ。一週の教授時數は十二時

乃至十六時間(一時限廿五分として廿四時限乃至廿二時限)にして、國語・算術の二科は一般小學校と略ぼ其の時數を等しくするも、理科・圖畫手工等は之を全廢し、唱歌・體操は一週一時限(廿五分)課するに止む。

林間學校の兒童身體に及ぼす効果は極めて顯著にして、其の體重は總平均一週大凡半ポンドの割合を以て増加し、食慾は増加し、氣質は一變し、中には疾病の全治せるものすらあり。即ち第一日に於て開校期三ヶ月の後貧血症の全治せるもの三十四人中十三人、腺病質の全治せるもの三十八人中八人を數ふるに至れり。次ぎに知識の方面につきて見るも其の進歩著しく、兒童が三ヶ月の戶外生活後元の學級に復歸せるの後能く他の兒童と履行することを得、之を林間學校入學以前に比すれば其の成績著しく良好なりきといふ。林間學校の成績如此顯著なりしを以て、次第に其の開校期を延長し、始めは僅かに三ヶ月に過ぎざりしも、一九〇六年には八ヶ月間之を開けり。

シャルロテンブルヒに次ぎては一九〇六年ミュールハウゼンに、同七年エルベルフェルトに之を設け、成績何れも佳良なりしを以て、普魯西の教務省は大に之を獎勵し、一九〇七年獨逸皇后陛下は特にシャルロテンブルヒ林間學校に行啓あり。爾來リューベック・ドルトムン

も寧ろオーブン、エーヤ、スタイル Opentier school (露天學校)と稱するを當れりとす。次ぎに米國にては結核初期の兒童を集め、教育よりも療養の方面を重んじ、英・獨にてはあらゆる病弱兒を集め、教育と療養との二方面に注意し、又米國にては年中之を開き、爲に防寒服等に關し種々の研究を有すれども、英・獨にては冬季に之を開くも未だ甚だ少し。

要するに林間學校は、教室と運動場と療養所との三者を兼ね備ふる一種の施設にして、(一)新鮮の空氣(二)充分なる食物(三)軽減せる課業の三者を以て教育上の原則となし、到る所良好の結果を挙げ、今や上に述べたる三個國の外伊太利・埃太利・佛蘭西等の各地にも及び、近時我國にても之を試むるに至れり。

Ayres, Open Air School. Neufert und Bendix, Die Charlottenburger Waldschule.

小川正行 小學校教育の實際第七篇第三章 リング、パール、ヘンリック Petr Henrik Ling (1776—1859)

瑞典式體操の創始者。瑞典の南方スマラントに生まる。ランド・ワプサラ・コペンハーゲン等の諸大學に神學及び語學を研究し、暫く文學者として活動せしが、偶々コペンハーゲン大學在學中佛人に就きて擊劍を學び、同時に又ナハテ

ガール Knattgull が同所に設けたる私立體操練習所に入りて體操を學びしより、専ら體操に興味を有するに至る。一八〇四年ランド大學の擊劍教師となり、同十二年ストックホルムの近傍カールベルヒの王立アカデミーの體操教授に任ぜらる。一八一四年首唱してストックホルムに王立體操練習所を創め其の長となり、(王立體操練習所は今尙存在す)爾來死に至る迄其の職にあり。氏は體操を教育的、軍隊的、醫療的、美的の四種に分ち、嘗てランド大學に學びたる生理學・解剖學等の知識を應用して科學的基礎の上に體操を築けり。著書としては門弟の出版せる「體操の一般原理」Die allgemeinen Grundle der Gymnastik (1810) 最も著はる。

リンドネル、グスタフ、アドルフ Gustav Adolf Lindner (1828—1887)

埃太利の教育家。ボローミアのロツダロヴィツに生まる。ブラーグ大學に學び、一八五四年ウィリの文科中學校教師となり、一八七一年アラハティツの實科中學校長に進みしが、まもなくクティテンベルヒの師範學校長に轉ず。一八七八年ブラーグ大學が獨逸部とチェッへ部とに分かるゝや其のチェッへ部の哲學及び教育學の教授となり、死に至る迄在職せり。氏はヘルバル

ト派の教育者にして、ヘルバルトの主義を英國に擴むるに於て功あり。幾多の教科書を著し、又教育古典の編纂に従事し、其の中自ら「コメニウスの大教授書を翻譯せり。教科書中「經驗的心理學」Empirische Psychologie 及び「一般教育學」Allgemeine Erziehungslehre の二書は我國にも翻譯せらる。

### リンドネル、フリードリッヒ、 ウイルヘルム

Friedrich Wilhelm Lindner  
(1779-1864)

獨逸の教育家。ツアイトに生まる。ライプザツヒ大學に神學及び言語學を修め、一時市民學校の教師たりしが、一八一五年ライプツヒ大學員外教授に、同二年正教授に進み、聖教問答及び教育學を擔當し、同時に普國教育評議員たり。一八四四年評議員を辭せしが大學教授として一八五九年迄在職せり。氏は基督教を教育の最高原理に掲げ、教授に於ては凡て發生的方法を採るべきを主張せり。「發生的方法」De Methodo Genetica (1808) を始め、二三の教育的著述あり、又宗教・唱歌・算術・歴史・獨逸語等の教科書をも編纂せり。

### 倫理學

Ethics は希臘語の *ethos* (品性) 又は性向より來り、アリストテレスは是を品性又は性向の

ナキ Gizeyeki モードル Jodl ヲルネル Briner  
テリマンツ Dring 等は中にも特に熱心なる主張者なり。

斯くて倫理化運動は次第に各地に擴まり、一九〇八年遂に「倫理化萬國協會」の成立を見るに至れり。

學とせり。されど *ethos* はもと *genos* (風俗習慣) より來り、又羅語の倫理學 *Moralis* (キケロ) 始めて此の語を用ふ) は *Mores* (風習) より來る。故に倫理學は語義より言へば風俗習慣に關する學の謂なるが、現今にては之を定義して「品性及び行為の理想を研究する學」となすを常とす。

倫理學は斯く人の行為の理想を研究し行為の由つて従ふべき規範を定むるの學なるを以て、多くの學者は之を一の規範科學となし、哲學の一分科となせども、中には(例へば佛のレグイ、ブリニール一派の如く)之を説明科學となし、倫理學の職能は道德といふ事實を客觀的經驗的に叙述説明するにあり、従つて倫理學は全く哲學より獨立せる一科學なりとなすものなきにあらず。従つて後者の見地に立つときは、倫理學は自ら政治・經濟等の社會現象と密接なる交渉を有し、道德の發生發達の研究を以て其の任務となすに至らざるべからず。

倫理學は其の研究の對象により之を一般倫理學と應用倫理學に分かつ、前者は道德一般に關する根本原理を研究し、後者は之を特殊の状態に應用せるものにして商業道德・農業道德と言はんが如し。又之を主觀道德學即ち道德的意識の研究と、客觀的道德學即ち風俗習慣等外部に表れたる道德的事實を研究するものとに分かつ

### ルソー

#### ルソー、ジャン、ジャク

Jean Jacques Rousseau (1712-1778)

【傳記】 有名なる教育改良家にして哲學者、瑞西のジュネーヴに生まる。時計師の子なり。生まれて直に母を失ひ、教育に冷淡なる父の手に養はれければ其の生活極めて不規則にして、幼より神史小説の類を耽讀せり。八歳の時父は故ありてジュネーヴを逃走せるより、田舎の一牧師の手に養はれ、多少正式の教育を受く。後或は辯護士の書記となり、或は銅版師の弟子となり、十六歳のとき舊教の一牧師に救はれ、牧師は氏をド、フラン *Mme de Warens* 夫人の下に送り、同夫人の補助によりチュリンの僧院學校に入り、舊教徒に改宗せり。後ターロン伯の下



男となりしが、伯と合はず、一七三〇年アラン夫人に復歸し夫人は彼を僧侶たらしめんと

ことあり。此の内容客觀的道德學は近時科學的に倫理學を立てんとする人の特に意を注げる所なり。

### 倫理化運動

Ethical Movement

宗教及び政治より獨立し、純粹に個人及び社會の道德的生活を進め、人道の發達に貢獻せんとする運動。米國に起り、今や獨・英・佛・瑞の各國に及ぶ。

米國に於ける教化運動は一八七六年、フエリックス、アドラー Felix Adler が倫理化會 Ethical culture society を起せしに始まる。氏は又其の主張する原理を實行せんが爲に倫理化學校 Ethical Culture School を紐育に設け、學びの目的を「健全なるアモクラシーの精神を養ひ地位・職業・信仰の如何に關せず各階級の間に深厚なる同情を起し、凡ての人類の統一を意識せしむる」事に置き、直接に倫理の教授をなすは、固より又歴史・文學・手工等による間接の道德的陶冶をも重んじ、専ら宗教を離れたる倫理的修養に力を用ふ。アドラーに次ぎてはシカゴのソールター *W. G. Sumner* 最も功あり。倫理化運動の、米國に次ぎて盛なるは獨逸にして、一八九二年倫理化會を創設し或は講演を開き或は機關雜誌「倫理化會報告」を發行し、或は應問所を設けて一般の質問に答へ、各種の手段によりて其の主義を宣傳せり。フエルステル *F. v. S. F. F. F.*

して再び舊教の寺院に送りしも成效せず、一七三二年三度アラン夫人の許に歸り、爾後八年間同夫人と親友を結びて同様し、其の間に於て、音樂の外に數學・拉丁語・ボールドロイヤール派の論理學、ロック・デカルト・ライブニッツ・マルブランシユ等の著書を受讀せり。一八四〇年夫人と關係を絶ちて一時リヨンの家庭教師となり、一七四一年より巴里に滞在し、文學・音樂等によりて糊口の道を求め、デ、ロー、ダランベール等所謂百科全書家と親交を結べり。一七四三年佛國公使の秘書官として伊太利國ヴェネチヤに赴きしが、公使と合はず、一年半の後巴里に復歸す。一七四五年の頃より彼は極めて無學なるテレーズ *Therese* と相愛し、五人の私生兒を擧げしも、凡て之を養育院に送り、一七六八年始めてテレーズと正式の結婚式を擧ぐ。

彼が著述家としての生活は、一七四九年アイジョンのアカデミーの「科學及び藝術の進歩は道德を高むるか將た腐敗せしむるか」との懸賞論文に應じたる時に始まり。彼は道德を高むる力なしとの否定的斷案を興へて、一等賞を得、世人を驚倒せしめ、ルイ十五世は賞として年金を賜はらんとせしも固辭して受けざりき。されど此の論文によりて彼は自己の天分を自覺し「新たなる眼界を開きて、新たなる人」となり、爾後一七六四年に至る迄十五年間豫言的態度を

以て諸種の著述を公にせり。一七五三年再びア  
イジョン、アカデミーの懸賞論文に應じ、「人間  
不平等の原因に關する所見」を草し、口を極め  
て自然の無邪氣の状態に歸るべきを説きしが、  
専制政治に對する攻撃あまりに激しかりし爲  
め入賞するを得ざりき。是より先きルソーは  
重病に罹り、治癒の後、自己の主義に従ひ清貧な  
る生活を營さんと決心し、前記の「不平等論」  
を發行するや、故郷ジュネーヴに旅行し、同地  
にて再で、カルヴァン派に改宗し、ジュネーヴ  
の市民権を得て巴里に歸り、一七五六年以後モ  
ンモランシー及びモンルイの仙居「Ermitage」  
にて著述に従事し、相次いで戀愛小説「新エ  
ロイズ」La nouvelle Héloïse (1761)「民約  
論」Contrat Social (1762)及び教育小説「エミ  
ール」Emile, ou de l'Éducation (1762)を公  
にす。然るにエミールは當時の宗教思想に反對  
せしを以て僧正は彼を破門し、書は焼かれ、國  
會は彼を逮捕せんとせしかば、逃れて瑞西に入  
り、又轉じて英國に匿れ、ヒュームの厚遇を受  
けしが、やがてヒュームとの親交も破れ、一七六  
七年佛國に、同七〇年以後巴里に歸り、英國滞在  
中に著手せし懺悔録 Les Confessions を完成す。  
巴里歸國後は著書よりの収入と、樂譜の書寫に  
より極めて孤獨なる、生活を送り、一七七八年  
巴里の近郊エルムノングイユ城に頓死す。遺骨

は一七九四年巴里のパンテオンに移さる。  
「根本思想」ルソーは當時佛國に行はれた  
る唯物論・感覺論に反對して、感情を重んじ、意  
志の自由、神の存在等は意識よりも寧ろ直感せ  
らるべきものなりとし、内心に具はる直感の權  
威を高唱せり。彼は多くの著述によりて自然の  
無邪氣なる状態に歸り、現代文明の生む諸種の  
束縛より脱すべきを教説し、神によりて與へら  
れたるもの即ち自然のものは凡て善なり、上下  
の區別、貧富の懸隔等は凡て人爲的のもの不自  
然のものなれば、是等の不自然を一切排除し、原  
始的なる、平等にして幸福なる状態に復歸する  
事を務めざる可らず。眞の文明とは、生活の外部  
的狀態を、心に存する内部の法則に服従せしむ  
るによりて成る。此の内部の法則に従ふ自由  
と言ひ、自由の境遇に於て人は凡て道德的合法  
的の平等を獲取し、眞に同胞としての社會的生  
活を營むことを得。眞の幸福は自由の正しき行  
使に成る。人生の最高目的はかゝる幸福の外に  
これあるなしと説けり。即ち彼は消極的には現  
代の文明を咀ひ、積極的には心に内感する法則  
により人を自由ならしめ、自由の正しき行使に  
基づく平等の社會を現出し、茲に新しき文明を  
建設せんとせり。彼は學問上の素養に乏しけれ  
ども、豊富なる想像と奇智なる着眼と犀利なる  
文章とは相合して獨得の學説を成し、眞個豫言

者の風格を具ふ。大哲カントの如きすら最も彼  
を尊敬し、彼の肖像を書齋に掲げ、エミールに  
讀み耽りて其の規律ある生活を破りしと言ふ。  
「余は一物も知る所なしと雖も、能く凡ての物  
を感ず。」との彼の語は其の人格と思想とを一語  
に表明し盡くせりといふを得べし。

「教育説」教育の理想としての自然人 エミ  
ールの劈頭に曰く、「萬物造物主の手より出づる  
時は善なれども人の手に於て悉く墮落す。」と、  
此の思想より出發して、彼は教育の理想は人の  
自然性を完全に發達せしむるにありとし、人の  
自然性を矯め之を改造せしむる教育の任務とせる  
從來の思想に反抗せり。又從來の教育は、特殊  
の職業的教育を重んぜしが、ルソーは之に反  
して人性の完全多方的發展を説き、市民たら  
しむる前に先づ人なるを要すとして、人生各方  
面の活動に必要な素地を作るを以て教育の第  
一任務とせり。

教育の方法としての自然 教育に三要素あ  
り、曰く自然、曰く物、曰く人。自然とは人の  
本有する自然性、物とは外界に對する經驗と其  
の影響、人とは有意的又は無意的に人類より受  
くる影響なり。此の中自然は人力の如何ともす  
る能はざる所、物亦全くは人の支配し得ざるも  
のなれば教育はなるべく自然と物との方向に其  
の勢力を一致せしめざるべからず。換言すれば

教育は心身自然の發達を迫ひ之に一致せざるべ  
からず。自然に従へとは故に教育の第一格半な  
り。然るに心身の諸勢力の發達には一定の順序  
あるを以て、教育は能く此の發達に注意し、各  
時代に於て、特に發達する能力の教育を重んじ、  
未だ發達の道程に上らざるものを、我より迎へ  
て引き延ばさんとする如き事ある可らず。從來  
の教育は斯かる心身發達の法則に對する理解を  
有せざりき。彼等は兒童を兒童として見ず、却  
つて兒童の中に大人を見、兒童を兒童として教  
育せずして、却つて大人として之を教育せんと  
せり。故に其の教育するや、行へば行ふに従つて  
益々正道を逸せり。教育は兒童現在の自由と幸  
福とを重んじ、不確實なる未來の爲に現在を犠  
牲に供することなく、兒童の位置に立ちて考へ  
且感じ、決して「兒童の内大人を見出す」とす  
る可らず。教育は一定の豫定せられたる系  
統に兒童を服従せしむるにあらずして、寧ろ系  
統をして兒童の發達に従はしめざるべからず。

眞を授けざれども、偽より保護し、將來兒童が  
一定の時期に達せるとき眞理を喜び道德を愛し  
得るに至るの道を開く教育なり」と。此の意  
味に於て、兒童が十二歳に達する迄は直接に理  
性及び道德を練習する如き材料を避け、身體と  
感官を練習し、理性及び道德への素地を築くべ  
く、其の教育は消極的ならざるべからず。  
「エミールの梗概」 以上はルソーの思想の  
根本傾向とも見るべきものなるが、更にエミ  
ールの順序を追ひ、氏が自然的教育の大意を窺は  
ん。  
エミールは一孤兒エミールの出生より結婚に  
至る迄一家庭教師によりて教育せられたる徑路  
を描きしものにして分かつて五篇となす。第一  
篇は教育の總論及び幼兒の教育法として體育を  
論ず。凡て幼兒の教育は兒童の自由に任し其の  
自然的活動を妨ぐべからず。故に帽子又は襪襟  
等にて其の身體を束縛する事なく、常に跣足に  
して疾病あるも醫藥を與へず、毎日冷水に浴し、  
寒暑飢饉に慣れしむべし。第二篇は兒童の談話  
し得る時期に始まり、十二歳に至る。主として  
言語の取得と五官の練習を以て其の目的とな  
す。而して此の二者は常に並行すべきものにし  
て、兒童は自ら事物を經驗し、直觀的に學習す  
ると共に言語を習得す。故に讀書は凡て之を禁  
ず。兒童を自由ならしむべきは第一期に等しく、

命令・從順・義務等の語は兒童の辭書より抹殺せ  
らるべく、賞罰の如き凡て之を自然に一任し、行  
爲自然の結果に鑑み自ら非行を改むるに至らし  
むべし、教育者は唯自然の作用を注意して觀察  
すれば即ち足る。第三篇は十二歳より十五歳に  
至る知力修練の時期なり。氏は知育に於ては功  
利主義を取り、物理・地理・天文等の自然科學及  
び凡ての職業に必要な手工を重んじたり。教  
授に於ては兒童の好奇心を利用して事實の觀察  
及び經驗をなさしむべし。されど教師より進ん  
で件の好奇心を満足せしむることなく、學習を  
容易ならしむるよりは、寧ろ之を困難ならしめ、  
兒童自ら努力して之を解決する如く導くべし。  
「科學は教ふべきものにあらずして發見せしむ  
べきなり。讀書は之を排し、古語文法の教授は  
之を度外視す。故にエミールは多くの書籍中唯  
代表的自然人を寫せるロビンソン漂流記を讀む  
を得たるのみなりき。第四篇は十五歳より二十  
歳に至り、道德教育及び宗教教育を論ず。エミ  
ールは今や社會に入るの準備として社會を知らざ  
るべからず。されど現今の假面を蒙れる社會は  
多く教ふる所あらざれば、エミールは去つて毫  
も事實を曲説せざる、彼の古きブルータルコス  
英雄傳を讀み、歴史の研究によりて人性の自然  
を解し、社會の害惡を憐み、之に同情を寄するに  
至らざるべからず。蓋し同情は凡ての道德の根

原なればなり。宗教は十八歳にて始めて之を學ぶ。其の他又古語の學習、劇場の觀覽等により其の趣味を養成し二十五歳に至り、理想の妻ソフィーを娶る。第五篇はソフィーの教育法を論ず。凡て女子は男子を樂ましむるを以て天職となす。されば其の教育は從順・謙讓の美德を養ひ、手藝に堪能ならしめ、能く夫を喜悅せしめ、幼者を養育し、老人を看護し、以て一家を整理し得る良妻を作るを以て其の目的となさざるべからず。

「要約」ルソーの教育説は其の根本思想をロフクに得、之に新生命を與へたるものにして、十九世紀以後に於ける教育的改良は凡てエミールに豫言せられたるの感あり。彼は教育改良家と言はんよりも、教育の根本的改造論者寧ろ教育革命家とも稱すべく、殊に其の影響の甚大なるもの二三を左に擧ぐべし。

一、教育を以て自然性の内部的發展となし、傳説及び習慣を兒童に強ひ、外部的陶冶を施さんとするものに對し極力反對せること。曰く「凡て傳來の方法に反對せよ、然らば常に正しからん。」と。

二、從つて知育を以て、外部より知識を受容する作用となさず、自ら進んで之を見出すべきものとなせること。此の點に於て彼は直觀主義より更に一步を進め自己活動の原理を説

けり。

三、教育は未來の生活の準備にあらずして却つて生活其の者なり。故に兒童の發達の各段階は夫れ夫れ意義を有すとなせること。兒童は之を兒童として取扱ふべく、教育の目的及び方法は兒童の立場より決定せざるべからずとの意見はルソーの始めて力説せる所にかゝる。

四、手工的作業を重んずること。

エミールは當時佛國に於て迫害せられ、英國にても多く顧みられざりしが、獨逸の汎愛派によりて始めて教育の實際に適用せられ、引いてベスタロッチ・フレール・ヘルバルト等の教育説に大なる影響を及ぼせり。近時の自由教育説亦ルソーの意見の現代に復活せるものと解し得べし。

Rayd W. The Educational Theory of J. J. Rousseau.  
Compayré, G. J. J. Rousseau et l'Education de la Nature  
Gehrig H. J. J. Rousseau, Sein Leben und sein pädagogische Bedeutung.  
V. Sallwürk, Rousseaus' Stellung in der Pädagogik und in der Geschichte der Pädagogik.

大瀬甚太郎 歐洲教育史  
三浦 關造 人生教育エミール

類化 「同化」に同じ、其の條を見よ。又統覺の異譯として用ふ。「統覺」の條を見よ。

類推 論理學上、「比論」の異譯、其の條を見よ。

類像 Generic Image  
一類の事物に共通なる性質が最も明かに意識せられ、言はず中心の座を占め、各事物の差異點が漠然として、其の縁邊に位するが如き特殊の表象。ゴルトンは類像を以て「重ね寫眞」(多くの寫眞を重ね撮つて一の寫眞とせるもの)に比較せり。この比喩は或意味に於て當れり。されど凡て表象は意識の發動的選擇作用を待ちて成るものにして、寫眞の如く全く受動的ならざることを知る可からず。

ルテル、マルティン  
Martin Luther (1483-1546)  
〔傳記〕獨逸の宗教改革家にして教育改良家。ザクセン州のアイズレーマンに生まる。イダラプルヒ及びアイゼナハの學校を経て一五〇一年エルフルト大學に入り法學を學び、一五〇八年グイッテンベルヒの新設大學に教授となり、翌年エルフルト大學に轉じ、同一二年神學博士の學位を得、グイッテンベルヒ大學神學教



授に進む。  
一五一七年  
贖罪符を難  
ずる九十五  
個の樹文を  
グイッテン  
ベルヒの寺  
門に掲げて

舊教に反抗し、爾來種々の迫害を冒して、其の所信を貫ぬき、以て宗教改革の大事業を敢行せり。

〔宗教教育〕宗教改革の精神はローマ法王を以て神と人との媒介者となすに反し(一)人は信仰によりてのみ神の國に生まるゝことを得(二)聖書は直接に吾人に神の道を示すものなりとの二大主義に基づき、毫も羅馬教會の教權を認めざるにあり。即ち新教は人に許すに自由の討究を以てし、人に負はすに自治の責任を以てし、從來外面的なりし信仰を切實なる内面的ものとせり。斯く人々自己の信仰に對し責任を有し、しかも、信仰の根原は聖書にありとせば、聖書に對する教育は實に信仰の中軸を成さざるべからず。教育を除いて復た神を求むるの道あるなし。是に於てか彼は一般人民の爲に聖書の全部を標準獨逸に翻譯し、一五三四年此の大事業を完成し、又大小二種の聖教問答を著

し、加ふるに三十二章より成る讚美歌 Geistes Gesangbuch (1525)を編し、よりて以て家庭に於て早く宗教教育を施すべきを主張せり。

〔學校教育〕ルテルは又一五二四年「獨逸各市の市長及び市會議員に告げて基督教學校を設立維持すべきことを論ず」なる公開狀を發し、又同三〇年「兒童を學校に送るべき義務につきての説教」を出し、凡ての兒童は男女を問はず毎日一二時間學校に學び其の他の時間を以て職業を實地に習ふべきことを唱へ、強制教育を主張せり。彼が學校教育に於て宗教教育を重んずるは言を待たずと雖も、學校教育は單に之のみに満足すべきにあらず。故に中世の僧院學校が宗教の爲にのみ教育を施せるは彼の非難して置かざる所なりき。曰く「假りに靈も天國も地獄もなしとするも、下界に於ける事業の爲に尙學校を設けざるべからず」と。即ち彼は家庭生活・市民生活・職業生活及び寺院生活の一切の準備の爲に教育を要求せり。彼は又教師の職業の頗る高尚なることを説き、教員傳習所を設けて良教師を養成せんことを計り、各種の方面より教育の振興を畫策せり。獨逸に於ける普通教育の發達がルテルに負ふ所頗る大なりといはざるべからず。

〔教科論〕ルテルは、諸種の教科の中宗教につぎて最も重きをなすものは古語にして、そは

實際の使用によりて習熟せしむべしと説き、又歴史・辨證法及び修辭をも重んじ、數學は大學に於て之を學ぶべく、其の他唱歌・體操等の價値を認め、諸種の實質的教科の研究を奨励せり。

メランヒトン  
Lutherus Labinus, (Eliert Liban)  
(1565-1621)

獨逸の神學者にして教育家。オルテンブルヒ州のヴェステルシュテータに生まる。ライプツヒ及び其の他の大學に學び、一五九五年ロストツク大學の詩學の教授となり、一六〇五年同大學神學教授に轉じ、傍ら多くの古典を出版せり。教育者としては古語の教授を文法より始むることなく、實地の使用により次第に之に熟せしむべきことを唱へ、爲に繪畫を利用すべきことを薦めたり。コメニウスの世界圖解(コメニウスの條參照)は恐らく其の思想をルビヌスより得たるものなるべく、コメニウス亦其の「大教授書」に於て彼に負ふ所大なるものあるを自白せり。

レックス、ロバート

Robert Raikes (1735-1811)

英國の教育家。英國のグロスターに生まる。夙に社會問題特に監獄改良問題の研究に興味を有し、其の結果、罪惡の主因は幼時に於ける教育を怠るより來るものなることを認め、一七八〇年日曜學校を起し、不良少年を收容し一婦人をして其の教育に任せしめたり。一七八三年已に以前より日曜學校を起せしトマス、ストック Thomas Stock と相識り、相共に其の發達に盡力し、且其の結果を雜誌上に公にせり。一七八七年日曜學校協會(一七八五年設立)の名譽會員に推さる。レックスを以て日曜學校の創設者となすは當らずと雖も、彼は、當然、其の發達に關して大なる貢獻をなせる第一人者たるの名譽を負ふべきなり。

日曜學校

獨逸の中學校の一種。近世語・數學及び自然科學を重んじ、現代の要求に應ぜんとするは實科學校及び高等實科學校に等しく、拉丁語

を加ふる點に於て文科中學校と共通の性質を有し、二者の中間に位す。修業年限九個年。十九世紀の始めより創設せられしも、一時振はざりしが、一八五九年レアルシュユールの組織を改正するに當り、「上級實科學校」と名づけられ、爾後次第に盛大なるに至りしが、一八八二年以後始めて「レアルギムナジウム」の名に改め、文科中學校及び高等實科學校と鼎立して獨立の位置を占め、一九〇〇年以後、其の卒業生は文科中學校の卒業生と同一の特権を有す。

レアルシュユール(實科學校)

Realschule

獨逸の中學校の一種にして、古語を全廢し數學・自然科學・近世語等主として現代科を教授し、修業年限六個年なり。普魯西の實科學校は一七〇六年ゼムレル Ziemler がハルレに、一七四七年ヘッケルがベルリンに設けたるものから始まる。一時新人文主義の反對の爲に衰へしが、一八五九年グアイゼヴィッチの力によりて、其の組織を一變せり。即ち氏は實科學校の目的を以て、職業教育よりは寧ろ一般の修養を與ふるにありとし、之を「上級實科學校」Realschulen Exster Ordnung と「下級實科學校」Realschulen Zweiter Ord. とに分せり。前者は修業年限六個年又は九個年にして、拉丁語を課し、

靈魂

Zoel

時としては精神と同義に用ひらるゝ事あれども、學術上の用語としては、身體を離れて獨立に存在し、個人の精神の基礎たるべき、形而上學的實體を意味す。主として神學上の用語にして經驗的科學としての心理學には殆んど此の語を使用することなし。蓋し「靈魂なしの心理學」Psychology without a soul とは現代心理學の一標語にして、形而上學的實體の研究は其の與らざる所なればなり。

冷點

Cold Spot

「冷たし」との感覺は皮膚の表面に存する冷點を刺激するより生ず。こは一八八四年ブリックス Blix ホールドマイナル Goldscheider 及びドナルドソン Donaldson が各獨立に發見せる所なり。冷點は攝氏三十四度以下及び同じく四十五度以上の溫刺激に感應す。故に四十五度以上の溫度も單に冷點にのみ觸れば「冷たし」と感ぜらる矛盾感覺。そが「温し」と感ぜらるゝは同時に温點をも刺激するによる。フライ Froy の推測によれば冷覺の機關はクラウゼ末瑞球なりと言ふ。

例話

Illustration

道德上の教訓を具體的化せる談話。例話は、具體的に正邪・善惡の何物たるかを示すと共に、兒童の感動を惹起し、正善を愛好して之に就き、邪惡を嫌惡して之を避くる情操を涵養し、道德的人物を崇敬欽慕して之に私淑せしめ、以て實踐躬行の發端たらしむるものにして、初歩の修身教授に於ける中心教材となす。例話は之を(一)事實的のもの(二)想像的のもの二種に大別す。歴史的例話・偶發的例話は前者に屬し、後者には童話・寓話・假作物語(例へばロビンソンクルソーダ如し)等は後者に屬す。又之を他の見地より(一)善を例示する積極的のもの

(二)惡を例示して反面より警戒を興ふる消極的のものに區別することあり。例話の排列につきては、徳目主義と人物主義との區別あり。徳目主義(行爲主義)とは、徳目を以て排列の基本となし、諸徳の觀念上の順序を整へ、之を系統的に授くる事を主眼となすものにして、従つて例話も専ら一言一行を目標として選擇し、其の人格全體を表現せんことを務めず。されど人物主義(人格主義)に於ては、先づ説話すべき少數の理想的人物を選擇し、之を以て基本と定め、其の人の言行に關聯して教訓を與へんが爲に、便宜徳目を配當すべしと主張す。前者は、例話として選出する人物多きに至るを以て、斷片的に流れ、従つて一人格として統一せる尊信の念を振起し難く、道德的情操、信念の涵養には不利なれども、諸徳の順序を正し、適切な教訓を施し、缺漏なく教授することを得るに於て、利とするところ多し。後者は、模範的人物の數少きを以て、其の人に對する尊信の念を高め、兒童の心中に理想を構成し易く、又記憶を確實ならしむるの利あれども、教授するところの徳目に順序系統なきを以て、適切な教訓を脱漏し易く、又統一せる道德的理想を養ひ難きの不利なきに非ず。實際に於ては、二主義共に相用ひて、各々其の長所を併せ取るを可なりとす。

歴史科學

(獨) Geschichtswissenschaft

「文化科學」に同じ、其の條を見よ。[沿革] 自國の歴史を其の子弟に教授し、道德的教訓を興へたるは古くより行はれたる所に於て、イスラエル民族が神につきて其の子弟に教へ、希臘民族がイリアッド及びオデュッセイを教訓の材料となし、羅馬に於ても亦歴史は家庭教育上重要な地位を占めたりき。下つて人文派及び宗教改革時代の教育家中には歴史教授につきて主張せるもの少なからざれども、是等は何れも歴史を特別の教科として學校に課したるものにあらず。コメニウス始めて國民學校にて歴史を教授すべく、且其教授に於て開化史を重んずべきことを唱へたり。されど是亦一の主張に止まり實行に及ばざりしが第十七世紀に入りて、中等學校にて始めて實際に歴史を授くるに至れり。即ちフランケの中學校にては歴史を教科の一に數へ、名稱・年代等を生徒に記憶せしむるを以て其の目的とし、汎愛派のベドワは歴史教授に掛圖を用ひて、之を直觀的ならしめ、ザルツマンは郷土史の直觀より歴史教授を始むべしとなし、又ゲッテンゲンシュレーツェル Zitelius は從來の歴史教授が政治史の一方に偏せるものあるを非難して開化史を重んじ、次第に教材及び教授法の改良を來し、十九世紀の初期より、小學校にても一般に之を教授するに

至れり。

ヘルバルト及びヘルバルト派は教育の目的を以て道徳的品性の陶冶にありとなすを以て、自ら歴史の教育的價値を高調し、之を以て宗教科と相並んで、諸種の教科中最高位を占むべきものとす、且種族の歴史的發展と兒童の發達と相並行すべしとの説を教育上に應用して、中心統合法及び開化史的段階説を立て、政治史よりも開化史を重んじ、且童話・傳説等の教授を以て歴史の豫備となし、歴史教授につきて一大革新を加へたり。ベスタロッチは歴史教授に關してさまざまの貢獻する所なかりしも、ベスタロッチ派のハルニツシユは「近きより遠きに及ぼす」といふベスタロッチの原則を歴史に應用し、其の世界科に於て、郷土史・祖國史・世界史の別を立て、郷土史より漸次擴大して世界史に及ぼせしとせり。下つてカッパ Kapp は一八三四年に於て、歴史教授上進法を唱へ、ビーデルマン Biedermann は一八六〇年歴史教授に於ては、開化史を以て其の主眼とし、政治史は單に之に附説すべしとなし、リヒテル Richter は開化史と政治史とを分離せずして教授すべしと説き、爾來其の材料及び方法につき漸次改良を加へて現今に及べり。

我國にては、維新以前平安朝の大學に紀傳道ありて支那の歴史を學び、三史・文選の諸書を

講究し、徳川時代の昌平坂學問所に於て史料

(漢史及び皇朝史)を置き、寺子屋に於ても「古狀捕」の如き習字手本によりて多少の歴史的教育を與へしも、眞に歴史科の教授と目すべきは維新以後の事に屬す。即ち明治五年頒布の學制に於て、上等小學の教科目の中に史學大意の教科を置き、されど當時行はれたる教科書「日本史略」支那史略等は唯政治史中個々の事實を断片的に記載し、又歴史上最も必要なる年代の觀念に注意を拂ふこと少かりしが、其の後發刊せられたる「日本略史」古今紀要等は年代順に編纂せられ、稍前代の教科書の缺點を補ひしも、未だ不完全なるを免れざりき。此の時に際し、歴史教授の一大革新を起せしは三宅米吉氏にして、氏は明治十五年歴史教授に關する意見を公にし、日本歴史を十一の時代に分ち、教材の中に開化史を加へ、其の教授を直觀ならしむべきを唱へたり。是より歴史の教授法及び教科書の體裁頓に改まり、後明治三十六年以後國定の教科書を使用せしむるに至りしより、材料及び其の排列法に一定の標準を見るに至れり。

【目的】 日本歴史は國語科と相並びて最も重要な國民的教科にして、是によりて實質的には我が國體の概要を知らしめ形式的には忠君愛國の志氣を鼓舞し、協同一致の精神を養ふを以

て其の主要なる目的となす。

〔材料の選擇及排列〕 歴史の教材は古くは各國共に政治史の一方に偏局し、コメニウスの如きは早く已に開化史の必要を認められたれども、十八世紀の終末迄は政治史は尙主要の位置を占めたり、然るに十九世紀の前半に於て、前にのべたる如くビーデルマンの開化史に對する主張あり、之に對して、ヘルプスト Hulpst、イーゲル等が政治史を重んずべしとなし、リヒテルは二者を分つべからずと説き、開化史は次第に歴史教授中に其の位置を確保するに至り、一八七二年普魯西の法令にても「兒童の理解し得る限り、開化史的要素を加ふべし」と規定せり。我國にても三宅米吉氏の改革意見中には文化・風俗・習慣をも項目中に加ふべき旨を明らかにし、歴史教授の材料を政治史及び文化史の各方面より選擇すべきことは今や教育界の輿論を成せり。現今の教科に於ては歴史は「建國の體制、皇統の無窮、歷代天皇の盛業、忠臣賢哲の事蹟、國民の武勇、文化の由來、外國との關係の概要」を授くべしと定められ、國定教科書にては此の趣旨に基づき、政治史・開化史の兩方面より材料を選擇せり。

教材排列の方法につき古來行はれたるもの大凡左の如し。  
(一)年代による排列法

(イ)年代的逆進法 歴史の年代的順序を逆轉し近代より始まり漸次中古及び上古に遡りて教授する如く材料を排列せるものにして、ユンケル Junker カップ Kapp ヤコブ Jakob シェテ

ケレル Stenler グラム Grimm 等之を唱ふ。この方法は一見兒童に近きものより次第に遠きものに及ぼし「近より遠に及べ」といふ原則に合せる如きも、時間的に近きもの必ずしも心理的に近しといふべからず。現今之を採用せるもの甚だ少し。

(ロ)年代的順進法 年代的順序即ち歴史の自然の順序に従つて排列せるものにして一般に採用せらるゝ所のものなり。  
(二)事實に基づく排列法

(イ)傳記體 歴史上著名なる人物を選びて題目となし、人につきて事を記する方法にして、具體的にして兒童の興味を起し易き長所を有すれども、事件相互の系統を立つるに不便にして且政治的方面に偏するの弊あり。ルーソー・パセドウ・カムハ等は傳記體を主張し、チルリン Zilling グツイーグト Wiget 等は之に反對せり。

(ロ)記事本末體 顯著なる事件を題目とし、人をして之に附説するものなり。  
(ハ)彙類法 之に又左の三種あり。  
A、事實的關係に基づきて分類するもの、ハ

ウプト Haupt は此の方法を取り、歴史の材料を(一)家族生活(二)社會生活(三)國家及び國民生活(四)宗教生活(五)美術及び科學に分類せり。こは歴史の統一を破り全體としての國民の發達を顧みざるの缺點あり。

B、曆日中主要なる事件の起りし月日に從つて分類し、此の日に於て之に相當する事件を授くるものにして、例へば十二月十五日に於て七年戦争を授くるが如し。シュチール Schüler の唱道せる所なり。此の方法は歴史としての年代順を破壊するのみならず、又月により教授材料に大なる異動あるべきを以て、歴史の補充として道徳的教訓を與ふる上には効果ありれども歴史其の物の教授としては不適當なりとす。

C、比較法 人物と事件とを比較し、相互に彙類するものにして、例へばシーザーとナポレオンとを同時に授くるが如し。比較は教授を徹底する上に必要な方法なれども、教材排列上の原理たる能はざる、こと固より論なし。

(三)他教科との關係による排列。  
(イ)地理と結合せんとするもの、リッテル・カッパ等之を唱ふ。  
(ロ)世界科の一部として授けんとするものにして、ハルニツシユ之を唱ふ。

(ハ)宗教史に結合して教授せんとするもの、ラウメル Rauher 之を唱ふ。  
(ニ)之を諸教科統合の中心となさんとすもの、ヘルバルト派之を唱ふ(中心統合法の條参照)

以上の外、歴史全體を授くる回数につき、全年を通じて唯一回之を授けんとする順進的のもの(ヘルバルト派の如く)と圓周的に復回反復して授けんとするものと二種あり。  
上に述べたる各種の排列法につきて、現今一般に採用せらるゝは圓周的教案により、二回之を反復し、始め一回は傳記體及び記事本末體を併用し、後には時代別を取り、一時代を一體として系統的に排列し、順序は年代的順進法によるものなりとす。他教科との關係はなるべく密接に内部的に相關聯せしむるは可れども、牽強附會に失し、歴史其の者の内部的系統を破るが如きことなからんを要す。

〔教授上の注意〕 歴史教授上特に注意すべき事項大凡左の如し。  
一、學校の沿革、附近の傳説・口碑等につき適宜豫備的知識を與へ、之を以て、教授の出発點となすべし。ヘルバルト派の開化史段階説は此の點に於て大に參考となすに足る。  
二、年代圖・年表・地圖・系圖・肖像畫・建築・器物等の繪畫・武器・遺物の實物等、教授上必要な



る教具を準備し、教授を直觀的ならしめ、年代と場所とに關する明確なる觀念を得しむべし。  
 三、歴史を重なる時代に分かち、各時代を一全體として取扱ひ、其の特徴を明らかにすべし。  
 三宅米吉氏の定めたる時代の區分左の如し。

- 一、上古、二、藤原氏時代、三、源平時代、四、北條氏、五、南北朝、六、足利氏、七、群雄割據、八、豊臣氏、九、徳川時代、十、明治維新、十一、明治時代。
- 四、教師の説話は明快にして趣味を有し、児童をして事實を明らかに想像し得るに至らしむべし。
- 五、重要な年代と場所とを充分に記憶せしむべし。
- 六、古代は比較的簡約し、近世に於ける變遷に力を用ふべし。
- 七、機に應じて児童をして適當に道徳的判斷を加へしむべし。但し多きに過ぐべからず。
- 八、他教科特に修身・地理・國語との連絡に注意すべし。

Bliss, W. F. History in the Elementary Schools  
 Hinsdale, R. A. How to Study and Teach History.  
 McMurry, C.A. Special Method in History

Shimon, I. M. Some Principles in the Teaching of History  
 北澤種一外三名譯 ルーデ氏各科教授法、上。

歴史的段階

「開化史的段階」に同じ、其の條を見よ。

レクトー

大學及び其の他の學校長。特に大學の支配權を有するものを指す。佛國及び獨逸の多くの大學にては大學總長をレクトーと稱し、英蘭にては大學のカレッジの長をレクトーと言ひ來りしも、現今はオックスフォード大學中エクター、カレッジ及びリンカン、カレッジの長に限り、此の名稱を用ふ。蘇格蘭の大學にてはレクトーは國家に功勞ある人々より、學生の推舉せる名譽總長なり。其の他舊教徒のカレッジの長(例へばイエスキヤ派の學校の長の如き)は凡て之をレクトーと言ひ來れり。

大學以外にては、蘇格蘭及び獨逸のザクセン・グユルテンベルヒ等の諸州にては中學校長をレクトーと呼ぶ。  
 米國にてはレクトーは未だ一般の用語とならざる。

列子

列子名は禦寇、年代傳記詳かならず。唯孟子及び莊子に先だちて生存せしことと、長く鄭國

に在りし事とを推測し得るのみ。  
 列子の學は老子に基づき、其の本體及び現象に關する議論は略ぼ老子に等しけれども、萬物の成生を説くこと老子に比して詳かに、倫理説に於て同じく消極主義・無爲主義を取るも、之を老子に比すれば一層極端に馳せ、心身共に一點の障害なく、自由自在、物も我も忘れ盡すの理想境に達せんことを努めたり。後世老莊學派よりして、神仙の術をあげつらふもの出て來りしは、列子の高虛荒蕩なる一面に影響せられしもの外ならず。

列子は定命論者にして、吾人の一舉一動に至るまで凡そ命の然らしむる所となせり。されば生も亦命、死も亦命、生に執着するの愚なると共に死を歎するも亦愚。人は凡そ生死の外に超然たらざるべからずと説けり。

レッシング、ゴットホルト、エフライム

Gotthold Ephraim Lessing (1729—1781)

獨逸有数の劇作家・文藝批評家にして且哲學者、ザクセン州のカメンツに生まる。神學者たるの目的を以てライプツヒ大學に入り又ヴイッテンベルヒ大學に醫學を學びしも何れも意に滿たず。終に文藝家として身を立つ。哲學者としてはライプニッツ・ヴォルフ派の啓蒙哲學者

に屬し、啓蒙と教育參照、文藝批評としてはラオコーン Laocöon (1766) の大著あり、戯曲にはミンナ・フォン・ヘルムホルム Minna von Barnhelm (1767) ナタン・アル・ヴァイゼ Nathan der Weise (1778—79) 等あり共に不朽の名作なり。  
 レッシングは自ら教育に従事することなく、又教育上の大著を出せることなれども其の「人間種屬の教育」Die Erziehung des Menschen (Gesellschafts (1780) なる一小著は爾後の教育思想に及ぼせる影響頗る大なり。氏は啓蒙哲學者の特徴として、大に理性を重んじ、理性によりて意志を支配せる状態を以て道徳上の自由となし、此の自由に達せしむるを以て教育の目的と定め、教育は本來人の有せざるものを外部より附與するにあらず、人自ら進んで善を求むるに至らしむべきものなることを力説せり。

レッシングの思想中特に重要なものは、彼が宇宙の萬物は有生有靈にして、凡そ進化の法則に支配せられ、神は個人教育の過程と同一の方法にて人類種族を導けること、換言すれば人類種族の進化と個人の發達とは相並行すべきものなることを唱道せる點にあり。彼は此の見地より宗教の進化を其が多神教・一神教の時代を経て理性教に達し、理性教の時代にては人類が毫も結果如何に關心せず、徳の爲に徳を行ひ、宗教の眞理が凡て理性に基づきて解釋せらるゝに至る

べく、凡ての啓示的宗教は此の理性に達する前階として、歴史的意義を有することを説き、同時にこの歴史的発展にならざる個人の發展を解し、人は其の始め本能の力によりて指導せらるるも、理性は次第に其の中より發展し、最後に意志を理性の支配に置き、自由の境遇に達し得るものなることを示せり。斯く個人の發展と種族の發展とは互に平行するものなれば、教授の材料は凡て種族の發展の歴史に顧みて之を定め、其の方法に於てはソクラテス問答法を利用し、兒童の理性を覺醒し且之を發展せしむるを以て眼目となす。要するに十九世紀に於て教授上の一大原則となれる約説原理 Recapitulation theory は其の源をレッシングに發せりと見るを得べし。

レペー、シヤルル、ミシエル、アッペード

Charles Michel Abbé de l'Épée (1712—1789)

佛國に於ける聾啞教育の開祖。ヴェルサイユに生まる神學及び法學を修め、暫らく牧師の職にありしが、嘗て二人の聾啞の女兒を預かりて教育せしより、聾啞教育に對し興味を感じ、一七六〇年私財を抛つて、巴里に聾啞學校を起し、以後死に至る迄、是に従事せり。氏の創設せし學校は其の後一七九一年國家の經營に移され、

今尙存續せり。

レペーの聾啞教育法は専ら指話によらんとするものにして、之を佛蘭西法と稱し、獨逸ハイニツケの中主張せる發音法と全く反對の立場にあり、兩派に於て激烈なる論争を惹起せり。聾啞教育の條參照) 指話法は實行の容易なる爲に一時勢力を得たれども、現時に於て之を採用するもの甚だ少し。レペーの著書中最も有名なるは「方法的符號の方法による聾啞學校」Institution des Sourdes et Muets par la Voie des Signes methodiques (1776) なりとす。

聯合

(獨) Association  
 教授段階の「比較」に同じ、其の條を見よ。  
 練習 Practice (Drill)

刺激と反應、又は觀念と觀念、觀念と運動との間に存する聯合を固定せんが爲に行はるゝ有意的作用を練習と言ふ。凡て聯合の固定には(一)反復(二)強度及び(三)快感の三者を必要とす。此の中反復の必要なることは故らに説明を要せざるべく、古來練習と反復とは殆んど同意義に用ゐらる。されど徒らに反復するのみにして、注意を之を集中することなくば其の效果極めて乏し。而して注意の集中とは即ち刺激及び反應、觀念及び運動の強度を高むるの謂に外ならず。注意を集中せる一回の練習は、單調にして機械的なる數回の反復に勝ることあり。第

三に練習に就きて感ずる快感亦其の効果を大ならしむる一大動力にして、嫌厭を感じつゝ行ふ練習は劣して効少かるべし。以上之を要するに練習の方法を變化し、單調と不快感とを避けることは練習に際して特に注意すべき所なりとす。

エビングハウスの及び其の他の學者の研究によれば練習の効果は其の初期に於て最も著し。エビングハウスは斯くて、練習の効果は回数を重ねるに従ひ幾何級数的に減少するものなることを唱へたり。然るにプライアン・ハーマー等の研究は練習の能力一定の度に達する時は其の後進歩を認むる能はざる停止の期間あり(之を高原 Plateau と言ひ、林つて氏の説を高原説 Plateau theory と言ふ)然る後再び急速に進歩を來すものなることを明らかにせり。高原の説明につきては未だ定説なけれども、一般に從來の練習を固定し、新しき進歩を生ずべき準備の時代なりと想定せらる。

練習は其の方法上より之を區別して、偶然的練習と系統的練習との二種となすことを得。前者は一度取得せる事項が、將來の學習及び生活に於て自然に應用練習せらるゝものにして、後者は一定の方案の下に行はるゝものなり。系統的練習には又(一)機械的に、學習せるものを其の儘反復するものと(二)他の教授に於て、系統

的・具體的に反復應用せらるゝ如く、豫め教授細目を定め、教授の方法を立案せるものとの二種あり。教育上の理想として固より後者を取るべきも、あらゆる練習を此の形式にのみ限り、しかも完全なる結果を擧げんことは頗る難しとする所、されば機械的練習を以て之を補はざる可からず。偏へに機械的練習を重んじたる舊教育の反動として、今や全く之を廢せんとするものなきにあらざると雖も、是れ亦一方に偏せる意見なりと言はざるを得ず。

練習學校 (英) Practice School (獨) Übungsschule

教員候補者に對し、熟練なる教師の指導の下に教育の實地練習をなさしむる、小中學程度の學校。又單に附屬小(中)學校と稱する事あれども、附屬小(中)學校 Attached (affiliated) schools には練習學校の外又參觀學校・實驗學校等もあり。練習學校にして同時に實驗學校・參觀學校の性質を兼ねるもの亦多し。

園をも設くべく、附屬小學校の教科は尋常小學校の教科と高等小學校の教科とを併置し、單級及び複式に編制したる學級をも置き、且二部教授を行ふを本體とす。一學級兒童の數は一般に市町村立小學校より少し。是れ師範生徒をして各種の方面に互り、多様にして、且徹底せる練習を行はしめんが爲にして、附屬小學校の任務極めて重しと言ふべし。ディンテルが師範學校の價値は練習學校の事業に比例すと言へるは是に因る。

廉塾 教員養成

備後國神邊に於ける菅茶山(二四〇八一—二四八七年)の私塾。茶山名は晋師、字は禮卿、通稱は太沖、茶山は其の號なり。始め京都の儒者那波魯堂に就て程朱の學を修め、業成りて後郷里に歸り、一生を育英に委ね、復た他意あるなし。性温厚、自ら奉ずる事極めて儉、藩主福山侯給するに年金を以てせるも、敢て私せず、凡て塾田を買ふに費せり。文政十年八十歳を以て逝く。

ロザン大學

ロザン大學 The University of Lausanne

瑞西の大學。一五三六年同地にアカデミーを設けたるに端を的し、一八三八年神學・法學・文科・理科の四分科を置き、大學の體を具へしが、一八九〇年始めて正式の大學となし、神學(新教)・法學・醫學・文學・理學の五分科を設く。一九一〇年の學生數千〇十八人、外に百六十九人の聽講生あり。學生の三分の一以上は女子なり。

ロシユの學校

佛國の Edmond Demoin, 同國ノルマンディーの巖山の近傍に設けたる學校(ロシユとは岩石の義)にして、一八九九年の創立に係る。ドゥモランは佛國近代の教育改良家にして、從來の中學教育の著しく形式的畫一的なるに反抗し、一八九八年「新教育」Education Nouvelle なる一書を公にして、大に自由なる個性教育の必要を唱へ、翌年上の學校を創設して、自己の理想を實行せり。教育の目的としては「強健なる身體を有し、獨立心に富み、能く自己を支配する人物」を養成せんとす。



し、英國特にアボッツホームの學校の教育法に學ぶ所多し。従つて最も體育を重んじ、戸外の運動を奨励し、手工及び理科の教授に主力を注ぎ、古語は五年生に至る迄之を授けず、外國語

を學ばんが爲に生徒自ら三個月乃至一年間獨逸又は英國に留學すべきことを勧めたり。其の他兵營式の寄宿舎を改めて家庭式となせる如きも、特徴の一に數ふべし。

ロシユの學校は從來の佛國教育の改革につきては大に効果を擧げたれども、諸外國に及ぼせる影響はさまで大ならざりき。

寄宿學校 Demoin, A quoi tient la Supériorité

墓せざるはなし。有名なる頼山陽の如きも嘗て此の塾に學び、且其の助教たりしことあり。志士高山彦九郎亦此の塾を訪ひしことあり。僅かに一個の村塾に過ぎざりしも名聲海内に及び、遺趾は今更存在せり。

聯想 Association of Ideas 「觀念聯合」に同じ其の條を見よ。

des Anglo-Saxons (邦譯アングロサクソン優秀論)  
ローゼンクランツ、ヨハン、  
カルル、フリードリッヒ

Johann Karl Friedrich Rosenkranz  
(1805—1879)

獨逸の哲學者。マゲデブルヒに生まる。ベルリン・ハルレ・ハイデルベルヒの諸大學に學びたる後、一八三三年ケーニヒスベルヒ大學の教授となり嘗てカント及びヘルバルトにより著名となりし哲學の講座を擔當し終世其の職にあり。始めシュライエルマッハルの影響を受けしも、後熱心なるヘーゲルの學徒となり、ヘーゲルの方法を教育・歴史・文學・神學及び哲學の各方面に適用するを以て其の事業とせり。教育上の著書には「體系としての教育學」Die Pädagogik als System (1848)(英譯 The Philosophy of Education 邦譯國府寺新作魯氏教育學)あり。

ローゼンクランツの「體系としての教育學」は古來の教育文獻中最も重要なもの、一に數ふべきものにして、之を三篇に分かつ。第一篇にては教育の性質・形式及び限界を論じ教育の汎論なり、第二篇は教育各論にして體育・知育・意育を論じ、第三篇に於て教育の各體系の歴史的発展を論ず。彼はヘーゲルと等しく精神の本質を自由に見、教育の本質は「精神に必然

しく發達し、紀元一世紀に於ては羅馬より來り學ぶもの多く、アテネと共に文化の二大中心たりき。特に修辭學及び哲學の教授に於て名あり、又文法・建築・地理等を教へたりき。アントナキヌス、パイアスの治世(一三八一—一六一年)の頃より次第に衰へ、又盛なるを得ざりき。

ロートシュタイン、フリーゴ

Hugo Rothstein (1810—1865)

獨逸に瑞典式體操を移入せる體操家。エルフルトに生まる。始め測量手、(後一八二七年砲兵)士官となる。一八四三年瑞典に旅行し、リッゲの體操を見、一の報告を出せるが、此の報告フリードリッヒ、ゲイルヘルム四世の注意する所となり、一八四五年リッゲ式體操研究の爲にストックホルムに留學を命ぜられ、一八五一年ヘルリン王立中央體操場設立せらるゝや、其の長となり、一八六三年に及べり。氏は瑞典式體操を主張するの餘りヤーンの獨逸式體操殊に器械體操に反對し、並行棒等の器械を排せしが、こは有名なる並行棒論争 Barrenstreit なるものを起し、研究の結果終にロートシュタインの敗に歸し、器械體操は再び中央體操場に行はるゝに至れり。氏の著書中特に有名なるは「リッゲの組織に従へる體操」Die Gymnastik nach dem System des schwedischen Gymnasticchen P. H. Ling (1846—51)にして五篇より成る。

なる、自由の實現としての人道にありとせり。しかも自由は理性の働きによりて成るを以て、教育の任務は一言に之を「個人に内在する知的・實踐的理性の發展にあり」といふことを得。教育の一般形式として彼は又ヘーゲルと等しく自己離脱 Selbst-Entfremdung を掲ぐ。前に述べたる如く、精神の本質たる理性の自由は、教育の目的なれども、こは生時より完全に存するものにあらず。故に兒童は、己が動物的自然的なる生活より自己を離脱し、自己活動によりて、新しき異郷に學び(即ち自己の自然的生活より脱して、新しき理想の生活に身を置き)、學び得たるものを以て故國に歸り(即ち理想の生活を身に體し)斯くして精神の本質たる自由の發展を期せざるべからず。具體的に言へば人は己が動物生活より離れ「遊戯」と「作業」との二者によりて、文化生活の中に存する理想の生活を取り入れ、之を己が「習慣」となし、徐々に理想の生活を體得せざるべからず。遊戯と作業とによりて、自己より離れ、自己離脱によりて得たるものは習慣を待ちて眞に己が有となる。實に「自己離脱は凡ての教育を貫くべく」習慣は凡ての教育の一般形式」なり。動物的生活—自己離脱(遊戯と作業による)—習慣、此の三段は故に教育の進むべき根本形式なりとす。教育が自己活動(遊戯と作業)によりてのみ成ること、自己活

ローマ大學 University of Rome

伊太利の大學。一三〇三年の創立に係る。一時甚だ衰へたりしも、一四三一年法王ユージニウス四世之を再興す。爾來多くの法王其の發達に努力し、殊に法王シクストゥス五世は、嘗て一四二四年僧侶養成の爲に法王朝に附屬して設けたる大學を之に合併したりしが、法王朝の移轉と共に大學も亦從つて移動せしが爲に、大に盛なるを得ざりき。一八七〇年伊太利統一と共に其の組織を改め、法科・醫科・理科・哲學・文學等の分科を分かち、且考古學・中世及び近世美術・東洋學・教育學・工學等の講座を置く。一九一一年度の學生數三千八百六十六人聽講生六十六人也。

羅馬の教育 Roman Education

羅馬は紀元前七五三年伊太利のチベル河畔に國を建て、次第に版圖を擴め、終に一大帝國を成したるものにして、愛國心と正義の精神とに富み、眞摯にて質樸、頗る實際的の傾向を有したり。其の教育は國の法律に従ひ、名譽を尊重し、愛國心を有し、且質樸剛健なる公民を作るを以て目的となし、軍事・法律・修辭等の各方面に於て著しき發達を遂げ、殊に法律思想の進歩は前古其の比なく永く後世の模範たり。

羅馬の教育は王政時代・共和政時代及び帝政時代に於て其の趣を異にせり。殊に紀元前一四六年希臘を亡ぼすや希臘の文明は懸河の勢を以

動者にのみ教育の可能なるの理亦之より知らるべし。

以上はローゼンクランツの教育思想上最も重要な意義を有する「自己離脱」の大意なるが、そがヘーゲルの辨證法よりの必然の歸結なるは何人にも容易に曉らるべし。第二篇に於て氏は教育の要素を(一)生活(二)認識(三)意志に三分し、其の各に應じて(一)體育 Orphokritik (二)知育 Didaktik (三)意育 Pragmatik の三者を立て、生まれて六歳迄は體育を、少年期は知育を、青年期は意育を主とすべしと説き、又美育をば知育の一部分として其の中に含ましめ、一般に、合理心理學を基礎とし、辨證法を武器として、教育の精密なる案を立つ。最後に第三篇の歴史的部分は特に氏の組織的識見を見るに足るものにして氏は此の篇にて教育體系の歴史的發達を(一)民族的(支那・印度・波斯・埃及等に見る如き)(二)神政的(猶太の教育の如き)(三)人道的の三段に分かちて其の論理的發展を説き最後に教育の最高形或「自己意識的人道 Selbstbewusstsein Humanität の自由なる活動」を得しむるにありと論断せり。

ローツ大學 University of Rhodes

古代、希臘のロードス島にありし大學。紀元前三三〇年頃雄辯家エスキニエズ Aeschines の創立せる所と傳へらる。紀元前二世紀頃より著

て羅馬に侵入し大に教育の面目を改めたり。左に希臘文明の移入を以て時代を劃し、其の教育法の大要を述べし。

希臘文明移入以前に於ける羅馬の教育は、主として家庭に於て施され家庭は唯一の教育場たりき。羅馬の家庭は一夫一婦の制行はれ、其の婦人は氣品甚だ高く、家父は絶対の權力を有し、子女の生殺すら其の掌中にあり。家庭教育は羅馬固有の美風たる勤勉・質素の美風を以て其の基礎とし、之に加ふるに母の慈愛及び貞淑の徳、父の嚴正・謹肅を以てして、直接に羅馬固有の精神を子女に傳へ、從順・謙遜・誠實・忍耐・勇氣等の諸徳を養成するに力を注げり。殊に父母は己が子女の愛國心を鼓舞せんが爲に、常に偉人の事蹟及び戰爭の物語をなし、宴會等の席に於ては長者偉人の傳記を演述し、兒童をして讚美の歌を誦はしむるを例とせり。教授は體操の外、讀書・習字をも課し、羅馬最古の法典十二銅盤法を誦せしめたり。學校は紀元前五世紀頃より存在せしも、凡て私立にして、唯家庭教育の補助たるにすぎざりき。

希臘の文明羅馬に移入せらるゝや、次第に羅馬固有の家庭教育の美風を腐蝕し終には其の誇りとせる兒子の教育をもアテネに倣ふて乳母・教僕等(希臘の教育参照)に托するに至れり。彼の大カト一の如きは、極力之に反對せるも、一

世の風潮復た如何ともする能はず。希臘的の修像次第に全國を風靡せり。

當時學校は初等學校・文典學校・修辭學校の三種あり。初等學校は六歳乃至七歳の兒童を收容し、頗る嚴格なる訓練の下に讀書・習字・算術等の初歩を學ばしむ。斯くて十二歳に至るや、(文典學校)に入りて、希臘語・拉丁語・修辭・法律・音樂等を學び、十五六歳にして修辭學校に入りて修辭の術を研究せり。殊に修辭は政治・法律の社會に活動するに於て必要の術なれば最も羅馬人に尊重せられたり。羅馬帝政時代の教育は一言之を修辭に巧なる人を作るにありといふを得べし。

其の他の教育機關につきては、アウグスツスを始め多くの帝王意を教育に用ひ、アウグスツスは二個の公立圖書館を設け、又ヴェスパシヤヌス Vespasianus 帝は一大圖書館を設け、又高等教員の俸給を國庫支辨となし、ハドリアヌス Hadrianus 帝はアテネナム Athenam (現今の大學に相當す)と稱する高等學術研究所を設け、其の後の帝王之に倣ふもの多し。又コンスタンチン大王は免役・自己裁判・及俸給の國庫支辨の三大特權を教師に與へ、其の他學者及び教育家を保護するの道を講ずるもの多く、學術大に進歩せり。

羅馬の教育家にてはクインチリアヌス・フル

ローリー、シモン、ソマーヴィル

Simon Sumnerville Laurie (1839—1903)

英國有数の教育學者にして哲學者。一八七六年エディンバラ大學教育學教授となり、一九〇三年迄其の職にあり、これを大英國に於ける教育學講座の嚆矢となす。教育の歴史及び原理に關する著書甚だ多く、中にも「教育の原理」 Institutes of Education (1892) 「基督以前の教育の歴史概観」 Historical Survey of Pre-Christian Education (1900) の二書最も著名なり。哲學に關する著書亦多し。

氏の教育説は其の哲學説より來り、哲學にてはカント・フイヒテ・ヘーゲル等、中にも特にカントが感性と知性とを峻別せる思想の影響を受く。氏は知識を(一)時間及び空間の關係によりて連結せられたる感覺的知識と(二)事實の内部關係に基づいて組織せる合理的知識とに分ち、前



的知識とに分ち、前

者は動物と雖も之を有し、後者は人のみ之を有すとせり。故に教育の任務は倫理的には動物的感覺的衝動を合理化して、兒童の心中に道德的觀念の系統を建設し、知的には感覺的經驗を合理的知識には改造し、而して、教育上最も大切な原則は感覺的のものな合理化せんとする意志の振起にありと主張せり。

ローレンゼル、カルル、イグナツ

Karl Ignaz Lorenzer (1796-1853)

獨逸の醫師。バーメン州のニームスに生まる。プラーゲ・ベルリンの諸大學に學び、一八二二年ステッティン醫務局の一員に補せられ、同二四年ケースリンの醫務視察官に任ぜらる。氏は一八三六年「學校に於ける健康の保護」 Zum Schutze der Gesundheit in den Schulen なる一小冊子を著し、口を極めて、當時普魯西に於ける學校の衛生状態を痛罵せしが、是を動機として、有名な「ローレンゼル學校論争」 Der Lorenzer'sche Schulstreit なるものを惹起し、多くの醫家・教育家は氏の攻撃の當否につきて議論を聞はせり。其の結果一八三七年時の文部大臣は布告を出して、ローレンゼルの攻撃は過度に失する旨を言明せしむ。是より以後學校衛生に對して注意するもの漸く多く學校衛生は之を一轉機として大に改良の氣運に向へり。

ローン、テニス Lawn Tennis

遊戲の一種。ローンテニスに類する遊戲は已に伊太利及び佛蘭西に於て數百年以前より行はれ、其の中佛國にて行はれしロンケ、ボーム La Jongne Paume なる一種の遊戲英國に輸入せられ、發達してローン、テニスとなれるものならんと言はる。一八七七年始めて其の規則を制定し、爾來愈劇に各地に擴まれり。其の我國に傳はりしは明治十一年體操傳習所の設置せられし比にあり。

ローン、テニスは年齢及び性別を問はず凡ての人之を遊ぶを得べく、且、二人、三人、又は四人の少人數にて之を行ひ、頗る興味に富めるを以て世人の歡迎を受け現時最も流行せる遊戲の一に數へらる。コートの大さは二人の場合には縦七十八呎横二十七呎、三人又は四人の場合には縦七十八呎横三十六呎を定めとす。「庭球」なる名稱は明治三十七年の頃東京高等師範學校校友會テニス部の命名にかゝる。

ロイクリン、ヨハン

Johann Reuchlin (1455—1522)

獨逸の人文學者。プフォルツハイムに生まる。巴里大學にて希臘語を學び、後瑞西のバーセルに赴きて之を大成し、又佛蘭西に轉じて法律を學ぶ。一四八一年以後ヴュルテンベルヒのエベルハルト Eberhard の通譯となり、伴なはれて伊太利に旅行す。後エベルハルトの死後一四九

ロイロウ

六年ハイデルベルヒに招かれ、希臘語の研究を指導し、同九八年羅馬に遊びてヘブライ語を學習す。ロイクリンは希臘古典の研究を獨逸に移入せる最大の人文學者なるが、彼は又同時に、ヘブライ語の普及に力を注ぎ、一五〇九年プアエフェルコルン Pfortkorn が、舊經全書以外凡てのヘブライ語の書籍を廢棄せんとするや、極力之に反抗し、大なる紛争を起し、終に一五一九年最後の勝利を得、之を機として、公生活より身を退き、爾來インゴルシュタート及びチュービンゲンにて講義を開きて、餘生を送る。

聾啞教育

Education of the Deaf-Mute

「沿革」 紀元七百年代英國の僧ビド Badie (673—733) の著書中にセント、ジモンなる人の聾啞を教育せる事實を記せるものあり、聾啞教育に關する最初の記録と認めらる、下つて十六世紀に入るや、伊太利の數學者カルダノー G. Cardano 聾啞教育の可能を説き、是れと同時に西班牙の僧ペドロ、ボンセー Pedro Ponce de (1539—1584) は啞生に羅甸語・希臘語等を教へ、其の後第十七世紀に於ても西班牙のパブロー・ホネット、英國のジョン、ワリス及びジョージ、ダルガルノ、瑞西のコンラード、アンマン等何れも啞生の教育者として名あり。

されど是等は何れも個人的教育にして、特に公けに學舎を開けるものは一七六〇年アムード、ド、レーヤー Abbe de l'Épée (アムードの條參照) 財を抛つて、巴里に聾啞學校を起せるを以て、其の嚆矢となす。同年トマス、ブレッドウッド Bradwood T. (1715—1806) 亦英國エディンバラに聾啞教育の活動を開始し、一七七八年ザムエル、ハイニッケは獨逸ライプツツヒに聾啞學校を設く。英國に於ける聾啞教育は其の後長くブレッドウッド一家の専有に屬し、一七九二年ロンドンに公立學校を開くに至りても、ブレッドウッドの甥アトソンを以て其の校長となせり。米國にては一八一七年ガロドット Gallaudet T. H. (1787—1851) ガコネチカット州のノートンオードに開けるものを始めとし、爾來各州に擴まれり。

我國の聾啞教育は盲人教育と結合して發達せり。其の沿革は盲人教育の條に附説せるものにつきて之を知るべし。

「教育の方法」 聾啞教育は通常之を普通科と技藝科とに區分す。普通教育は其の目的及び教科目共に大凡小學校に等しく、唯言語教授の方法に於て異なるのみ。技藝科にては圖畫・彫刻・指物・裁縫・手藝等廣義に所謂手技を以て主要の教科目となす。

言語教授につきては指話法 Manual, or Silent

method) 及び發音法 Oral, or Articulation method) の二大方法あり。古來の聾啞教育にては多く發音法により指話法の主張者レーブス其の始めは發音法を取りしも、後之を棄て、指話法により、發音法の最も熱心なる主張者に獨逸のハイニッケナリ。故に或は指話法を佛蘭西式、發音法を獨逸式と稱することあり。

〔指話法〕指話法とは主として手及び指の運動によりて、自己の思想を表現するものにして、是に自然的のものと、人爲的のものとの二種あり。前者は兒童の入学以前に自然に慣用し來れるものにして、例へば右手の指を唇に置きて「食すること」を示し、頭を傾け、頬を掌に置きて「睡眠」を示すが如し。されど斯かる單純なる方法にては到底複雑なる思想を表すに由なきを以て、レーブスが人爲的なる指頭文字 Manual



英國式

頗る大なり。殊に家庭に於ける個人的教育にありては發音法の適用比較的容易にして、進歩頗る著しきものあり。發音法は前にも述べたる如く、從來用ひられたる所のものなるが、瑞西アンマンが組織的に之を實行してより、大に世人の注意を惹き、ハイニッケも亦極力之を主張し、之に基づきて、教育を施

せり。

alphabet (此の法はスペインにて發明せられたりと言はる) を用ひてより以來之を併用せざるものなし。所謂人爲的指話とは手指にてアルファベットの形を表し、此の形の結合によりて、語を構成せしむるものにして、之に又、片手を用ふるもの(佛國及び米國に行はる)と、兩手を用ふるもの(英國に行はる)との二種あり。

一様に聾啞と稱するも、之に又種種の程度あり。即ち之を大別するも(一)先天的に全く聾啞なるもの(二)多少言語を收得せる後病氣の爲に聾となり、尙發音の能力を有する半聾、(三)多少聽覺の備はる半聾の三者あり。故に丁抹の如きは聾啞者を充分試験したる上、上の三者中何れに屬するかを定め、之に各特殊の方法を用ひんと企てあれども、其の他の諸國にては之を區別せずして、同一に教育せるもの多し。又指話法と發音法との優劣の如きも聾啞者の種類に應じて、多少の考慮を加ふべき事勿論なり。されど現今世界の趨勢より言へば發音法次第に勢力を得、之に反して指話法は日に衰へつゝありと言ふを當れりとす。尙各國につきて之を見れば、

英國 十九世紀の中頃より、ブレードウッドの發音法を棄て、佛蘭西式を取りしが、一八八九年以來發音法の優れることを認めて大に之を奨励し、現今にてはイングラントは發音法、アイルランドは指話法、スコットランドは兩者を並用す。

佛蘭西 指話法の本土なるを以て、此の法を重んずる事固よりなれども、一八七九年以來獨逸法を移入し、爾來獨逸法によるもの次第に多し。

獨逸 アンマンの創めたる發音法はハイニッケによりて強く主張せられ、其の後モーリッツ、ヒル Moritz Hill F. (1803—1874) 出で、極力指話法を排斥し、今や指話法は獨逸より其の影を絶つに至れり。

米國 米國聾啞學校創設者たるガローデットが佛國に留學して、佛蘭西式を移入せるより、長く指話法によりしが、其の後ホレス、マンの如き大教育家の獨逸式に左祖せるあり、二者の優劣につき大なる論争ありしが、一八八〇年伊太利のミラノに於ける第二回萬國聾啞教員會議に於て、指話法を排し、發音法を採用したるに一轉機を劃し、更に米國に於ける數回の會議を経て、今や大多數發音法に向へり。

- Bell, A. G. Deaf-Mute Instruction in Schools
- Relation to the Work of the Public
- Gordon, J. Notes and Observations on the Education of the Deaf
- Watson, J. Instruction of the Deaf and Dumb.
- 京都市立盲啞院編 盲啞教育論

老子性は李、名は耳、字は聵、楚の苦縣厲郷曲仁里の人なり。年代詳ならずれども、略ぼ孔

子と同時代に生れ、孔子よりは稍先輩なりしが如し。周に仕へて守藏の吏となる。後周の衰ふるを見て、遂に去つて西の方國に至り、關の令尹喜の需に應じて、道德經五千餘言を著す。今傳ふる所の「老子」是なり。其の終る所を知らず。老子は支那の學者中、宇宙の本體につきて考察せし最初の人にして、此の本體を名づくるに「道」なる名を以てせり。道なる語は孔孟の儒教に於ては單に道德上の原理たるに止まれども、老子に於て一轉して形而上的原理たるに至れり。故に老子の教を特に或は道教と稱す。所謂道とは名なく形なく、全く視聽を超越すれども、しかも能く萬物の根原たるもの、無名なれども發動して有名となり、森羅萬象の差別界を現出す。道は絕對なり、故に差別的の現象と異れども、又能く差別界の内に働き、周行して息まず。故に曰く「有は物混成、先天地生、寂兮寥兮、獨立而不改、周行而不殆、可謂道也。天下母吾不知其名、字之曰道、強爲之名、曰大」と。道は又其の體より見れば無爲にして靜なれども、其の用より見れば動にして常に活動し、萬象一として道の用ならざるはなし。爲せざるも爲ざるが如く、爲して恃まず、長じて宰せず。萬物を成育して、しかも勞することなし。故に曰く「道常無爲無不爲」と。要するに萬物道より發生し、道に支配せられ、又終に道

に復歸す。されど老子亦支那人なり。而して實行を重しとするは支那の特色なれば、老子と雖も決して現象對本體の哲學的思考に止まり得るものにあらず。否、彼は寧ろ處世・修養の法を説かんが爲に、其の根柢としての本體論を考へたるが如し。老子の倫理説は一言に之を約すれば、道に復歸し、清虚無爲の自然に則るにあり。自然に則らんが爲には先づ種々の慾望を否定し、邪念を一掃し、恬淡清靜にして天真を保全すること嬰兒の如くなるべく、爲せども其の功を恃まず。謙下不爭、和光同塵なること、恰も水の萬物を利して争はず、しかも自ら下きに就くが如くなるべし。曰く「上善若水」と。老子の説は徹頭徹尾消極的受動的自然的なり。彼が慈・儉・不取敢爲天下先の三者を稱して三寶となせる亦此の消極的道德の結果にすぎず。唯夫れ自然なり、されば儒教に説く仁義の如きは、人の自然に違ざる時に於て、始めて之を制裁せんが爲に表れたるもの、仁義は畢竟亂世の表號たるに過ぎず。此の故に「大道廢有仁義、知慧出有大偽、六親不和有孝慈、國家昏亂有忠臣」と。老子は其政治論に於ても自然を重んじ、太古淳朴の世、人民凡て愚なる状態に復するを以て其の理想となし、人爲的の文明を詛へり。如此は蓋し老子が周末の亂世に出て、世事日に非、

之を救ふの道は虚無自然を措いて他に求むべからずとなせるが爲にして、亦一の經世的着眼たるを失はず。

老子の學説は之を老莊學派又は滄楚學派と言ひ、列子・莊子の如き是に屬し、何れも厭世的なり。其の他楊子の學、法家・名家の説は老子の思想の一面を發展せるものなり。

狼子團

Wolf Cubs

少年義勇團の條を見よ。

老衰

Senescence

老年に起る精神的、身體的變化。老衰期は人により一定せざれども、一般に女子にありては五十五歳乃至六十歳、男子にありては六十歳乃至六十五歳に始まると言はる。老衰期にては感覺特に視覺及聽覺鈍り、記憶は衰へ、特に近き出來事を忘却し、意志力は缺乏し、獨創力及び感受力を失ひ、容易に境遇の變化に順應する能はざるに至る。

勞働者教育會

Workers' Educational Association

各階級の勞働者を教育し、漸次大學程度の教育迄受け得るに至らしめんが爲に、一九〇三年英國にて組織せられたる有力なる一教育會。倫敦に本部を置き、各地に支部を設置し、盛に活動しつゝあり。

露營學校

Camp Schools

年再び大學の自治權を認め、翌六四年初等教育令及中等教育令を出し、且文部大臣の權限を擴張せり。されど大學の自治に關する問題は其の後守舊派の反抗により種々の葛藤を生じ、一八八四年再び大學自由の特權を奪ひ、一九〇五年三度之を認むる等紛糾永く絶えざりき。

〔現今の狀況〕

〔教育行政〕 教育は文部大臣・宗教會議・大藏大臣等の管轄に屬し、文部大臣の權力の及ぶ所他の諸邦に比して遙かに狭小なり。全國は之を十二の教育區に分ち、各區に教育長官を置き、長官の下に視學官あり、又學校長・大學の代表者等より成る學務會議あり。教育區に入らざる地方の教育は總督之を管理す。地方の學校事業は地方會 (Municipalities) 多少之に參與するも、其の權限未だ甚だ少なく、村會 (M.C.) は學校の經費に關し、意見を述ぶるを得。宗教會議は一切の宗教的事業の最高主權にして、各種の宗教學校を管轄し、大藏大臣は商業學校を管理し、及び公立學校の財政に干與し、其の他陸海軍・農業等の諸學校は夫れ夫れの大藏大臣之を支配し、全國教育の統一は未だ俄に之を實現するを得ず。

〔初等教育〕 一八六四年の小學校令は現今小學校の基礎を置けるものにして、其の後一八七二年、都市小學校の規定を定め、一八八四年更に初等宗教學校を宗教會議の管下に置く。小學校

夏期休業中都市の兒童を郊外に導き、四週乃至十週間露營の生活を營ましめ、主として體育及び道徳的訓練を與ふ。主として米國に行はる。兒童は凡て天幕の中に起臥し、質素なる食物を取り、なるべく他人に依頼せずして自己の身體を處理し、水中に陸上に種々の身體的鍛鍊を行ふ。規律的に少許の知育を施すと否とは教育者の意見により一定せず。

露營學校は一八八五年頃より起りしものにして、起原遠からざれども、一九一〇年に於ては其の數已に七八百に上り、兒童の數四萬に達せり。一九〇〇年以來女子の露營學校亦起り、同一〇年の夏期には學校數百以上、女兒の數大凡五千に上れりと言ふ。

露西亞の教育

Education in Russia

〔沿革〕 露西亞の公共教育はペテロ大帝に始まり。夫れ以前は唯僅かに寺院に於ける教育ありしのみ。大帝は一六八九年帝位に上るや諸般の改革をなし、教育に於ても、後ナポレオンが佛國に於て定めたと殆んど同一の企圖を試み、ペテログラードに海軍學校・砲術學校等を開き、英國より教師を聘し、又算術學校(算術を重んずるより斯く名づく)と稱する小學校を起し、貴族の子弟を強制的に就學せしめ、其他當時已に存在せる寺院の學校を獎勵せり。算術學校は後十八世紀の半に於て寺院學校の勢力に壓

育はバルト地方のルテル派宗區の外、未だ強制せられず、強制教育令は尙議論の途にあり。小學校は之を六年程の都市小學校と三年程の地方單級小學校に區分す。都市小學校は佛國の高小學校に比すべきものにして、宗教・國語・算術・幾何・歴史・地理・理科・圖畫・唱歌・體操等を授く。地方單級小學校の教授は極めて初步の程度に止まれども、一般に農業・手工等を加ふ。一九一一年に於ける小學校總數計十萬〇二百九十五校、教師二十萬三千二百七十三人、兒童六百十八萬〇五百十人なりき。教育尙未だ普及せず。當然教育を受くべくして無教育なるもの六十九パーセントに及ぶといふ。

〔中等教育〕 一八二八年の法令にては文科中學校を大學の豫備課程となし、拉丁・希臘の古語を偏重せしが、後古語の位置に關する多少の變遷あり、一八七一年新に實科中學校を置き、其の課程より全く古語を斥け、同時に文科中學校の古語に相當せる時間數を全時間數の三分の一となせり。一九一〇年に於ける中等學校數は文科中學校・副文科中學校・實科學校・師範學校・女子文科中學校・女子副文科中學校・工學學校等を合せて其の數千八百校、教師三萬三千八百三十八人生徒五十三萬二千九百九十一人なりき。外に商業學校三百五十校農學校十一校を數ふ。

〔大學は〕

ペテログラード・モスクワ・カルフ・カザン・フラディミール・サラトフ・ノヴォシリスク・トムスク・ヴアルシヤヴァ(ヴルソウ)・ユールエス(ドロバート)の十個所に之を置く。中にもモスクワが最も大にしてペテログラードに次ぎ、フラディミール又之に次ぐ、一九一一年に於ける學生數總計四萬二千〇六十九人にして、法科の學生最も多く醫科之に次ぎ、其他は理科・哲學・東洋語・神學の順位なり。學生の七二パーセントは希臘教會に屬す。其の他大學程度の學校にはペテログラード・モスクワ・カルフ・トムスク等に高等工業學校あり。ノヴォアレクサンドロフスクに農業森林學校あり、リガに諸藝學院あり。ペテログラードの科學院は全國科學者の活動の中心をなし、ペテログラード及びモスクワには夫れ夫れ科學會を置き、諸種の自然科學に於て大なる貢獻をなせり。

〔女子教育〕

女子の高等教育は他國に比し比較的早く發達せり。カタリナ二世以後世々の皇帝女子教育に注意し、一八七〇年には七年程の女子文科中學校を設けたり。其の結果女子にして佛國・瑞西等の大學に學ぶもの多かりしかば、一八七二年以來之に大學程度の課程を授くるの道を開き、女子にして、法學・理學・哲學・醫學等を學ぶもの一千人以上に及ぶ。

以上は歐州大戰以前に於ける露國教育の大勢

なり。一九一七年帝政を廢してより國內瓦解し、戦後の教育の如何あるべきかは之を明らかにするを得ざるも、ソヴェエト政府亦大に教育に力を用ひ、従来の文部大臣に代ふるに教育部 (Ministry for Education) を以てして全國の學事を掌らしめ、又従来の小學校及び中學校に代ふるに統一的労働學校を以てし、之を八歳乃至十二歳の児童を收容するものと、十三歳乃至十六歳の少年を收容する者との二階級に分ち、労働教育の原理によつて之を一貫し、且義務教育令を布き月謝を免除し、幼稚園を始め多くの學校を増設し、大學のみにも一九一九年に九校、一九二〇年に三校増設せられたり。従つて文盲者の數著しく減じ、教育大に普及せりと稱せらる。

**ロスミニーニ、セルバティー、アントニオ**

伊太利著名の哲學者にして、羅馬教神學者。ロベレートに生まる。貴族の出なり。幼より哲學・神學に志し、一八二八年慈惠協會 (又ロスミニーニ派 Rosminians と稱す) と稱する宗教團體を組織し、一八三九年法王の允許を受く。該團體は後伊太利・瑞西・佛・英・米等に勢力を擴め、小學校・日曜學校・養育院・教員養成等の事業に貢獻する所大なりき。一八四八年政變に遇ひてストレーナに退隱し、同地に歿す。

氏は哲學者として合理論と天啓の信仰とを結合し、心理的基礎の上に哲學を組織せんと試み、南歐哲學界に大なる影響を及ぼせるが、晩年特に教育に心を寄せ、一八三九年以後「教育に適用せる方法の原理」(一八五七年遺稿として出版) を著せり。氏は此の書に於て、其の哲學說を教育に應用し、心理學及び人類學は人の行動の方法を示し、觀念論と倫理學は正しき教育の對象を、本體論と神學とは人の全發展、全生活の最終の目的としての安息の地を示すとなし、凡て教育は人の精神の發達し行く不變の法則を發見し、之に準據して、其の方法を定めざるべからずとせり。斯くて彼は件の精神發達は認識發展の度により明らかに見せらるゝものと見、生れてより七歳に至る間の發展を單純知覺・抽象的觀念・判斷及び比較・執意・道德感の初發の五段階に分ち、心理學の上に教育說を立て、併せて現代の發生的心理學の先驅をなせり。

**ロツク、ジョン**

John Locke (1632—1704)

〔傳記〕英國經驗派の哲學者にして、教育學者。プリストルの近傍リントンに生まる。父は法律家にして革命戰爭に於て議會軍の士官たりき。倫敦ウエストミンスターを経てオックスフォード大學に入り(一六五二年)始め神學を學びしも後實驗的科學及醫學の研究に轉ぜり。一

六六七年アッシュリー卿後のシャフツベリ伯)の知遇を得、醫師・家庭教師及び顧問として其の家に同居し、知遇最も厚し。一六八二年伯が舊教徒の追躰する所となり和蘭に逃るゝや、翌年之に従ひ、海牙に留ること六年、此の間に於て有名なる「人間悟性論」(Essay Concerning Human Understanding (1690)) を著す。オランダ侯ウイリアム英國王位に即くや、英國に歸り、晩年をエセックスのオーツに送る。別に教育上の著述として「教育思想」(Some Thoughts Concerning Education (1693)) あり。



「哲學說」ロツクは其の悟性論に於て「知識の起原・確實性及び限界」につきて論じ、嚴密なる意義に於ける認識論を、始めて近世哲學に導入し、しかも其の論述の方法に於て最も良く英國固有の經驗論を代表せり。即ち氏はデカルト以來哲學の大問題となれる本有觀念を排し、精神を白紙の一片に譬へ、凡ての知識を外官により得たる

斯く内外の經驗により得たる觀念を比較し、辨別し、統合せるものに過ぎずと説けり。彼の說が果して純然たる經驗論なりや否やにつきては疑を容るべき點甚だ多けれども、其の研究態度に於ては飽く迄經驗の上に立てりて見ざるべからず。

〔教育說〕ロツクは又英國に於ける最も著名なる教育學者にして、少くも十九世紀以前に於てスペンサー・アスカムの外彼に比肩し得べきものなく、又先行思想家の教育說中モンテニユの夫れに負ふ所尤も大なり。其の教育論はもとクラーク (Clark) に宛て、兒子の教育法を説きたる書翰より成りしものにして、貴族の教育法を述ぶるに止まり、一般の教育に關せるものにあらざれども、鋭き觀察と有益なる暗示に富むに於て後世の教育に影響する所頗る大なり。氏の教育主義は一言之を約すれば鍛鍊主義と稱すべく、鍛鍊によりて諸種の習慣を形成することと是れを全篇を貫く骨子と見るを得べし。

教育は之を分つて體育・徳育及び知育となす中にも體育は凡ての教育の基礎にして、徳育は最も重く、知育は徳育に對し、從屬的位置を有するに過ぎず。

〔體育〕「健全なる身體に於ける健全なる精神は語簡なれども能く人世の幸福を言ひ盡くせり。」とは「教育思想」開卷第一に述べたる語にし

て、此の語に明らかなる如く、氏は特に體育を重んじ、其の書の前三十節に於て鍛鍊的の體育につき評説したる後「余が身體及び健康に關して論じ來れる所は之を次ぎの數則に約することを得、即ち空氣・運動及び睡眠を充分にし、淡泊なる食物を與へ、酒類等の激しき刺激性の飲料を禁じ、衣服は狹窄若しくは溫暖に失せず、頭部及び脚部を冷かにし、特に足は冷水に慣れ濕氣に浸さしむべし」と結べり。

〔徳育〕徳は紳士の有すべき第一の資格にして徳育は教育の中樞をなす。而して徳が意志の鍛鍊によりて成り、克己自制の修養によりて養はるゝこと猶身體の強さが鍛鍊を待ち始めて得らるゝが如し。曰く「身體の強さが主として困難に耐ふることにより成る如く、精神の強さ即ち凡ての徳の基礎は自己の欲望を否定し、純粹に理性の最善と認むるものを追求するにあり。……」と。されど兒童をして自克制己の徳を得せしめんが爲に體罰の如き奴隸的方法によるは不可なり。唯、極めて不從順なるもの又は不誠實のものに稀に之を用ふべきのみ。凡そ道德的行爲の眞正なる動機は名譽を愛し不名譽を恐るゝにあり。故に教育者は常に兒童の名譽衝動を刺戟し、之を指導せん事を要す。一度名譽衝動の刺戟あらんか煩瑣なる法則及び作法の如きは多く其の要を見ず。と彼は又徳育に於て、家庭教師の選

擇の極めて必要なること。個性の觀察の必要。家庭教育の學校教育に勝るもの多きこと等を力説せり。

〔知育〕知育はロツクの比較的輕視せる所のものなるが此の方面に於て亦氏の鍛鍊主義は明らかに窺はる。氏に従へば知育の主眼は練習によりて思考の習慣を形成し、思考の多様と自由とを確保するにあり。思考の多様の爲には固より多様の材料に由るを要すれども、其の目的とする所は知識の増大よりも寧ろ精神の活動力の増加にあり、而して諸種の教科中最も能く此の目的に合するものは數學なれば、數學は時間と機會を有する人の、必ず凡て學ばざる可らざる所のものなり、されど是れ固より數學者を養成せんが爲にあらざりて、思考力を陶治せんが爲なるを忘るべからず。ロツクは又教授の方法に於て屢々教授をなるべく愉快ならしむべきことを唱へ、學習作用を以て課業と感ぜしめず極めて自由に遊戲的ならしむべきことを主張せり。曰く「兒童をして讀書を遊戲と感ぜしめよ、從來の兒童が鞭撻によりて得たる所のものを遊戲によりて得しめよ。」と、されどこは方法上の問題にして、教育の根本原理は人の自然に有する能力を練習し、思想の適當なる習慣を養ふにありとの意見は一貫して變る所なし。

其の経歴・人物・教育説等は我が國の具原益軒に似たる所甚だ多し。

Monroe P. Textbook in the History of Education

大瀨甚太郎 歐洲教育史  
文部省譯 洛克氏教育思想

露天學校

「林間學校」の異譯、其の條を見よ。

ロヒョウ、フリードリッヒ、エベルハルト、フオン。

Friedrich Eberhard von Rochlow (1734—1805)

獨逸の貴族にして、且著名なる教育家。ベルリンに生まる。十六歳にして、軍隊生活に入りしが、再度の負傷により一七五七年軍務を退かざるを得ざるに至り、其の領邑に退隱せり。偶一七七一年より同二年に互れる凶鐘より來れる諸種の罪惡は痛く氏の心を惱ましめ、之を救ふの道は教育を措いて他に求むべからずとなし、先づ領邑レカーンに存する學校を改築し、一七七二年永く氏の下に書記兼音楽教師たりしブルンヌを擧げて教師となし、其の他ゲツティン、タラーネ等の各村にも學校を設立せり。レカーンの學校はブルンヌの努力により、間もなく名聲を博し、各地より其の教育法を學ばんとして來れるもの頗る多し。ロヒョウは又一七七三年

「兒童の友」(Kinderfreund)と稱する讀本を著し、道徳上の教訓及び日常須知の事項を巧みに編述せるが、大に世の歡迎する所となり、諸外國語に翻譯せられたり。氏は其の教育に於て最も力を宗教的情操の養成に注ぎたれども、是が爲に知力の陶冶を輕んずる事なく、教科としては宗教・讀方・書方・算術の外に唱歌・理科等を加へ、ルーソーの教育思想に基づきて直觀を重んじ、兒童の自己活動を尊重し、教授の方法はなるべく問答式によるべきを唱へ、他面バセドワと氣脈を通じ、生徒をデッサウに送りて其の教育法を學ばしめたり。故に史家通常氏を汎愛派の一人に數ふ。氏は又國家の進歩は教育の進歩に基づき、教育の進歩は善良なる教師に待つべきものあるを説き、教育の國家の事業たるべきを主張すると共にハルベルシュタットに於ける教員養成所の設立に努力せり。

ロヒョウの領地に於ける農村學校は斯くて、獨逸最良の學校と目せられ、國民教育の發達に貢獻する所頗る大に、後年ベスタロツチの出づる迄、其の名教育者間に喧傳せられたりき。

ロビンソン、クルソー

Robinson Crusoe

「デフォール」の條を見よ。

ロヨラ Ignatius de Loyola

イエズイタ派の開祖。「イエズイタ派」の條を見よ。

より大ならず、又小ならずを證し、従つてAはBに等しと斷するが如し。直接論證の不可能なる場合に用ひらる。

(丙)純粹歸納論證 Pure inductive proof「斷定の眞なることを、個々の事實に照らして證明するを言ふ。若し演繹推論を併せ用ふるときは之を混合歸納論證 Mixed inductive proof」と言ふ。以上諸種の論證中最も有効なるは直接演繹論證にして、間接論證及び純粹歸納論證は之に比すれば効力少し。蓋し直接演繹論證は何故に提案の正しきかを示せども、間接論證は其の何故に不正ならざるかを示すに止まり、歸納論證は單に其の事實に合するを表し、理由を説かざればなり。

(論證の誤謬) 論證の誤りは大凡(一)論據が論據となすに足らざる不完全のものなるか、(二)論證の過程に於て推理の誤りを來せるか、(三)論證せられたるものと提案とが一致せざるかの三原因に基づく。此の中(二)は三段論法の規則の不正なる適用によるを以て茲に之を省き、(一)と(三)につき述べし。

(イ)未だ證明せられざるもの又は提案の證明を待ちて後立するものを論據となす可からず。此の規則を起すものを論點竊取の虚偽 Assumptio non probata と言ふ。例へば道徳法の正當なることを證明せんとして、「道徳法

よ。

ロラン、シャルル

Charles Rollin (1661—1741)

有名なる佛國の歴史家、教育家。巴里に生まる。父は小刀鍛冶なり。身を貧賤に起して、十二歳にして已にブレシヌのカレッジの長となり、一六九四年以後三度巴里大學の總長に擧げられ、一六九九年以後、十三年間ボーペー、カレッジの長として大に其の學風を改革せり。從來行はれたる拉丁語に代ふるに國語を以てすべきを極力主張し、自ら拉丁語に通曉せるにも拘らず、其の著書には佛語を使用せり。多くの著書中最も有名なるは「古代史」十三卷 Histoire ancienne (1730—1738)なるが、教育上の著述として別に「學習論」Traite des études (1728—29)あり。クインティリアヌス及びホルロワイヤール派の影響の下に、各種の問題を論究し、當時の教育狀況を窺ふに足るものなり。

論證 Proof

又證明・立證とも言ふ。一斷定の眞理なることを、他の完全なりと認められたる斷定又は事實によりて確立し、該斷定に對する疑惑を除く方法。論證せらるべき斷定は之を提案(提題) Thesis 論證の根據を論據 The Ground of proof 論證の形式を論式 The Form of proof と言ふ。論證の過程は全く推理の適用にして、其

の推理と異なる所は先づ結論に相當すべき提案あり、然る後其の眞理たるべき理由即ち前提を與ふるの一事にありとす。

論證は之を演繹論證と純粹歸納論證とに區分し、中演繹論證を直接論證と間接論證に、直接論證を更に綜合的(前進的)論證と分析的(後退的)論證とに區分す。

(甲)直接論證 Direct proof 直接に提案其の者を確立するものにして、「理由を立すれば歸結は立せられ、歸結を破すれば理由は破せらる」といふ充足理由律に基づきて成る。

(一)綜合的論證 Synthetic, or progressive proof 已に確實なりと認められたる定理よりして必然的の結論を演繹し、該結論と提案と一致するか否かを見る方法なり。而して其の一致するときは提案は確實なり。

(二)分析的論證 Analytic, or Regressive proof 提案を以て假りに眞理なりと定め是より演繹的推究を試み、斯くて得たる結論が他の確實なりと認められたる定理と一致するか否かにより提案の確否を決定する方法なり。

(乙)間接論證 Indirect proof 又間接歸納法。Apagoges, Apagogy と稱す。Aは提案と兩立せざる幾多の斷定が悉く不合理なることを證し、反面より提案を確立するものにして例へば、AのBに等しきことを證明せんが爲に、AのB

は神の意志の發表なるが故に正當なり。」とす如きは、豫めそが神の意志の發表なることを證明せざる限り論點竊取なり。

(ロ)論據によりて提案を證明し、竊つて提案によりて論據を證明し、兩者交々循環して論證するを循環論法の虚偽 Petitio principii, Begging the question とす。例へば(一)神の言葉は眞なり(二)聖書にあるものは神の言葉なり(三)「聖書は神の言葉なり」とは聖書の中に記載せられたり。故に聖書は「神の言葉なり」といふ事は眞なり。とは一の循環論法なり何となれば其の第二前提は結論を豫想すればなり。

以上は前に掲げし三種の原因中(一)に屬する誤謬なるが、(三)に屬する誤謬にも亦左の二種あり。(三)の誤謬は一般に之を論點變更 Hekesis agendi と言ふ。

(イ)證明せられたるものと提案とは其の外延上の範圍同一ならざるべからず。こは分析論證に於て特に注意すべきことにして若し提案より演繹せられたる結論が提案の全範圍を含まざるときは、よし、該結論は正しかればとて必ずしも提案を眞とすべからず。蓋し特稱斷定の眞は全稱斷定の眞なるを保證せざればなり。



に於て一致せざるべからず、此の規程を犯すものを論旨相違の虚偽 Ignoratio elenchii, Irrelevant Conclusion とす。

倫敦大學

University of London

倫敦及び半徑三十哩以内の郊外にある高等教育機關の一體の總稱。中にも其の中心部をなすものはユニヴァーシティ、カレッジ、University college、キングス、カレッジ、King's college 及び女子キングス、カレッジ、King's College for Women にして、大學は是等のカレッジを管理支配し、及び大學に結合せる其の他の學校大凡六十に於て視察其の他の權能を有す。而して是等のカレッジ及び學校の中には頗る古き起源を有するものあれども、倫敦大學なる名稱の始めて用ひられしは一八二八年なり。一八五八年以來單に英國のみならず、大英國の各地より來るものに對し、従前の教育如何に關せず、試験によりて凡ての學位(醫科を除く)を授與するの制を定め、一八七八年女子にも學位を與ふる制を布けり。是れ英國諸大學中女子に學位を授けたるの嚆矢にして、同年以後創立せられし英國新設大學は何れも此の例に倣へり。

分科としては神學・哲學・法學・音樂・醫學・理學・行政及び經濟・工學の八分科を有し、其の外に大學擴張・休日講演等を行ふ。學生數一九一二年に於て四千四百人なりき。

分派を成すに至れり。左の是等の分派の中重要なものを擧げん。

(一) 形式的論理學 即ちアリストテレスの論理學と歸納的論理學即ちベーコン及びミルの論理學の二者を合せるもの。

(二) 先驗論理學 カントが其の哲學的見地より新に立てたる論理學にして、直觀より對象を構成するものとしての悟性の綜合的機能の研究するを以て其の任務となす。故に形式的論理學に對し、之を内容的論理學とも見るべく、哲學上の認識論に相當す。

(三) 形而上學的論理學 思考の法則と實在の法則とを合致せしめ、思考の發展を研究するは、やがて實在の發展を明らかにするとなすもの、換言すれば思考の學たる論理學は同時に形而上學なりとなすものにして、ヘーゲルは其の代表者なり。アリストテレスの論理學も又或意味に於て形式上學的なり。

(四) 數學的論理學(符號的論理學) 概念及び判斷の關係を一定の符號にて表はし、思考の過程を是等符號の關係によりて解くこと、例へば代數學に於けるが如くならしめんと企つるものにして、英國のプーレルによりて創めらる。獨逸のシュヒーター、佛のグーチュラー等亦之に屬す。

(五) 實驗論理學 近時米國に於て唱道せらる

論理學

Logic

思考其の者の規範的法則を研究する科學。Logic なる語は希臘語の λογική より來り、此の語は λογος より導かる。然るに ロゴスは口の言葉(言語)心の言葉(思想)の二義を有するを以て、語原によりて斯學を定義すれば「思想若しくは其の發表たる言語の學」と言ふことを得。論理學の定義につきては諸家の見一致せずと雖も思考の者を以て其の對象となすこと、思考の法則が必然的法則にあらずして規範的法則(法則の條参照)なることにつきては何人も一致せり。而して茲に「思考其の者」といへるは思考が思考として必ず有すべき性質、換言すれば思考の内容を離れ、其の形式を指せるものとす。蓋し思考の思考たる所以の本質は其の形式の上に存すればなり。左に斯學に關する二三の學者の定義を擧げて參考とせん。

推論の學なり。(ホエトリ)

思想の法則の學なり。(タムソン)

形式的思考の法則の學なり。(マンセル)

人間認識の規範的法則の學なり。(ユールベルグ)

眞理探求に於ける人間悟性の作用を論ずる學なり。(ミル)

(沿革) 希臘に於て始めて系統的に論理學を建設せるものはアリストテレスなり。固より

所のものにして、此の派は思考を以て問題(疑問)を解く作用なりとし、此の疑問解決の過程を研究するを論理學の任務となす。即ち思考の機能(問題を解くこと)を心理的に研究すること、是れ論理學なりとなすものにして、又之を心理的論理學と稱することを得。其の「實驗的」と冠する所以は問題解決の試みは凡て之を一種の實驗と見るを得べきを以てなり

論理主義

Logician

● 實在は理性的論理的のものなりとの主張。

● 心理主義に對立する主張、「心理主義と論理主義」の條を見よ。

論理的方法

Logical Method

教授に於て、教材の論理的系列を追ひ、大人の思考するが如き順序に従ひ教授するを論理的方法と言ふ。反之、兒童の理解力及び興味に合する如き題目を選び、兒童の經驗界より出發し、次第に之を系統化するを心理的方法 Psychological method とす。例へば算術教授に於て、先づ記數法・命數法を授け、順次加法・減法・乘法・除法・小數・分數と系統的に進むは論理的方法にして、一定の題目につき、兒童の理解力を省みつゝ、各算法を適當に提示するは心理的方法なり。從來の教授があまりに論理的なりし反動として、近時一般に心理的方法を以て一層教育的な

アリストテレス以前にありてもツェノーン及びソフィストに於て論理的思想の見るべきものなきにあらざれども、之が系統的建設はアリストテレスの大著「機關」Organon に待たざるべからず。其の後希臘末期・羅馬時代及び中世に於ては偏にアリストテレスの説を權威と仰ぎ、論理學は創設以來進歩せざる科學として單に傳承的に信奉せらるゝに過ぎざりき。然るに近世に入るや、ロージャヤー、ベーコン、H. Bacon (1549-1621) 先づ立つて歸納的研究の必要を痛論し、フランシス、ベーコン之を受け其の大著「新機關」Novum Organum に於て系統的に歸納法を説けり。「新」の一字明らかにアリストテレスの論理學に反對せるの意を點出せるを見る。

ベーコンの後にホエトリ R. Whately (1726-1863) あり、ホエトリの後にザボン、スチュアート、ミルあり、一面に於てベーコンの歸納法を大成すると共に他面に於てア氏の形式論理學に新しき解釋を施し、二者を合して、組織整然たる論理學を形成せり。其の後カント、ヘルバート、ヘーゲル、ドロービツシユ、ハミルトン、トレンデレンブルヒ、ロツチエ、ジグヴァルト、ヴント、エルドマン、ボサンケー等の諸學者何れも斯學の研究に歩武を進め、今や論理學は全く舊來の面目を一新すると共に、又多くの

りとなすに至れり。されど心理的方法を用ふるにしても、教授の終局目的とする所は論理的、系統的なる知識にあれば、心理的方法を過重するの餘り、教材の論理的順序を眼中に置かざるが如きことあるべからず。極端なる心理的方法は極端なる論理的方法に比して、更に大なる弊ありとす。

✿ワサ

和學講談所

又和學所とも言ひ。寛政五年(二四五三年)塙保己一が官に請うて江戸麹町裏六番町の官有地三百坪を貸與され、其の地に建設せしに起る。始めより幕府の保護を受け、費用の爲に別に地を賜ひ、林家の配下に屬し、圖書の事につき考ふべきものあらば毎に命じて、調査せしめられき。其の後次第に規模を擴張し、幕府の保護亦漸を追うて厚く、文化二年學會を増築して、和學所と改め、是より塙氏の子孫世々其の所長に任ぜられ以て慶應三年に及ぶ。又和學所の事務を管理するものを和學所頭取といひ、文化元年之を置く。事業は主として國史・律令を研究し、古書の搜索・編纂(有名なる群書類従は其の一なり)にあれども、又後進子弟に和學を教授し、晩年に至りては塾生大に増如し、多くの有名な國學者を出せり。

和算

洋算即ち維新以後歐米より移入せる數學に對し、本邦の數學者が特に研究せる數學を和算といひ、之を研究するものを和算家といふ。和算には種々の流派あれども、其の中最も名あるは

關流にして關新助孝和(寛永十四年—寶永五年)を以て開祖となす。新助研究最も深く、其の發明にかゝる圓理術は現今の微積分に類するものなりと言ふ。現今にては凡て洋算を用ひ、和算は珠算にのみ限られ使用せらる。されど是が爲に和算に深遠の理なしとするは誤れり。徳川時代に於ける和算の教科書を多く、塵劫記と呼べり。塵劫記の最初の著者は吉田七兵衛光由にして、寛永四年之を著せり。

早稻田大學

東京府豊多摩郡戸塚町にあり。明治十五年大隈重信が同志と共に東京専門學校を起せるに起原す。始め政治・法律の二科を置き、又英學を教授せしが、二十二年更に文學科を置き、三十五年専門學校令により學科組織を改造して早稻田大學と改稱し、大隈重信を總長に推し、高田早苗學長たり。後三十六年高等師範部を、三十七年商科を、四十二年理工科を増設す。四十一年五月社會法人を改めて財團法人となす。大正八年新大學令發布せらるゝや該令により大學に改造し、又高等學校令による高等學院を置き、法・文・商・理工科の各部を有する私立の綜合大學となり、慶應義塾大學と相並びて我國私立大學の雙壁たり。現今大學部・高等學院の外に専門部(政治經濟科・法律科)高等師範部(國語漢文科・英語科・數學科・理化學科)あり。又附屬

として早稻田工手學校(明治四十四年創立、修業年限豫科一個年半、本科一個年、高等科半個年)あり。關係學校には早稻田中學校及早稻田實業學校あり。別に早稻田出版部を置き、講義録及び圖書の發行に従事す。大正七年五月末に於ける教授・講師の數三百餘名、學生數一萬六名にして、其の圖書館は大凡二十五萬冊の書を藏すといふ。

索

引

一 二  
邦 歐  
字 字  
索 索  
引 引

凡 例

(一) 邦字索引は次記の表音綴字法に依りて、五十音順に排列せり：

1. 「ゐ」は「い」にて、「ゑ」は「え」にて、「を」は「お」にて表示す。
2. 「おー」と發音するものは總て「おう」にて、「ゆー」と發音するものは總て「ゆう」にて表示し、その他は「こう」「そう」「とう」「のう」「ほう」「もう」「よう」「ろう」「きよう」「しょう」「ちよう」「によう」「みよう」「りよう」「きゆう」「しゆう」「りゆう」にて又「くわ」は總て「か」にて表示す。
3. 英語の「v」獨逸語の「W-w」は「ヴ」にて表示し、「ti」は「ティ」「di」は「ディ」にて表示す。又英語の「ya」獨逸語の「je」は「イェー」にて表記せる場合多し。

(二) 歐字索引はアルファベット順に依りて排列せり。

(三) 語末に記せる數字は、頁數と段數とを示す。即ち次の例の如し。

「312」とあるは三百十二頁中に其の題目あることを表示し、「15-1」「25-2」「75-3」とあるは、十五頁の第一段、二十五頁の第二段、七十五頁の第三段中の説明文中に其の題目に關係ある記事あることを表示す。

— 終 —

邦 字 索 引

邦字索引 (ア、イ)

ア		イ	
アーノルド、トマス	1.	アメリカ合衆國の教育	11.
アーノルト、マシュウ	2.	アラビヤ數字	38C-2.
アームストロング法	2.	アリストテレース	14.
アールバイツ、シュレー	2.	アルクイン	15.
アーン	2.	アルコール	15.
愛國心	2.	アルコット	16.
愛情	3.	アルノール	16.
アイゼレン	3.	アルノール	619-2.
アイディアリズム	3.	アルファベット	16.
愛と權威	4.	アルフレッド大王	16.
アイルランドの教育	4.	アレクサンドリア學派	17-2.
アウイー	5.	アレクサンドリア大學	17.
アヴェイロンの蠻兒	211-1.	アレクサンドリア圖書館	17.
アウグスティヌス	5.	諧記	17.
青山學院	5.	開齋學派	17.
アカデミー	6.	詰算	17, 18.
アクイナス	6.	暗示感性	18-3.
アクセント	7.	暗示的模倣	655-3.
アグリコラ	7.	諧謔	18.
淺草文庫	7.	アンステイチュー、F、フラン	18.
足利學校	8.	アンダー、グラデュエート	19.
足利本	56-3.	アンドレー	19.
アスカム	8.	アンマン	19.
歴アクセント	7-1.		
感覺	8.		
アッシャー	9.		
アテネの教育	9.		
アデノイド	546-1.		
アバディーン大學	10.		
アプリオリ	10.		
アベラール	10.		
アポストリオリ	10.		
アボツホームの學校	10.		
アボルティ	11.		
		醫學所	23.
		異學の禁	24.
		園	24.
		園下意識	84-1.
		英吉利の教育	24.
		育兒院	24.
		イグナシウス	24.
		意見	24.
		伊澤修二	24.
		意志	25.
		意識	26.
		意識的模倣	655-3.
		意志教育	26.
		意識流	27.
		意志缺乏	26.
		石田梅巖	27.
		イシドールス	27.
		意志の障礙	27.
		異常	27.
		伊勢神道	28, 373-2.
		イゼリン	28.
		イソクラテス	28.
		イソップ物語	28.
		イタール	211-1.
		伊太利の教育	29.
		一教員學校	440-2.
		一元論	30.
		意裏	341-3.
		イッケルザーメル	30.
		一般意識	301-1.
		一般感覺	665.
		一般教授學	173-2.
		一般算術	423-1.
		一般的陶冶	50.
		一般的方法	31, 173-3.
		一般法	31, 307-2.

遺傳 31.  
 移動學校 32, 531-1.  
 移動失調 48-2.  
 伊藤仁齋 32.  
 イドラ 33.  
 井上毅 33.  
 井の頭學校 123-3.  
 意味 33.  
 伊陋館 257-1.  
 因果 33.  
 因果的分析 594-1.  
 イングランドの教育 35.  
 印象 37, 133-2.  
 インスブルック大學 37.  
 印度の教育 38.  
 因明 38.  
 陰陽寮 433-2.

**ウ**

ヴァイズマン説 39.  
 ヴァイツ 39.  
 ヴァツフリド 39.  
 ヴァンサン 40.  
 ヴァーヴェス 40.  
 維也納大學 40.  
 ウィッカーシヤム 40.  
 ウィッテンベルヒ大學 41.  
 ヴィトリノ、ダ、フェルトレ 41.  
 ヴィヘルン 41.  
 ウィラード 42.  
 ウィリアムズ 185-1.  
 ウィルダースピン 42.  
 ウィルト式 200-3.  
 ヴィンケルシュレ 42.  
 ウィンチェスター、カレッジ 42.  
 ヴィンデルバント 42.  
 ヴィンフェリング 43.  
 ヴェーベルの法則 43.

ヴェールリ 43.  
 ヴェールリ學校 44-1.  
 上杉治憲 44.  
 ウェストミンスタースクール 44.  
 ウェスリ 44.  
 ヴェツセル 44.  
 ウエップ 44.  
 ウェアスター 44.  
 ヴェルギリウス 45.  
 ヴェルギリウス 45.  
 ウォシントン、ブーカー 45.  
 ヴォランタリスター 45.  
 ヴォルケ 46.  
 ヴォルフ、クリスティアン 46.  
 ウォルフ、クリスティアン、ゾ  
 イルヘルム、フリードリッヒ  
 アウグスト 46.  
 宇宙誌 465-2.  
 ウッドワード 46.  
 ウナリ 46.  
 ヴェルツブルヒ大學 47.  
 ト部神道 373-1.  
 ヴルスト 47.  
 芸亭 47.  
 ザント 47.  
 運動 48.  
 運動感覚 48.  
 運動教式 177-1.  
 運動型 201-3.  
 運動失調 48.  
 運動場 48.  
 運動神経 363-1.  
 運動性失語症 289-1.  
 運動的過程 59.  
 運動反應 551-2.

**エ**

エー、イー、アイ、オー 51.

エーゲル式 429-3.  
 英語教授 51.  
 英國及外國學校協會 51.  
 英國家庭讀書會 51.  
 頡才教育 51.  
 嬰兒期 51, 295-2.  
 衛生學 51, 404-3.  
 衛生學教授 51.  
 エクスネル 52.  
 埃及の教育 52.  
 エスクーエラ、モデルナ 52.  
 エスベラント 53.  
 エスベラント 405-3.  
 エッチウロース 53.  
 エディンバラ大學 53.  
 エピクローロス 53.  
 エピングハウス 53.  
 エピングハウス検査法 54.  
 エミール 54.  
 エラスムス 54.  
 エリオット 54.  
 エリザベス式編制法 55.  
 エリジェナ 55.  
 エルヴェシウス 55.  
 エルゴグラフ 55.  
 エルネステイ 55.  
 エルンスト、デル、フロント 56.  
 エルンスト二世 56.  
 演繹的發展法 175-1.  
 演繹法 56.  
 遠隔の模倣 655-3.  
 圓光寺學校 56.  
 圓周の方法 56, 171-3.  
 延髓 364-1.  
 圓錐體 266-2.  
 厭世觀 685.  
 遠足 57.  
 圓柱體 266-2.

**オ**

オーウェン 58.  
 オーガスティン 45.  
 奥太利の教育 58.  
 オーフェルベルヒ 59.  
 オーベルリン 59.  
 黃金律 60.  
 應用 60.  
 應用科學 89-1.  
 應用數學 386-1.  
 王陽明 60.  
 往來物 61.  
 王立學會 61, 94-2.  
 緒方洪庵 61-2.  
 緒方塾 61.  
 岡山孤兒院 244-2.  
 岡山藩立學校 61.  
 荻生徂徠 62.  
 屋上運動場 49-1.  
 臆説 63-1.  
 オスウィーゴ運動 63.  
 オックスフォード大學 63.  
 乙種農學校 533-3.  
 御伽噺 64.  
 親の教育 64.  
 オラトリアル會 65.  
 和蘭の教育 65.  
 オリヴィエー 67.  
 オリギネス 67.  
 オリンピアの競技 67.  
 オリンピアド 67-3.  
 オルビス、ヒタックス 68.  
 音韻論 395-3.  
 音樂(教育上) 69.  
 溫覺 73-3.  
 音樂學校 71.  
 音樂盲 289-2.  
 恩給 71.  
 音色 73, 458-3.

音聲學 395-3.  
 溫點 73.  
 溫度感覺 73.  
 女大學 73.  
 音の定位 73.  
 恩物 74, 127-1, 676-2.  
 恩物及作業 74-2.

**カ**

カータ 75.  
 カーネギー 75.  
 ガーフィールド 75.  
 カーベント 75.  
 會意 698-1.  
 外延と内包 75.  
 開學 458-1.  
 開化史的段階 76.  
 繪畫專門學校 561-3.  
 概括 76.  
 懷疑説 77.  
 回教徒の教育 77.  
 海軍機關學校 79-1.  
 海軍教育 78.  
 海軍軍醫學校 80-3.  
 海軍經理學校 89-3.  
 海軍工機學校 80-2.  
 海軍所 81.  
 海軍水雷學校 80-1.  
 海軍大學校 79-1.  
 海軍傳習所 78-1.  
 海軍兵學校 79-1.  
 海軍砲術學校 79-3.  
 外國語學校 81.  
 外國語教授 81.  
 外國福音傳道協會 83.  
 外國留學生 83.  
 外在因 34-3.  
 會試 97-2.  
 下意識 84.  
 概述 644-2.

踏摩 698-1.  
 改正教育令 164-3.  
 開成所 84.  
 カイゼルヴェルト 127-2.  
 蓋然 84.  
 改善觀 85, 686-2.  
 蓋然推論 85.  
 蓋然判斷 555-2.  
 回想 252-3.  
 外的經驗 202-2.  
 外的觸覺 352-1.  
 外的精神物理學 400-1.  
 外典 413-1.  
 懷德書院 85.  
 概念 86.  
 概念作用 86-1.  
 概念的判斷 556-1.  
 概念論 580-3.  
 開發的教式 86.  
 貝原益軒 87.  
 外部意志 25-2.  
 快樂説 88.  
 快樂説 235-3.  
 改良學校 494-2.  
 改良範語法 680-1.  
 改良範語法 554-1.  
 カイルハウ 88.  
 過課 88.  
 家學 88.  
 科學 88.  
 化學 89.  
 科學院 94-3.  
 科學知識普及會 95-2.  
 科學的方法 90.  
 科學の分類 88-3.  
 雅樂寮 433-3.  
 カギ 193-1.  
 買置 91.  
 書方教授 91.

書取 93.  
 書取教授 407.  
 科學 93.  
 科學の廢止 371-2.  
 書き読み法 194-2.  
 書き読み法 93, 680-1.  
 學位 93.  
 樂音 458-3.  
 學會 94.  
 各科教授學 173-3.  
 學科擔任教員 336-2.  
 學科擔任制 95.  
 學館 645-1.  
 客觀 321-2.  
 學館院 95.  
 客觀性 321-3.  
 客觀的價值 112-1.  
 客觀的自我 265-3.  
 客觀的自然主義 249-1, 279-3.  
 客觀的相對論 409-2.  
 客觀的道德學 706-2.  
 客觀的品性 245-3.  
 客觀的品性 198-3.  
 學期 422-3.  
 學級 95.  
 學級擔任教員 336-2.  
 學級編制と進級 96.  
 學區 97.  
 學校 97.  
 學校醫 99.  
 學校運動場 48-3.  
 學校衛生學 100.  
 學校園 101.  
 學校看護婦 100-2.  
 學校管理法 102.  
 學校基本財産 103.  
 學校組合 103.  
 學校經濟 103.  
 學校經濟 103-1.

學校系統 103.  
 學校市 103.  
 學校清潔法 103.  
 學校制度 105.  
 學校書食 105.  
 學校書食運動 105-2.  
 學校貯金庫 105.  
 學校積立金 106.  
 學校傳染病 106.  
 學校圖書館 511-2.  
 學校博物館 106.  
 學校令 106.  
 鶴山書院 437-2.  
 學習 107, 136-3.  
 學習院 107.  
 學習學校 187-3.  
 學習館 107.  
 學習經濟 108, 136-3.  
 各種學校 108.  
 隔生遺傳 31-2.  
 學制 108.  
 獲得性 103.  
 格物 272-2.  
 學僕 109.  
 學務委員 109.  
 學名 109.  
 學理教育 98-2.  
 學齡 110.  
 可型性 110.  
 可型的模倣 655-3.  
 假言斷定 110-1.  
 假言的 110.  
 假言命令 642-1.  
 カシオドールス 110.  
 家事科 110.  
 假借 698-2.  
 家塾 111.  
 假説 111.  
 華族女學校 107-3.  
 數へ方 111.

數へ主義 111, 260-3.  
 片假名 118-2.  
 價值 111.  
 價值判斷 112-1.  
 過重教育 112.  
 活動 113.  
 活動感情 113-2.  
 活動主義 403.  
 活動寫眞 114.  
 活動説 50-1.  
 活動説(心理學上) 638-3.  
 過程(精神的) 115.  
 家庭園 102-1.  
 家庭課業 115.  
 家庭教育 116.  
 假定推論 85-3.  
 家庭文庫 511-3.  
 カテキズム 117.  
 カテキューメン 117-2.  
 カテキューメンの學校 117.  
 カト(大) 117.  
 可動式學級編制法 96-3.  
 加藤弘之 117.  
 假名 118.  
 金澤文庫 118.  
 假名遣 119.  
 カベラ 119.  
 カメラリウス 119.  
 カメラリスト 203-3.  
 樺太の教育 119.  
 ガル 120.  
 カルヴィン 120.  
 カルヴィン主義 120-3.  
 カルヴィン派 120-3.  
 カレッジ 120.  
 ガレヌス 121.  
 ガローデット 121.  
 カロカガティア 559-2.  
 カロロ大帝 121.  
 換位 464-3.

感應 439-2.  
 感化院 122.  
 感覺 123.  
 勸學院 124.  
 感覺運動 124.  
 感覺運動弧 124, 271-2.  
 感覺過鈍 124.  
 感覺過敏 124.  
 漢學塾 124.  
 感覺神經 363-1.  
 感覺性失語症 289-1.  
 感覺的實學主義 124.  
 感覺的實學主義 283-2.  
 感覺的順應 330-3.  
 感覺的注意 450-1.  
 感覺的反射 554-2.  
 勸學田 124.  
 感覺の練習 125.  
 感覺反應 551-2.  
 感覺論 125.  
 感官知覺 445-2.  
 咸宜園 125.  
 換氣法 126.  
 環境 126.  
 玩具 126.  
 間歇遺傳 127.  
 看護婦養成 127.  
 關西學院 127.  
 關西大學 128.  
 蒼茶山 718-3.  
 觀察 128.  
 觀察的發問 545-1.  
 觀察の誤謬 128.  
 監視官 345-2.  
 換質換位 464-3.  
 換質法 464-1.  
 慣習 128.  
 監手制度 129.  
 飯賞 559-3.  
 環象 129.

感情 129.  
 感情移入 129.  
 寬政異學の禁 630.  
 間接 463.  
 關節感覺 129.  
 間接歸謬法 731-1.  
 間接興味 182-2.  
 間接經驗 202-2.  
 間接視 130.  
 間接推理 130.  
 間接的訓練 199-1.  
 間接的注意 450-1.  
 間接統制 501-2.  
 間接法 175-1.  
 間接論證 731-1.  
 完全歸納推理 145-3.  
 漢代の教育 130.  
 關知的知識 447-1.  
 カント 131.  
 甘棠館 321-1.  
 關東州の教育 133.  
 監督教員 336-2.  
 觀念 133.  
 觀念運動 133.  
 觀念的經驗論 529-1.  
 觀念的合理論 529-1.  
 觀念的注意 450-1.  
 觀念力 133.  
 觀念聯合 719, 133.  
 觀念論 4-1.  
 カンパン 135.  
 カンベ 135.  
 顔面角度 471-2.  
 官務文庫 135.  
 管理 135, 614-2.  
 官立學校 98-2.  
 キ  
 キール大學 136.

記憶 136.  
 記憶術 138, 138-1.  
 記憶と年齢 138-1.  
 記憶の實驗 136-3.  
 記憶の障礙 138-2.  
 機械的記憶 136-3.  
 機械論 138.  
 幾何學 139.  
 聴き方 545-3.  
 菊池大麓 139.  
 キケロ 140.  
 キケロ主義 140, 375-3.  
 記載科學 89-1.  
 騎士 141-2.  
 氣質 140.  
 騎士の教育 141.  
 寄宿學校 141.  
 寄宿舍 142.  
 記述 142.  
 記述判斷 556-1.  
 擬人 358.  
 魏晉南北朝時代の教育 142.  
 記數法 143.  
 期成因 33-3.  
 機制論 143.  
 ギゾー 143.  
 基礎學校 493-3.  
 北畠親房 143.  
 既知より未知に 144.  
 吃音矯正 144, 214-3.  
 吉川惟足 144.  
 吃語 214-2.  
 規定學校 35-2.  
 徵典館 144.  
 機能 145.  
 技能 145.  
 機能心理學 377-3.  
 機能團體 300-3.  
 機能的 145-1.

歸納的發展法 174-3.	教育行政 155.	共感覺 171.
歸納的方法 90-2.	教育研究所 156.	競技 171.
歸納法 145, 598-1.	教育検査 483-2.	郷貢 93-1.
歸納法の原則 288-1.	教育雑誌 156.	郷校 171.
木下順庵 146.	教育史 157.	強硬症 171.
起癩學校 146,	教育勅語 158.	教材の排列 171.
規範 147, 621-1.	教育勅語(漢譯) 158-2.	郷試 93-2.
規範科學 147, 88-3.	教育勅語(英譯) 158-3.	教式 172.
氣分 147.	教育的教授 159, 614-2.	凝視線 172.
詭辯學派 420.	教育的社會學 160.	教室 228-2.
基本的教科 147.	教育的心理學 160.	教室裝飾 172.
基本的單位 439-1.	教育的人類學 160.	凝視點 172-2.
基本要求 148.	教育哲學 161.	凝視野 300-2.
君が代 148.	教育圖書館 511-2.	教授 172.
義務教育 148.	教育の客體 162-3.	教授(プロフェッサー) 172.
義務教育 177-3.	教育の主體 162-3.	教授案 173.
ギムナジウム 148.	教育の要素 162.	教授衛生 173.
ギムナジウム 9-2.	教育博物館 163.	教授學 173.
嗅覺 148.	教育百科全書 164.	教授館 173.
究竟因 33-3.	教育病理學 164.	教授細目 174.
舊教徒の教育 148.	教育不可能論 331-3.	教授靜學 169-1.
九經 148.	教育令 164.	教授的教育 174.
休憩時間 148, 523-1,	教育領 200-1.	教授動學 169-2.
休日 149.	教員會 152.	教授の形式 174.
休日喧嘩 149.	教員試補期 165.	教授の原理 176.
求心式編制法 150.	教員の進級 165.	教授の調節 204-3.
九州帝國大學 426-2.	教員の任命 165.	教授の批評 177.
救世軍 570-3.	教員の配置 166.	教授の明晰 204-3.
宮廷學校 150.	教員免許狀 166.	教授の様式 177.
宮廷學校 122-1.	教員養成 166.	鐘書 177.
キュービエー 150.	教化 166, 592-2.	教生 177, 351-3,
ギョー 150.	教科 167.	336-2.
教案 150.	教科案 169.	強制教育 177.
教育 150.	教科課程 169.	競争 178.
教育會と教員會 152.	共學(男女の) 442.	教訓 179.
教育學 153.	郷學 169.	強度 179.
教育學校 154.	教科書 169.	教導學 179, 136-1.
教育學の研究 155.	教科書法 175-2.	共同教會 121-1.
教育學研究所 410-3.	教科進級 170.	共同式 102-2.
教育基金 155.	教科の排列 170.	共同生活の同胞團體 180.

共働組織 224-2.	勤勞學校 187.	ク	シラケノト 196.
郷土科 180.			シラケノト 196-2.
共讀 682-1.			カリム、アコブ 196.
郷土算術 262-1.			クリュージ 196.
京都帝國大學 426-1.			クリュージ(小) 196.
強迫觀念 187.			クルーネル 196.
強迫行爲 182-1.			クルーベ 197.
強迫性恐怖 182.			グレーフェ 197.
恐怖 182.			グレアール 197.
共變法 288-3.			グレシャム 197.
教僕 9-1.			グレシャムの法則 197-3.
興味 182, 614-3.			グレイニズム 197.
業務教育 98-2.			クレメンス 197.
協和音と不協和音 182.			グロート 180-1.
局所徴驗 183.			クロマル 193-1.
居敬窮理 325-2.			グロンドヴィーグ 198.
虚空法 126-2.			軍艦操練所 78-2.
虚言 183.			訓誥學 181-1, 198.
擧人 222-3, 367-1.			群集心理 198.
希臘語 183.			訓導 198.
希臘の教育 184.			訓練 198.
基督教(教育史上) 184.			ケ
基督教青年會 185.			ケシヤットルヴァース 199.
基督教の知識振興協會 186.			ゲーテ 100.
基督學校同胞 686-2.			ケーニヒスベルヒ大學 200.
基督教同胞 186, 686-2.			ゲーム 200, 664-1.
基督教入門者の學校 186.			ゲーリ組織 200.
疑惑 186, 365-3.			ケール 201.
筋覺 186.			型 201.
禁止 646.			慶應義塾大學 202.
禁止 315-3, 487-3.			京學 325-3.
近視 186.			敬義派 325-3.
禁書令 672-1.			經驗 202.
近思錄 187.			敬虔主義 202.
キンダーハイム 673-3.			經驗的蓋然 85-1.
キンデルマル 187.			經驗的自我 265-3.
筋肉運動主義 492, 50-2, 11			經驗的心理學 203.
3-3, 274-2,			
禁欲主義 187.			
勤勞科 102-1, 693-3.			

經驗的說明 409-3.  
 經驗的統覺 497-3.  
 經驗論 203, 529-1.  
 契合差異結合法 288-2.  
 契合法 288-1.  
 經濟學 203.  
 警察 155-3.  
 形式因 33-3.  
 形式科學 88-3.  
 形式主義(教授上の) 204.  
 形式主義(算術教授上の) 261-2.  
 形式的教育 204, 151-3.  
 形式的教科 204, 207.  
 形式的段階 204.  
 形式的陶冶 205.  
 形式的論理學 733-1.  
 形式と内容 207.  
 形而上學 207.  
 形而上學的論理學 733-1.  
 藝術 207.  
 藝術教育 208.  
 藝術教育運動 208.  
 計數器 209, 260-1.  
 形聲 698-1.  
 繫素 554-3.  
 形相因 33-3.  
 荆楚學派 209.  
 繼續的統合法 414-1.  
 輕體操 428-2.  
 系統 209.  
 系統(教授段階としての) 209-3.  
 系統發生 209.  
 系統發生樹 209-2.  
 系統發生的平行説 601-1.  
 敬内義外 661-3.  
 啓發的教式 209.  
 啓蒙會 398-1.  
 啓蒙社 209.

啓蒙と教育 210.  
 擊劍 210.  
 擊劍體操 218-3.  
 激情 210.  
 劇場偶像 598-3.  
 外宮神道 373-2.  
 ゲスネル 210.  
 結果説(感情の) 264-2.  
 缺陷兒童の學校 210.  
 結合 592-2.  
 結合音 212.  
 ゲッティンゲン大學 212.  
 決定感情 25-2.  
 決定的發問 544-3.  
 決定論 481-1.  
 決闘 212.  
 結論 384-3.  
 ケネディ 212.  
 ゲマラ 670-1.  
 ケラー 649-2.  
 ケルネル 212.  
 兼愛説 622-1.  
 權威 213.  
 檢證 217.  
 現象 217.  
 原色 269-3.  
 倦怠 568-2.  
 元代の教育 217.  
 限定 218.  
 拳闘 218.  
 劍道 218.  
 ケンブリッヂ式編制法 218.  
 ケンブリッヂ大學 219.  
 健忘 138-2.  
 憲法十七條 219.  
 原理 220.  
 コーア 221.  
 ゴールトン 221.

護國學派 213.  
 幻覺 213.  
 言語 213.  
 言語學 215.  
 言語感情 82-3.  
 言語主義 215.  
 言語障礙 216.  
 言語的實學主義 216-1.  
 言語倒錯症 289-2.  
 言語盲 216, 289-2.  
 言語聾 216, 289-2.  
 検査 483.  
 原子説 216.  
 現實的興味 182-2.  
 原始民族の教育 216.  
 ゴールトンの法則 221, 31-3.  
 コインブラ大學 221.  
 行爲 221.  
 口演法 222, 175-2.  
 校外教授 222, 57-3.  
 光覺 222.  
 江家文庫 222.  
 交感神經系統 364-3.  
 好奇心 222.  
 貢學 222.  
 孝經 223.  
 攻玉舎 251-3.  
 硬教育 223, 182-3.  
 工業教育 223.  
 校訓 226.  
 高原 718-1.  
 交互作用 226, 35-1.  
 講座 226.  
 交錯分釋 596-3.  
 孔子 227.  
 合式的 479.  
 校舍 228, 228-2.  
 公衆運動場 49-2.  
 公衆衛生學 51-3.

公衆學校 229-3.  
 公衆的快樂説 237-3.  
 講習堂 230.  
 甲種農學校 583-3.  
 公準 230, 237.  
 考證學 230.  
 考證學派 371-2.  
 興讓館 330.  
 工場法 231.  
 貢人 223-1.  
 江西書院 500-3.  
 構成心理學 377-3.  
 構成的綜合 594-2.  
 好生堂 230-3.  
 校地 231.  
 膠着的 213-3.  
 高低音の) 458-3.  
 肯定判斷 555-2.  
 皇典講究所 232.  
 後天論 232.  
 講堂 229-1.  
 高等學校 232.  
 弘道館 233.  
 弘道館(彦根の) 233-3.  
 弘道館(水戸の) 233-3.  
 弘道館(佐賀の) 233-2.  
 口答試験 234.  
 高等實科學校 493-3.  
 高等實業學校 284-1.  
 高等市民學校 565-2.  
 高等女學校 234.  
 高等庶民學校 490-1.  
 行動心理學 50-2.  
 行動心理學 377-3.  
 高等數學 386-1.  
 紅梅殿 235.  
 甲府學問所 144.  
 幸福説 235.  
 講武所 235, 697-3.  
 工部大學校 224-3.

弘文院 235, 547-1.  
 公民科 236.  
 項目法 237.  
 效用價值 112-1.  
 公理 237.  
 公立學校 98-2.  
 功利主義 237.  
 合理的 238.  
 合理的自我 265-3.  
 合理的心理學 203, 238.  
 公理と公準 237.  
 合理論 529-1.  
 戶外學校 138, 704.  
 古學派 238.  
 五枝 9-1.  
 古義學 238.  
 呼吸運動 238.  
 五經 238.  
 國學 238.  
 國學院大學 238.  
 國家主義(教育上の) 239.  
 國家的公民教育 239.  
 國語 240.  
 國語學校(臺灣の) 436-1.  
 國語假名遣 119-1.  
 國語教授 241.  
 國語調査會 119-2.  
 國語傳習所(臺灣の) 434-2.  
 國子學 241.  
 國子監 241.  
 國定教科書 242, 170-1.  
 黑板 242.  
 國民科 236-1.  
 國民學校 492-3.  
 國民教育 242.  
 國民協會(英國) 242.  
 國民神話學 379-2.  
 國民制 424-3.  
 國民性 242.  
 國民道德 243.

五山文學 243.  
 孤兒院 243.  
 五支作法 39-1.  
 五十音圖 244.  
 五種競技 244.  
 腰掛 473.  
 固執性模倣 655-2.  
 扈從 141-1.  
 五常 244, 250.  
 個人衛生學 51-3.  
 個人主義(教育上の) 245.  
 個人所有式 102-2.  
 個人的快樂説 245.  
 個性 245, 358-2.  
 悟性 245, 700-1.  
 個性心理學 245.  
 個性と教育 245.  
 誇大的愛國心 3-1.  
 個體的本能 628-1.  
 古代の教育 246.  
 個體發生 246.  
 答 545-2.  
 コッカー 246.  
 滑稽美 558-1.  
 骨相學 246.  
 ゴッダード 246.  
 固定式學級編制 96-2.  
 五道念 613-3.  
 語の組立て 247.  
 語の研究 247-1.  
 語の分析 247.  
 誤謬訂正 247.  
 古文辭派 62-2.  
 個別教育 247.  
 個別教授 247.  
 コメニウス 247.  
 コメニウス院 249.  
 五樂舎 359-1.  
 コロンビア大學 249.  
 孤立的 213-3.



五倫五常 250.  
 コルテリウス 250.  
 コレギア、ビクタティス 202-3.  
 コレット 250.  
 混合遺傳 31-2.  
 混合書き読み法 93-2.  
 混合假言推論 110-2.  
 混合歸納論證 731-2.  
 混合型 201-3.  
 コンディヤック 250.  
 コント 250.  
 近藤眞琴 251.  
 コンドルマー 251.  
 コンペレー 252.  
 根本的懷疑説 77-1.  
 根本的規範 147-1.  
 昏迷 252.

サ

差異関 24-1.  
 猜忌と嫉妬 252.  
 再現 252, 138-1.  
 採光法 252.  
 祭酒 253.  
 再春館 277-3.  
 祭政一致 372-1.  
 再生的綜合 594-2.  
 最大頻數 500-1.  
 再認 253, 138-1.  
 再發見法 253.  
 差異法 288-2.  
 細胞 254.  
 細胞學 254-3.  
 裁縫教授 254.  
 催眠術 254.  
 催眠狀態 254.  
 材料因 33-3.  
 ザイレル 255.  
 ザグイエール 255.

差音 212-1.  
 作業 255.  
 作業學校 256, 187-1.  
 作業主義 604-3.  
 作業團體 256-3.  
 錯覺 256.  
 作新館 257.  
 作人館 644-1.  
 洒 257.  
 札幌農學校 194-1.  
 サラマンカ大學 257, 392-2.  
 ザルツマン 257.  
 サルミエント 257.  
 山王一實神道 258.  
 山王一實神道 372-3.  
 三學 258.  
 三學(佛教の) 306-3.  
 三學學校 258.  
 サン、ガレン寺院 258.  
 參觀學校 258.  
 參觀人 258.  
 サンシールの學校 258.  
 三支作法 39-1.  
 三舍考選法 418-1.  
 算術教授 258.  
 參前舍 359-1.  
 殘像 262.  
 殘存感覺 262.  
 サンタ、バーバラ求心式 150.  
 三段論法 262.  
 サンドウィッチ組織 224-2.  
 三徳 319-2.  
 残忍性 263.  
 三分釋 596-2.  
 三禮、三傳 263.  
 C・G・S法 439-1.

自愛 263.  
 自暗示 18-3.  
 ジェームズ 263.  
 ジェームズラング説 264, 339-3.  
 シェブレール 60-1.  
 シェリッガ 264.  
 ジェルソン 264.  
 シェルドン 265.  
 ジェルベール 265.  
 字音假名遣 119-1.  
 四料 265.  
 自我 265.  
 シカール 266.  
 視覺 266.  
 視學 266.  
 自覺 267, 497-3.  
 視學教員 336-2.  
 視覺型 201-3.  
 視覺方便物 266.  
 自學輔導 266.  
 シカゴ式編制法 668-2.  
 シカゴ大學 268.  
 自我實現 268.  
 自我充實 268-3.  
 士官學校 695-1.  
 時間知覺 268.  
 時間價値 269.  
 時間割 522-2.  
 色覺 269.  
 色彩関 269-2.  
 士規七則 678-3.  
 識別反應 551-3.  
 色盲 270.  
 示教式 456-3.  
 識野 270.  
 視空間 191-1.  
 慈惠學校 270.  
 刺激性 271.  
 刺激と反應 271.  
 試驗 271, 175-3.

私見 272.  
 四言教 272.  
 試驗的發問 545-1.  
 自己意識 272.  
 自己因 34-3.  
 思考 272.  
 志向 273.  
 試行錯誤法 273, 107-1.  
 私講師 491-3.  
 思考の原則 273.  
 自己活動 274.  
 自己犠牲 275.  
 自己教育 275.  
 自己否定 275.  
 試誤法 275.  
 自己保存 275.  
 自己模倣 655-2.  
 自己離脱 275, 720-2.  
 視察(教授の) 275.  
 自殺(學生の) 276.  
 子思 276.  
 指事 698-1.  
 指示言語 214-1.  
 事實判斷 112-1.  
 指示身振 638-1.  
 自習 277.  
 時習館 277.  
 自習法 175-2.  
 辭書 277.  
 市場偶像 598-3.  
 字書的統合法 414-1.  
 委勞 278, 474-2, 3.  
 自然 279.  
 自然科學 279, 89-1, 89-2.  
 自然換氣法 126-1.  
 自然主義(教育上) 279.  
 自然神教 699-2.  
 自然數 385-1.

自然齊一 146-1.  
 自然的 280.  
 自然的教育 709-2.  
 自然的賞罰 346-2.  
 自然的方法 280.  
 自然淘汰 280.  
 自然に従ふ教育 279-2.  
 自然の罰 280.  
 自然反應 551-2.  
 自然分類 596-2.  
 思想 272-3.  
 思想法 679-2.  
 四則並進主義 261-2.  
 四端 650-3.  
 自治 281.  
 七藝 282.  
 七自由科 283.  
 七大私學 282.  
 執意 282, 25-2.  
 實科 282.  
 實科(高等女學校の) 235-1.  
 實科學校 282, 712, 494-1.  
 實學主義 283.  
 實學的傾向 283.  
 實科高等女學校 283, 235-1.  
 實科中學校 712, 493-3.  
 實業學校 283.  
 實業學務局 156-2.  
 實業教育 353-1.  
 實業教育國庫補助法 284.  
 實業教員養成所 284.  
 實業專門學校 412-1.  
 實業的傾向 283-2.  
 實業補習學校 284.  
 しつけ(養) 286.  
 實驗 286.  
 實驗(教育上の) 286.  
 實驗學校 286.

實驗教育學 287.  
 實驗教授學 173-3.  
 實驗心理學 287.  
 實驗聲音學 396-1.  
 實驗的研究法(ミルの) 288.  
 實驗論理學 733-1.  
 失語症 289.  
 實在的經驗論 529-1.  
 實在的合理論 529-1.  
 實在論 529-1, 4-1.  
 實質科學 89-1.  
 實質主義 289.  
 實質主義(算術教授上) 261-2.  
 實質定義 478-3.  
 實質的教科 207, 289.  
 實質的陶冶 205-3.  
 實證哲學 251-1.  
 實證論 289.  
 實然判斷 555-2.  
 實踐理性 700-1.  
 實體論 290.  
 閑谷學校 290.  
 嫉妬 252.  
 實念論 580-2.  
 實物教授 290.  
 實問時代 222-3.  
 實問法 290.  
 實用主義 290.  
 四諦 306-2.  
 司徒 309-3.  
 兒童預り所 292.  
 自動運動 292.  
 兒童學 292.  
 兒童期 292, 295-3.  
 指導教員 336-2.  
 兒童缺陷 293.  
 兒童研究 293.  
 兒童心理學 293.  
 兒童養所 229-1.

兒童文學	296.	社會倫理	305.	充足理由律	274-1.
兒童保護	297.	釋迦牟尼	306.	重體操	428-2.
指頭文字	724-1.	視野計	300-2.	周代の教育	318.
四德	297.	ジャコト	307.	産耻	319.
シドニ大學	297.	シャトック運動	308.	柔道	319.
支那の教育	297.	ジャン、パウル	701-3.	修道館	320.
自發性	297.	ジャンリース	308.	雌雄淘汰	320.
自發注意	450-2.	主位	554-3.	修徳館	123-3.
示範	357-3.	主意説	308, 25-3.	十二縁起	306-3.
師範學校	298.	手淫	308.	十二銅盤法	320.
死亡率(兒童の)	300.	自由	308.	重農主義	203-3.
市民科	300, 236-1.	シュヴアルツ	309.	周茂叔	320.
市民學校	565-2.	周以前の教育	309.	修猷館	321.
シモン	300.	自由科	282, 309.	就學	334-2.
視野	300.	修學旅行	57-2.	主我的快樂説	237-3.
舎(公衆學校の)	230-2.	習慣	309.	主觀的價值	112-1.
シャルマニユ	300.	習慣の干涉	310.	主觀的自我	265-3.
社會	300.	習慣養成	199-1.	主觀的自然主義	280-1, 604-1.
社會意志	301.	自由教育	310.	主觀的道德學	706-2.
社會意識	301.	自由教育説	311.	主觀的と客觀的	322, 321-3.
社會科	236-2.	宗教改革と教育	312.	主觀的品性	198-2, 245-3.
社會學	301.	修教館	313.	主觀と客觀	321.
社會教育	302.	宗教教育	313.	儒教	322.
社會教育主事	303, 303-2.	宗教局	156-2.	授業日数	322, 422-3.
社會教化の中心としての學校	303.	宗教的情操	341-2.	授業料	322.
社會進化	303.	宗教的徳	507-2.	授業料(小學校の)	334-3, 335-1.
社會進歩	303, 304.	宗教と教授	314.	塾	319-2.
社會心理學	304.	集合學校	440-2.	宿題	323.
社會靜學	301-2,3.	集合制	243-3.	綜藝種智院	323.
社會的遺傳	304, 489-1, 31-1, 656-1.	十三經	314.	手工教授	323.
社會的科學	304.	從士	141-1.	種差	478-2.
社會的教育學	304.	修辭學	314.	朱子	324.
社會的實學主義	305.	充實法	126-2.	朱子學派	325, 325-2.
社會的本能	628-1.	蒐集本能	315.	手指計算	326.
社會動學	301-2,3.	習熟の感情	138-1.	樹枝狀突起	362-2.
社會淘汰	305.	從順と不從順	315.	主靜説	325-2.
社會有機體	305, 301-3.	重商主義	203-3.		
		修身教授と道德教育	316.		
		從屬	464-1.		
		習俗教育	216-3.		

種族偶像	598-2.	純粹自我	265-3.	象徴的移入	129-3.
種族心理學	326, 543-1.	純粹數學	386-1.	衝動	342, 25-2.
種族の本能	628-1.	純粹直觀	461-2.	衝動的模倣	655-3.
主知説	326.	純正哲學	331.	尙徳館	342.
術語	326.	淳和院	331.	聖徳太子	342.
シュツルム	326.	序	319-2.	少年監視	343, 345-2.
シュテファニ	327.	ショーベンハウエル	331.	少年義勇團	343.
シュトイ	327.	痒	319-2.	少年裁判所	344, 345-1.
受動的興味	182-2.	象意	698-1.	少年職業相談所	352-3.
受動的順應	330-3.	ジョウエツト	333.	少年隊	344.
受動的想像	416-3.	唱歌學校	69-2.	少年犯罪	344.
主徳	328.	唱歌教授	333.	少年文學	345.
取得性	328.	小學	333.	少年讀物調査會	297-1.
シュトリュンベル	328.	小學(周代の)	319-2.	少年勞働	345.
ジュネーヴ大學	328.	獎學院	333.	小腦	364-1.
シュピース	328.	獎學金	333.	賞罰	346.
シュブルツハイム	328.	小學校	333.	小反對	464-2.
シュペーネル	328, 202-3.	小學校教員	336.	昌平塾	348.
趣味	329.	小學校教員檢定委員會	336.	昌平坂學問所	348.
シュミットカレル	329.	小學校令	336-3.	證明	730-3.
シュミットヨゼフ	329.	小學校令施行規則	337.	證明法	254-1.
受容性	298-1.	昇級試験	337.	省約説	660-3.
シュライエルマッヘル	329.	蒸氣暖房法	444-2.	剩餘法	239-1.
シュリューズベリー、スクール	330.	商業教育	337.	小顔	349, 471-1, 543-3.
シュルツェ	330.	消極的教育	311-3, 709-1, 279-3.	助教	9-1, 350-3.
順應	330.	象形	698-1.	女教員	349.
順應の本能	628-1.	條件	34-3.	助教法	350.
巡回教師	330.	影考館	339, 636-2.	諸藝學校	624-2.
巡回文庫	331, 511-3.	昇降口	229-1.	觸覺計	352.
循環的方法	331.	省試	223-1.	職業案内	352.
循環反應	655-3.	象事	698-1.	職業教育	353.
循環論法	331, 731-3.	情緒	339.	職業相談所	352-2.
准教員	336-1.	情緒の表現	340.	職業相談所	353.
荀子	331.	象聲	698-1.	職業的教授	159-2.
純粹科學	89-1.	商船學校	340.	觸空間	191-1.
純粹書き読み法	93-2.	情操	341.	植物園	353.
純粹假言推論	110-2.	情操科	342-1.	植物學	353.
純粹歸納論證	731-2.	情操教授	341.	女子の高等教育	353.
純粹經驗	302-3.	象徴主義(教育上)	342.	敘述判斷	556-1.

書堂 459-2.  
 初等數學 380-1.  
 徐讀 681-3.  
 庶物教授 461-2.  
 庶物示教 446-2.  
 書房 435-3.  
 處事 698-1.  
 ジョホノンノット 354.  
 ジョンスホブキンス大學 355.  
 ジラール 355.  
 私立學校 356, 98-2.  
 私立大學 426-2.  
 自律と他律 355.  
 視力表 356.  
 思慮的愛國心 2-3.  
 シルエストレム 356.  
 シルレル 357.  
 示例 357.  
 シロマル 192.  
 指話法 724-1.  
 仁 357, 217-2.  
 人為數 385-1.  
 人為淘汰 357.  
 人為分類 596-2.  
 人化 358.  
 人格 358.  
 心學 358.  
 人化的 417-1.  
 人格的教育學 359.  
 進化論 360.  
 仁義 361.  
 進級 96, 361.  
 新教と教育 361.  
 神宮皇學館 361.  
 神經系統 362.  
 神經原 362-2.  
 神經原説 362-2.  
 神經質 140-3.  
 神經衰弱 365.

神經の特殊勢力 362-3.  
 信仰 365.  
 人工換氣法 126-2.  
 塵劫記 734-2.  
 人工採光法 253-1.  
 人工的記憶 138-2.  
 人差方程式 366.  
 心算 366.  
 進士 367.  
 人種學 367.  
 心情 341-3.  
 人身測定學 367.  
 新人文主義 367.  
 新心理學 367.  
 心即理説 60-3.  
 新ダーウィン説 367.  
 身體検査 368, 483-2.  
 身體の發達 369.  
 眞知 24-2.  
 身長 369-1.  
 清朝の教育 370.  
 神道 371.  
 神童 374.  
 人道 374.  
 新入生擔任教員 336-2.  
 信念 374.  
 神秘説 374.  
 神佛混淆 372-2.  
 人物主義 318-2, 713-2.  
 人文主義 375.  
 人文的實學主義 375.  
 人文派 376.  
 進歩 376.  
 人本主義 291-1.  
 新フマルク説 376, 690-1.  
 眞理 376.  
 心理學 376.  
 心理學實驗場 378.

心理主義と論理主義 378.  
 心理的概念 86-1.  
 心理的傾向(教育上) 379.  
 心理的系統 209-2.  
 心理的方法(疲勞測定) 567-3.  
 心理的方法 733-2.  
 人類學 379.  
 神話 379.  
 神話學 379.  
 ス  
 水泳 380.  
 水産學校 381.  
 水産講習所 381.  
 瑞西の教育 382.  
 隨年教法 87-3.  
 睡眠 383.  
 睡眠時間 384-2.  
 睡遊 384.  
 推理 384.  
 推論式 384.  
 數 384.  
 趨異 385, 31-2.  
 數概念 385, 385-1.  
 數學 385.  
 數學的蓋然 85-1.  
 數學的論理學 733-1.  
 崇廣堂 667-2.  
 崇高美 558-1.  
 數字 386.  
 數圖 386, 259-3.  
 瑞典式體操 429-2.  
 瑞典の教育 386.  
 スカリジェー 388.  
 菅原道眞 388.  
 スコットランドの教育 388.  
 スコラシップ 389.  
 スコラ哲學 390.  
 スティルリッパ検査表 270-2.

ストー 390.  
 ストーブ 444-2.  
 ストア派 390.  
 スバルタの教育 391.  
 西班牙の教育 392.  
 凡てより大なる光榮の爲に 22-1.  
 スペンサー 393.  
 相援 394.  
 スリンケ 394.  
 スロイド 395.  
 セ  
 性惡論 331-2.  
 聖オーガスティン 5.  
 聲音學 395.  
 性格 396.  
 性格學 569-3.  
 性格陶冶 199-1.  
 生活學校 396.  
 生活共存體 396, 671-2, 694-1.  
 制學 93-1.  
 政教一致 322-1.  
 正教員 336-1.  
 清教徒と教育 396.  
 聖教問答 396.  
 成均館 396.  
 制限换位 464-3.  
 性向 396.  
 整合説 376-1.  
 性向的興味 182-2.  
 制裁 396.  
 製作學教場 224-3.  
 生産的想像 416-3.  
 制止 397.  
 誠之館 397.  
 性質的快樂説 238-1.  
 正字法 398.  
 青春期 398.

齊唱 398.  
 精神 398.  
 精神科學 398, 89-1.  
 精神化學 143-3, 639-3.  
 精神検査 483-2.  
 精神的自我 265-3.  
 精神的怠惰 430-3.  
 精神動的發生説 503-1.  
 精神と身體 399.  
 精神年齢 399.  
 精神薄弱 481.  
 精神發達 399.  
 精神病學 399.  
 精神病理學 400.  
 精神物理學 400.  
 精神物理的自我 265-3.  
 精神物理的平行説 399-2.  
 精神分析 400.  
 精神療法 400.  
 成績考査 400.  
 成績支給 400.  
 性善説 650-2.  
 生存競争 401.  
 生徒 93-1.  
 齊讀 682-1.  
 精得館 401.  
 生得觀念 401.  
 成徳書院 401.  
 生得的 401.  
 精讀と粗讀 401.  
 生得論 402.  
 青年期 402.  
 青年指導 403, 302-2.  
 生物學 403.  
 生物測定學 403.  
 生物的科學 403.  
 精密科學 89-1.  
 生命 145-1.  
 勞用主義 403.

性慾教育 403.  
 生理學 404, 418-2.  
 生理的遺傳 31-2.  
 生理的刺戟 271-1.  
 生理的心理學 405.  
 生理的年齡 405.  
 生理的反射 554-2.  
 生理的方法 211-1.  
 生理的方法(疲勞測定) 567-3.  
 世界科 405.  
 世界語 405.  
 世界主義 406.  
 世界圖解 406.  
 セガン 406, 211-1.  
 釋菜 406.  
 春髓 364-1.  
 香柱彎曲症 406.  
 釋奠 407.  
 石盤 407.  
 責務の感 629-1.  
 石門心學 358-3.  
 セキュラー、スクール 407.  
 説 481.  
 綴字教授 407.  
 綴字書 408-2.  
 綴字法 408.  
 綴字法 670-1.  
 接觸部(神經の) 363-2.  
 接續判斷 555-3.  
 絶對的服從 315-2.  
 絶對と絶對的 409.  
 絶對論と相對論 409.  
 折衷學派 409.  
 折衷主義 409.  
 折衷法 409, 170-3.  
 説明 409, 142-2.  
 説明科學 88-3, 89-1.  
 説明的演繹 56-3.  
 説明判斷 556-1.

セネカ 409.  
 セノフォン 410.  
 セミナール 410, 165-1.  
 セムレル 410.  
 専科教員 336-2.  
 先験觀念論 529-1.  
 選言推理 411-1.  
 選言断定 411-1,  
 選言的 411.  
 先験的 457.  
 先験的統覚 497-3.  
 專言の仁と偏言の仁 411.  
 先験論 411.  
 先験論理學 733-1.  
 全國ヘルベルト會 153-1.  
 潜在意識 84-1.  
 全失語症 289-2.  
 全稱判斷 555-2.  
 全植民 150-1.  
 專心 204-2, 614-3.  
 專心と致思 411.  
 全色盲 270-1.  
 全數 499-3.  
 腺増殖 411, 546-2.  
 全體法 137-1.  
 選擇的意志 25-2.  
 選擇の自由 309-1.  
 選擇反應 551-3.  
 全知識 564-2.  
 全知識主義 411.  
 前提 384-3.  
 先天 411.  
 先天的蓋然 85-1.  
 先天的と後天的 411.  
 先天論 411.  
 セント、ルイス式編制法 411.  
 全日學校 440-2.  
 專門學校 412.  
 專門學校令 412.

專門學務局 156-2.  
 專門教育 353-1.  
 全有全無法 412, 262-3.  
 ヲ  
 僧庵 412-3.  
 僧庵學校 412.  
 相應點 413.  
 噪音 458-3.  
 宋學 413.  
 總括 413.  
 總括的復習 576.  
 總括的復習的發問 545-1.  
 相關(教材の) 413.  
 相關(心理學上) 414.  
 相關係數 414-2.  
 綜合 415, 594.  
 綜合大學 424-2.  
 綜合的教授 415, 594-3.  
 綜合的定義 478-3.  
 綜合的方法 415.  
 綜合的論證 731-1.  
 綜合判斷 555-3.  
 綜合法 679-3.  
 綜合法(圖書教授の) 472-2.  
 相互教授法 415, 350-3.  
 創作 559-3.  
 創作力 415.  
 莊子 415.  
 造士館 416.  
 早熟 416.  
 早熟兒 374-2.  
 相制 416.  
 相制説 309-1.  
 想像 416.  
 創造説 360-1.  
 創造的綜合 417.  
 曹大家 417.  
 相對的 417.  
 宋代の教育 417.

相對論 409, 418.  
 速記術 418.  
 足目 38-3.  
 東條 419.  
 俗知 24-2.  
 速讀 682-1.  
 ソクラテース 419.  
 ソクラテース法 419.  
 素材因 33-3.  
 素質 420.  
 卒業 420.  
 卒業證書 420.  
 素讀 681-3.  
 粗讀 401.  
 ソフィスト 420.  
 ソフィスタ 421.  
 ソルボンヌ大學 421.  
 ソロアスタ教 612-1.  
 算盤 421.  
 ソロン 421.  
 タ  
 ダーウィン 422.  
 ダーウィン説 422.  
 ターム 422.  
 他暗示 18-3.  
 體育 423.  
 第一次自動運動 292-3.  
 退隱料 423.  
 退化 423.  
 退化器官 423-3.  
 大學 424.  
 大學(我國の) 425.  
 太學 426.  
 太學(周代の) 319-1.  
 體覺 426.  
 大學院 426.  
 大學擴張 426.  
 大學學寮 121-1.  
 大學の自由 427.

胎教 427.  
 體系 428.  
 體重 369-3.  
 代數學 428.  
 體制 428, 209-2.  
 體操 428.  
 體操傳習所 430.  
 怠惰 430.  
 對當 464-1.  
 ダイナモジュネシス 430.  
 第二次自動運動 292-3.  
 第二次自發注意 450-2.  
 大日本史 507-3, 636-2.  
 大腦 364-1.  
 大腦機能局在説 431.  
 體弱 431.  
 對比 432.  
 退歩 432, 376-1.  
 大寶令の學制 432.  
 代用教員 336-1, 336-2.  
 大韻 471-1, 535-1.  
 對話式 434.  
 對話法 434.  
 臺灣の教育 434.  
 多久學校 437.  
 多級小學校 96-1.  
 タクト 437.  
 多血質 140-3.  
 多元論 437.  
 タスキエグ 45-3.  
 タスキエグ學校 437.  
 速讀 681-3.  
 妥當性 437.  
 妥當刺激 271-1.  
 谷時中 438.  
 ダブリン大學 438.  
 多分釋 596-2.  
 多方興味 438, 614-3.  
 ダランベール 438.  
 他律 355, 438.

タリラン 438.  
 タルムード 670-1.  
 單位 438.  
 單一感情 439.  
 單科大學 424-2.  
 段階法 170-3.  
 短期式學級編制法 440.  
 短期式編制法 96-3.  
 單級小學校 440, 96-1.  
 單元 441.  
 單行法 170-3.  
 單式學級 96-1.  
 膽汁質 140-3.  
 單純換位 464-3.  
 單純反應 551-2.  
 單純判斷 555-3.  
 單純枚舉歸納法 145-3.  
 單純模倣 655-2.  
 單稱判斷 555-2.  
 男女共學 442.  
 團體精神 443.  
 ダンテ 443.  
 斷定 444.  
 單讀 682-1.  
 譫妄狀態 444.  
 暖房裝置 444.  
 鍛鍊 444.  
 タ  
 チーク 445.  
 知育 445.  
 知覺 445.  
 知覺脫失 446.  
 知覺的判斷 556-1.  
 癡愚 446.  
 著音機(教育上) 446.  
 軸索突起 382-2.  
 知行合一 446.  
 知行合一説 61-1, 419-3.

致思 411, 446, 204-2, 614-3.  
 知識 446.  
 知識的教科 447.  
 地質學 447.  
 地圖 447.  
 知的自由 309-1.  
 知的情操 341-2.  
 知的直觀 461-2.  
 致道館 448, 173-3.  
 知能 448.  
 知能検査 448-2.  
 知能率 399-2, 448-2.  
 地方學事通則 448.  
 チャーターハウス 449.  
 チャンセロー 449.  
 チュートー 449.  
 チュートリアル・クラス 427-2.  
 チュービンゲン大學 449.  
 チューリッヒ大學 449.  
 注意 449.  
 注意の範圍 270-3.  
 中央學校園 101-3.  
 中央小窩 266-2.  
 中央大學 452.  
 中央幼年學校 95-1.  
 中學校 452.  
 中華民國の教育 453.  
 中間數 500-1.  
 中間中學校 455.  
 中級 455.  
 抽象 455.  
 抽象的 191.  
 抽象的情操 341-3.  
 抽象的單位 438-3.  
 中心統合法 455, 414-1.  
 中樞 364-2.  
 中樞間神經 363-1.  
 中世の教育 456.

注入の教式 456.  
 中顧 471-1, 534-3.  
 チュルク 457.  
 調アクセント 7-1.  
 超越的と先験的 457.  
 超越的批評 563-1.  
 張横渠 457.  
 聴覺 458.  
 聴覺型 201-3.  
 長久館 459.  
 朝鮮の教育 459.  
 朝廷の文庫 460.  
 調和的發展 461, 604-2  
 直覺 461.  
 直覺説 461.  
 直観 461. 604-2.  
 直観科 462-3.  
 直観教授 461.  
 直観主義 463-2. 248-3  
 直観主義(算術教授上) 259-2.  
 直観的 463-1.  
 直言的 479.  
 直言命令 463.  
 直進的方法 171-3.  
 直接遺傳 31-2.  
 直接興味 182-2.  
 直接經驗 29-2.  
 直接推理 463.  
 直接的訓練 199-1.  
 直接的注意 450-1.  
 直接統制 501-2.  
 直接と間接 463-2. 463.  
 直接復習 576.  
 直接法 465, 174-3, 81-1  
 直接論證 731-1.  
 直知的知識 447-1.  
 貯蔵本能 315-1.

地理科 465.  
 地理教授 465.  
 智利の教育 467.  
 治療教育學 468.  
 知良知説 61-1.  
 チルレル 468.  
 陳那 38-3.  
 ツ  
 ツールーズ大學 469.  
 圖案 469.  
 ツヴィンガリ 469.  
 痛覺 469.  
 通學學校 141-3.  
 通信學校 470-1.  
 通信教授 470.  
 通俗教育 470.  
 ツェドリッツ 470.  
 ツェルル 470.  
 頭蓋測定學 470.  
 圖書教授 471.  
 机と腰掛 473.  
 辻新次 475.  
 綴方教授 475.  
 詰込み 476.  
 テ  
 デーヴィドソン 476.  
 デーム、スクール 476.  
 デール法 477.  
 テーロー 477.  
 ディーステルヴェッヒ 477.  
 程伊川 478, 524-3, 525-1.  
 定義 478.  
 定言的 479.  
 定言的三段論法 263-1.  
 帝國學士院 479.  
 帝國教育會 479.  
 帝國圖書館 479

丁祭 407.  
 提示 479.  
 ディジョン大學 479.  
 ティチヤース、カレッジ 480  
 ティツク 480.  
 ディツテス 480.  
 定道論 481-1.  
 ディドロー 480.  
 低能 481.  
 低能兒學級 508-2.  
 低能兒教育 481.  
 程明道 481, 524-2,3.  
 定命論 481.  
 定理 481.  
 ティルリッヒ 481.  
 ティンダール 481.  
 ティンタル 482.  
 テヴェンテル 482.  
 デルレイ 482.  
 テカルト 482.  
 適應 483.  
 適者生存 280-3.  
 テスト 483.  
 哲學 484.  
 哲學入門 485-2.  
 哲學派(文法教授の) 606-1.  
 デッサの五種競争 428-3.  
 デフォー 485.  
 デモンストレーション法 486.  
 寺子屋 486.  
 寺島學問所 459-1.  
 デルベルト 487.  
 テレマク 573-2.  
 テン 192-2.  
 轉移 206-3.  
 田園學舎 487.  
 轉換 487.  
 癡癡 488.  
 典型 201-2.  
 天才 488.

點字 489. 652-1.  
 殿試 93-2.  
 傳承 489.  
 傳説 489, 129-1.  
 天然探光法 252-3.  
 傳達法 175-1.  
 デンツェル 489.  
 轉注 698-2.  
 天賦觀念 401-2.  
 丁抹の教育 489.  
 點網畫 471-3.  
 典藥寮 433-2.  
 展覽會(學校の) 491.  
 ト  
 トーセント 491.  
 東亞同文書院 497.  
 獨逸式體操 428-3.  
 獨逸の教育 491.  
 頭圍 497.  
 統一學校 484-1.  
 同一律 273-3.  
 當爲法 147-3.  
 同化 497.  
 統覺 497.  
 道學 498.  
 桃華文庫 498.  
 動機 498.  
 同義 464-1.  
 道教 725-2.  
 東京音樂學校 71-2.  
 東京感化院 123-2.  
 東京教育博物館 163-2.  
 東京高等師範學校 299-1.  
 東京女子高等師範學校 299-1  
 東京女子大學 499.  
 東京帝國大學 425-3.  
 東京美術學校 561-2.  
 道具主義 291-2.

洞窟偶像 598-2.  
 統計學 499.  
 頭形指頭 471-1.  
 統計的方法 499.  
 統計的方法 90-3.  
 統合的發問 545-1.  
 動作 500.  
 同志社 500.  
 藤樹書院 500.  
 同情 501.  
 統制 501.  
 淘汰 501.  
 唐代の教育 501.  
 動的 502.  
 動的發生説 503.  
 道統 503, 223-1.  
 道德官 503.  
 道德官説 503-2.  
 道德教育 503, 316.  
 道德的情操 341-2.  
 道德統計 503.  
 動能 503.  
 同伴感覺 504.  
 動物學 504.  
 動物心理學 504.  
 東北帝國大學 426-2.  
 ドゥメース 505.  
 ドゥモラン 719.  
 陶冶 505.  
 陶冶性 505.  
 東洋大學 506.  
 動力因 33-3.  
 同類意識 506.  
 童話 506.  
 徳 507.  
 徳育 507.  
 徳川家康 507.  
 徳川光圀 507.  
 讀筋術 509-2.  
 特質 508.

特殊遺傳 31-2.  
 特殊學級 508.  
 特殊學校 509.  
 特殊的方法 173-3.  
 特稱判斷 555-2.  
 讀心術 509.  
 獨創力 509.  
 獨斷的教式 510.  
 獨斷論 510.  
 徳治主義 322-1, 227-3  
 ドクトル 94-1.  
 特別加俸 510.  
 徳本堂 500-3.  
 徳目主義 713-2, 318-3  
 獨立研究法 254-1.  
 圖書館 510.  
 圖書館法 511.  
 圖書局 156-2.  
 訥語 214-2.  
 突然趨異 385-3.  
 徒弟學校 512.  
 トブレル 512.  
 トマジウス 512.  
 トミニコス派 512.  
 留置 512.  
 どもり 214-2.  
 外山正一 513.  
 豊宮崎文庫と林崎文庫 513.  
 トライチュケ 513.  
 トライボス 513.  
 トラップ 514.  
 トラホーム 514.  
 トリニチ、カレッジ 438-1.  
 努力 514.  
 ドリッゲンベルヒ 514.  
 トルストイ 514.  
 トレーニング、システム 390-3.  
 ドレスレル 515.

トロッチェンドルフ 587-2.  
 トロビズム 515.

**ナ**

内在因 34-3.  
 内在價值 112-1.  
 内在的 457-3.  
 内在的批評 563-2.  
 内省 516.  
 ナイティンゲール 127-3.  
 内的經驗 202-2.  
 内的觸覺 352-1.  
 内的精神物理學 400-1.  
 内的知覺 445-2.  
 内典 413-1.  
 内包 516. 75.  
 内部意志 25-2.  
 内面談話 516.  
 内容 207.  
 中江藤樹 516.  
 長崎聖堂 646-1.  
 中村惕齋 516.  
 中村正直 517.  
 ナゲル法 270-2.  
 名越文庫 517.  
 ナトルブ 517.  
 奈良女子高等師範學校 299-2.  
 成瀬甚蔵 518.  
 南學 518. 325-3.  
 南葵文庫 518.  
 軟教育 223. 518.  
 451-3. 182-3.  
 ナンシー派 255-1.  
 南滿醫學堂 637-2.

**ニ**

ニーチェ 519.  
 ニーテレル 518.  
 ニートハンメル 519.

ニーフ 519.  
 ニーマイエル 520.  
 新島襄 520.  
 二元論 520.  
 ニコール 619-2.  
 西村茂樹 521.  
 二重像 521. 702-3.  
 二重翻譯法 8-3.  
 二重譯 521.  
 日曜學校 521.  
 日課表 522.  
 日光學問所 524.  
 日誌法 293-3.  
 日新館 524.  
 二程子 524.  
 二名法 109-1.  
 二宮尊徳 525.  
 二部教授 526. 96-1.  
 二分釋 596-2.  
 日本女子大學 528.  
 日本大學 528.  
 ニュートン組織 528.  
 入社式 217-1.  
 認識反應 551-3.  
 認識論 528.

**ネ**

ネーグリ 529.  
 ネアンテル 529.  
 ネストリウス派 77-3.  
 熱湯暖房法 444-2.  
 粘液質 140-3.  
 年功加俸 530.

**ノ**

諾威の教育 530.  
 ノート、ブック法 532.  
 腦 532.  
 農科大學 533-2.  
 農業教育 532.

農業植民 505-1.  
 農業専門學校 533-2.  
 能才 534. 488-2.  
 農事試驗場 532-3.  
 腦髓 370-1.  
 腦脊髄神經系統 363-3.  
 能動的想像 416-3.  
 能量 534.  
 腦量 534.  
 能力 535.  
 能力心理學 535.  
 ノックス 535.  
 ノベル賞金 535.

**ハ**

ハーヴァード大學 535.  
 パーカー 536.  
 バードヴァ大學 536.  
 ハートリ 536.  
 ハートリブ 536.  
 バーナード 536.  
 ハーロー、スクール 537.  
 マイダゴゴス 537.  
 排中律 273-3.  
 ハイテルベルヒ大學 537.  
 ハイニッケ 537.  
 ハイネ 538.  
 バイブル 538.  
 ハウ 538.  
 バウルセン 538.  
 ハウン 539.  
 バウンズ 539.  
 博士 539. 94-1.  
 バカローレア 93-3.  
 白癡 539.  
 白癡天才 540.  
 博物學 540.  
 白鹿洞學規 540. 540-3.  
 把持 540.  
 把住 137-2.

バジル 541.  
 マスカル 541.  
 マズビー 541.  
 派生的規範 147-1.  
 バセドウ 541.  
 バタヴィア組織 542.  
 マチエラー 93-3.  
 發音式假名遣 119-2.  
 發音法 542. 724-2.  
 327-2. 679-2.  
 發育概評決定標準 368-2.  
 ハックスリ 542.  
 八股文 641-2.  
 發情期 543.  
 八正道 306-3.  
 發生定義 478-3.  
 發生的心理學 543.  
 發生的方法 543.  
 パッソー 543.  
 發達期 543. 294-3.  
 發展 544.  
 發展的發問 545-1.  
 發展法 174-3.  
 發動的興味 182-2.  
 發動的順應 330-3.  
 發表 176-2.  
 發表的教科 544.  
 發表的教式 177-1.  
 發明 544.  
 發問 544.  
 話方教授 545.  
 鼻の衛生 546.  
 花鳥改場 547. 61-3.  
 齒の衛生 547.  
 母の會 64-3.  
 パヒロニア及びアッシリアの教育 547.  
 バブ、カルバンシェー 547.  
 バブリックスクール 548.  
 ハミルトン、サー、ワイリアム

648.  
 ハミルトン、ジェームズ 548.  
 ハミルトン法 548.  
 林崎文庫 513. 548.  
 巴里大學 548.  
 バリー派 255-1.  
 ハリス 548.  
 ベルジザ 549.  
 パルティモープ組織 668-3.  
 ハルニッシュ 549.  
 ハルレ大學 549.  
 バレーストラ 550.  
 布哇の教育 550.  
 汎愛院 550. 542-1.  
 汎愛主義 550.  
 汎愛派 551.  
 半意識 84-1. 551.  
 反意注意 450-2.  
 反應 271.  
 反應時間 551.  
 反應實驗 551-2.  
 養學 552.  
 洪牙利の教育 552.  
 津宮 319-2.  
 萬國家庭教育會 64.  
 萬國教育會議 553.  
 範語法 553. 308-1. 679-3.  
 煩瑣哲學 554.  
 反射運動 554.  
 半就學制 554.  
 半就學者 593-2.  
 半植民 150-1.  
 審書測所 551.  
 反心理主義 378-3.  
 汎心論 554.  
 汎神論 554.  
 反省 554.  
 反省(教授の) 276.

伴生感覺 554.  
 判然 86-2.  
 反對 464-2.  
 判斷 554.  
 判斷中止 77-2.  
 範疇 556.  
 蕃童教育所 436-3.  
 半陶冶 556. 505-3.  
 範讀 682-1.  
 ハンナク 556.  
 半日學校 557. 526-2.  
 半日小學校 526. 527-1.  
 反復說 557. 660-2.  
 範類 557. 201-2.

**ヒ**

美 557.  
 ビーボディ、エリサベス、パーマー 558.  
 ビーボディ、ジョージ 558.  
 ビアリスタ派 558.  
 美育 558.  
 ヒエロニムス派 560.  
 ビオン 149-2.  
 比較 560.  
 比較(教授上) 560.  
 美學 560.  
 比較心理學 561.  
 比較神話學 379-2.  
 比較生理學 404-3.  
 比較法 90-3.  
 東原學舎 437-2.  
 悲觀說 685-3.  
 悲觀的發展說 686-1.  
 非規定學校 35-2.  
 非教育的教授 614-2.  
 非形式的教育 151-3.  
 美魂 357-2.  
 美辭學 561.  
 美術 561.

美術學校 561.  
 ヒステリー 561.  
 悲壯美 558-1.  
 ビタゴラス 562.  
 ビタゴラス結社 562-1.  
 非妥當刺激 271-1.  
 左利 562, 703-2.  
 左文字 562.  
 筆書不能 562, 289-2.  
 必然判斷 555-2.  
 必然法 147-2.  
 ビデールズの學校 562.  
 否定判斷 555-2.  
 美的情操 341-2.  
 悲田院 244-1.  
 悲田處 244-1.  
 美讀 681-3.  
 人見知 562.  
 ビネー、シモン法 562.  
 疲憊 567-2.  
 批判論 563.  
 批評 563.  
 批評(教授の) 276-1.  
 批評的歸納法 146-1.  
 皮膚の感覺 563.  
 百科全書 563.  
 百科全書家 564.  
 百科全書主義 564.  
 ヒューエル 564.  
 ヒューブネル 565.  
 ビュデー 565.  
 ビュルゲルシュレー 565.  
 表音的假名遣 119-2.  
 標式 565, 201-2.  
 描寫身振 638-2.  
 標準検査 483-3.  
 標準検査法 484-1.  
 表象 565, 133-2.  
 表象機械論 139-1.  
 表象型 201-3.

病率(兒童の) 565.  
 平假名 118-3.  
 平田駕胤 566.  
 ビランズ 566.  
 ヒル、トマス、ライト 566.  
 ヒル、フリードリッヒ、モーリツ 567.  
 ビルグリム、フアーザーズ 336-2.  
 ヒルデブラント 567.  
 疲勞 567.  
 廣島高等師範學校 299-1.  
 比論 568.  
 賓位 554-3.  
 品性 568.  
 品性陶冶 569.  
 貧民學校 569, 123-2.  
 ブーゲンハーゲン 570.  
 ブース 570.  
 フール 570.  
 フアルク 571.  
 フイスク 571.  
 フイッチ 571.  
 フイヒテ 572.  
 風習 128.  
 フェヌロン 573.  
 フェヒネル 573.  
 フェヒネルの法則 574.  
 プエプロ式編制法 668-2.  
 フェリー 574.  
 フェルビゲル 574.  
 フェルプス 42-1.  
 フェレンベルヒ 574.  
 フェロー 575.  
 フォーゲル 575.  
 フォースタ 575.  
 フォーム 230-1.  
 フォルダスシュレー 575.

不可知論 575, 662-2.  
 不可不 147-2.  
 不完全歸納法 145-3.  
 不協和音 576, 182.  
 不許不 147-3.  
 副意識 576.  
 復演法 175-3.  
 復演的發問 545-1.  
 副音 459-1.  
 副現象説 399-2.  
 複合判斷 555-3.  
 復古神道 576, 373-3.  
 複雑反應 551-3.  
 福澤諭吉 576.  
 複視 521.  
 復習 576.  
 復習法 175-3.  
 複式學級 96-1.  
 復性説 325-2.  
 福田育兒院 244-2.  
 藤井懷齋 577.  
 藤田東湖 577.  
 武士道 577.  
 富士見亭文庫 578.  
 不從順 315, 578.  
 藤原明衡 578.  
 藤原惺高 578.  
 不信 365-3.  
 附屬小(中)學校 718-2.  
 ブタヘカギ 193-1.  
 不注意 578, 450-3.  
 普通學務局 156-2.  
 普通感覺 578.  
 普通教育 98-2.  
 普通實業學校 284-1.  
 物自體 217-2.  
 物心平行説 601-1.  
 フットボール 578.  
 物理學 579, 279-2.  
 物理的刺戟 271-1.

舞踏 579.  
 不動心 392.  
 武道専門學校 580.  
 武徳會 580.  
 不分學校 440-2.  
 不分教授 580, 523-3.  
 部分色盲 270-1.  
 普遍 580.  
 普遍的平行説 601-1.  
 不眠症 580.  
 フュルステンシュレー 581.  
 不容間位律 273-3.  
 ブラーグ大學 581.  
 ブライエル 581.  
 ブラグマティズム 581, 376-2.  
 ブラッテル 581.  
 プラトーン 581.  
 プラマン 582.  
 フランケ 582.  
 フランケ學院 583-2.  
 フランシスコ派 583.  
 佛蘭西學士院 18.  
 佛蘭西の教育 581.  
 ブランタ 586.  
 ブリーストリ 587.  
 フリードネル 127-2.  
 フリードランド 587.  
 フリードリッヒ大王 587.  
 フリック 588.  
 ブリッゲマン 649-2.  
 ブリッゲマンとケラー 588.  
 プリンスリ 588.  
 ブルーアム 588.  
 ブルシェンシャフト 588.  
 ブルタルコス 589.  
 フレーベル 589.  
 プロギムナジウム 591.  
 プロジェクト、メソッド 591.

プロタゴラス 592.  
 プロフェツソー 592.  
 プロブライエター、スタール 37-1.  
 文化 592.  
 分化 592.  
 分解的發問 545-1.  
 文化科學 592.  
 文雅教育 593, 311-1.  
 文化教育學 539-1.  
 文化財 592-1.  
 文科中學校 593, 493-3.  
 文化哲學 592-2.  
 文藝復興 593.  
 文獻學 215-2.  
 分時制 593.  
 文章法 679-3.  
 分釋 593, 596-1.  
 分釋原理 596-1.  
 分釋肢 596-1.  
 分析(教授上) 593.  
 分析的教授 593, 594-3.  
 分析的綜合的方法 681-1.  
 分析的定義 478-3.  
 分析的方法 415-3.  
 分析的論證 731-1.  
 分析と綜合 594.  
 分析判斷 555-3.  
 分析法 679-3.  
 分析法(圖畫教授の) 472-2.  
 分節法 136-3.  
 分團教授 247-3.  
 分團式編制法 594.  
 分團式編制法 96-3.  
 憤怒 594.  
 文法學校 195.  
 文法教授 594.  
 フンボルト兄弟 595.  
 分量的快樂説 238-1.  
 分類 596.

分類法 90-2.  
 ヘーゲル 597.  
 ベーコン 597.  
 ベーコンの方法 599.  
 ベージ 599.  
 ベースボール 599.  
 ベーダゴギウム 599.  
 ベードドライブ 550-1.  
 ベードノムス 391-3.  
 ベートン 600.  
 ベーン 600.  
 ベーン、ウイリアム、ハロルド 600.  
 ベーン、ジョセフ 600.  
 平均數 499-3.  
 平均値 500-1.  
 平衡感覺 600.  
 平行説 601.  
 並行法 170-3.  
 並行棒論争 721-1.  
 並列判斷 555-3.  
 ヘギウス 601.  
 辟雍 319-2, 601.  
 ベスタロッチ 601.  
 ベスタロッチ學徒 605-1.  
 ベスタロッチ協會 605.  
 ベスタロッチフレーベレハウス 605.  
 ベツケル 606.  
 ヘツケル 606.  
 ヘツチスクール 606.  
 ベツタイ 606.  
 ベツタイスクール 607.  
 ベトラルカ 607.  
 ベネケ 607.  
 ベネディクト派 609.  
 ベネディクト法 412-3.  
 ヘボン 609.

ベタパナフィック學派 14-3.  
 ベル 609.  
 白耳義の教育 610.  
 波斯の教育 611.  
 ヘルテル 612.  
 ヘルバルト 613.  
 ヘルバルト會 615-3.  
 ヘルバルトチルレル派 467-3.  
 ヘルバルト派 615-2.  
 ベル・ランカスター法 350-3.  
 伯林大學 616.  
 ベルン大學 616.  
 變異 616.  
 偏言之仁 616.  
 偏言之仁 411.  
 偏向 210-2.  
 便所 229-2.  
 辨書 616.  
 辨證法 616.  
 變態 617.  
 變態心理學 617.  
 ベンタム(ベンサム) 617.  
 ヘンチェル 617.  
 辨別 617.  
 勉勵 617.  
**ホ**  
 ホートレース 618.  
 ホーリス 143-3.  
 ホール、ロワイヤール派 618.  
 ホーン 619.  
 ホーンブック 619.  
 保育 619, 155-3, 676-2.  
 法家 620.  
 忘却 620.

志母の法則 137-2.  
 放校 620.  
 彷徨趣異 385-3.  
 放散 620.  
 褒賞 347-2.  
 放心 620.  
 法政大學 620.  
 妄想 620, 417-1.  
 法則 621.  
 包述 644-2.  
 法治主義 620-1.  
 報德教 621, 525-3.  
 報德訓 526-1.  
 方法 621, 60-2.  
 方法的懷疑說 77-1.  
 方法的歸納法 146-1.  
 方法的單元 621, 441-3.  
 方法的淘汰 358-1.  
 方法論 621.  
 訪問教師 117-1.  
 法隆寺學問所 621.  
 飽和 269-2.  
 ホーシウス 621.  
 北海道帝國大學 426-2.  
 ト齋文庫 621.  
 墨子 622.  
 補習教育 622.  
 補充的發問 545-1.  
 補充讀本 623.  
 補助學校 623, 508-2.  
 補助教員 336-1.  
 補色 269-2.  
 母親學校 584-2.  
 戊申詔書 623.  
 細井平洲 623.  
 ホッゲ 624.  
 發心 624.  
 ボッドリ圖書館 624.  
 ホッフヴィル 574-3.

ホップス 625.  
 ボニツ 625.  
 歩兵學校 696-1.  
 保姆 625.  
 ホメロス 625.  
 堀川學派 626.  
 葡萄牙の教育 626.  
 ホルムグレン法 270-2.  
 ボローニヤ大學 626.  
 本山學校 627.  
 ゴン大學 627.  
 本體論 627, 207-3.  
 本地垂跡 627, 372-2.  
 本能 627.  
 本能的愛國心 2-3.  
 本務 628.  
 本有觀念 629, 401-2.  
**マ**  
 マーゲル 629.  
 マーリ 629.  
 マールブルヒ大學 629.  
 マーレンホルツ、ビューロー 630.  
 マイエロット 630.  
 マスター 93-3.  
 マックルアー 630.  
 末梢説(感情の) 264-2.  
 松平定信 630.  
 松永尺五 630.  
 松下村塾 631, 678-1.  
 マドラス組織 610-1.  
 マドラス法 631, 350-3.  
 マリア、テレジア 631.  
 マリオン 631.  
 マルカスタ 631.  
 マルサスの法則 631.  
 マルポー 632.  
 マン 632.  
 マンチェスタ大學 633.

マンツノン侯爵夫人 633.  
 マントヴァの宮廷學校 633.  
 マンハイム式學級編制法 633.  
**ミ**  
 味噌 634.  
 右利 703-2.  
 ミシガン大學 634.  
 ミシュナ 670-1.  
 見せかけの虚言 183-3.  
 ミッションスクール 635.  
 ミッテル、シュレー 635.  
 ミッテンドルフ 636.  
 水戸學派 636.  
 南滿洲の教育 636.  
 見習教育 336-2.  
 身振言葉 638.  
 ミュンステルベルヒ 638.  
 ミリュウ 639.  
 ミル、ジェームズ 639.  
 ミル、ジョン、スチュアート 639.  
 ミルテ 640.  
 ミルトン 640.  
 民族心理學 640, 543-2.  
 明代の教育 641.  
**ム**  
 無意識 641.  
 無意識的淘汰 358-1.  
 無意識的騷動 641.  
 無意注意 450-2.  
 無關心 430-3.  
 無記 391-2.  
 無月謝教育 642, 322-1.  
 武蔵野學園 123-3.  
 矛盾 464-2.  
 矛盾律 273-3.  
 無上命令 642.

無神論 642.  
 無神論者 642-1.  
 無頓着の自由 308-3.  
 ムハメド教の教育 642.  
 無編制教室 642.  
 無理数 385-1.  
 無歴史主義 331-2.  
 室鳩巢 642.  
**メ**  
 メーソン 643.  
 米突法 643.  
 メーヨー 643.  
 名家 643.  
 明覺 497-3.  
 明義堂 644.  
 名辭 644.  
 明治大學 644.  
 迷信 644.  
 明新館 644, 645-2.  
 明善館 644.  
 命題 645, 554-3.  
 明道館 645.  
 明德館 645.  
 名目定義 478-3.  
 名目論 580-3.  
 名譽感情 645.  
 明瞭 86-2.  
 明倫館 645.  
 明倫堂 646.  
 命令 315-3.  
 命令と禁止 646.  
 日の衛生 646.  
 メスメリズム 255-1.  
 メランヒトン 647.  
 メンデルの法則 31.  
**モ**  
 モーア、サー、トマス 648.  
 モーア、ハンナ 648.

モード 500-1.  
 モーリス 648.  
 モーリル法 532-3.  
 モイマン 648.  
 盲啞の教育 649.  
 孟子 650.  
 盲人教育 651.  
 盲點 653.  
 目的因 33-3.  
 目的指示 653.  
 目的論 653.  
 默讀 653.  
 模寫說 376-1.  
 模寫的教授 653, 415-2.  
 持上り法 653.  
 モティヴェーション 654.  
 本居宣長 654.  
 物語 655.  
 模範教授 655.  
 模倣 655.  
 紅葉山文庫 656.  
 森の學校 42-3.  
 森有禮 656.  
 文章院 656.  
 問題 656.  
 モンテーニウ 657.  
 モンテソリ法 657.  
 問答學校 659.  
 問答法 659.  
 文部省 659.  
 文盲者 659.  
 問目 616-2.  
**ヤ**  
 ヤーン 660.  
 ヤーンセン派 660.  
 約結的 660.  
 約説原理 660, 246-2.  
 山鹿素行 660.  
 山崎闇齋 661.



1

ユークリッド 139-1.  
 唯一神道 662, 373-1.  
 唯象論 662, 529-1.  
 唯心論 662, 3-3.  
 唯物主義(教授上) 289.  
 唯物論 662.  
 唯名論 580-3.  
 唯理論 663.  
 唯靈論 3-3.  
 有意注意 450-2.  
 有意的意志 25-2.  
 游泳 663.  
 遊戯 663.  
 有機感覺 665.  
 有機體 665.  
 有機的 665.  
 有機的記憶 666.  
 有機的同情 501-1.  
 有機的模倣 655-3.  
 優越學 666.  
 融合 666.  
 有效數字 386-2.  
 融合説 189-2.  
 有神論 666.  
 優生學 666.  
 有造館 667.  
 誘導作用 176-3.  
 誘導式教授法 667.  
 優美 558-1.  
 有理數 385-1.  
 優良兒の教育 667.  
 猶太の教育 666.  
 夢 670.  
 ユンギウス 670.  
 ユンゲ 671.  
 洋學 671.

ヨ

養氣説 651-1.  
 養賢堂 672.  
 姚江學派 672.  
 養護學 672.  
 楊子 673.  
 幼兒預り所 673.  
 幼兒學校 673.  
 様式 674.  
 幼兒の教育 674.  
 要請 675.  
 要素的分析 594-1.  
 幼稚園 675.  
 陽明學派 677.  
 豫期注意 450-2.  
 欲望 677.  
 豫言者學校 669-3.  
 吉田松陰 677.  
 吉田神道 373-1.  
 豫知的演繹 56-3.  
 豫備 678.  
 豫備的發問 545-1.  
 讀方教授(初歩の) 679.  
 讀方教授(一般の) 681.  
 讀方の心理 682.  
 與科 682.

ラ

ライアソン 683.  
 ライエル 683.  
 ライオン 683.  
 賴山陽 683.  
 ライテン大學 683.  
 ライブチヒ大學 683.  
 ライブニッツ 684.  
 ラウエハウス 684.  
 ラウエ、ハウス 41-8.  
 ラウメル 684.  
 洛岡學派 418-2.  
 樂觀説 685-2.  
 樂石舎 25-1.

樂天觀と厭世觀 685.  
 ラグビー、スクール 686.  
 ラ、サル 686.  
 ラ、シヤロデー 687.  
 ラスキン 687.  
 ラテン語 688.  
 ラトケ 688.  
 ラバマス 689.  
 ラブレ 689.  
 ラマルク 689.  
 ラマルク説 689.  
 ラムー 690.  
 ラムー主義 690-3.  
 ラムザウエル 690.  
 蘭學 691.  
 ランカスター 691.  
 ラングラ 691.  
 ランゲ 691.  
 ランスロー 619-2.  
 ランドエルチーウングスハイ  
 4 692.  
 ランドマンシヤフト 692.  
 リーズ 692.  
 リーズ大學 692.  
 リーヨン大學 693.  
 リヴァプール大學 693.  
 理科 279-2.  
 理科教授 693.  
 理學 694, 279-2.  
 理氣二元論 694, 325-1.  
 陸王學派 694.  
 六儀 319-2.  
 陸軍騎兵學校 696-2.  
 陸軍教育 694.  
 陸軍軍醫學校 696-3.  
 陸軍經理學校 696-3.  
 陸軍獸醫學校 696-3.  
 陸軍重砲兵射擊學校 696-2.

リ

陸軍所 697.  
 陸軍大學校 695-3.  
 陸軍戸山學校 695-3.  
 陸軍砲工學校 695-3.  
 陸軍野戰砲兵射擊學校  
 696-1.  
 陸軍幼年學校 695-1.  
 六經 698.  
 六藝 698, 319-1.  
 六行 319-2.  
 六書 698.  
 陸象山 698.  
 離己 698.  
 李爾 698.  
 利己主義 699, 700.  
 リコルゴス 699.  
 リサンシエ 94-1.  
 リシーアム 699.  
 理神教 699-2.  
 理神論 699.  
 リズム 699.  
 リセー 699.  
 理性 700.  
 理性的 700.  
 離接的 700.  
 リゾージメント 593-1.  
 理想 700, 417-1.  
 利他主義と利己主義 700.  
 律 701.  
 リツェウム 699.  
 立教館 701.  
 立證 701, 731-3.  
 立體鏡 701.  
 リッテル 701.  
 リッテル、アカデミー 701, 6-2.  
 リヒテル 701.  
 リヒトヴァルク 702.  
 リューベン 702.  
 リューベン、アイレルト  
 711.

流行 129-1.  
 流出説 360-1.  
 了翁文庫 702.  
 兩眼視 702.  
 兩耳聽 703.  
 寮舎制 243-3, 122-3.  
 良心 703.  
 兩視教育會 64-3.  
 兩手利 703.  
 兩手教育論 703-3.  
 旅順工科學堂 637-2.  
 兩部習合神道 704.  
 372-3.  
 兩部神道 372-3.  
 理念 133-3.  
 林間學校 704.  
 林間休養所 704-1.  
 ヲンク 705.  
 臨時教員養成所 299-3.  
 リンドネル、グスタブ、アド  
 ルフ 705.  
 リンドネル、フリードリッヒ、  
 ヴァイルヘルム 706.  
 倫理學 706.  
 倫理教化運動 706.  
 倫理教化學校 706-3.

ル

ルーツ 707.  
 類化 710, 497-3.  
 類化作用 445-3.  
 類推 710.  
 類像 710.  
 累代遺傳の法則 31-3.  
 ルテル 710.  
 ルビヌス 711.  
 レークス 712.  
 レアルシユレー 712.

レ

レアルシユレー 712.  
 冷覺 73-3.  
 靈魂 712.  
 冷點 713.  
 例話 713.  
 レヴァーナ 702-1.  
 歴史科學 713.  
 歴史科學 89-2.  
 歴史教授 713.  
 歴史的假名遣 119-2.  
 歴史的段階 716.  
 歴史派(文法教授の)  
 606-2.  
 曆年齡 405-1, 399-2.  
 レクター 716.  
 列子 716.  
 レッシング 716.  
 レベ 717.  
 レマールズ式 219-1.  
 聯合 717, 560-3.  
 連辭 554-3.  
 練習 717.  
 練習學校 718.  
 練習法 175-3.  
 廉塾 718.  
 聯想 719.  
 聯想派 134-3.  
 聯想反應 551-3.  
 聯想律 134-1.  
 連續法 189-2.  
 ローザン大學 719.  
 ローシュの學校 719.  
 ローゼンクランツ 720.  
 ローツ大學 720.  
 ロートシュタイン 721.  
 ローマ大學 721.  
 ローマ數字 386-2.  
 羅馬の教育 721.

ローリー 722.  
 ローリンゼル 722.  
 ローリンゼル學校論争 722-3.  
 ローンテニス 722.  
 ロイクリン 723.  
 聾啞教育 723.  
 廊下 227-1.  
 勞作學校 187-1.  
 老子 725.  
 狼子團 726. 344-1.  
 老衰 726.  
 勞働者教育會 726.  
 露營學校 726.  
 露西亞の教育 726.  
 ロスミーニ 728.  
 ロスミーニ派 728-1.  
 ロック 728.  
 露天學校 705-2. 730.  
 ロヒョウ 730.  
 ロビンソン、クルーソー 730. 485-3.  
 ロヨラ 730.  
 ロラン 730.  
 論 481.  
 論策 616-2.  
 論旨相違 732-1.  
 論證 730.  
 論證の誤謬 731-2.  
 論點竊取 731-1.  
 論點變更 731-3.  
 倫敦大學 732.  
 論理學 732.  
 論理主義 733.  
 論理的概念 86-1. 136-3.  
 論理的記憶 136-3.  
 論理主義 378-3.  
 論理的説明 409-3.  
 論理的分析 594-2.  
 論理的方法 733.

ワ

和音 212-1.  
 和學講談所 734.  
 和學所 734-1.  
 和算 734.  
 和算家 734-1.  
 早稻田大學 734.

終

歐字索引

A

Abacus 421.  
 Abbreviation, Theory of 660.  
 Abbotsholme, school at 10.  
 Aberald P. 10.  
 Aberdeen university. 10.  
 Abgeleitete Norm 147-1.  
 Abhärtung 444.  
 Abnormal 27.  
 Abnormal Psychology 617.  
 Absent-mindedness. 620.  
 Absolute 409.  
 Absolute(the) 409.  
 Absolute Obedience. 315-2.  
 Absolutism 409.  
 Absorption 411.  
 Abstraction. 455.  
 Abstract sentiment 341-3.  
 Abulia 27.  
 Academic Freedom 427.  
 Academy 5.  
 Accent 7.  
 Accommodation 483.  
 Achromatic sensation 222.  
 Acquired character 108.  
 Acquisitiveness 328.  
 Action 500.  
 Action theory 50-1.  
 Active adaptation 330-3.  
 Active imagination 416-3.  
 Activity 113.  
 Actual interest 182-2.  
 Adaptation 330.  
 Adenoids 411.  
 Adequate stimulus 271-1.  
 Adolescence 402.  
 A. E. I. O. 51.  
 Aesop fables 28.  
 Aesthesiometer 352.  
 Aesthetic culture 558.  
 Aesthetics 560.  
 Aesthetic sentiment 341-2.  
 Aesthetic temperament 329-9.  
 Affection 439.  
 Affiliated school 718-2.  
 After-sensation 261.  
 After-image 262.  
 Agglutinating 213-3.  
 Agnosticism 575.  
 Agnosticism 662-2.  
 Agraphia 289-2.  
 Agricola R. 7.  
 Agricultural education 532.  
 Agricultural experimental station 532-3.  
 Ahn J. F. 2.  
 Akademie der Wissenschaften 94-3.  
 Aktionstheorie 638-3.  
 Alcohol 15.  
 Alcott A. B. 16.  
 Alcuin 15.  
 Alexandrian Library 17.  
 Alexandria, university of. 17.  
 Alexia 289-2.  
 Alfred the great 16.  
 Algebra 428.  
 Allgemeine Bildung 30.  
 Alphabet 16.  
 Alphabetic method 679-1.  
 Altruism 700.  
 Ambidexterity 703.  
 Ambulatory school 531-1.  
 Ambulatory schools 32.  
 A. M. G. D. 22-1.

- Amman J. K. 18.  
 Amnesia 138-2.  
 Amusia 289-2.  
 Anaesthesia 446.  
 Analogy 568.  
 Analyse 593.  
 Analysis and synthesis 594.  
 Analytic definition 478-3.  
 Analytic instruction 593.  
 Analytic method 679-3.  
 Analytic proof 731-1.  
 Analytic-synthetic method 681-1.  
 Analytischer unterricht 593.  
 Anger 594.  
 Animal psychology 504.  
 Anschaulichkeit 463.  
 Anschauungsbildermethode 463. 259-2.  
 Anschauungsunterricht 461.  
 Anthropology 379.  
 Anthropometry 367.  
 Anticipatory deduction 56-3.  
 Antipsychologism 378-3.  
 Antiquity, education of. 246.  
 Apagoge 731-1.  
 Apathy 391-2.  
 Aphasia 289.  
 Aporti F. 10.  
 Aposteriori 10.  
 Apperception 497, 445-1.  
 Application 60.  
 Applied Mathematics 386-1.  
 Applied science 89-1.  
 Appointment of teacher 165.  
 Appreciation 559-3.  
 Apprehension 445-2.  
 Apprentice teacher 336-2.  
 Apriori 10. 411.  
 Aquinas T. 6.  
 Arbeitskunde 693-2.  
 Arbeitsschule 2. 187.  
 Arbeitsunterricht 102-1.  
 Aretais 507-3.  
 Arithmetic, teaching of. 258.  
 Armstrong method 2.  
 Arnauld A. 16, A 619.  
 Arnold M. 2.  
 Arnold T. 1.  
 Arrangement of branch of instruction 170.  
 Arrangement of materials for instruction 171.  
 Arrangement of teacher 166.  
 Art education 208.  
 Articular sensation 129.  
 Artificial classification 596-2.  
 Artificial number 385-1.  
 Artificial selection 357.  
 Asceticism 187.  
 Ascham R. 8.  
 Assimilation 497.  
 Assistant teacher 336-1.  
 Associationalism 134-3.  
 Association of ideas 133, 719.  
 Assoziation 717.  
 Assumptio non probata 731-2.  
 Assyro-Babylonians, education of 547.  
 Atavism 127.  
 Ataxia 48.  
 Atheism 642.  
 Atheist 642-1.  
 Athenian education 9.  
 Athletics 172.  
 Atomism 216.  
 Attached school 718-2.  
 Attention 449.  
 Auditory sensation 458.  
 Auditory type 201-3.  
 Aufklärung 210-1.  
 Augustinus A. 5.  
 Austria, Education in 58.  
 Authority 213.  
 Automatic Movement 292.

- Autonomy and heteronomy 355.  
 Auto-suggestion 18-2.  
 Average 500-1.  
 Axiom 237.  
 Axon 362-2.
- B**
- Baccalauréat 93-3.  
 Bachelor 93-3.  
 Bacon, F. 597.  
 Baconian method 599.  
 Bain, A. 600.  
 Barnard, H. 536.  
 Barzizza, Gasparino da. 549.  
 Baseball 599.  
 Basedow, J. B. 541.  
 Bashfulness 562.  
 Basil 541.  
 Beats 46.  
 Beauty 557.  
 Becker, K. F. 606.  
 Bedales, school of. 562.  
 Begging the questions 331. 731-3.  
 Behaviorism 378-1.  
 Behavioristic Psychology 378-1.  
 Belgium, education in 610.  
 Belief 365.  
 Bell, A. 609.  
 Benedictine rules 412.  
 Benedictines 609.  
 Beneke, F. E. 607.  
 Bentham, J. 617.  
 Besinnung 411.  
 Bible 538.  
 Bildsamkeit 505.  
 Bildung 505.  
 Binaural hearing 703.  
 Binet-Simon test 562-2.  
 Binocular Vision 702.  
 Biological science 403.  
 Biology 403.  
 Biometry 403.  
 Bion 149-2.  
 Blackboard 242.  
 Blind, education of. 651.  
 Blind srot 653.  
 Boarding school 141.  
 Boat race 618.  
 Bodily test 368, 483-2.  
 Bodleian library 624.  
 Boethius, A. M. S. 621.  
 Bologna, university of. 626.  
 Bonitz, H. 625.  
 Bonn, university of. 627.  
 Booth, W. 570.  
 Botanic garden 353.  
 Botany 353.  
 Boxing 217.  
 Boy's brigade 344.  
 Boy-Scouts 343.  
 Braille 489.  
 Brain 532.  
 Breathing exercise 238.  
 Brethren of the common life 180.  
 Bridgman and keller 588.  
 Bridgman, L. 649-2.  
 Brinsley, J. 588.  
 British and Foreign School Society 51.  
 Brougham, H. P. 588.  
 Brüder des gemeinsamen Lebens 180.  
 Budé, G. 565.  
 Bugenhagen, J. 570.  
 Bürgerschule 565.  
 Burschenschaft 588.  
 Busby, R. 541.
- C**
- Calisthenics 428-2.  
 Calvinism 120-3.  
 Calvinists 120-3.

- Calvin, J. 120.  
 Cambridge plan 218.  
 Cambridge, university of. 219.  
 Cameralist 203-3.  
 Camerarius, J. 119.  
 Campan, J. L. H. 135.  
 Campe, J. H. 135.  
 Camp school 726.  
 Canons of Induction 288-1.  
 Capacity 534.  
 Capella, M. 119.  
 Cardinal virtue 328.  
 Carnegie, A. 75.  
 Carpenter, M. 75.  
 Carter, J. G. 75.  
 Cassidorus 110.  
 Catalepsy 172.  
 Catechetical method 659.  
 Catechetical school 659.  
 Catechism 117.  
 Catechumen 117-2.  
 Catechumenal school 117.  
 Categorical 479.  
 Categorical syllogism 263-1.  
 Category 556.  
 Cathedral school 627.  
 Catholics, education of. 148.  
 Cato, M. P. 117.  
 Causa sui 34-3.  
 Cause and effect 33.  
 Cell 254.  
 Cephalic index 471-1.  
 Cerebellum 364-1.  
 Cerebral localization 431.  
 Cerebrum 364-1.  
 C. G. S. system 439-1.  
 Chair 226.  
 Chancellor 449.  
 Character 568.  
 Character, formation of. 569.  
 Characteristics 508.  
 Characterology 569-3.  
 Charakterbildung 199-1.  
 Charity school 270.  
 Charlemagne 121.  
 Charterhouse 449.  
 Charts of Stilling 270-2.  
 Chautauqua movement 308.  
 Chauvinism 3-1.  
 Cheke, J. 445.  
 Chemistry 89.  
 Chicago plan 668-2.  
 Chicago university 268.  
 Childhood 292.  
 Child labor 345.  
 Child psychology 296.  
 Children's garden 102-1.  
 Children's literature 296.  
 Child study 293.  
 Chile, education in 467.  
 Chivalric education 141.  
 Choleric temperament 140-3.  
 Choir school 69-2.  
 Christian brothers 186.  
 Christianity (in education) 184.  
 Chronological age 405, 405-1, 399-2.  
 Chrysoloras, M. 196.  
 Chrysostom, J. 195.  
 Cicero, M. T. 140.  
 Ciceronianism 140.  
 Cinematograph 114.  
 Circular library 331.  
 Circular reaction 655-3.  
 Circulating library 511-3.  
 Civics 236.  
 Clark university 194.  
 Clark, W. S. 193.  
 Classes 95.  
 Classification 596.  
 Class teacher 336-2.

- Cleaning of school 103.  
 Clearness 86-2.  
 Clemens T. F. 197.  
 Clough, A. J. 194.  
 Cocker, E. 246.  
 Co-education 442.  
 Coherence theory 376-1.  
 Coimbra university 221.  
 Cold spot 713.  
 Colet, J. 250.  
 Collective instinct 315.  
 College 120.  
 Collegia pietatis 202-3.  
 Collegium ecclesiam 121-1.  
 Collegium 120.  
 Colonies agricoles 505-1.  
 Color blindness 270.  
 Color-circle 269-2.  
 Color sensation 269.  
 Columbia university 249.  
 Combination tone 212.  
 Comenius-Stiftung 249.  
 Comenius, J. A. 247.  
 Comic 558-1.  
 Command 646.  
 Commercial education 337.  
 Commission scolaire 109.  
 Community system 102-2.  
 Company 300-3.  
 Comparative method 90-3.  
 Comparative physiology 404.  
 Comparative psychology 561.  
 Comparison 560.  
 Compayré J. G. 252.  
 Complementary color 269-2.  
 Complex reaction 551-3.  
 Composition teaching of. 475.  
 Compulsory education 177.  
 Comte A. 250.  
 Conation 503.  
 Concentration 455.  
 Concentric circle Method 56.  
 Concentric plan 150.  
 Concept 86.  
 Conception 86-1.  
 Conceptualism 550-3.  
 Concert recitation 398.  
 Conclusion 384.  
 Concrete 191.  
 Concrete and abstract 191.  
 Concrete sentiment 341-3.  
 Condillac É. B. 250.  
 Condorcet, M. J. A. N. C. 251.  
 Conduct 221.  
 Cones 266-2.  
 Congenital 401.  
 Congregation system 243-3.  
 Connotation 644-2.  
 Con science 703.  
 Conscious imitation 655-3.  
 Consciousness 26.  
 Consciousness of kind 506.  
 Conservatory 71.  
 Consistency theory 376-1.  
 Consonance and dissonance 182.  
 Constructive imagination 416-3.  
 Contagious diseases in school 106.  
 Content 207.  
 Content studies 207.  
 Content Subject 289.  
 Continuation education 622.  
 Contradictory 464-2.  
 Contraposition 464-3.  
 Contrary 464-2.  
 Contrast 432.  
 Control 501.  
 Conversational method 434.  
 Conversion 624, 464-3.  
 Co-operative system 224-2.  
 Copula 554-3.

Copying gesture 638-2.  
Copy theory 376-1.  
Corderius M. 250.  
Corporal punishment 431.  
Correlation 413, 414.  
Correlation coefficient 414-2.  
Correspondence school 470-1.  
Correspondence, tuition by. 470.  
Corresponding point 413.  
Cosmography 465-2.  
Cosmopolitanism 406.  
Cottage system 243-3.  
Counting 111.  
Course of study 169.  
Cousin. N. 188.  
Cramming 476.  
Cranial capacity 534.  
Cranometry 470.  
Cranioscopy 246-3.  
Creation theory 360-2.  
Crèche 673.  
Cretinism 197.  
Cricket 196.  
Cripple school 146.  
Critical induction 146-1.  
Criticism 563.  
Criticism of teaching 177.  
Critic teacher 336-2.  
Critique 563.  
Cross division 596-3.  
Cruelty to animals 263.  
Culture 166, 592.  
Culture epochs 76.  
Curiosity 222.  
Curriculum 169.  
Custom 128.  
Cutaneous sensation 563.  
Cuvier, G. 150.  
Cytology 254-3.

**D**

Daily program 522.  
D'Alembert, J. L. R. 438.  
Dale's method 477.  
Dame school 476.  
Damoiseau 141-1.  
Dancing 579.  
Dante, A. 443.  
Darstellender unterricht 653, 415.  
Darwin, C. 422.  
Darwinism 422.  
Data 682.  
Davidson, T. 476.  
Day-nurseries 673.  
Day school 141-3.  
Deaf-blind, education of. 649.  
Deaf-mute, education of. 723.  
Decoration of school-room 172.  
Deduction 56.  
Defectives of child 293.  
Defectives, school for 210.  
Definition 478.  
Defoe, D. 485.  
Degenerate organ 423-3.  
Degeneration 423.  
Degree 93.  
Deism 699.  
Delirium 444.  
Delusion 620.  
Demetz, F. A. 505.  
Demolin, E. 719.  
Demonstration, method of. 486.  
Demonstration school 286.  
Denmark, education in 489.  
Denotation 644-2.  
Dentrite 362-2.  
Denzel, B. G. 489.  
Departmental system 95.  
Departmental teacher 336-2.

Derived attention 450-1.  
Derived unit 439.  
Descartes R. 482.  
Description 142.  
Descriptive science 89-1.  
Design 469.  
Desire 677.  
Dessau pentathlon 428-3.  
Detention 512.  
Determination 218.  
Determinism 481.  
Deutsche Lehrverein 152-2.  
Development 544.  
Developmental method 174-3.  
Developmental modes of teaching 86-2.  
Deventer 482.  
Dextrality 703-2.  
Dialectics 616.  
Dialogic method 434, 419-3.  
Diary method 293.  
Dichotomy 596-2.  
Dictation 93.  
Dictionary 277.  
Dictum de omni et nullo 412, 262-3.  
Didactics 173.  
Diderot, D. 480.  
Diesterweg, F. A. W. 477.  
Dietetics 672.  
Difference tone 212-1.  
Differentiation 592.  
Dijon, university of. 479.  
Diligence 617.  
Ding an sich 217-2.  
Dinter, G. F. 482.  
Diploma of graduation 420.  
Diplopi 521-2.  
Direct control 501-2.  
Direct experience 202-2.  
Direct method 465, 81-1, 174-3.  
Direct proof 731-1.  
Disbelief 365-3.  
Discipline 198.  
Discrimination 617.  
Disjunctive 411.  
Disobedience 315, 578.  
Disorders of Language 216.  
Dispositional interest 182-2.  
Dissonance 182.  
Distinctness 86-2.  
Dittes, F. 480.  
Division 593.  
Docent 491.  
Docility 505.  
Doctor 94-1.  
Dogmatism 510.  
Domestic crafts 110-3.  
Domestic economy 110-3.  
Domestic subject 110-3.  
Dominicans 512.  
Domschule 627.  
Dormitory 142.  
Dörpfeld, F. W. 487.  
Double images 521.  
Double translation 521.  
Double translation method 8-3.  
Doubt 186.  
Drawing; teaching of 471-2.  
Dream 670.  
Dressler, J. G. 515.  
Drill 717.  
Drill lesson 175-3.  
Dringenberg, L. 514.  
Dualism 520.  
Duelling 212.  
Durchführung der Klassen 653.  
Durry, V. 482.  
Duty 628.  
Dynamic 502.  
Dynamische unterrichtslehre 169-2.  
Dynamogenesis 430, 503.

**E**  
 Ebbinghaus H. 53.  
 Ebbinghaus test 54.  
 Éclaircissement 210.  
 Eclecticism 409.  
 Eclectic method 409.  
 Eclectics 409.  
 École des Roches 719.  
 École maternelle 673.  
 École maternelles 584-2.  
 École normale 298.  
 Écoler buissonnières 42-3.  
 Écoles sous bois 704.  
 Economics 203.  
 Economy of learning 108, 136-3.  
 Edgeworth m. 53-2.  
 Edgeworth R. L. 53.  
 Edinburgh, university of. 53.  
 Education 150.  
 Education according to nature 279-2.  
 Educational administration 155.  
 Educational association 152.  
 Educational Journals 156.  
 Educational museum 163.  
 Educational test 484-1.  
 Effect 33.  
 Effect theory 264-2.  
 Efficient cause 33-3.  
 Effort 514.  
 Egoism 699, 700.  
 Egoistic hedonism 237-3.  
 Egypt, education in 52.  
 Ehrgefühl 645.  
 Ehrgeiz 645-3.  
 Ehrsucht 645-3.  
 Eigen wert 112-1.  
 Einfühlung 129.  
 Einheitschule 494-1.  
 Einklassige Volksschule 440.

Einlehrerschule 440-2.  
 Eiselen E. W. B. 3.  
 Elementary mathematics 386-1.  
 Elementary school 333.  
 Elements of Education 162.  
 Elizabeth plan 54.  
 Elyot S. T. 54.  
 Emanation theory 360-2.  
 Émile 54.  
 Emotion 339.  
 Emotional expression 340.  
 Empirical apperception 497-3.  
 Empirical probability 81-1.  
 Empirical psychology 203.  
 Empirical self 265-3.  
 Empiricism 203.  
 Emulation 179-1.  
 Encyclopedia 563.  
 Encyclopedia of education 164.  
 Encyclopedical concentration 414-1.  
 Encyclopedism 564.  
 Encyclopedists 564.  
 England, education in. 35.  
 Enlightenment 210.  
 Ennui 568-2.  
 Enseignement universel 31, 307-2.  
 Environment 126.  
 Envy and Jealousy 252.  
 Epicurus 53.  
 Epilepsy 488.  
 Epiphenomenon 399-2.  
 Epistemology 528.  
 Explanatory science 89-1.  
 Equipollence 464-1.  
 Erasmus D. 54.  
 Ergograph 55.  
 Erigena J. S. 55.  
 Ernesti J. A. 55.  
 Ernst II. 56.  
 Ernst der Fromme 56.

**F**  
 Errors, correction of. 247.  
 Erziehungsschule 154.  
 Escuela Moderna 52.  
 Esperanto 53, 405-3.  
 Esprit de corps 443.  
 Ethical culture school 706-3.  
 Ethical movement 706.  
 Ethical sentiment 341-2.  
 Ethis 706.  
 Ethnology 367.  
 Eton College 19.  
 Eudaemonism 235.  
 Eugenics 666.  
 Euthenics 666.  
 Evolutionism 360.  
 Exact science 89-1.  
 Examination 271, 175-3.  
 Example 357.  
 Exhaustion 567-2.  
 Exner F. 52.  
 Expectant attention 450-2.  
 Experience 202.  
 Experiment 286.  
 Experimental didactics 173-3.  
 Experimental pedagogy 287.  
 Experimental phonetics 396-1.  
 Experimental psychology 287.  
 Experimental school 286.  
 Experiment in education 286.  
 Explanation 409.  
 Explanatory deduction 56-3.  
 Explanatory science 88-3.  
 Expression 176-2.  
 Expressive subject 544.  
 Expulsion 620.  
 Extension 75.  
 Externs 413-1.  
 Eye, hygiene of 646.

Fable 191.  
 Facial angle 471-2.  
 Faculty 535.  
 Faculty psychology 535.  
 Fag 109.  
 Fairy tales 506.  
 Falk, J. D. 571.  
 Family education 116.  
 Family library 511-3.  
 Fancy 417-1, 416-3.  
 Fashion 129-1.  
 Fatigue 567.  
 Faulheit 430.  
 Fear 182.  
 Fechner, G. T. 573.  
 Fechner's law 574.  
 Feeble-minded children, education for. 481.  
 Feeble-mindedness 481.  
 Feeling 129.  
 Feeling of familiarity 138-1.  
 Felbiger, J. I. 574.  
 Fellenberg, P. E. 574.  
 Fellow 575.  
 Fencing 218.  
 Fénelon, S. M. 573.  
 Ferienkolonien 149.  
 Ferrer F. 52.  
 Ferry, J. F. C. 574.  
 Fertigkeiten 145.  
 Fichte, J. G. 572.  
 Field of attention 270-3.  
 Field of consciousness 270-3.  
 Field lesson 222.  
 Field of regard 300-2.  
 Field of vision 300.  
 Final cause 33-3.  
 Fine arts 207.  
 Fine arts school 561.

Finger reckoning 326.  
 Fisheries schools 381.  
 Fiske, J. 571.  
 Fitch, J. G. 571.  
 Fixation point 172-1.  
 Flexioning 213-3.  
 Fliedner, P. 127-2.  
 Folkehøjskoler 490-1.  
 Folklore 489.  
 Folk psychology 543-2.  
 Folk psychology 640.  
 Folkway education 216-3.  
 Football 578.  
 Foreign language, teaching of. 81.  
 Forgetfulness 620.  
 Form 207, 230-1.  
 Formal Cause 33-3.  
 Formal education 204, 151-3.  
 Formalism, didactic 204.  
 Formal science 88-3.  
 Formal steps of instruction 204.  
 Formal studies 204, 207.  
 Formal-stufen des unterrichts 204.  
 Forster, W. E. 575.  
 Fovea centralis 266-2.  
 France, education in 584.  
 Franciscans 583.  
 Francke, A. H. 582.  
 Franckesche stiftungen 583-2.  
 Freedom 308.  
 Freedom of choice 309-1.  
 Free education 642.  
 Freiheitspädagogik 311.  
 Frères chrétiens 186.  
 Frères des écoles chrétiennes 686-2.  
 Frères ignorantins 686-2.  
 Frick, O. 588.  
 Friedland, V. 587.  
 Friedrich der Grosse 587.  
 Froebel, F. 589.

From the concrete to the abstract 192.  
 Function 145.  
 Functional 145-1.  
 Functional psychology 377-3.  
 Fundamental 147.  
 Fundamental unit 439-1.  
 Fundamentum divisionis 596-2.  
 Fürstenschule 581.  
 Fusion 666.  
 Fusion theory 190-3.

## G

Galenus (galen), C. 121.  
 Gallaudet, T. H. 121.  
 Gall, F. J. 120.  
 Galton, F. 221.  
 Galton's law 221, 31-3.  
 Game 200, 664-1.  
 Garfield, J. A. 75.  
 Gary system 200.  
 Geistige Trägheit 430-3.  
 Gemara 670-1.  
 Gemischte Schreiblese methode 93-2.  
 Gemüt 341.  
 General consciousness 301-1.  
 General Culture 30.  
 Generalization 76.  
 General method 173-3.  
 Generic image 710.  
 Genetic definition 478-3.  
 Genetic method 543.  
 Genetic psychology 543.  
 Geneva, university of. 328.  
 Genius 488.  
 Genris, S. F. de. 303.  
 Geography 465.  
 Geography, teaching of 465.  
 Geology 447.  
 Geometry 139.  
 Gerbert 265.

Germany, education in. 491.  
 Gerson, J. C. 264.  
 Gesamtschule 440-2.  
 Geschichtswissenschaft 713.  
 Gesellschaft 300-3.  
 Gesellschaftskunde 236-2.  
 Gesinnungsfächer 342-1.  
 Gesinnungsunterricht 341.  
 Gesner, J. M. 210.  
 Gesture language 638.  
 Gift 74.  
 Gifts and occupation 74-2.  
 Girard, J. B. 355.  
 Girth of skull 497.  
 Glasgow university 194.  
 Gleim, B. 194.  
 Goddard, W. S. 246.  
 Goethe, J. W. 200.  
 Golden section 60.  
 Gouin's method 189.  
 Gottingen, university of 212.  
 Government 135.  
 Grace 558-1.  
 Grade 96-1.  
 Grading and promotion 96.  
 Graduation 420.  
 Gräfe, H. 197.  
 Grammar school 195.  
 Grammer, teaching of. 594.  
 Graser J. B. 194.  
 Gréard, C. V. O. 197.  
 Great Britain, education in. 24.  
 Greaves, J. P. 195.  
 Greece, education in. 184.  
 Greek language 183.  
 Green, T. H. 195.  
 Gresham, Sir T. 197.  
 Griesbach method 568-1.  
 Grimm, J. L. K. 196.  
 Grimm, W. 196-2.

Griscom, J. 195.  
 Groot G. 180-1.  
 Group instruction 247-3.  
 Group system 594, 96-3.  
 Growth of the body 369.  
 Grube, A. W. 197.  
 Grundnorm 147-1.  
 Grundschule 496-3.  
 Grundtvig, N. F. S. 198.  
 Gruner, G. A. 196.  
 Guarino, B. 189-1.  
 Guarino da V. 189.  
 Guizot, F. P. G. 143.  
 Gültigkeit 437.  
 Guts Muths, J. C. F. 188.  
 Guyau, J. M. 150.  
 Gymnasium 148, 9-2, 493-3.  
 Gymnastics 428.

## H

Habit 309.  
 Halbbildung 505-3.  
 Halbkolonien 150-1.  
 Halbtagschule 526, 557.  
 Half-colony 150-1.  
 Halfconscious 551, 81-1.  
 Half-timer 593-2.  
 Half-time system 593.  
 Halle, university of 549.  
 Hallucination 213.  
 Hamiltonian method 548.  
 Hamilton, J. 548.  
 Hamilton, sir W. 548.  
 Hannak, E. 556.  
 Hard pedagogy 223, 182-3.  
 Harmonious development 461.  
 Harnisch, W. 549.  
 Harris, W. T. 548.  
 Harrow school 537.  
 Hartley, D. 536.

- Hartlib, S. 536.  
Harvard university 535.  
Haun, J. E. C. 539.  
Häny V. 5.  
Hawaii, education in. 550.  
Heating arrangement 444.  
Heavy gymnastics 428-2.  
Hecker, J. J. 606.  
Hedge school 606.  
Hedonism 88.  
Hegel, G. W. F. 597.  
Hegius, A. 601.  
Heiderberg, university of 537.  
Heilpädagogik 468.  
Heimatkunde 180.  
Heinicke, S. 537.  
Helvétius C. A. 55.  
Hentschel, E. 617.  
Hepburn, J. C. 609.  
Herbart, F. 613.  
Herbart Society 615-3.  
Herder, J. G. 612.  
Heredity 31.  
Heteronomy 355.  
Heterozetesis 731-3.  
Heuristic method 253.  
Heyene, C. G. 538.  
Hieronymians 560.  
Higher education of woman 353.  
Higher mathematics 386-2.  
Hildebrand, H. R. 567.  
Hilfsklasse 508-2.  
Hilfsschule 623, 508-2.  
Hill, F. M. 567.  
Hill, T. W. 566.  
History, teaching of. 713.  
Hoaring instinct 315-1.  
Hobbes, T. 625.  
Hodegetik 179.  
Hofwy. 574-2.
- Hogg, Q. 624.  
Holiday 149.  
Holmgren test 270-2.  
Home education 116.  
Home garden 102-1.  
Home lesson 323.  
Homer 625.  
Home study 115.  
Honor system 281-2.  
Hoole, C. 570.  
Hornbook 619.  
Horne, T. 619.  
Hot-water heating 444-2.  
Household arts 110.  
House, tin public school 230-2.  
Howe, S. G. 538.  
Hübner, J. 565.  
Humanism 291, 375.  
Humanistic realism 375, 283-2.  
Humanists 376.  
Humanity 374.  
Humboldt, F. H. A. 595.  
Humboldt, K. W. 595.  
Hungary, education in 552.  
Huxley, T. H. 542.  
Hygiene 51.  
Hygiene, teaching of. 51.  
Hygiene of Teaching 173.  
Hypaesthesia 124.  
Hyperaesthesia 124.  
Hypnosis 254.  
Hypnotism 254.  
Hypoaesthesia 124.  
Hypothesis 62.  
Hypothetical 110.  
Hysteria 561.
- I**
- Ickelsamer V. 30.  
Idea 133.

- Idea-force 133.  
Ideal 700, 417-1.  
Idealism 3.  
Ideational attention 450-1.  
Ideational types 201-3.  
Idée-force 133.  
Ideo-motor 133.  
Idiocy 539.  
Idiot genius 540.  
Idiot savant 540.  
Idleness 430.  
Ido 406-1.  
Idola 33, 191, 598-2.  
Idola fori 598-3.  
Idola specus 598-2.  
Idola theatri 598-3.  
Idola tribus 598-2.  
Ignatius of Loyola 24.  
Ignoratio elenchi 732-1.  
Illiteracy 659.  
Illusion 256.  
Illustration 713.  
Imagination 416.  
Imbecility 446.  
Imitation 655.  
Imitative suggestion 655-3.  
Immanent 457.  
Immanent cause 34-3.  
Immanent critique 563-2.  
Immediate 463.  
Immediate attention 450-1.  
Immediate reasoning 463.  
Imperative idea 181.  
Impression 37, 133, 133-2.  
Impulse 342.  
Impulsive imitation 655-3.  
Inadequate stimulus 271-1.  
Inattention 578.  
Incident education 191.  
India, education in 38.
- Indicating gesture 638-1.  
Indifferent 391-2.  
Indirect control 501-2.  
Indirect experience 202-2.  
Indirect method 175-1.  
Indirect proof 731-1.  
Indirect Vision 129.  
Individual education 247.  
Individualism 245.  
Individualistic hedonism 245.  
Individuality 245.  
Individuality and education 245.  
Individual ownership system 102-2.  
Individual psychology 245.  
Individual teaching 247.  
Induction 145.  
Inductio per enumerationem simplicem 145-3.  
Inductive method 90-2.  
Industrial continuation school 284.  
Industrial school 283, 123-1.  
Infancy 51.  
Infant education 674.  
Infant school 673.  
Inference 384.  
Informal education 151-3.  
Inhibition 397, 487-3.  
Initiation Ceremony 217-1.  
Initiative 509.  
Innate idea 401.  
Inner experience 202-2.  
Inner perception 516-1, 445-2.  
Inner psychophysics 400-1.  
Inner sense 516-1.  
Inner speech 516.  
Innsbruck university of 37.  
Insistent idea 181.  
Insomnia 580.  
Inspectors 266.  
Instinct 627.  
Instinctive patriotism 2-3.



Institute de France 18.  
 Instruction 175-1.  
 Instructive modes of teaching 456.  
 Instrumentalism 291-2.  
 Instrumental Value 112-1.  
 Integration 592-2.  
 Intellectual education 445.  
 Intellectual freedom 309-1.  
 Intellectual intuition 461.  
 Intellectualism 326.  
 Intellectual sentiment 341-2.  
 Intelligence 448.  
 Intelligence quotient 448, 399-3.  
 Intelligence, test of. 448.  
 Intelligent patriotism 2-3.  
 Intension 75, 273.  
 Intensity 179.  
 Interaction 226.  
 Interesslosigkeit 430-3.  
 Interest 182.  
 Interference of habit 310.  
 Intermediate grades 455.  
 Intermediate high school 455.  
 Internal jurisdiction 427-2.  
 Internal speech 516.  
 International congress of education 553.  
 International congress on home education 64-3.  
 Interus 413-1.  
 Intrinsic Value 112-1.  
 Introspection 516.  
 Intuition 461.  
 Intuitionism 461.  
 Invention 544.  
 Involuntary attention 450-2.  
 Ireland, education in 4.  
 Irradiation 620.  
 Irrelevant conclusion 732-1.  
 Irritability 271.  
 Iselin I. 28.

Isidorus(Isidore), H. 27.  
 Isocrates 28.  
 Isolated 213-3.  
 Italy, education in 29.  
 Itard 121-1.

**J**

Jacotot, J. J. 307.  
 Jahn, F. L. 660.  
 James-Lange theory 264.  
 James, W. 263.  
 Jansenists 660.  
 Jealousy 252.  
 Jean paul 701-3.  
 Jena, university of 20.  
 Jesuita 20.  
 Jesuits 20.  
 Jewish education 669.  
 John's Hopkins university 355.  
 Johonnot, J. 354.  
 Joint method of agreement and difference 288-2.  
 Jowett, B. 333.  
 Judgment 554.  
 Judgment of matter of fact 112-1.  
 Judgment of Value 112-1.  
 Junge, F. 671.  
 Jungius, J. 670.  
 Juvenile court 345-1.  
 Juvenile courts 344.  
 Juvenile delinquency 344.  
 Juvenile literature 345.  
 Juvenile probation 345-2.  
 Juvenile probation 343.

**K**

Kaddtenhäuser 697-2.  
 Kaiserwerth 127-2.  
 Kalokagathia 559-2.  
 Kant, I. 131.

Kathedralschule 627.  
 Kay-shuttleworth, sir J. P. 199.  
 Keilhau 88.  
 Kehr, K. 201.  
 Keller, H. 649-2.  
 Kellner, L. 212.  
 Kennedy, B. H. 212.  
 Kiel, university of. 136.  
 Kinaesthetic Sensation 48.  
 Kindergarten 675.  
 Kindergartners 625.  
 Kinderheim 673-2.  
 Kinderhort 292.  
 Kindermann F. 187.  
 Kleinkinder schule 673.  
 Knight 141-2.  
 Knowledge 446.  
 Known to the unknown 144.  
 Knox, J. 535.  
 Komology 301-3.  
 Königsberg, university of. 200.  
 Korps 221.  
 Kriegs-Akademie 697-3.  
 Kriegsschule 697-2.  
 Krippe 673.  
 Krüsi, H. 196.  
 Kritsi, H. Jr. 196.  
 Kultur 592.  
 Kultur-historische Stufen 76.  
 Kulturwissenschaft 592.  
 Kunsterzieherische Bewegung 208.  
 Künstlerische Erziehung 208.  
 Kursorische Lektüre 401.

**L**

La Chalotais, L. R. C. 687.  
 Lamarckism 689.  
 Lamarck, J. B. P. A. 689.  
 Lancaster, J. 691.  
 Lancelot, C. 619-2.

Landerziehungsheim 692.  
 Landesschule 581-1.  
 Landmannschaft 692.  
 Lange, F. A. 691.  
 Language 213.  
 Latin 688.  
 Laurie, S. S. 722.  
 Lausanne, university of. 719.  
 Lautiermethode 542.  
 Law 621.  
 Lawn tennis 722.  
 Law of contradiction 273-3.  
 Law of excluded middle 273-3.  
 Law of identity 273-3.  
 Law of sufficient reason 274-1.  
 Laws of thought 273.  
 Laws of twelve tables 320.  
 Leaning by heart 17.  
 Learning 107.  
 Learning by doing 274-2.  
 Leaving certificate 420.  
 Lebensgemeinschaft 396.  
 Lebensschule 396.  
 Leeds, university of. 692.  
 Left-handedness 703-2.  
 Legend 655.  
 Leges duodecim tabularum 320.  
 Lehre von der Führung 179.  
 Lehrform 177.  
 Lehrplan 169.  
 Lehrton 179.  
 Leibniz, G. W. 684.  
 Leipzig, university of. 683.  
 Lemars plan 219-1.  
 L'Épée, C. M. A. de. 717.  
 Lernschule 187.  
 Lessing, G. E. 716.  
 Lesson plan 173.  
 Levana 702-1.  
 Leyen, university of. 683.

Liberal education 310.  
 Liberty of indifference 308-3.  
 Library 510.  
 Library method 511-3.  
 Licencié 94-1.  
 Lichtwark, A. 702.  
 Lie 183.  
 Light gymnastics 428-2.  
 Lighting of school houses 252.  
 Light sensation 222-2.  
 Limen 24.  
 Limen of difference 24-1.  
 Lindner, F. W. 706.  
 Lindner, G. A. 705.  
 Line of regard 172.  
 L'instruction civique 236-2.  
 Liverpool university 693.  
 Localization of sounds 73.  
 Local sign 183.  
 Locke, J. 728.  
 Locomotor ataxia 48-2.  
 Logic 732.  
 Logical memory 136-3.  
 Logical method 733.  
 Logism 378-3.  
 Logism 733.  
 London, university of 732.  
 Look-and-say method 679-3.  
 Lorinser, K. I. 722.  
 Love 3.  
 Love and authority 4.  
 Loyola 730.  
 Lüben, A. 702.  
 Lüben, E. 711.  
 Lubinus, E. 711.  
 Luther, M. 710.  
 Lycée 699.  
 Lyceum 699.  
 Lycurgus 699.  
 Lyon, university of. 693.

Lyzéum 699.

## M

Maclure, W. 630.  
 Madras system 631. 610-1.  
 Mager, K. W. 629.  
 Maintenon, Marquise de. 633.  
 Malthus' law 631.  
 Manchester, university of. 633.  
 Mann, H. 632.  
 Mannheim system 633.  
 Manual alphabet 724-1.  
 Manual method 723-3.  
 Manual training, teaching of. 323.  
 Many-sided interest 438.  
 Map 447.  
 Marbean, J. B. F. 632.  
 Marburg, university of. 629.  
 Märchen 506.  
 Marenholz Bülow, B. 630.  
 Maria Theresia 631.  
 Marion, H. 631.  
 Mason, L. 643.  
 Master 93-3.  
 Masturbation 308.  
 Material cause 33-3.  
 Materialism 662.  
 Materialism, didactic 289.  
 Material science 89-1.  
 Mathematical probability. 81-1.  
 Mathematics 385.  
 Maurice, J. F. D. 648.  
 Mayo, C. 643.  
 Meaning 33.  
 Means 500-1.  
 Mechanik der Vorstellungen 139-1.  
 Mechanism 138.  
 Median 500-1.  
 Mediate 463.  
 Mediate reasoning 130.

Medical instruction 22.  
 Medulla oblongata 364-1.  
 Megacephalic 535-1.  
 Meierotto, J. H. L. 630.  
 Melancholic temperament 140-3.  
 Melanchton, P. 647.  
 Meliorism 85.  
 Memory 136.  
 Mendelianism 647.  
 Mendel's law 31-3.  
 Mendel's law 647.  
 Mental age 399.  
 Mental and moral sciences 398.  
 Mental arithmetic 366.  
 Mental arithmetics 17.  
 Mental chemistry 134-3, 639-3.  
 Mental development 399.  
 Mental dynamogenesis 503-1.  
 Mental science 398, 89-1.  
 Mental test 483-2.  
 Mercantile marine school 340.  
 Mercantilism 203-3.  
 Mesocephalic 534-3.  
 Metaphysics 207.  
 Method 621, 60-2.  
 Methodetic 621.  
 Methodical induction 146-1.  
 Methodical scepticism 77-1.  
 Methodical selection 358-1.  
 Methodische Einheit 441.  
 Method of agreement 288-1.  
 Method of classification 90-2.  
 Method of Concomitant Variation 288-3.  
 Method of difference 288-2.  
 Method of experimental Inquiry 288.  
 Method of residues 289-1.  
 Methodology 621.  
 Method unit 441.  
 Method whole 441.  
 Metric system 643.  
 Meumann, E. 648.  
 Michigan, university of 634.  
 Microcephalic 349.  
 Microcephalic 534-3.  
 Middendorf, W. 636.  
 Middle ages, education during 456.  
 Milde, V. E. 640.  
 Milieu 639.  
 Military education 694.  
 Mill, J. 636.  
 Mill, J. S. 639.  
 Milton, J. 640.  
 Mind 398.  
 Mind and body 399.  
 Mind reading 509.  
 Mirror Writing 177.  
 Mishna 670-1.  
 Mission school 635.  
 Mittelschule 635.  
 Mixed inductive proof 731-2.  
 Mixed type 201-3.  
 Mnemonics 138, 138-2.  
 Mob Psychology 198.  
 Mode 500-1.  
 Modality 674.  
 Model lesson 655.  
 Modern School 52.  
 Modes of teaching 177.  
 Mohammedan education 77, 642.  
 Monasteries 412-3.  
 Monastic school 412.  
 Monism 30.  
 Monitor 350-3, 129-1.  
 Monitorial system 350.  
 Montaigne, M. E. 657.  
 Montessori method 657.  
 Mood 147.  
 Moral education 316.  
 Moral education 507.  
 Moral instruction 316.

Moral sciences 398.  
Moral sense 503.  
Moral sense theory 503-2.  
Moral statistics 503.  
Morbidity, in school children 565.  
More, H. 648.  
More, S. T. 648.  
Morrill act 532-3.  
Mortality, rate of, (among children) 300.  
Mother tongue 240.  
Mother tongue, teaching of. 240.  
Motivation 654, 176-3.  
Motive 498.  
Motor aphasia 289-1.  
Motor processes 50.  
Motor type 201-3.  
Movement 48.  
Mulcaster, R. 631.  
Münsterberg, H. 638.  
Murray, D. 629.  
Muscle reading 509-2.  
Muscular sensation 186.  
Music in Education 69.  
Music schools 71.  
Mutual system 350-3.  
Myopia 186.  
Mysticism 374.  
Myth 379.  
Mythology 379.

**N**

Nägeli, H. G. 529.  
Nagel's test 270-2.  
Nancy school 255-1.  
Nascent periods 543.  
Nation 424-3.  
National congress of mothers 64-3.  
National education 242.  
National education association.(America) 152-3.

National Herbart society 153-1.  
National Home Reading union 51.  
Nationalism 239.  
Nationality 242.  
National society 242.  
National text-book 242.  
National union of teachers(England) 152-1.  
Natorp, B. C. L. 517.  
Natural 280.  
Natural classification 596-2.  
Natural history 540.  
Naturalism in education 279.  
Natural method 280.  
Natural number 385-1.  
Natural punishment 346-2.  
Natural science 279. 89-1.  
Natural selection 280.  
Nature 279.  
Nature study, teaching of. 693.  
Naval education 77.  
Neander, M. 529.  
Neef, J. 519.  
Negative education 279-3.  
Neo-Darwinism 367.  
Neo-humanism 367.  
Neo-Lamarckism 376.  
Nervous system 362.  
Netherlands, education in. 65.  
Netzzeichnen 471-3.  
Neubegier 222-3.  
Neurasthenia 365.  
Neurone 362-2.  
Neurone theory 362-3.  
Neuhumanismus 367.  
New psychology 367.  
Newton system 528.  
Nicole P. 619-2.  
Niederer, J. 519.  
Niemeyer, A. H. 520.  
Niethammer, F. I. 519.

Nietzsche, F. W. 519.  
Nightingale, F. 127-3.  
Number 384.  
Nobel prizes 535.  
Noise 458-3.  
Nominal definition 478-3.  
Non-provided school 35-2, 46-1.  
Non-voluntary attention 450-2.  
Normal school 298.  
Normalwörtermethode 553, 679-3.  
Normative science 147, 88-3.  
Norms 147.  
Norway, education in 530.  
Nose, hygiene of. 546.  
Notation, scales of. 143.  
Notebook method 532.  
Noumenon 217-3.  
Number concept 385.  
Number picture 386, 259-3.  
Numerals 386.  
Nurses, training of. 127-2.

**O**

Obedience and disobedience 315.  
Oberlin J. F. 59.  
Oberrealschule 493-3.  
Objective naturalism 249-1.  
Objective naturalism 279-3.  
Objective relativism 409-2.  
Object self 265-3.  
Object teaching 461.  
Observation 128.  
Observation, error of. 128.  
Observation school 258.  
Obversion 464-1.  
Olfactory sensation 148.  
Olivier L. H. F. 67.  
Olympiad 67-3.  
Olympic games 67.  
Omgangskole 32, 531-1.

Onanism 308.  
Ontogeny 246.  
Ontology 627, 207-3.  
Open-air school 704.  
Opinion 24.  
Opposition 464-1.  
Optimism 685.  
Oral method 222, 724-1, 175-2.  
Oratoire, congregation de l. 65.  
Oratory, congregation of the 65.  
Orbis pictus 68.  
Organic 665.  
Organic imitation 655-3.  
Organic memory 666.  
Organic sensation 665.  
Organic sympathy 501-1.  
Organism 665.  
Organization 428.  
Originality 509.  
Origines A. 67.  
Orphanages 243.  
Orphan asylums 243.  
Orthography 398.  
Oswego Movement 63.  
Outdoor school 238.  
Outer experience 202-2.  
Outer psychophysics 400-1.  
Overberg B. H. 59.  
Overpressure 112.  
Overtones 459-1.  
Owen R. 58.  
Oxford university 63.

**P**

Pilgrim fathers 396-2.  
Pillans, J. 566.  
Pitch 458-3.  
Pitch-accent 7-1.  
Plamann, J. E. 582.  
Planta, M. 586.

- Plastic imitation 655-3.  
 Plateau 718-1.  
 Platon 581.  
 Platter, T. 581.  
 Play 663.  
 Playground 46.  
 Plaything 128.  
 Plenum system 126-2.  
 Pluralism 437.  
 Plutarchos 589.  
 Political economy 203.  
 Polychotomy 596-2.  
 Polytechnic 624-2.  
 Popular education 470.  
 Portugal, university of. 626.  
 Port Royalists 618.  
 Positivism 289.  
 Positivisme 289, 251-1.  
 Postulate 230, 237.  
 Posture 278.  
 Pounds, J. 539.  
 Practice 717.  
 Practice school 718.  
 Praepositors 129-1.  
 Pragmatism 290, 581, 376-2.  
 Prague, university of 531.  
 Precocious child 374-2.  
 Predicate 554-3.  
 Predisposition 396, 420.  
 Prefecto 129-1.  
 Prefectural system 129.  
 Premises 384.  
 Preparation 678.  
 Presentation 479.  
 Presentative instruction 653.  
 Pressure sensation 8.  
 Presumptive inference 85-3.  
 Preyer, W. 581.  
 Priestley, J. 587.  
 Primary automatic movement 292-3.  
 Primitive people, education of. 216.  
 Principle 220.  
 Privatdocent 491-3.  
 Private school 356.  
 Probability 84.  
 Probability a priori 81-1.  
 Probable inference 85.  
 Probationary year 165.  
 Probation officers 345-2.  
 Probejahr 165.  
 Problem 656.  
 Precocity 416.  
 Process(mental) 115.  
 Prodigy 374.  
 Production 559-3.  
 Productive imagination 416-3.  
 Professional education 353.  
 Proffessor 172.  
 Progress 376.  
 Progressive proof 731-1.  
 Progymnasium 591.  
 Prohibition 646.  
 Project method 591.  
 Promotion 361.  
 Promotion by subject 170.  
 Promotion examination 337.  
 Promotion of teacher 165.  
 Proof 730.  
 Proprietary school 37-1.  
 Protogoras 592.  
 Protection of children 297.  
 Protestantism and education 361.  
 Pro-vice-chancellor 449.  
 Provid.d school 35-2.  
 Psychiatry 399.  
 Psychoanalysis 400.  
 Psychological laboratory 378.  
 Psychological method 733-2.  
 Psychological system 209.  
 Psychological tendency in education 379.

- Psychologism and logism 378.  
 Psychology 376.  
 Psychopathology 400.  
 Psychophysics 400.  
 Psychotherapy 400.  
 Puberty 398.  
 Public hygiene 51-3.  
 Public playground 49-2.  
 Public school 229, 548.  
 Pueblo plan 668-2.  
 Punctuation 192.  
 Punishment 346.  
 Pupil teacher 351-3.  
 Pure experience 202-3.  
 Pure indirect proof 731-2.  
 Pure mathematics 386-1.  
 Pure science 89-1.  
 Pure self 265-3.  
 Puritans and education 396.  
 Pythagoras 562.  
 Pädagogische Provinz 200-2.  
 Pädagogisches Seminare 156.  
 Padua, University of. 536.  
 Paedagógium 599.  
 Paedonomus 391-3.  
 Paedotribe 550-1.  
 Page 141-1.  
 Page, D. P. 599.  
 Paidology 292.  
 Pain sensation 469.  
 Palace school 150.  
 Palace school at Mantova 633.  
 Palaestra 550.  
 Panpsychism 554.  
 Pansophia 564-2.  
 Pansophism 411.  
 Pantheism 554.  
 Pape-Carpantiér, M. 547.  
 Parallelism 601.  
 Paraphasia 289-2.  
 Parenthood, Education for. 64.  
 Parents' national educational union 64-3.  
 Paris school 255-1.  
 Parsi, university of. 548.  
 Parker, F. W. 536.  
 Part-time attendance 593.  
 Pascal, J. 541.  
 Passion 210.  
 Passive adaptation 330-3.  
 Passive imagination 416-3.  
 Passow, F. 543.  
 Pathsala 38-2.  
 Paton, J. B. 600.  
 Patres Scholarum piarum 558.  
 Patriotism 2.  
 Paulne, E. C. 143-3.  
 Paulsen, F. 538.  
 Payment by results 400.  
 Payne, J. 600.  
 Payne, W. H. 600.  
 Peabody, E. P. 558.  
 Peabody, G. 558.  
 Pedagogical library 511-2.  
 Pedagogical pathology 164.  
 Pedagogics (Pedagogy) 153.  
 Pedagogic, study of. 155.  
 Pedagogue 537.  
 Pension, teacher's 71.  
 Pentathlon 9-1, 244.  
 Perception 445.  
 Perfect induction 145-3.  
 Perimeter 300-2.  
 Peripatetics 14-3.  
 Peripheral theory 264-2.  
 Persian education 611.  
 Persistent imitation 655-2.  
 Personal equation 366.  
 Personal hygiene 51-3.  
 Personal inquiry, method of. 254-1.  
 Personality 358.